1999年1月1日発行（通算353号=毎月1日発行）昭和54年3月20日第3種郵便物認可
MFJライディング臨時増刊

MFJ
MOTORCYCLE FEDERATION OF JAPAN

MOTORCYCLE SPORTS RULES

MOTOCROSS

ROADRACE

TRIAL

SNOWMOBILE

DRAGRACE

1999

国内競技規則
1999年度版

この国内競技規則書は、日本小型自動車振興会からオートレースの公益資金の補助を受けて作成されたものです。

Arai HELMET
Racing Specialities

※価格に消費税は含まれていません
※写真の商品は、印刷のため実物とは若干異なってみえる場合があります。店頭にてご確認ください
●アライ製品については、品質管理課までお問い合わせください。直通TEL(048)645-3661
株式会社 アライヘルメット 〒330-0841 埼玉県大宮市東町2-12 TEL(048)641-3825～7

はく息を、外へ——。

新鮮なエアーを取り込み、はく息を外へ強制的に排気する、と同時に巻き込み風を整え、
息ごもり、風切り音、シールドの曇りを解消する
先鋭的なエアー制御、それが〈フリーフローシステム〉だ。

FFS
FREE FLOW SYSTEM

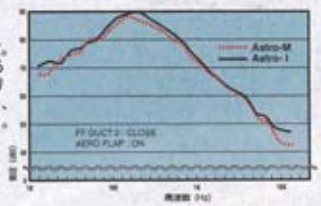
エアーを制し、このかぶり心地が生まれた。

【M-マウスシャッター半開】
F.F.S.モードは口元・下面の整流効果を高める。

【M-マウスシャッター全開】
デフォグモードは、アッパー・ポート・システムにより、シールドの曇りを除去。

アストロMに採用されているフリーフローシステム(F.F.S.)は、走行中の風の巻き込み、息ごもり、風切り音、シールドの曇りなどの不快感を解消する新開発のシステムである。ヘルメット下部の風の流れを「エアロフラップ2」が整え、内部への巻き込みを防ぎ、その整えられた風は、フラット化されたヘルメット下面を流れ、ライダーの息を口元から吸い出し、滞ることなく、排気溝構造をもつ「F.F.S.システムパッド」にそって排気される。そして、ヘルメット下部の「F.F.S.システムネック」によるフラットボトム化は、耳障りな風切り音さえも低減させた。また、流入量の拡大された「M-マウスシャッター」は、半開では、口元へ風を送り息ごもりの解消を補助するF.F.S.モード、全開時には、シールド内に流れ込ませるデフォグモードと、2タイプの調節機能がある。つまり、F.F.S.は、走行時の不快感をすべて最小化させ、かぶり心地のよさを追求したシステムなのだ。F.F.S.の他にも、ヘルメット上部のFFダクトの形状と機構が見直され、シャッター開時の空気の逃げ道を喜ぐキールを設け、吸入効率のアップと共に、風切り音の低減をも実現した。理想的なライディングを提供するために、これまでにないタイプのシステムを創造し、それをGPサーキットで実証したヘルメット。それが、「アストロM」なのである。

データは、オランダのアッセンで測定。GPレースの舞台ともなる高速サーキットを借りきり確証を得た、優れた静粛性能である。



大型化し、エアロフィンをつけ収納時でも巻き込み風を減少できるエアロフラップ2。

吸気圧を利用するトランスファーポートを設け、内部エアーを強制排気するMインナーダクト。

FFダクト2は、形状改良により、吸入効率は格段に向上。風切り音はさらに低減した。

最新のF.F.S.を搭載 Astro M

●機種名:アストロ-M ●帽体:cLc(コンプレックス・ラミネート・コンストラクション) ●規格:スネル1995 JIS C種 ●内装:ハイフィッティング内装(頬パッド調節可能-特許出願中) ●シールド:スーパーアドシス標準装備(特許出願中) ●色:白、黒、ブライトシルバー、Vメタリック、ワインレッド ●サイズ:(53-54)(55-56)(57-58)(59-60)(61-62)

¥36,500

デミストロック
F.F.S.との連動でさらに強力にシールドの曇りを除去することができる。

サイドアウトレット
後方へと流れる風の負圧を利用して内部エアーを排気。

活性炭フィルター
外気を濾過する活性炭入りフィルターは、取り外しメンテナンスも可能。

着脱式ノーズディフレクター
呼吸によるシールドの曇りを防ぐ構造。晴れた日は取り外して軽快に。

F.F.S.システムネック
整流効果を高めるためにフラットボトム化された新設計システムネック。

ハイフィッティング内装
長時間の着用でも疲れの少ない優れたフィット感を実現しました。

Let the good times roll.
人と乗り物と、そして"遊び"のいい関係

"ARK"はカワサキの
信頼ある正規取扱店です。

突然、山すそから湧き上がる霧に押し包まれた。
大自然の遠慮のない歓迎に、おおいに戸惑う。
霧が切れ、瞬間雲間から強烈な「天」が顔を出す。
分刻みに現れる雲、
霧、強烈な太陽、そして青空。
平均標高1400mを縫う
高原道路ならではの天と空がおりなす
ドラマティックなステージに
ZRX1100の走りがひときわ冴えわたる。

バイクにフレンドシップ
見られるためのライトオン

今こそ、(16歳から取得出来ます。)
普通二輪免許!
ご相談はお近くのARKへ。

- 大型二輪免許への移行がスムーズ
  ➡技能教習(最短)12時限、学科試験免除。
- 普通(四輪)免許への移行もスムーズ
  ➡学科試験免除。

The Finest Footwork

ZRX1100/ZRX1100-Ⅱ

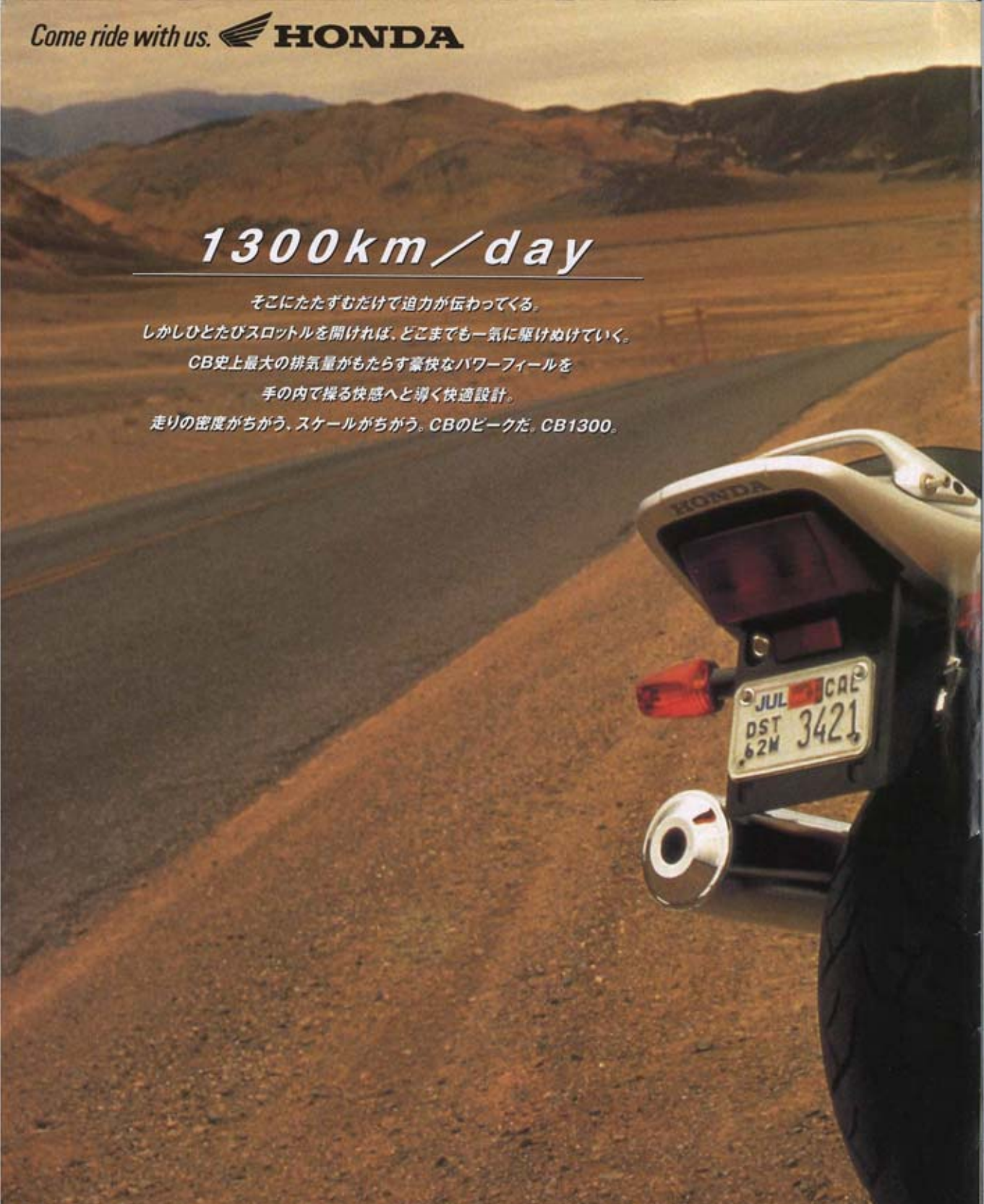
ZRX1100〔ZRX1100-Ⅱ〕●水冷4ストローク4気筒／DOHC16バルブ・1,052cm³●最高出力:73.6kW(100PS)／8,500rpm●最大トルク:96.1N・m(9.8kg・m)／6,000rpm
●乾燥重量:222kg〔221kg〕●カラー:ライムグリーン、エボニー、メタリックセレスドシルバー〔エボニー〕●¥940,000〔¥920,000〕
※〔 〕内はZRX1100-Ⅱです。※価格はメーカー希望小売価格(北海道・沖縄を除く)です。詳しくはARKにおたずねください。
※価格には保険料、税金(消費税など)、登録などに伴う諸費用は含まれません。
※走行写真は、プロライダーによる走行を撮影したものです。一般公道では制限速度を守り、無理な走行をしないようにしましょう。

KAZEに入りませんか? KAZE Kawasaki Riders' Club
Kawasaki Amusing Zone for Everybody――KAZEは思う存分モータースポーツやアウトドアライフをお楽しみいただけるメンバーズクラブです。ぜひ、あなたもご入会ください。
ご入会のお申し込みはARK、またはKAZEフリーダイヤルまで、お気軽に。 0120-100819

Kawasakiに関するご意見、ご要望はお気軽に――お客様相談室
東京:☎03(3595)0563 明石:☎078(925)2003
カタログご希望の方は機種名と住所、氏名、生年月日、職業をご記入になり、送料160円分の切手を同封して、下記までお申し込みください。
〒673-8666 明石市川崎町1-1 株式会社カワサキモータース ジャパン(カタログ係)まで。

Kawasaki
株式会社 カワサキモータース ジャパン
インターネットでKawasaki情報がご覧いただけます。
http://www.khi.co.jp/mcycle

Come ride with us. HONDA



1300km／day

そこにたたずむだけで迫力が伝わってくる。
しかしひとたびスロットルを開ければ、どこまでも一気に駆けぬけていく。
CB史上最大の排気量がもたらす豪快なパワーフィールを
手の内で操る快感へと導く快適設計。
走りの密度がちがう、スケールがちがう。CBのピークだ。CB1300。

主要諸元●型式SC40●水冷4サイクルDOHC4バルブ4気筒・1,284cm³●最高出力100PS/7,500rpm●最大トルク12.2kgm/5,000rpm●乾燥重量
Xキャンディブレイジングレッド）※価格は、すべてメーカー希望小売価格(北海道、沖縄および一部地域を除く)です。※価格には保険料・税金(消費税など)・登録などに伴う諸費用は

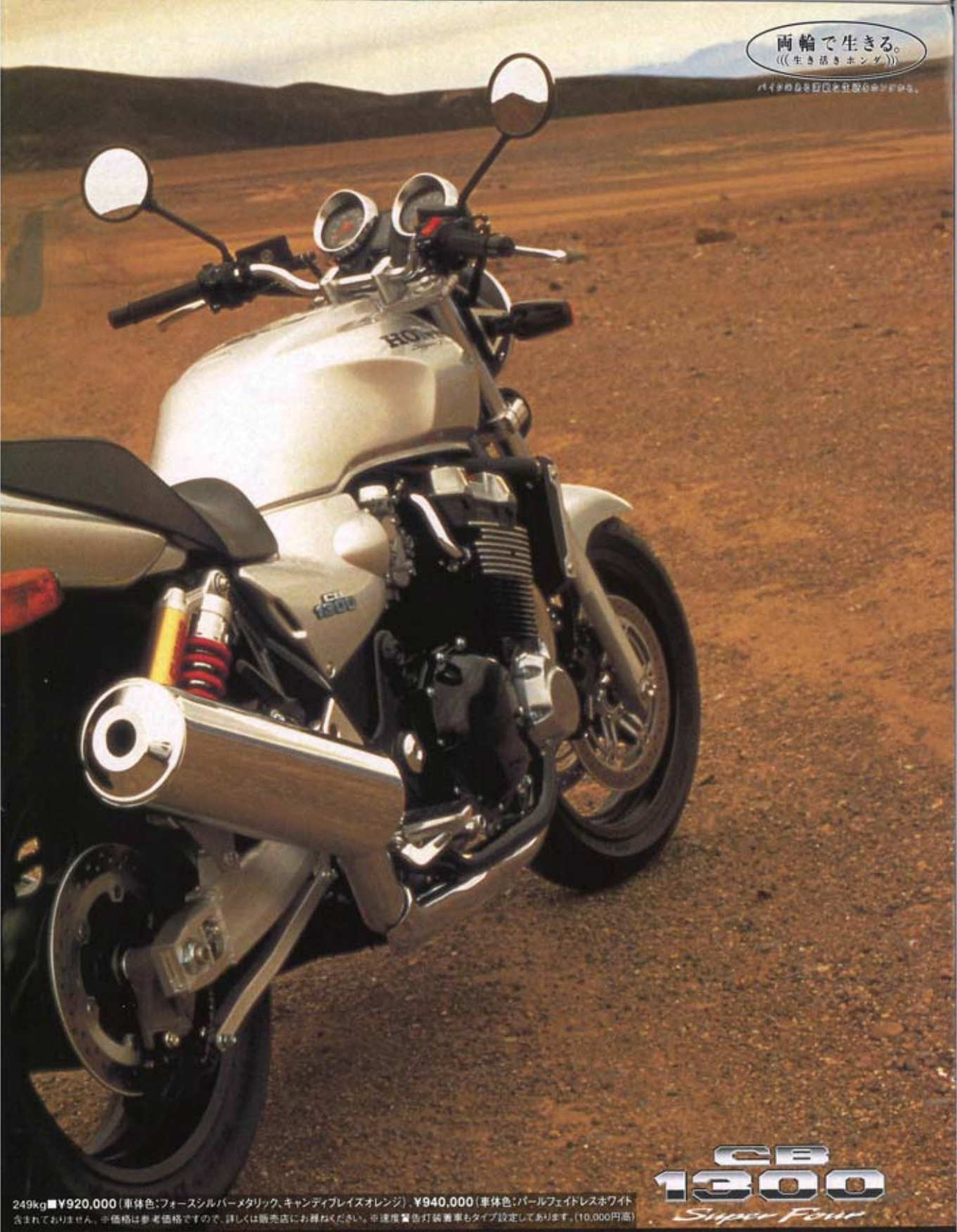
■お問い合わせ、ご相談はお近くのプロス店または下記の本田技研工業(株)お客様相談センターまで。
全国共通フリーダイヤル 0120-086819（オーエルバイク）（受付時間：9時～12時 13時～17時）
■インターネット CB1300ホームページ http://www.honda.co.jp/CB1300/

バイクが好きだから、セーフティライド。

PRO'S プロス店よりお届けします。

カタログ請求券 CB1300 SF

■カタログご希望の方は、カタログ請求券と切手160円（送料）を同封し、機種名と住所・氏名・年令・職業を明記の上、〒150-8799 東京都渋谷郵便局局留 本田技研工業（株）カタログ係まで。
また、24時間受付のFAX情報案内もご利用ください。（情報料は無料、通話料はお客様ご負担です。）24時間 FAXインフォメーション FAX 03-3760-1900



249kg■¥920,000(車体色:フォースシルバーメタリック、キャンディプレイズオレンジ)、¥940,000(車体色:パールフェイドレスホワイト
含まれておりません。※価格は参考価格ですので、詳しくは販売店にお尋ねください。※連度警告灯装着車もタイプ設定してあります。(10,000円高)

バイクにフレンドシップ
見られるためのライトオン

NMCA
日本二輪車協会
スポーツ&バイク・ライフの提案と
環境保全を推進

Moto SAPIENS.

全国のバイク・ファンと
クラブ/サークルのネットワーク『モトサピ』
●スポーツ&バイク・ライフの楽しさを広げよう!　●バイクの利用環境改善を提案しよう!
●バイクを使ったボランティア活動を進めよう!
TEL.03-3442-8619　ホームページ http://www.twics.com/~nmca　直通ファックスNo. 03-3442-6135

HRC商品のご予約・お問合せは下記取扱い販売店及びホンダ二輪ディストリビューター（代理店）へどうぞ。

HRCサービスショップ（98年11月現在）

㈲クルーズ R/R
〒981-15 宮城県角田市角田字町152
TEL.0224-62-0671

㈱ホンダスポーツ ウィリー R/R
〒982 宮城県仙台市太白区大野田字下古川37-14
TEL.022-246-2619

㈲TOWNS 原町ホンダ R/R
〒981 宮城県仙台市泉区南光台南2-24-3
TEL.022-251-2700

㈱ホンダウイング 荘内 T/R
〒998-01 山形県酒田市大字広野字中通32-1
TEL.0234-92-3838

㈲ワールドツクバ R/R
〒300-36 茨城県結城郡八千代町大字菅山字長洲898-3
TEL.0296-49-3138

㈲アイ.ファクトリー R/R
〒329-02 栃木県小山市千駄塚290-6
TEL.0285-45-3373

㈱ホンダショップ 和光 R/R T/R
〒351-01 埼玉県和光市白子2-23-11
TEL.048-461-7478

㈲エンデュランス R/R
〒350 埼玉県川越市山田1726
TEL.0492-22-7770

㈱インターテック R/R T/R
〒330 埼玉県大宮市堀ノ内町1-1
TEL.048-648-0244

モトライトポイント ユーギア R/R
〒271 千葉県松戸市松戸1051-4
TEL.0473-61-1051

オートショップ スガハラ㈲ R/R
〒114 東京都北区王子3-20-2
TEL.03-3914-7500

HONDA SPORTS MOTO BUM R/R
〒110 東京都台東区台東4-13-23
TEL.03-3831-4265

㈱桜井ホンダ R/R
〒168 東京都杉並区下高井戸2-6-3
TEL.03-3325-0088

㈲城北ホンダオート R/R
〒161 東京都新宿区西落合3-26-6
TEL.03-3952-4004

㈱ハルク・プロ R/R
〒189 東京都東大和市南街1-9-2
TEL.0425-66-3851

㈱スーパーウイング まるやま R/R T/R
〒255 神奈川県中郡大磯町高麗3-2-39
TEL.0463-34-0651

㈲ライダーズサロン 横浜 R/R
〒253 神奈川県横須賀市ハイランド2-14-5
TEL.0468-48-8999

ラ・モト・KOHSAKA R/R
〒497 愛知県海部郡蟹江町須成1-6
TEL.05679-5-9991

ホンダワールド㈱ R/R
〒513 三重県鈴鹿市住吉町6786
TEL.0593-78-1455

MITANI MOTOR SPORTS SUZUKA T/R
〒513 三重県鈴鹿市道伯町2147-71
TEL.0593-70-2989

モトショップ ヨシハル R/R
〒510 三重県四日市市寺方町2342-2
TEL.0593-26-7770

スーパーネッシー コタニ T/R
〒621 京都府亀岡市篠町篠吉野8420-6
TEL.07712-4-6306

㈲TOM'S T/R
〒603 京都府京都市北区小山南大野町3-5
TEL.075-415-1700

㈱アールエス タイチ R/R T/R
〒574 大阪府大東市中垣内3-1-25
TEL.0720-74-3268

㈱サイクルワールド R/R T/R
〒673 兵庫県神戸市西区森友4-13
TEL.078-928-3232

ミネモーターサイクル T/R
〒654-01 兵庫県神戸市須磨区妙法寺境子田1038-8
TEL.078-743-5440

㈱梅木商会 T/R
〒700 岡山県岡山市南中央町12-9
TEL.0862-32-0011

㈲ホンダショップ ライフ R/R
〒803 福岡県北九州市小倉南区守恒本町3-1-11
TEL.093-963-0800

㈱RSC R/R
〒869-12 熊本県菊池郡大津町平川1784-1
TEL.096-293-3505

北海道

㈱オートランド 札幌 R/R T/R
〒004 札幌市厚別中央三条1-1-43 TEL.011-892-3323
ホンダウイング函館 R/R T/R
〒040 函館市豊川町2-4 TEL.0138-56-0510
バイカーズ R/R
〒053 苫小牧市元中野町4-14-12 TEL.0144-32-6310
㈱ナカガワ T/R
〒064 札幌市中央区南6条西7-8 TEL.011-511-6417
ホンダ札幌販売 R/R
〒064 札幌市中央区北6条西26-70 TEL.011-641-5067
㈲ホンダウィング北 R/R
〒065 札幌市東区北26条東21-4-1 TEL.011-784-5111
㈲オートフレンド北海道 R/R
〒066 千歳市桜木4-1-2 TEL.0123-22-3896
江別ホンダ㈲松村商会 R/R
〒069 江別市野幌町40-9 TEL.011-383-7394

宮城

ホンダ宮城販売㈱ T/R
〒982 仙台市長町3-3-9 TEL.022-247-0123
㈱ライドスポット ビバ 南光台支店 R/R
〒983 宮城野区宮城野2-13-32 TEL.022-256-3020

秋田

横手サイクルセンター R/R
〒013 横手市石町36-1 TEL.0182-32-9911

山形

㈱ホンダウィング夢屋 R/R T/R
〒990 山形市あかねヶ丘3-20-30 TEL.0236-43-3097
サイクルショップ川口 R/R T/R
〒992 米沢市春日3-2-10 TEL.0238-23-6158
ホンダウィング サイトウ R/R
〒996 新庄市十日町418 TEL.0233-22-1645

福島

モト・ピット・マックス R/R T/R
〒969-11 安達郡本宮町字荒町147-1 TEL.0243-33-2455
ホンダウィング福島 R/R
〒960-01 福島市瀬上町字四十坂31-4 TEL.0245-53-6437
㈲桜井輪業商会 R/R
〒960-02 福島市飯坂町湯野字下川原10 TEL.0245-42-3589

茨城

モトショップ ユタカ R/R T/R
〒300-41 新治郡新治村下坂田2033-15 TEL.0298-62-4120
オートショップ大月 R/R
〒309-17 西茨城郡友部町中央1-1-10 TEL.02967-7-6924
モトアルファ R/R
〒312 ひたちなか市田彦1614-4 TEL.0292-72-1988
カシマレーシング BIKE SHOP R/R
〒314 鹿島郡鹿島町佐田311 TEL.0299-83-7428

栃木

宇都宮ホワイトハウス R/R T/R
〒321 宇都宮市関堀町58-1 TEL.0286-22-0921
㈲ヴァンサンク R/R
〒321-32 宇都宮市篠井町1314-8 TEL.0286-67-7833
モトハウス アスカ R/R T/R
〒322 鹿沼市下田町2-1406 TEL.0289-62-3838
㈲バイクショップ竹沢 T/R
〒322 鹿沼市茂呂923-31 TEL.0289-76-1030
㈱小林商店 T/R
〒326 足利市井草町2392 TEL.0284-41-3825
大戸輪業 R/R
〒327-03 安蘇郡田沼町大字田沼964 TEL.0283-62-3266

群馬

㈲モトショップ シロタ R/R
〒370 高崎市中尾町456-4 TEL.0273-61-0222
㈱モトウェイ R/R
〒370-12 高崎市綿貫町1695-4 TEL.0273-46-8440
マイティー ズロード ツツミ R/R
〒370-21 多野郡吉井町矢田316 TEL.0273-87-3868
久保田モーターサイクル R/R
〒376 山田郡大間々町大字桐原491-1 TEL.0277-73-3427
㈱プロショップ ツツミ R/R T/R
〒370-36 北群馬郡吉岡町小倉446-4 TEL.0279-54-5031
オートショップ金谷 T/R
〒379-23 新田郡笠懸町鹿3267 TEL.0277-76-2308

埼玉

㈱サイクルロード イトー R/R
〒331 大宮市中釘1498-3 TEL.048-622-3055
㈲オートショップ ミズシマ R/R
〒334 川口市東本郷911-5 TEL.048-296-4537
㈱インターテック浦和店 R/R
〒335 浦和市大間木1379-1 TEL.048-874-7060
㈲金城サイクル ミサト R/R
〒341 三郷市戸ヶ崎2181 TEL.0489-56-2760
オートランドTOM R/R
〒345 北葛飾郡杉戸町下高野2381-1 TEL.0480-35-0819
㈲モトロマン T/R
〒350-01 比企郡川島町表418-3 TEL.0492-97-5959
モトショップ ノースアイランド R/R
〒350-02 坂戸市末町11-2 TEL.0492-84-5180
モトウィング ガル R/R
〒350-13 狭山市下奥富813 TEL.0429-54-7467
㈲ロッカーズ R/R
〒350-13 狭山市大字堀兼425-2 TEL.0429-54-6989
㈲ホワイトハウス R/R
〒351-01 和光市大字下新倉1936-2 TEL.0484-65-2389
㈲ライン R/R
〒352 新座市北野1-2-6 TEL.048-475-1737
ホンダウィング メカハウス R/R
〒356 川越市藤原町28-3 TEL.0492-43-9632
AZTEC所沢 R/R
〒359 所沢市小手指台1-13-12 TEL.0429-24-5211
㈱佐藤本店 R/R
〒360 熊谷市本石1-114 TEL.0485-21-0313
オートショップ赤石 R/R
〒362 上尾市原市66-17 TEL.0487-75-8726
AZTEC鴻巣 R/R
〒365 鴻巣市箕田1872-1 TEL.0485-96-5421
バイクショップ ハラグチ R/R
〒365 鴻巣市鴻巣宮946-7 TEL.0485-43-2303

千葉

岩内モータース T/R
〒270-01 我孫子市青山845 TEL.0471-84-7950
ホンダウィング ドリームハウス R/R
〒271 松戸市南花島3-43-21 平野ビル1F TEL.0473-68-3332
越川モータース16号店 R/R
〒276 八千代市勝田205-1 TEL.0474-84-2217
レーシングサプライ フクシマ R/R
〒284 四街道市鹿放ヶ丘238-2 TEL.0434-23-1190
バイクショップスリーアングル R/R
〒280 千葉市若葉区金親町1031 TEL.043-237-3837

東京

㈱マン島スポーツ R/R
〒146 東京都大田区千鳥町2-11-3 TEL.03-3831-4265
デルタオート モーティブ R/R
〒115 北区赤羽北3-15-11 TEL.03-3908-8453
㈲若林製作所 T/R
〒120 足立区千住東2-11-3 TEL.03-3882-7321
山田オート販売㈱ R/R
〒123 足立区鹿浜4-1-1 TEL.03-3855-3391
オートボートS.P. R/R
〒132 江戸川区東瑞江2-57 TEL.03-3678-8798
㈱平野モータース R/R T/R
〒133 江戸川区東小岩6-34-10 TEL.03-3657-3106
折龍スピードショップ R/R
〒150 渋谷区恵比寿3-41-303 TEL.03-3446-0879
㈱エイシー R/R T/R
〒152 目黒区目黒本町1-10-15 TEL.03-3710-1379
レーシングサービス カワイ R/R
〒157 世田谷区宇奈根3-1-12 TEL.03-3749-4040
㈲小松屋齋藤輪店 R/R
〒164 中野区上高田2-53-10 TEL.03-3386-1628
㈲オートショップ風 R/R
〒176 練馬区春日町6-12-7 TEL.03-3998-8989
㈲奥村輪業 R/R T/R
〒179 練馬区北町1-41-22 TEL.03-3932-8384
ブルーポイント R/R
〒176 練馬区練馬1-34-15 TEL.03-3931-7881
㈱モトライフ R/R
〒177 練馬区高野台1-22-18 TEL.03-3995-7036
モトショップユニコ R/R
〒180 武蔵野市境南町2-27-5 TEL.0422-32-5900
㈱サイクルスポーツ R/R
〒180 武蔵野市西久保1-3-4 TEL.0422-55-6248
㈱桜井ホンダⅡ R/R
〒180 武蔵野市吉祥寺本町2-35-10 TEL.0422-21-7371
㈱ホンダ二輪フィル R/R T/R
〒187 小平市仲町425 TEL.0423-41-7665
ライディングハウス T/R
〒190 立川市羽衣町2-27-9 TEL.0425-28-0455
テクニカルショップ ファントム R/R
〒190-11 羽村市富士見平2-18-2 TEL.0425-54-2206
ホンダ販売寿限無 T/R
〒198 青梅市裏宿町4-12-18 TEL.0428-24-9032

神奈川

ホンダショップ 成田 T/R
〒211 川崎市中原区中丸子439 TEL.044-411-4171
㈲モトガレージ・トモ R/R
〒210 川崎市川崎区大島町2-7-12 TEL.044-233-0467
㈲山上輪業 R/R
〒211 川崎市中原区小杉御殿町2-113 TEL.044-722-5292
モトブレイク R/R
〒213 川崎市高津区千年576-2 TEL.044-777-1100
石川モーターサイクル R/R
〒213 川崎市宮前区野川36 TEL.044-754-0177
㈲ビッグフォー R/R
〒222 横浜市港北区大曽根1-25-14 TEL.045-544-4455
㈲モトワールド R/R
〒222 横浜市港北区鳥山町1280 TEL.045-472-6741
㈲小川プロモーション内モトプラザ セラヴィ R/R
〒227 横浜市港北区茅ヶ崎町491 TEL.045-942-8770
㈱北島商会 R/R T/R
〒228 相模原市麻溝台1-2-10 TEL.0427-47-6811
モーターサイクル レミング T/R
〒229 相模原市相南2-1-1 TEL.0427-47-0882
㈲モトフット R/R
〒229 相模原市若松5-20-1 TEL.0427-43-0022
㈱ワークス R/R
〒229 相模原市横山4-1-1 TEL.0427-56-9190
タクミモータース相模原店 R/R T/R
〒229 相模原市西橋本1-26-10 TEL.0427-73-6006
㈲エス・エム・エス北ウイング R/R T/R
〒230 横浜市鶴見区北寺尾1-9-31 TEL.045-575-3369
㈱ウイング マサル R/R
〒237 横須賀市船越5-1 TEL.0468-61-4616
ホンダウィング鎌倉 R/R
〒247 鎌倉市台2-2-18 TEL.0467-46-2702
㈲エムシーライン R/R
〒250 小田原市多古352-1 TEL.0465-35-0434
保田オートサービス R/R
〒252 藤沢市高倉881 TEL.0466-44-2322
㈲荒木ホンダ販売 R/R
〒252 藤沢市湘南台7-4-5 TEL.0466-44-6986
㈲青木輪業 R/R
〒254 平塚市西八幡1-1-6 TEL.0463-21-3523
㈲ブルーフォックス R/R
〒254 平塚市大神2583-1 TEL.0463-53-2422
㈱杉山ホンダ販売FⅢ店 R/R
〒259 秦野市しょう2988-1 TEL.0463-87-5005

山梨

オートショップ シムラ R/R
〒400 甲府市国玉町1058 TEL.0552-33-1754
モーターサイクル ショップ井上 R/R T/R
〒400 甲府市飯田4-11-6 TEL.0552-28-3077
ナッツカンパニー R/R
〒405 山梨市上栗原914-2 TEL.05532-3-1623
ホンダOFF・ON T/R
〒407-01 北巨摩郡双葉町下今井214-1 TEL.0551-28-4512

長野

㈲バイクボックス R/R
〒380 長野市大字北長池字村前西304-7 TEL.0262-43-7707
㈱ホンダショップナガノ上松店 R/R
〒381 長野市三輪8-56-10 TEL.0262-35-4044
㈲ライティングモード R/R
〒383 中野市大字岩船297-4 TEL.0269-22-3713
ホンダショップ浅間 R/R
〒384 小諸市甲字東新町1510-31 TEL.0267-23-8222
バイクショップ サイトウ R/R
〒386 上田市大字住吉107-6 TEL.0268-25-3113
㈲モト・ショップ・ハマ R/R T/R
〒390 松本市沢村3-1-12 TEL.0263-32-5231
㈲スノー二輪販売 T/R
〒392 諏訪市大字中洲5691-7 TEL.0266-58-2320
㈲原ホンダ T/R
〒395 飯田市カナエ町カナエ94-5 TEL.0265-22-2096
モトスポット ヒラサワ R/R
〒399-43 上伊那郡宮田村3312 TEL.0265-85-2709

新潟

長岡テクニカルレーシングクラブ R/R T/R
〒940 長岡市新町1-2-14 石田方 TEL.0258-32-3455
㈲塚田商会TDスポーツ部 R/R
〒943-01 新潟県上越市富岡609 TEL.0255-24-1702
ホンダウイングTAKAHASHI T/R
〒946 北魚沼郡小出町吉田113-3 TEL.02579-2-0778
モーターショップ ヤマシゲ R/R T/R
〒946 北魚沼郡広神村今泉1568 TEL.02579-9-3115
モトスポーツ金沢 R/R
〒949-64 南魚沼郡塩沢町大字万条新田80 TEL.0257-83-3164
大和ホンダ R/R
〒949-72 南魚沼郡大和町大字浦佐2078-8 TEL.0257-79-3021
アカミチバイクセンター R/R T/R
〒950 新潟市牡丹山3-2-5 TEL.0252-75-5092
MOTO BOX R/R
〒950 新潟市中興野150-2 TEL.025-273-5179
㈲モトスポーツ イシバシ R/R
〒950-12 白根市大字戸頭2666-1 TEL.025-373-1123
㈲金安企画 R/R
〒959-12 燕市花見14-3 TEL.0256-66-0718

石川

グリーンサイクル T/R
〒920 金沢市三口新町2-1-9 TEL.0762-22-6957
ホンダイン・金沢 R/R
〒921 金沢市玉鉾2-246 TEL.0762-91-6717

富山

レッドシティー R/R
〒938 黒部市新天43-1 TEL.0765-52-4886

岐阜

㈲ノースウイングJC南店 R/R
〒500 岐阜市宇佐南町13-16 TEL.0582-72-8963
㈲ノースウイングJC R/R
〒502 岐阜市上土居1-6-1 TEL.0582-94-4421
㈱ホンダウィングVIFO R/R
〒503 大垣市浅草1-216 TEL.0584-89-5741
バイクショップTRY T/R
〒504 各務原市三井町2-64 TEL.0583-83-7722
MCファクトリーフルハウス R/R
〒507 多治見市住吉町6-24-1 TEL.0572-23-8087
ホンダバイクショップ可児 R/R
〒509-02 可児市下恵土5572 TEL.0574-62-9222

静岡

㈲エイチ・エスシー R/R
〒410 沼津市大諏訪721-8 TEL.0559-24-0636
㈲ワールドカワグチ R/R
〒411 駿東郡長泉町下土狩181-4 TEL.0559-87-2460
モトハウス・スギヤマ R/R T/R
〒419-01 田方郡函南町間宮448-4 TEL.0559-79-1426
ホンダモーター吉田販売㈱ T/R
〒420 静岡市宮ヶ崎町90-6 TEL.054-255-5536
ホンダモトショップ スギウラ T/R
〒420 静岡市長沼136 TEL.0542-47-4543
㈲小坂商会 R/R
〒424 清水市有東坂2-294-1 TEL.0543-45-0146
モトクラフト タカミ R/R
〒426 藤枝市前島2-19-30 TEL.0546-36-2470
アベバイクショップ R/R
〒432 浜松市入野町16101-9 TEL.053-448-2727
ホンダウイング エフロード R/R
〒434 浜北市小松1006 TEL.053-586-0080
㈲スピードアンリミテッド T/R
〒435 浜松市有玉南町2728 TEL.053-464-5048
プロジェクトサイエンス R/R
〒437 袋井市堀越2-18-3 TEL.0538-43-0315
㈲オートランドいわた R/R
〒438 磐田市中泉1619-8 TEL.0538-35-7746
㈱前島ホンダ R/R
〒418 富士宮市北町6-25 TEL.0544-26-3872

愛知

オートショップフリーランド R/R
〒444-11 安城市野寺町野寺96 TEL.0566-99-5573
㈲フタバ R/R
〒444-21 岡崎市鴨田町広元191 TEL.0564-25-4786
碧南ホンダ R/R
〒447 碧南市新川町2-28 TEL.0566-41-1169
B&B 新栄舎 R/R
〒447 碧南市鶴見町6-1 TEL.0566-41-2184
㈲プロト R/R
〒448 刈谷市井ヶ谷町寺道73 TEL.0566-36-0456
ホンダバイクハウス オクムラ R/R
〒452 西春日井郡清洲町大字清洲字中河原123 TEL.052-400-0880
モロ商会 T/R
〒453 名古屋市中村区並木2-269 TEL.052-413-0022
ホンダウイング モトライヴ R/R
〒454 名古屋市中川区打中1-33 TEL.052-362-1807
㈲バイクショップ ウカワ R/R T/R
〒454 名古屋市中川区中島新町2-102 TEL.052-353-6664
㈱アトランタ R/R
〒455 名古屋市港区川西通5-28-1 TEL.052-381-8515
㈱ボートナイン R/R
〒462 名古屋市北区丸新町87 TEL.052-902-5123
スポーツプラザ イトウ T/R
〒463 名古屋市守山区瀬古東町12-28 TEL.052-795-2282
㈲J.レーシングプロジェクト R/R
〒468 名古屋市天白区植田西3-901 TEL.052-802-0117
東海オートトレーディング㈱ R/R
〒470-12 豊田市永覚町下長38 TEL.0565-21-0511
ホンダ販売はぎの R/R T/R
〒487 春日井市高蔵寺町3-1-7 TEL.0568-51-0309
㈲イトーモータース R/R
〒496 津島市西柳原町3-38 TEL.0567-28-5125

●各店の主な取扱い車のカテゴリーをロードレースはR/R、トライアルはT/R 記号で店名の右側に表示してあります。
●ここに掲載してある店名は98年11月現在のものです。
●HRC市販レーサー及びパーツはレース専用ですので一般公道での使用はできません。

HRC HONDA RACING
株式会社ホンダ・レーシング
〒351 埼玉県朝霞市泉水3-15-1
営業ブロック直通
TEL.048-461-8781 FAX.048-469-0306

三重

㈱加藤ボーリング R/R
〒510 四日市市中川原町3-2-23 TEL.0593-52-5274

ササキスポーツクラブ R/R
〒510-02 鈴鹿市稲生町7557-1 TEL.0593-86-5600

ザ・バイク・イサカ R/R T/R
〒510-02 鈴鹿市稲生町7990-15 TEL.0593-83-3470

羅夢 R/R
〒513 鈴鹿市国府町字石丸7658-13 TEL.0593-78-9101

㈲YNMインターナショナル R/R
〒513 鈴鹿市住吉町7265-17 TEL.0593-70-0090

㈲モリワキエンジニアリング玉垣 R/R
〒513 鈴鹿市南玉垣町6477-1 TEL.0593-82-4501

ボデークラフト2&4 R/R
〒513 鈴鹿市国府町7676-23 TEL.0593-78-1362

㈲バトルファクトリー R/R
〒513 鈴鹿市道伯町2147-47 TEL.0593-70-0851

MITANI MOTOR SPORTS T/R
〒519-21 多気郡多気町四疋田324 TEL.05983-8-2222

レーシングガレージ ニワ R/R T/R
〒513 鈴鹿市住吉町字石薬師6722 TEL.0593-79-3343

㈲オートレク R/R T/R
〒515 松阪市塚本町564 TEL.0598-51-5322

滋賀

ホンダランド小林 T/R
〒522 彦根市京町3-4-55 TEL.0749-26-0128

京都

バイク工房岩城 R/R
〒600 京都市下京区中堂寺櫛笥町18-11 TEL.075-822-0840

㈲オートショップ阪口 R/R
〒603 京都市北区小山東元町21-11 TEL.075-492-4890

㈱ビバオート ナカムラ T/R
〒606 京都市左京区吉田泉殿町1231 TEL.075-722-5670

㈱龍夢 R/R
〒606 京都市左京区八瀬花尻町198-1 TEL.075-744-3131

モトマック R/R
〒611 宇治市木幡東中26 TEL.0774-33-5454

カンズ・バイク R/R
〒611 宇治市伊勢田町中ノ荒49-8 TEL.0774-45-0066

㈱カスノモーターサイクル R/R T/R
〒612 京都市伏見区下鳥羽円面田町95 TEL.075-602-0225

㈱久保村モータース R/R
〒615 京都市右京区西院矢掛町大丸町46 TEL.075-314-1581

RSぴいたあぱん R/R
〒615 京都市西京区下津林大般若町27-1 TEL.075-392-6112

ホンダウィング カタヤマ R/R
〒620 福知山市荒河東町190-2 TEL.0773-22-0403

㈲カメオカ トライアルランド T/R
〒621 亀岡市本梅町西加舎大堂14 TEL.07712-6-3377

石原自動車商会 R/R
〒624 舞鶴市字喜多982-3 TEL.0773-76-7379

大阪

左古自動車 R/R
〒532 大阪市淀川区三津屋北2-21-5 TEL.06-6308-5220

モトスポーツGLAD T/R
〒537 東成区大今里3-15-25 TEL.06-6971-6081

長居モータース R/R
〒558 大阪市住吉区長居西2-11-14 TEL.06-6693-5278

TECHNICAL SHOP GOLD WING R/R
〒563 池田市畑2-4-8 TEL.0727-53-0406

レーシングワールド R/R
〒566 摂津市鳥飼和道2-8-5 TEL.0726-53-0258

㈱大専 R/R
〒567 茨木市豊川3-7-35 TEL.0726-41-1991

㈱ニューホンダパルス R/R
〒569 高槻市野田2-4-6 TEL.0726-73-2522

オーヴァーレーシングサービス R/R
〒569 高槻市西面北1-1-1 TEL.0726-78-6770

ヨシイレーシング R/R
〒573 枚方市いそしま北町38-6 TEL.0720-40-1617

BIKE SHOP ばわあくらふと R/R T/R
〒574 大東市御供田3-17-37 TEL.0720-72-2141

ライダーズ・スクエア・ゲンズ R/R T/R
〒577 東大阪市小阪2-14-13 TEL.06-6783-7250

㈱キタコ R/R
〒577 東大阪市西堤本通東3-2-2 TEL.06-6783-5311

オートマック㈱ R/R
〒577 東大阪市高井田1-36 オートジャンボ大阪内 TEL.06-6789-1249

㈱スーパーモンキー R/R
〒578 東大阪市玉串元町2-8-27 TEL.0729-64-3177

㈱ミスターヒロ R/R
〒580 松原市立部2-415 TEL.0723-36-1550

ベストスポーツ R/R
〒581 八尾市緑ヶ丘5-89-1 TEL.0729-96-0822

オートプラザ寺川 R/R
〒582 柏原市古町3-6-6 TEL.0729-71-8818

㈱ルーニー R/R
〒590 堺市平井828-2 TEL.0722-77-1950

㈱日本ピート工業 R/R
〒591 堺市八下町4-102-10 TEL.0722-57-7600

㈱バイクランド R/R
〒595 泉北郡忠岡町忠岡北2-19-5 TEL.0725-22-7549

㈲月木オートセンター R/R
〒597-10 貝塚市木積2403-1 TEL.0724-47-1150

兵庫

㈱ホンダプラザ鈴蘭台 R/R
〒651-1 神戸市北区有野中町4-10-19 TEL.078-592-5388

ホンダオート・ファミリー R/R
〒654-13 神戸市北区有野中町4-10-19 TEL.078-984-5354

㈱サイクルワールド R/R T/R
〒654 神戸市須磨区東須磨山1-1 TEL.078-742-1200

㈱サイクルワールド 姫路店 R/R T/R
〒670 姫路市中地南町101 TEL.0792-35-3411

スポーツコーナーマツモト R/R T/R
〒659 芦屋市宮川町7-18 TEL.0797-32-4747

㈱ビーライン R/R
〒660 尼崎市大物町1-1-1 TEL.06-401-1011

イシイモーターサイクル R/R
〒662 西宮市上ヶ原6-2-45 TEL.0798-52-2094

㈱U・A・S R/R
〒663 西宮市甲子園3-1-4 TEL.0798-46-1000

オートバイ屋 T/R
〒664 伊丹市昆陽字長野56-1 TEL.0727-83-6087

㈲トクノスポーツ R/R
〒664 伊丹市西桑津297-1 TEL.0727-77-7959

BITO R&D R/R
〒668 豊岡市森野堀之内149-1 TEL.0796-27-0429

㈱エボム R/R
〒674 神戸市西区鳥ヶ岡3-9-10 TEL.078-967-3164

MITANI MOTOR SPORTS 神戸店 T/R
〒651-21 神戸市西区長畑町486-4 TEL.078-929-0258

スーパープライベートR2 R/R
〒675 加古川市加古川町西本町1-246-4 TEL.0794-21-0008

モト・ピット フジワラ R/R
〒675-01 加古郡播磨町野添東1-114 TEL.078-943-0113

パワーサービス イマズ R/R
〒676 加古川市尾上町長田517 TEL.0794-24-2440

㈲大橋ホンダ R/R
〒678-02 赤穂市加里屋中洲4-19 TEL.07914-2-2541

奈良

シマ エンタープライズ T/R
〒630 奈良市高畑町55-1 TEL.0742-34-9588

岡山

木村商会 R/R
〒701-13 岡山市門前350-3 TEL.08628-7-2351

㈱鶴海モーター R/R
〒704 岡山市浅越757 TEL.08694-2-3617

㈱パドック R/R
〒708 津山市二宮682 TEL.0868-28-3191

㈲ホンダウイング カドヤ T/R
〒708 津山市平福27-6 TEL.0868-28-4600

X-LANDオガサワラ R/R
〒708 津山市西844-5 TEL.0868-23-1010

鳥取

HIRO SPORTS T/R
〒680-03 気高郡鹿野町今市618-5 TEL.0857-84-2158

広島

ホンダオート山田 R/R
〒720 福山市南本庄4-2-8 TEL.0849-22-0689

㈱バイクステーション尾道 R/R
〒729-01 尾道市高須町5129 TEL.0848-47-0819

㈲ホンダスポット ステージワン R/R
〒730 広島市中区舟入町10-2 TEL.082-242-8191

㈲ホンダウィング ワタリ R/R
〒731-01 広島市安佐南区長楽寺1-32-5 TEL.082-237-4511

相模輪業 R/R
〒731-01 広島市安佐南区東野西山本105-10 TEL.082-874-7550

㈱ホンダクリオ広島 R/R
〒733 広島市西区庚午南6-15-3 TEL.082-295-1051

㈱バイクワールド エルフ R/R
〒736 安芸郡海田町南堀川1-16 TEL.082-236-8850

単車屋 T/R
〒737 呉市阿賀北6-3-7 TEL.0823-72-7066

バイクハウス てらそ T/R
〒728 三次市畠敷町945-1 TEL.08246-2-1715

山口

ホンダウイングR-2 T/R
〒740 岩国市川西4-1-100 TEL.0827-43-5355

ケイケイ輪業 R/R
〒759-02 宇部市大字東須恵2690-4 TEL.0836-41-8149

徳島

鳴門ホンダ二輪 T/R
〒772 鳴門市撫養町黒崎字松島559-1 TEL.0886-86-3598

愛媛

松本M／Cショップホンダ R/R
〒790 松山市立花町3-1-12 TEL.0899-33-2507

福岡

㈱オートサロン永松 R/R
〒813 福岡市東区松香台1-23-14 TEL.092-661-1638

ホンダショップ タジマ R/R
〒815 福岡市南区大楠1-9-6 TEL.092-511-3831

グランドオート ヨシムラ R/R
〒816 春日市上白水150-1 TEL.092-591-2155

ホンダショップなかの屋 T/R
〒830 久留米市御井旗崎1-12-8 TEL.0942-45-6650

大分

ホンダショップ大分 R/R T/R
〒870 大分市志下郡字年神1544-1 TEL.0975-69-5559

㈲甲斐商会 R/R
〒870 大分市顕徳町1-13-15 TEL.0975-32-0656

オートスポーツJIN R/R
〒876 佐伯市鶴見区バイパス通り TEL.09722-3-7703

宮崎

㈲モトショップウィリー R/R T/R
〒880 宮崎市南花ヶ島町263 TEL.0985-27-7785

鹿児島

KOレーシング T/R
〒877-17 阿久根市大川3998 TEL.0996-74-0900

沖縄

2輪ショップ仲村 T/R
〒904-21 沖縄市字知花1288 TEL.09893-8-8035

ホンダ二輪ディストリビューター 一覧

98年11月現在

㈱ホンダ二輪東京・本社	〒120 東京都足立区小台1-18-3	TEL.03-3879-5111
㈱ホンダ二輪関東・本社	〒331 埼玉県大宮市大成町4-405	TEL.048-652-6200
神奈川ホンダ販売㈱・本社	〒228 座間市相模が丘6丁目37番5号	TEL.0462-55-6801
加瀬ホンダ販売㈱	〒289-25 千葉県旭市2-1725	TEL.0479-63-1511
㈱ホンダ千葉二輪	〒260 千葉県千葉市中央区浜野町1025	TEL.043-261-3121
㈱北関東大島ホンダ	〒308 茨城県下館市二木成924	TEL.0296-24-5305
河原井ホンダ㈱	〒372 群馬県伊勢崎市宮子町3034	TEL.0270-21-0211
山梨ホンダ販売㈱	〒400 山梨県甲府市国母6-3-13	TEL.0552-26-3636
㈱サスナカ	〒394 長野県岡谷市湖畔1-11-15	TEL.0266-22-7161
ホンダモーター新潟販売㈱	〒951 新潟県新潟市新島町通り四之町2244-1	TEL.025-223-6451
㈱ホンダ二輪中部・本社	〒480-11 愛知県愛知郡長久手町蟹原池301	TEL.0561-63-1511
㈱ホンダ東海	〒430 静岡県浜松市植松町1490-1	TEL.0534-54-0111
三重スーパーカブ販売㈱	〒515 三重県松阪市大塚町381-1	TEL.0598-51-5111
㈱ホンダ二輪近畿・本社	〒567 茨木市上穂積1-3-56	TEL.0726-21-3355
京都ホンダカブ販売㈱	〒602 京都府京都市上京区大宮通寺之内上ル2丁目中之町495-1	TEL.075-431-2101
和歌山ホンダ㈱・本社	〒567 和歌山県和歌山市塩屋4-3-36	TEL.0734-45-5000
淡路ホンダ販売㈱	〒656 兵庫県洲本市桑間534-1	TEL.0799-23-1701
播州ホンダ販売㈱	〒677 兵庫県西脇市下戸田字669-7	TEL.0795-22-3376
ホンダ上田販売㈱	〒672 兵庫県姫路市飾磨区野田町126	TEL.0792-84-1818
㈱山科ホンダ	〒668 兵庫県豊岡市城南町20-19	TEL.07962-2-5386
㈱ホンダ二輪中国・本社	〒730 広島県広島市中区舟入南6-5-28	TEL.082-295-7111
㈱ホンダ二輪四国・本社	〒791 愛媛県松山市高岡町43	TEL.089-973-3311
泉屋商事㈱	〒780 高知県高知市塩町9-19	TEL.0888-23-0111
㈱ホンダ二輪九州・本社	〒811-01 福岡県粕屋郡新宮町大字下府631-1	TEL.092-963-3006
西京ホンダ販売㈱	〒816 福岡県福岡市博多区半道橋2-7-70	TEL.092-473-6811
㈱飯塚ホンダ	〒820 福岡県飯塚市大字川津21-1	TEL.0948-24-1000
村上ホンダ販売㈱	〒851-01 長崎県長崎市田中町581-3	TEL.0958-37-8421
㈴阿部輪業商会	〒882 宮崎県延岡市山下町3-12-12	TEL.0982-33-4681
㈱ホンダ竜美	〒894 鹿児島県名瀬市小浜町30-6	TEL.0997-53-3311
㈱桑原モータース	〒745 山口県徳山市河東町9-10	TEL.0834-31-5000
沖縄ホンダ㈱	〒901-21 沖縄県浦添市字仲間1506	TEL.098-877-2558
㈱ホンダ二輪東北・本社	〒983 宮城県仙台市若林区六丁の目西町1-12	TEL.022-288-9041
㈱米沢ホンダ商会	〒992 山形県米沢市中田町総合卸売センター内	TEL.0238-37-5055
北日本ホンダ販売㈱・本社	〒004 北海道札幌市豊平区月寒東1条17-5-20	TEL.011-854-8571
㈲ホンダモーター金ヶ崎商会	〒047 北海道小樽市入船1-6-19	TEL.0134-24-1375
㈱ホンダ道北	〒079 北海道旭川市永山2条12-1-21	TEL.0166-47-1591
帯広ホンダモーター㈱	〒080-24 北海道帯広市西22条北1-2-13	TEL.0155-37-5211

HRC情報

NSR150(ST150)ロードレース
'99年度も各サーキットにて開催予定です。
賞典等、詳細は別途各専門誌にて。

HRC市販レーサー
2000年モデルは '99年7月 発表予定。
発表時期が来ましたら、上記販売店・ディストリビューターにお問い合せ下さい。

NS50R 第7ロット 予約開始
予約期間：平成11年3月～5月末
納車時期：平成11年9月予定

すぐに役く立つ、ライダーの強い味方！
「HRCメンバーズカード」只今入会募集中。
詳細は、左上のHRCサービスショップ迄

欧州、とりわけデザイン王国といわれるイタリアで、マジェスティはいま、絶賛を博しています。単に美しい、のではない。スポーティな走りと大きなゆとりを約束するそのスタイリングは、いわば機能美のひとつの集大成。デザインへの造詣が深いイタリアの人々が、ひときわ共鳴しているのも決して偶然ではないのです。世界は日本を待っていた。グローバルスポーツセダン、マジェスティ。

プレステージ・スポーツセダン

MAJESTY ABS

YP250A●型式SG01J●4サイクル・水冷・SOHC・2バルブ・単気筒・249cm³●最高出力21ps/6,500rpm●最大トルク2.4kgf・m/5,500rpm●乾燥重量158kg●乗車定員2名●A.B.S.(ヤマハ.アンチロック・ブレーキシステム)●前後輪ディスクブレーキ●スポーツマフラー●ハイマウントストップランプ●砲弾型バックミラー●可変バックレスト付大型シート●カラーリング:ニューパールホワイト・マーブルシルバー(ホワイト・シルバー)/ニューシルバーダスト(Nシルバー)/ブラック2・フロストシルバー(ブラック・シルバー)

※ヤマハ・アンチロック・ブレーキシステムは、ホイールのロック傾向を検知してブレーキパッドに加わる圧力を制御するシステムであり、すべてのスリップや転倒を防止するものではありません。スピードの出し過ぎやコーナリング中の急制動は、絶対にしないでください。 **¥559,000**

スポーツセダン・スペシャルティ

MAJESTY SPORTS VERSION

¥529,000

YP250S●型式SG01J●4サイクル・水冷・SOHC・2バルブ・単気筒・249cm³●最高出力21ps/6,500rpm●最大トルク2.4kgf・m/5,500rpm●カラーリング:フロストシルバー(Fシルバー)/ニューシルバーダスト(Nシルバー)/シルキーホワイト/ベリーダークブルーカクテル4(ブルー)

走りとゆとりのスポーツセダン

MAJESTY

グッドデザイン選定商品

¥479,000

YP250●型式4HC●4サイクル・水冷・SOHC・2バルブ・単気筒・249cm³●最高出力21ps/6,500rpm●最大トルク2.4kgf・m/5,500rpm●カラーリング:ベリーダークブルーカクテル4(ブルー)/ニューシルバーダスト(Nシルバー)

●価格はメーカー希望小売価格です。(北海道・沖縄および一部地域を除く)●価格は参考価格です。●価格には保険料、税金(含む消費税)、登録などに伴う諸費用は含まれていません。●消費税は別途計算のうえ申し受けます。●詳しくはヤマハ取り扱い販売店にお問い合わせください。

●Majesty ABS　ニューパールホワイト・マーブルシルバー(ホワイト・シルバー)

バイクにフレンドシップ
見られるためのライトオン

●ヤマハモーターサイクルに関するお問い合わせは、下記のお客様相談室へ。

お客様相談室　0120-090-819

●カタログご希望の方は、機種名・雑誌名と住所・氏名・年令・職業を明記し、郵送料として郵便切手180円分を同封の上、下記へお申し込みください。
〒438-8501静岡県磐田市新貝2500ヤマハ発動機株式会社広報宣伝グループカタログ係宛

全国のバイク・ファンとクラブ/サークルのネットワーク『モトサピ』

NMCA
日本二輪車協会
スポーツ&バイク・ライフの健全と環境保全を推進

Moto SAPIENS

TEL.03-3440-8819
ホームページ
http://www.twics.com/~nmca
直声ファックスNo.
03-3440-6135

●インターネットホームページhttp://www.yamaha-motor.co.jp/mc/majesty/

ヤマハは、いま、大人の週末バイクライフを応援しています。
週末はバイク人

YAMAHA
ヤマハ発動機株式会社

コンペモデル（レース専用車）のキットパーツは RSS で揃っています。

RSS Racing Service Shop

コンペモデルに関する御相談は技術と信頼の RSS をおすすめします。お近くの RSS に御相談下さい。

頂点を目指す者達へ——

※走行写真はYZR250です。

TZ250 '99 MODEL

Engine type/Water-cooled 2stroke, crankcase reed valve
Cylinder layout/V-two.
Displacement/249
Max power output/over 87ps
Ignition system/CDI
Transmission/6speed
Clutch type/Dry multiplate
Tire size (front)/17in
Tire size (rear)/17in
Brake (front)/Dual disk
Brake (rear)/single disk
Weight/Over 104kg

メーカー希望小売価格 ¥1,850,000

新型キャブレター、サイレンサー仕様
変更により優れたパワーを実現

TZ125 '99 MODEL

Engine type/Water-cooled 2stroke, crankcase reed valve
Cylinder layout/single.
Displacement/124
Max power output/over 44ps
Ignition system/CDI
Transmission/6speed
Clutch type/Dry multiplate
Tire size (front)/17in
Tire size (rear)/17in
Brake (front)/single disk
Brake (rear)/single disk
Weight/Over 71.2kg

メーカー希望小売価格 ¥998,000

細部の熟成により戦闘力アップ

'99 ヤマハレーシングスクール開催〈予定〉

ビギナーからプロフェッショナルを目指すライダーまで、幅広くロードレースをサポートします。

TZ入門レーシングスクール	TZ125（レンタル）を使用し、レース知識や基本を修得。
TZステップアップレーシングスクール	TZオーナーを主な対象に、よりレベルアップを目指すスクール。
TZセットアップスクール	TZユーザーの悩みを解決するセッティングを重点としたスクール。
TZエキスパートレーシングスクール	エキスパートライダーを対象に、ハイレベルなレースノウハウを伝授。

※日程・会場等詳しくは別途ご案内致します。

※価格には、同梱パーツも含まれます。写真は参考のためにカラーリングしてあります。 ※改良のため、製品の仕様は予期なく変更する場合がありますのでご了承下さい。
●価格はメーカー希望小売価格 ●価格は参考価格です。●価格には保険料、税金（含む消費税）・登録などに伴う諸費用は含まれていません。●消費税は別途計算のうえ申し受けます。●詳しくは販売店にお問い合わせください。

バイクにフレンドシップ
見られるためのライトオン

●ヤマハモーターサイクルに関するお問い合わせは、下記のお客様相談室へ。
お客様相談室 0120-090-819
●カタログご希望の方は、機種名・雑誌名と住所・氏名・年令・職業を明記し、郵送料として郵便切手160円分を同封の上、下記へお申し込みください。
〒438-8501静岡県磐田市新貝2500 ヤマハ発動機株式会社広報室宣伝グループ カタログ係

ヤマハは、いま、大人の週末バイクライフを応援しています。
週末はバイク人

北海道地区

YSP札幌南 RR・MX・TR
北海道札幌市中央区南29条西11丁目1-1
TEL.011-563-6021

YSP札幌西 RR・MX
北海道札幌市西区宮の沢2条1丁目10-21
TEL.011-662-6526

㈲ミカホ スポーツ RR・MX
北海道札幌市東区北25条東3丁目50
TEL.011-742-9507

YOU SHOPトヨキ MX
北海道札幌市中央区北6条西25丁目7 北盛ビル1F
TEL.011-641-5878

ばいくはうす サンラッド RR
北海道札幌市白石区中央1条5丁目3-16
TEL.011-824-2497

モトガレージA&Mサービス MX
北海道札幌市白石区南郷通1丁目南2-14
TEL.011-861-4191

㈱オートランド札幌 RR・MX・TR
北海道札幌市厚別区厚別中央3条1丁目1-43
TEL.011-892-3323

YOU SHOP勝木 MX
北海道札幌市東区北18条東3丁目17
TEL.011-741-3132

㈲クルムス SAPPORO RR
北海道札幌市東区北20条東1丁目3-5
TEL.011-723-4364

バイクプロ RSR RR
北海道札幌市清田区平岡1条6丁目
TEL.011-886-1577

㈲アメヤ モーターサイクル RR・MX・TR
北海道札幌市豊平区月寒東2条11丁目1-2
TEL.011-852-6600

㈲オートフレンド北海道 RR・MX
北海道千歳市信濃4丁目1-2
TEL.0123-22-3996

YSP小樽 MX
北海道小樽市若竹町13-211
TEL.0134-33-3211

藤沢オートサイクル RR
北海道磯谷郡蘭越町140-6
TEL.0136-57-5552

㈱野村商会 MX・TR
北海道苫小牧市本町1丁目1-3
TEL.0144-32-4896

YSP旭川 MX
北海道旭川市神楽3条4丁目331
TEL.0166-61-8086

YOU SHOP世紀屋 RR・MX
北海道旭川市永山7条3丁目101
TEL.0166-48-0321

バイク屋 にゃろめ RR
北海道旭川市東光14条6丁目
TEL.0166-39-3188

モーターサイクルプロショップZIP MX
北海道旭川市旭町1条10丁目
TEL.0166-54-5051

㈲オートスタジオ ツーアンドフォー MX・TR
北海道苫小牧市字沼ノ端135-135
TEL.0144-55-0110

㈱モトショップ ワークス RR・MX
北海道旭川市花咲町6丁目
TEL.0166-51-3069

YOU SHOPオカジマ MX
北海道滝川市栄町4丁目4-27
TEL.0125-23-2579

YSP帯広 RR・MX
北海道帯広市南町南7線25
TEL.0155-48-1417

ハヤシモータープロジェクト RR
北海道帯広市稲田町294-11
TEL.0155-47-1296

YOU SHOP勇三 RR・MX
北海道河東郡音更町新通7丁目3-17
TEL.0155-42-8198

YSP釧路 MX
北海道釧路市鳥取大通り9丁目8-4
TEL.0154-53-0025

YOU SHOP野上 RR・MX
北海道釧路市愛国東1丁目25-3
TEL.0154-37-8950

函館マジマ㈱ MX
北海道函館市松陰町17-11
TEL.0138-51-4686

㈲スナダオート RR・MX
北海道上磯郡上磯町久根別2丁目1-42
TEL.0138-73-7773

YOU SHOP山本 MX
北海道山越郡八雲町東雲町6-6
TEL.01376-3-3857

YOU SHOP大嶋 MX
北海道網走郡美幌町大通り南2丁目20-2
TEL.01527-3-3288

HARADA 北見店 MX
北海道常呂郡端野町字三区653-1
TEL.0157-56-3131

㈲松村商会 RR
北海道江別市野幌町40-9
TEL.011-383-7394

モトマタドール MX
北海道夕張郡栗山町桜丘1丁目19-8
TEL.01237-2-6171

東北地区

YOU SHOPフジオート MX
青森県青森市西田沢字浜田71-2
TEL.0177-88-5349

モーターファン小田切 MX
青森県三沢市松園町3丁目2-18
TEL.0176-57-4049

YOU SHOPホットスタッフ MX
岩手県盛岡市山岸1丁目4-12
TEL.019-622-8451

ビッグボックス クボトラ RR・MX・TR
岩手県盛岡市東仙北2丁目15-14
TEL.019-635-2611

花巻オート MX
岩手県花巻市桜町1丁目29-2
TEL.0198-24-7356

YSP水沢 RR・MX
岩手県水沢市立町49-1
TEL.0197-23-3963

岩崎モータース MX
岩手県二戸市米沢字長瀬72-1
TEL.0195-23-8393

ライダースサロン 大泉 RR・MX
宮城県古川市古川字本鹿島225-2
TEL.0229-23-3593

㈲鈴木屋輪業商会 RR・MX
宮城県塩釜市宮町4-22
TEL.022-366-3810

YSP大河原 MX
宮城県柴田郡大河原町字新南56-6
TEL.0224-52-3069

YOU SHOPよこえ RR
宮城県黒川郡富谷町富ケ丘1丁目5-10
TEL.022-358-6952

BS ハタヤマ TR
宮城県宮城郡利府町神谷沢字社壇場10-25
TEL.022-255-5056

㈲根岸オート バイパス店 RR
宮城県仙台市太白区長町2丁目6-31
TEL.022-244-1555

YOU SHOP黒松 MX
宮城県仙台市青葉区双葉ケ丘1丁目22-21
TEL.022-234-3582

YSP仙台西 MX
宮城県仙台市青葉区八幡3-1-1
TEL.022-265-7650

YSP仙台中央 MX
宮城県仙台市宮城野区五輪2丁目4-3
TEL.022-299-4222

NOVA モーターサイクル RR・MX
宮城県仙台市太白区山田上ノ台町1-5
TEL.022-243-2263

㈲スピードショップ イイノ MX
宮城県仙台市青葉区木町通2丁目3-16
TEL.022-271-8393

YSP仙台北 MX
宮城県仙台市青葉区川平3丁目41-15
TEL.022-278-9955

ピットイン わたなべ MX
宮城県仙台市太白区ひより台3-10
TEL.022-245-4077

PSSティーズ RR・MX
宮城県仙台市青葉区八幡3丁目1-44
TEL.022-225-2755

モトショップ ビッグライフ MX
宮城県仙台市青葉区栗生4丁目12-1
TEL.022-392-6315

YOU SHOPスカイロード RR・MX
宮城県岩沼市桑原3丁目4-6
TEL.0223-29-2339

YSP石巻西 TR
宮城県石巻市蛇田字新下沼56-1
TEL.0225-22-8272

山口輪業商会 MX
宮城県石巻市東中里2-4-4
TEL.0225-22-6826

YSP名取 MX
宮城県名取市増田5丁目4-43
TEL.022-383-0427

YSP気仙沼 MX・TR
宮城県気仙沼市上田中2丁目1-8
TEL.0226-24-1331

㈲三嶋モータース TR
山形県山形市錦町1-14
TEL.023-633-0361

YSP山形南 RR・MX
山形県山形市青田5丁目4-1
TEL.023-631-9707

YSP山形西 RR・MX
山形県山形市あかねケ丘3丁目7-26
TEL.023-644-1316

モトショップ ワンバイワン MX
山形県山形市北町2丁目6-28
TEL.023-684-0623

YOU SHOPテラオ RR・MX
山形県新庄市五日町1325-22
TEL.0233-22-2905

YOU SHOPヤマカ RR
山形県米沢市中央4丁目1-76
TEL.0238-23-1108

YSP酒田 MX
山形県酒田市こがね町2丁目1-16
TEL.0234-23-3232

YSP福島南 RR
福島県福島市鳥谷野字宮田58-1
TEL.0245-46-3116

YAP LAND MX
福島県福島市平石字白砂56
TEL.0245-45-0006

㈲ハイブリッジモータース RR
福島県福島市成川字仲の内19番の1
TEL.0245-45-6411

㈱モト企画 MX
福島県いわき市好間町大利字龍登城184
TEL.0246-27-2538

YSP福島北 RR・MX
福島県伊達郡伊達町字前川原16-3
TEL.0245-84-2033

㈱オーエックスレーシング RR
福島県郡山市名倉331
TEL.0249-46-9455

㈱塚本輪業商会 RR・MX
福島県郡山市堂下町10-8
TEL.0249-22-1784

YSP郡山中央 RR・MX
福島県郡山市字菜根屋敷61
TEL.0249-38-0095

大倉オート MX
秋田県秋田市新屋鳥木町4-53
TEL.018-828-2873

太平オート MX・TR
秋田県秋田市広面字谷内佐渡38
TEL.018-834-0695

YSP秋田大曲 MX・TR
秋田県大曲市田町21-13
TEL.0187-66-2969

関東・甲信越地区

スポーツショップコムロ RR・MX
茨城県水戸市住吉町123-3
TEL.029-247-5215

YOU SHOPタカノ RR・MX
茨城県ひたちなか市市毛新町1-15-48
TEL.029-275-2939

YSPつくば学園 RR・MX
茨城県つくば市大字古来字稲町700-1
TEL.0298-57-3321

㈱オートショップ大月 RR・MX
茨城県西茨城郡友部町中央1丁目1-10
TEL.0296-77-6924

㈲井原商会 MX
茨城県竜ケ崎市砂町2738-1
TEL.0297-62-0149

カシマレーシング RR
茨城県鹿嶋市住吉311
TEL.0299-83-7428

オートショップ坂 MX
茨城県土浦市真鍋6丁目15-24
TEL.0298-21-3830

モトショップ タカハシ RR・MX・TR
栃木県宇都宮市駒生町1769-4
TEL.028-652-4166

モトハウス マツモト RR
栃木県黒磯市埼玉上中条78-65
TEL.0287-63-6656

㈲バイクショップ竹沢 MX
栃木県鹿沼市茂呂523-31
TEL.0289-76-1030

バイク・クリニック・コジマ RR
栃木県足利市堀込町239-2
TEL.0284-71-2730

㈲モトショップ シロタ RR・MX
群馬県高崎市中尾町456-4
TEL.027-361-0222

YSP前橋西 RR・MX
群馬県前橋市大友町1丁目5-15
TEL.027-253-1078

㈱スーパーバイク 渡夢 TR
群馬県前橋市元総社町733-5
TEL.027-253-5364

YSP前橋 MX
群馬県前橋市朝日町3-15-5
TEL.027-221-4375

㈱翼 MX
群馬県太田市内ケ島1447-1
TEL.0276-46-1735

J TRIC(ジェイ・トリック) RR
群馬県佐波郡東村東小保方2719-2
TEL.0270-63-6255

ザ.オート イシハラ MX
群馬県新田郡新田町大字大根574-1
TEL.0276-57-0055

YSP大宮中央 MX
埼玉県大宮市大成町4-57-12
TEL.048-663-3730

㈱サイクルロード イトー RR・MX
埼玉県大宮市櫛引町2-197-7
TEL.048-651-7677

ストラーダ RR・MX・TR
埼玉県上尾市南89-17
TEL.048-776-8726

大島オートサービス RR・MX
埼玉県北葛飾郡杉戸町大字大島130-1
TEL.0480-33-0079

Mファクトリー RR・MX
埼玉県越谷市川柳町1-2-17
TEL.0489-87-0940

モトショップ鷹 RR・MX
埼玉県与野市新中里4-1-23
TEL.048-832-2930

YSP川越東 MX
埼玉県川越市氷川町51-6
TEL.0492-25-2306

㈲ロッカーズ RR・MX
埼玉県狭山市笹井432-6
TEL.042-954-6682

YSP上福岡南 MX
埼玉県上福岡市築地3-2-12
TEL.0492-62-5302

㈲トータルサービス RR・MX
埼玉県熊谷市新堀新田大字山神503-2
TEL.0485-32-1690

㈲イトウ RR
埼玉県東松山市上唐子1244
TEL.0493-23-0113

テラ・サイクル RR・MX
埼玉県東松山市六軒町22-24
TEL.0493-24-0488

㈲金城サイクル 三郷店 RR
埼玉県三郷市戸ケ崎2181
TEL.0489-56-2780

㈲プレスト RR
埼玉県三郷市谷中3番地
TEL.0489-52-8980

スリーA RR
埼玉県八潮市古新田273
TEL.0489-97-6638

㈲バイクショップ ケイズ RR
埼玉県加須市東栄1-15-10
TEL.0480-66-0518

オートプラザ KAME MX
千葉県千葉市美浜区高洲1-16-4
TEL.043-241-8198

YSP貝塚 MX
千葉県千葉市若葉区貝塚町1108-9
TEL.043-233-4606

YOU SHOPAlice RR
千葉県千葉市花見川区畑町453-1
TEL.043-272-9071

コシカワモータース 16号店 RR
千葉県八千代市勝田825-1
TEL.0474-84-2217

オートショップ クラウド RR・MX
千葉県佐倉市上志津1782-12
TEL.043-461-8729

㈲スガヤ オートサービス RR
千葉県旭市新町1017-1
TEL.0479-63-1558

ピットクルー千葉中央店 RR
千葉県千葉市中央区都町2丁目2-7
TEL.043-232-7770

YSP松戸東 MX
千葉県松戸市松戸新田32-2 ユーキマンションデ
TEL.047-369-0456

MOTORCYCLE SHOP クラフト MX
千葉県松戸市馬橋乗町87
TEL.0473-48-5500

野田ヤマハ RR・MX
千葉県野田市中野台543
TEL.0471-23-2506

YSP市川西 MX
千葉県市川市市川4-5-10
TEL.0473-71-8762

YSP南柏 RR
千葉県柏市新富町2-16-45
TEL.0471-45-9641

RSマスダ RR
千葉県柏市高田254
TEL.0471-45-6581

YSP流山 MX
千葉県流山市南流山6丁目28-5
TEL.0471-50-1871

YSP足立中央 RR・MX
東京都足立区本木2-29-15
TEL.03-3886-5122

村上製作所 RR・MX
東京都足立区江北6-9-6
TEL.03-3896-5865

MCSイイヤマ MX
東京都墨田区押上3-50-11
TEL.03-3612-1345

YOU SHOPヨネクラ RR・MX
東京都江東区千田20-16
TEL.03-5690-1800

ピットステーション トライアングル RR・MX
東京都江戸川区南篠崎町5-10-8
TEL.03-3698-1207

YSP京葉 MX・TR
東京都江戸川区西一之江2-14-14
TEL.03-3656-5485

YSP葛飾南 RR
東京都葛飾区堀切3-36-13
TEL.03-3695-5556

モタロー RR・MX
東京都世田谷区松原1-55-10
TEL.03-3321-0959

EIJYU PRO RR・MX
東京都世田谷区瀬田3-15-9
TEL.03-5716-6337

MHプロダクツ RR・MX
東京都世田谷区千歳台3-24-5
TEL.03-3483-6091

YSP谷原 RR
東京都練馬区高松3-3-5
TEL.03-3998-1011

太洋モータース MX
東京都杉並区阿佐ケ谷北4-6-30
TEL.03-3330-8000

もとしょっぷ神楽坂 MX
東京都新宿区筑土八幡町2-5
TEL.03-3235-3141

YSP成増 RR
東京都板橋区赤塚新町3-4-5
TEL.03-3977-5025

※各ショップの取り扱い区分を、RR(ロードレース)、MX(モトクロス)、TR(トライアル)、の記号でショップ名の右側に表示してあります。

●TZ250/125、は運輸省の認定を受けていませんので、ナンバープレートを取得することはできません。
●TZ250/125、は道路を走行しますと、道路交通法及び道路運送車輌法の違反となります。
●私道、社寺の境内、公園、海辺、堤防上、農道、林道など、いわゆる道路の形態を整えていないところでも人や車が自由に出入りできるところは、道路とみなされます。走行場所には十分注意してください。

インターネットホームページ
http://www.yamaha-motor.co.jp/

YAMAHA
ヤマハ発動機販売株式会社

コンペモデル（レース専用車）PC 250のキットパーツはRSSで扱っています。

RSS Racing Service Shop

コンペモデルに関する車両部は技術的情報のRSSをおすすめします。
料金などのRSSで相談ください。

勝利するためのマシン。YZシリーズ'99年モデル、新登場。

1998 AMA SUPERCROSS

125cc Class WEST REGION CHAMPION
John Dowd
125ccクラス西地区大会チャンピオン
ジョン・ダウド選手

快挙！Wタイトル獲得！

250cc Class SERIES CHAMPION
Jeremy McGrath
250ccクラスシリーズチャンピオン
ジェレミー・マクグラス選手

All New!
新設計エンジンで戦闘力アップ
YZ250
メーカー希望小売価格 ¥589,000

ダイナミックで軽快なフットワーク
YZ125
メーカー希望小売価格 ¥479,000

コンパクトボディに高度な戦闘力
YZ80/80LW
メーカー希望小売価格 ¥299,000/¥319,000 ※写真はラージホイール

モトクロス テクニカルトレーニング開催
メインインストラクターに国際A級ライダーを迎え、勝つためのノウハウを実践トレーニング。A級テクニックをマスターしよう。
※日程・会場等詳しくは別途ご案内致します。

※価格には、同梱パーツも含まれます。※改良のため、製品の仕様は予期なく変更する場合がありますのでご了承下さい。
●価格はメーカー希望小売価格 ●価格は参考価格です。●価格には保険料、税金（含む消費税）・登録などに伴う諸費用は含まれていません。●消費税は別途計算のうえ申し受けます。●詳しくは販売店にお問い合わせください。

バイクにフレンドシップ
見られるためのライトオン

●ヤマハモーターサイクルに関するお問い合わせは、下記のお客様相談室へ。
お客様相談室 ☎0120-090-819
●カタログご希望の方は、機種名・雑誌名と住所・氏名・年令・職業を明記し、郵送料として郵便切手160円分を同封の上、下記へお申し込みください。
〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500 ヤマハ発動機株式会社広報室宣伝グループカタログ係宛

ヤマハは、いま、大人の遊ぶ・バイクライフを応援しています。
週末はバイク人

BIKE NATURALIST

YSP目黒中央 RR
東京都目黒区中央町1-10-10
TEL.03-3712-0207

ハヤシカスタム RR
東京都大田区下丸子2-1-1-101
TEL.03-3756-2160

SP忠男 RR
東京都大田区昭和町3-6-6
TEL.03-3741-1771

ブルーライトニングレーシング RR
東京都大田区大森東3-2-14
TEL.03-3763-3028

YSP下丸子 RR・MX
東京都大田区千鳥3-18-3
TEL.03-3759-9590

YSP鷺の宮 RR
東京都中野区鷺宮5-9-2
TEL.03-3825-1479

YSP福生 RR
東京都福生市熊川165-11
TEL.042-553-2345

ライディングハウス TR
東京都立川市羽衣町2-27-9
TEL.042-528-0455

秀明サイクルモーター MX
東京都東大和市奈良橋6-884-12
TEL.042-565-0775

バイクルーム多摩 MX・TR
東京都八王子市大塚1457
TEL.0426-76-3304

片倉オート商会 RR
東京都八王子市片倉町716-6
TEL.0426-35-9426

YSP八王子中央 RR
東京都八王子市新町7-12
TEL.0426-46-6181

YSP八王子西 MX
東京都八王子市東浅川町557-7
TEL.0426-63-5425

YOU SHOPサンライズ MX
東京都武蔵村山市本町1丁目9-1
TEL.042-563-1148

有サム MX
東京都町田市本町田2207-16
TEL.0427-26-1123

YSP町田中央 RR
東京都町田市旭町2-9-4
TEL.0427-29-6456

YSP小平 RR・MX
東京都小平市小川東町1-11-11
TEL.042-345-4731

YSP三鷹 MX
東京都三鷹市野崎4-3-48
TEL.0422-32-5454

YSP東小金井 RR・TR
東京都小金井市梶野町1-7-34
TEL.0422-52-9656

YSP小金井 RR・MX
東京都小金井市前原町5-7-30
TEL.042-385-6511

YS国分寺 MX
東京都小金井市貫井北町5-12-7
TEL.042-323-3597

有多摩川輪業 RR
東京都狛江市中和泉5-22-11
TEL.03-3488-2907

YOU SHOPチェイス RR
東京都多摩市乞田747
TEL.042-373-3910

バイクショップ アミューズ MX
東京都昭島市緑地町3-7-16
TEL.042-546-8456

ライダースショップケーユー相模原店 RR
神奈川県相模原市東淵野辺4-1-22
TEL.0427-51-2121

SP忠男 横浜店 MX
神奈川県横浜市保土ケ谷区星川町1-11-6
TEL.045-333-3544

B・H・WOOP'S MX
神奈川県横浜市保土ケ谷区西谷町760
TEL.045-382-4731

YSP鶴見 MX
神奈川県横浜市鶴見区駒岡3-37-16
TEL.045-575-0885

YSP横浜南 RR・MX
神奈川県横浜市南区南大岡町2-6-20
TEL.045-741-6123

ツツミ モータース RR
神奈川県横浜市港北区小机町1512
TEL.045-471-8186

YSP田奈 MX
神奈川県横浜市青葉区田奈町15-1
TEL.045-962-4650

YSP横浜旭 RR・MX
神奈川県横浜市旭区東希望ケ丘188
TEL.045-363-5111

YOU SHOP港北ニュータウン RR
神奈川県横浜市都筑区茅ケ崎南3-1-27
TEL.045-942-4688

YSP洋光台 MX
神奈川県横浜市磯子区洋光台5丁目12-1
TEL.045-831-0778

YSP中巨摩 RR
山梨県中巨摩郡昭和町西花輪2725-2
TEL.0552-73-6640

YSP長野中央 RR・MX
長野県長野市三輪1丁目2-1
TEL.0262-41-7841

YSP安曇野 RR
長野県南安曇郡豊科町4898
TEL.0263-72-2334

YSP松本 RR・MX
長野県松本市石芝3丁目2-20
TEL.0263-26-2780

三沢モータース RR・MX・TR
長野県松本市島立堀米新田777
TEL.0263-47-3167

有翔武 RR・MX
長野県松本市横田4丁目6-32
TEL.0263-34-1151

バイクショップ ヒロ MX
長野県松本市出川町2丁目8-6
TEL.0263-25-6539

YSP伊那 RR・MX・TR
長野県伊那市大字伊那1308-2
TEL.0265-73-8385

テクニカルショップQ MX
長野県諏訪郡下諏訪町清水町4555-22
TEL.0266-28-2359

YSP小諸 RR・MX
長野県小諸市田町乙300-8
TEL.0267-22-0640

北沢モータース RR
長野県小県郡丸子町大字塩川1322-6
TEL.0268-35-2934

飯広丘自動車研究所 佐久店 RR・MX
長野県南佐久郡臼田町大字臼田字原田1115
TEL.0267-82-2008

YSP上田 MX・TR
長野県上田市国分1-937-1
TEL.0268-25-2750

YSP茅野 RR・MX
長野県茅野市宮川4426-1
TEL.0266-73-2130

ティーティースポーツ RR・MX・TR
新潟県上越市富岡609
TEL.0255-24-1702

㈱ブライトン RR
新潟県新潟市横尾131
TEL.025-261-0770

YSP新潟中央 RR
新潟県新潟市新和54
TEL.025-284-6602

YOU SHOPさいとう MX
新潟県中蒲原郡亀田町袋津6-5-44
TEL.025-381-2917

YOU SHOP小林ヤマハ MX
新潟県長岡市摂田屋1丁目6-3
TEL.0258-32-2426

中部地区

YSP静岡南 RR・MX
静岡県静岡市中田3丁目7-27
TEL.054-285-4441

㈱YSP 静岡中央 MX
静岡県静岡市南安倍1-5-14
TEL.054-253-2260

モトショップ スギウラ TR
静岡県静岡市長美13-30
TEL.054-247-4543

有モト・ランド三澤 MX
静岡県富士市久沢179-4
TEL.0545-71-3929

有オートショップ トヨタ MX
愛知県豊田市永覚新町3-22-1
TEL.0565-29-1388

有セフティモーター大進 RR
愛知県豊田市小坂町9丁目19-1
TEL.0565-34-0330

トーカイオート㈱ MX
愛知県豊田市吉原町平手43
TEL.0565-52-6911

協和自動車㈱二輪部 MX
愛知県豊田市吉原町平手43
TEL.0565-52-6911

モトスイング TR
愛知県豊田市高町3丁目6-8
TEL.0565-80-3133

有モトハウス21st MX
愛知県安城市住吉町作野30-3
TEL.0566-98-2248

ライダースエージェント オオツカ RR
愛知県豊橋市神野新田タノ割80-3
TEL.0532-31-6092

YOU SHOPモト・キッズ RR
愛知県豊橋市西小鷹野4丁目2-1
TEL.0532-63-6103

YSP豊橋南 RR・MX
愛知県豊橋市曙町字南松原98-2
TEL.0532-48-2618

YSP豊川中央 MX・TR
愛知県豊川市稲荷2丁目7-34
TEL.0533-86-0388

㈱和田スポーツレジャーショップ MX
愛知県豊川市本野ケ原2丁目56
TEL.0533-85-3068

モーターショップ トヨハシ RR
愛知県豊川市牧野町野神41-3
TEL.0533-86-1568

YSP刈谷 RR・MX
愛知県刈谷市一ツ木町朝暮50-1
TEL.0566-23-3547

YDS岡部 RR・MX
愛知県名古屋市中川区由津1丁目2204
TEL.052-431-8171

YSP名東本郷 MX
愛知県名古屋市名東区藤森2-278
TEL.052-773-5557

モロ商会 TR
愛知県名古屋市中村区並木2-269
TEL.052-413-0022

バイク&バイク MX
愛知県名古屋市守山区川村町328
TEL.052-794-8705

スポーツプラザ イトウ TR
愛知県名古屋市守山区更池町12-28
TEL.052-795-2252

YSP名古屋東 RR・MX・TR
愛知県名古屋市天白区植田南2丁目137
TEL.052-803-2524

MOTO BLAST瀬バイクショップ カクタガワ RR
愛知県名古屋市天白区平針1丁目1512
TEL.052-804-2178

有Jレーシング プロジェクト RR
愛知県名古屋市天白区植田西3-901
TEL.052-802-0117

YSP名港 MX
愛知県名古屋市港区明正2-2-202
TEL.052-381-1317

バイクショップ ウカワ RR・MX・TR
愛知県名古屋市中川区中島新町27丁目102
TEL.052-353-6664

YSP尾張小牧 RR・MX・TR
愛知県江南市小折町桜園180
TEL.0587-54-3228

YOU SHOP栗木 RR・MX
愛知県稲沢市松下1丁目1-19
TEL.0587-32-2762

YSP名古屋北 RR・MX
愛知県西春日井郡豊山町豊場栄56
TEL.0568-29-0505

オートスポーツプラザ二輪倶楽部 RR
愛知県半田市成岩本町129
TEL.0569-22-5921

ヤマハメンテナンスサービスクウォリティ RR
愛知県豊明市西川町桑田2-1
TEL.0562-95-1584

YSP一宮中央 MX
愛知県一宮市今伊勢町馬寄字郷浦39-4
TEL.0586-44-2303

有イトーモータース RR・MX
愛知県津島市昭和町2-14
TEL.0567-26-3894

有モトハウス21st MX
愛知県安城市住吉町作野30-3
TEL.0566-98-2248

岡本ヤマハ商会 MX
三重県桑名市安永1丁目895-2
TEL.0594-23-2571

サンビシモータース RR・MX
三重県桑名市参宮通23
TEL.0594-22-1616

YOU SHOPコダマ RR・MX・TR
三重県員弁郡東員町笹尾西1丁目38-10
TEL.0594-76-5407

モトスペース RR・MX
三重県鈴鹿市寺家町1082-1
TEL.0593-88-2886

モトガレージ イトウ RR・MX
三重県鈴鹿市住吉5丁目14-35
TEL.0593-79-4488

三谷モータースポーツ鈴鹿 TR
三重県鈴鹿市道伯町2147-71
TEL.0593-70-2689

ササキスポーツクラブ RR
三重県鈴鹿市稲生西2丁目9-35
TEL.0593-86-5600

de" LIGHT RR
三重県鈴鹿市住吉2丁目30-20
TEL.0593-70-3528

YSP四日市 RR・MX・TR
三重県四日市ときわ2丁目1108-1
TEL.0593-53-7371

※各ショップの取り扱い区分を、RR(ロードレース)、MX(モトクロス)、TR(トライアル)、の記号でショップ名の右側に表示してあります。

●YZ250/125/80/80LWは、運輸省の認定を受けていませんので、ナンバープレートを取得することはできません。
●YZ250/125/80/80LWは、道路を走行しますと、道路交通法及び道路運送車両法の違反となります。
●私道、社寺の境内、公園、海辺、堤防上、農道、林道など、いわゆる道路の形態を整えていないところでも人や車が自由に出入りできるところは、道路とみなされます。走行場所には十分注意してください。

インターネットホームページ
http://www.yamaha-motor.co.jp/

YAMAHA

ヤマハ発動機販売株式会社

コンペモデル（レース専用車）RC-Xのキットパーツは RSS で揃っています。

RSS Racing Service Shop

コンペモデルに関する御相談は技術 at 販売店 RSS までお寄せください。
おなじみの RSS に御相談下さい。

4サイクル MXセットアップスクール開催 無料

'98&'99YZ400F/WR400F購入者を対象に4サイクルマシンの特性・メンテナンス・ライディング等をフルに伝授。
アドバイザーには開発スタッフをはじめ、ヤマハ契約インストラクターが参加。

※日程・会場等のお問い合わせ・お申し込みは別途ご案内致します。

'98AMAモトクロスナショナル選手権250ccクラス シリーズチャンピオン獲得。
ダグ・ヘンリー選手が証明したヤマハのスペックパフォーマンス。

'99年モデル YZ400F/WR400F新登場

YZ400F

メーカー希望小売価格 ¥639,000

一部コース、レースレギュレーションでの音量規制に対応できるようサイレンサー&サイドカバー（WR400F用）を同梱

WR400F

メーカー希望小売価格 ¥649,000

ご注意 YZ400F/WR400Fは、各地競技会の競技規則・クラス区分・車両規定によっては参加できない場合がありますのでご注意下さい。競技会に参加される場合は、競技主催者にYZ400Fならびに WR400Fが参加できる事を確認をしてからご購入、ご使用ください。

※価格には、同梱パーツも含まれます。※改良のため、製品の仕様は予期なく変更する場合がありますのでご了承下さい。
●価格はメーカー希望小売価格 ●価格は参考価格です。●価格には保険料、税金（含む消費税）・登録などに伴う諸費用は含まれていません。●消費税は別途計算のうえ申し受けます。●詳しくは販売店にお問い合わせください。

バイクにフレンドシップ
見られるためのライトオン

●ヤマハモーターサイクルに関するお問い合わせは、下記のお客様相談室へ。
お客様相談室 0120-090-819
●カタログご希望の方は、機種名・雑誌名と住所・氏名・年令・職業を明記し、郵送料として郵便切手160円分を同封の上、下記へお申し込みください。
〒438-8501静岡県磐田市新貝2500 ヤマハ発動機株式会社広報室宣伝グループカタログ係宛

ヤマハは、いま、大人の週末バイクライフを応援しています。
週末はバイク人 vol.2

BIKE NATURALIST

バイクショップ ハヤシ MX
三重県度会郡二見町山田原17-2
TEL.05964-2-1683

㈱ナグ エス・イー・ディ RR
岐阜県各務原市大野町3-241
TEL.0583-83-7998

㈲ケー・レーシングクラブ MX
岐阜県高山市冬頭町415
TEL.0577-34-6303

関西地区

亀岡トライアルランド TR
京都府亀岡市本梅町西加舎大柳14
TEL.0771-26-3377

モトハウス ポジションワン MX
京都府亀岡市中矢田町サイの溝1-34
TEL.0771-25-1600

YSP嵯峨野 RR
京都府京都市右京区嵯峨広沢南野町63-1
TEL.075-822-1313

㈲トムス TR
京都府京都市北区小山南大野町3-5
TEL.075-415-1700

㈱カスノモーターサイクル RR・MX
京都府京都市伏見区下鳥羽円面田町95
TEL.075-622-0225

まつもとモータース TR
京都府京都市伏見区納所岸ノ下24-8
TEL.075-631-7144

㈱レオ タニモト西院店 MX
京都府京都市右京区西院西今田町13-2
TEL.075-314-0051

オートショップ小西 MX
京都府宇治市木幡正中55-2
TEL.0774-32-2619

バイクハウス ファースト MX
京都府宇治市宇治樋ノ尻104-1
TEL.0774-24-5810

㈲YSP長岡 MX
京都府長岡京市今里北ノ町1-12
TEL.075-954-0389

バイク工房 岩城 RR
京都府京都市下京区中堂寺櫛笥町18-11
TEL.075-822-0840

MOTOCROSS SPORTS SAISEI MX
京都府京都市南区久世東土川町169
TEL.075-921-5569

YSP南京都 RR
京都府綴喜郡田辺町草内大切41
TEL.0774-62-5819

㈲ナカキ ホンダ MX
滋賀県近江八幡市上田町分木277-1
TEL.0748-37-7111

㈲高田モータース TR
滋賀県八日市市栄町7-21
TEL.0748-22-0767

㈲溝口オート商会 MX
滋賀県彦根市芹町3-6
TEL.0749-22-2126

クボヤマ オートバイ RR・MX
大阪府豊中市永楽荘3丁目10-1
TEL.06-843-6615

スポーツショップ豊中 MX
大阪府豊中市長興寺南4丁目3-23
TEL.06-862-3877

YOU SHOP御殿山 RR
大阪府枚方市磯島北町38-6
TEL.0720-40-1617

YSP大阪北 RR・MX
大阪府寝屋川市初町2-8
TEL.0720-24-6560

YSP茨木 MX
大阪府茨木市西駅前町13-19
TEL.0726-25-8989

RSタイチ RR・MX・TR
大阪府大東市中垣内3丁目1-25
TEL.0720-74-5315

YSP大阪東 RR・MX
大阪府八尾市北木の本1丁目1-32
TEL.0729-93-7766

YOU SHOPエル MX
大阪府高石市取石3丁目6-40
TEL.0722-74-3830

YOU SHOPクボ MX
大阪府堺市日置荘原寺町443-1
TEL.0722-87-5378

YOU SHOP R's products MX
大阪府泉南郡岬町淡輪4669-1
TEL.0724-94-0247

YOU SHOP RLミタニ RR
大阪府大阪市東淀川区下新庄5丁目21-4
TEL.06-6322-6323

YSP大阪鶴見 MX
大阪府大阪市鶴見区今津中1丁目4-30
TEL.06-6961-2561

YOU SHOPエビハラ MX
大阪府東大阪市池島町3丁目2-44
TEL.0729-82-1767

バイクプラザ 光 MX
大阪府東大阪市横小路町6丁目5-9
TEL.0729-86-1217

クレイジーモーターワークス ムカイ RR・MX
奈良県奈良市南京終町35-5
TEL.0742-24-4411

YSP飛鳥 RR・MX
奈良県桜井市橋本268-13
TEL.0744-43-0201

オートショップ イナムラ MX
奈良県大和郡山市小林町110
TEL.0743-56-5749

YOU SHOP TAKAI RR・MX
奈良県香芝市下田西1丁目6-5
TEL.0745-79-0066

YOU SHOP MOTO 1 MX・TR
和歌山県橋本市東家3丁目4-9
TEL.0736-34-1035

モトスポーツ マルタ RR
和歌山県橋本市東家5丁目3-11
TEL.0736-34-1873

YSP和歌山 RR・MX・TR
和歌山県和歌山市手平1丁目5
TEL.0734-26-0750

YSP神戸灘 RR・MX
兵庫県神戸市灘区友田町3丁目5-12
TEL.078-843-2747

YSP西神戸 RR・MX
兵庫県神戸市西区伊川谷有瀬717-2
TEL.078-974-9351

YOU SHOPバートII RR
兵庫県神戸市中央区吾妻通2丁目1-24
TEL.078-251-2080

イシイ MTC RR
兵庫県西宮市上ケ原6番町2-45
TEL.0798-52-2094

YSP甲子園 RR・MX
兵庫県西宮市大屋町2-1-101
TEL.0798-22-1102

MOTO SHOP ハシモト RR・MX・TR
兵庫県尼崎市次屋1丁目16-11
TEL.06-498-1201

㈱イタミ カワサキ MX
兵庫県伊丹市荒牧丸ノ坪1-1
TEL.0727-77-0018

オートスポーツ加古川 TR
兵庫県加古川市神野町石守1440
TEL.0794-26-5060

YSP姫路 RR・MX
兵庫県姫路市北今宿1丁目2-12
TEL.0792-93-8498

中国地区

YSP岡山北 RR・MX
岡山県岡山市大和町1丁目6-12
TEL.086-225-2234

YSP岡山南 RR・MX
岡山県岡山市青江937-9
TEL.086-225-0769

㈱梅木商会 TR
岡山県岡山市東中央町12-3
TEL.086-231-5031

YOU SHOP RSクラシキ MX
岡山県倉敷市中庄2290-10
TEL.086-462-8435

オートショップ カメイ RR・MX・TR
岡山県倉敷市児島塩生690-1
TEL.086-475-1144

倉敷2&4レーシング RR
岡山県倉敷市水島東川町7-28
TEL.086-447-0107

YOU SHOP津山 RR
岡山県津山市北園町37
TEL.0868-31-1888

スペシャルパーツ忠男 広島 RR・MX
広島県広島市中区昭和町11-14
TEL.082-241-1550

YSP広島南 RR
広島県広島市南区出汐2丁目2-24
TEL.082-251-3686

YSP五日市 RR・MX
広島県広島市佐伯区千同2-1-7
TEL.082-923-2023

YSP呉 MX
広島県呉市中央6丁目11-15
TEL.0823-21-8198

RSキノシタ MX
広島県呉市宮原2丁目5-17
TEL.0823-25-4824

YOU SHOP ASO RR・MX
広島県福山市松永町長和島1484-4
TEL.0849-34-3984

三和輪業販 RSS-SHOWA RR・MX・TR
山口県下関市小月駅前1丁目7-35
TEL.0832-82-0192

泉商会 TR
山口県柳井市大字伊保庄2554-1
TEL.0820-27-0076

YSP徳山 RR・TR
山口県徳山市桜木3丁目1-26
TEL.0834-26-0122

YSP宇部 RR・TR
山口県宇部市則貞1丁目3-36
TEL.0836-31-6476

バイク・サン MX
山口県防府市大字新田511-1
TEL.0835-21-8193

ライダーズスポット ムラタ MX・TR
鳥取県鳥取市湖山町北2丁目126
TEL.0857-28-5334

㈲ワープ・田中オート MX
島根県安来市飯島町293-4
TEL.0854-22-1107

四国地区

YSP香川 RR・MX
香川県高松市木太町2343-6
TEL.0878-33-9625

YSP五色台 RR・MX
香川県高松市香西北町430-1
TEL.0878-81-5000

㈱セントラルオート そごう RR・MX
香川県高松市高松町3006-18
TEL.0878-43-5566

㈲ON&OFF高松 MX
香川県高松市亀岡町201-2
TEL.0878-47-3715

大林モータース MX
香川県綾歌郡飯山町下法軍寺638-2
TEL.0877-98-2067

バイクショップ のざき MX・TR
香川県大川郡志度町浜海端り1370-11
TEL.0878-94-1903

YSP徳島西 MX
徳島県徳島市庄町1丁目19
TEL.0886-32-0187

㈲YSP徳島中央 RR・MX
徳島県徳島市助任本町4丁目19-4
TEL.0886-53-0262

YOU SHOPマツモト TR
徳島県徳島市八万町川南57-4
TEL.0886-68-5898

YOU SHOP二輪館 MX
徳島県徳島市佐古5番町8-9
TEL.0886-54-1003

ワークショップM2 MX
徳島県板野郡藍住町矢上字江ノ口86-6
TEL.0886-92-0395

YOU SHOP風倶楽部 MX・TR
高知県高知市朝倉甲62-6
TEL.0888-40-1542

エム・ファクトリー MX
高知県高知市中久万554
TEL.0888-71-7058

YSP松山南 RR・MX
愛媛県松山市朝生田町6丁目3-26
TEL.089-932-7611

YSP松山東 MX
愛媛県松山市来住町1240-20
TEL.089-976-3577

YSP愛媛 RR
愛媛県松山市山越1丁目1-47
TEL.089-925-0074

㈲小野商会 RR
愛媛県新居浜市桜木町3-40
TEL.0897-37-0624

九州地区

YSP福岡東 RR
福岡県福岡市東区唐ノ原3丁目12-24
TEL.092-672-5223

YSP友泉 MX
福岡県福岡市城南区長尾2丁目7-12
TEL.092-521-3330

YSP博多 RR・MX
福岡県福岡市博多区半道橋2丁目2-76
TEL.092-474-2369

モーターランド フジモト RR
福岡県福岡市博多区東那珂2丁目7-27
TEL.092-411-0784

㈲ビッグアンドスモール MX
福岡県福岡市早良区小田部2-15-22
TEL.092-822-2500

グランドオート ヨシムラ RR
福岡県春日市白水池ノ内150-1
TEL.092-591-2155

アウト・オブ・ファクトリー MX・TR
福岡県春日市宝町4丁目1 ラインビル西村1F
TEL.092-585-1121

ライダースショップWIN RR
福岡県甘木市甘木2193-1
TEL.0946-23-0819

YSP南くるめ MX
福岡県久留米市野中町1168-1
TEL.0942-33-9688

YOU SHOP SAKO RR・MX
福岡県久留米市荒木町荒木1325
TEL.0942-27-3398

YSP筑後 MX
福岡県八女市大字吉田799-1
TEL.0943-22-5089

モト・ボーイ MX
福岡県大牟田市日ノ出町3丁目2-1
TEL.0944-57-7781

RSSレイラスポーツ RR
福岡県北九州市小倉北区黒原3丁目20-9
TEL.093-951-6672

YSP大分中央 MX
大分県大分市北下郡11-3
TEL.0975-69-8700

㈲小川コンペティション RR・MX
大分県大分市高松東1丁目1-40
TEL.0975-51-0611

ツチヤオート MX
大分県大分市生石1丁目3-17
TEL.0975-32-5087

YSP南大分 MX
大分県大分市賀来新川6組
TEL.0975-49-3650

YOU SHOP松田 MX
大分県大分市城原2676-4
TEL.0975-92-0071

㈲レーシングショップカツキ RR
大分県宇佐市大字山下1136-1
TEL.0978-33-3663

YSP佐賀 RR・MX
佐賀県佐賀市末広1丁目3-14
TEL.0952-23-4057

ライティングスポット タテシマ RR
熊本県熊本市小山町453-2
TEL.096-380-8313

アバンテージュ MX
熊本県熊本市月出5丁目5-182
TEL.096-385-8475

YSP熊本東 MX
熊本県熊本市錦ケ丘18-15
TEL.096-368-1233

ミスター・バイク・ヤマベ RR
熊本県熊本市近見町1218-2
TEL.096-325-0503

YSP延岡 RR
宮崎県延岡市旭ケ丘6丁目1-1
TEL.0982-37-5162

YSP平和台 RR・MX・TR
宮崎県宮崎市船塚2丁目168-1
TEL.0985-22-8198

バイクショップ つねよし MX
宮崎県宮崎市恒久2丁目19-3
TEL.0985-54-0463

モトスポーツ ゲン RR
宮崎県都城市大王町43-2
TEL.0986-25-0322

オートハウス アツ RR・MX
長崎県長崎市千歳町21-16
TEL.095-848-5266

ライダースショップ テイスティ MX
長崎県長崎市矢上町690-1
TEL.095-839-9659

バイクショップHŌZŌZI TR
長崎県西彼杵郡琴海町西海郷1714-1
TEL.095-884-1805

佐世保レーシングプロジェクト RR・MX
長崎県佐世保市指方町590-2
TEL.0956-58-6807

モトファッション元気 MX
沖縄県宜野湾市我如古1丁目7-6
TEL.098-898-1424

YOU SHOPくえすと MX
沖縄県宜野湾市野嵩2-29-8
TEL.098-893-4889

YSP那覇 MX
沖縄県那覇市久茂地2-23-18
TEL.098-863-8711

YSP那覇南 MX
沖縄県那覇市古波蔵129-1
TEL.098-853-2062

YSP首里 MX
沖縄県那覇市首里平良町1-16
TEL.098-884-7088

アクティブ・オート MX
沖縄県石垣市字新川353-1
TEL.09808-3-7028

グリット MX
沖縄県浦添市大平1-2-1
TEL.098-878-9628

YOU SHOP金城オート MX
沖縄県沖縄市字知花618-1
TEL.098-938-5215

照屋モータース MX
沖縄県島尻郡南風原町字兼城125
TEL.098-889-0215

※各ショップの取り扱い区分を、RR（ロードレース）、MX（モトクロス）、TR（トライアル）、の記号でショップ名の右側に表示してあります。

●YZ400F/WR400Fは、運輸省の認定を受けていませんので、ナンバープレートを取得することはできません。
●YZ400F/WR400Fは、道路を走行しますと、道路交通法及び道路運送車両法の違反となります。
●私道、社寺の境内、公園、海辺、堤防上、農道、林道など、いわゆる道路の形態を整えていないところでも人や車が自由に出入りできるところは、道路とみなされます。走行場所には十分注意してください。

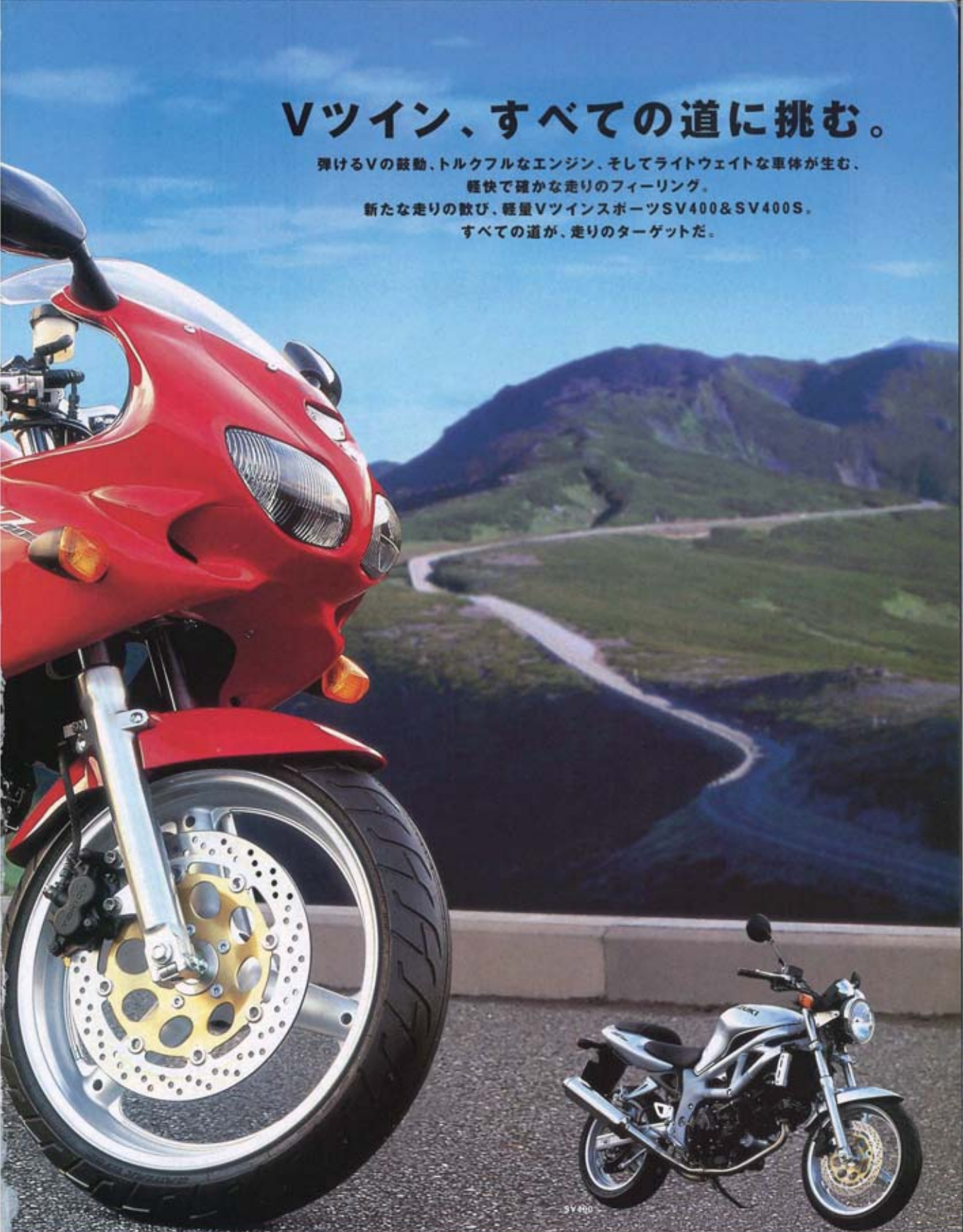
インターネットホームページ
http://www.yamaha-motor.co.jp/

YAMAHA
ヤマハ発動機販売株式会社

SUZUKI
Power to the Future
SV400S
SV400 400
SV400 S／SV400 ●エンジン型式：K508・水冷・4サイクル・90°V型2気筒●総排気量：398cc●最高出力：53ps／10,500rpm●最大トルク：4.2kg-m／8,000rpm●始動方式：セルフ式
●乾燥重量：163kg（SV400S）／159kg（SV400）●燃料タンク容量：16ℓ
バイクにフレンドシップ
見られるためのライトオン
全国のバイク・ファンとクラブ/サークルのネットワーク［モトサピ］
NMCA
日本二輪車協会
moto SAPIENS
TEL.03-3440-8619
ホームページ
http://www.twics.com/~nmca
音声ファックスNo.
03-3440-6135
4.9%
ウェルカム
クレジット

Vツイン、すべての道に挑む。

弾けるVの鼓動、トルクフルなエンジン、そしてライトウェイトな車体が生む、
軽快で確かな走りのフィーリング。
新たな走りの歓び、軽量Vツインスポーツ SV400&SV400S。
すべての道が、走りのターゲットだ。



SV400

●メーカー希望小売価格：SV400S／¥646,800 SV400／¥599,000（北海道・東北・沖縄及び一部地域を除く）※価格には、保険料・税金（消費税を含む）・登録などに伴う諸費用は含まれておりません。※消費税は別途計算の上、申し受けます。価格は全て参考価格です。詳しくは販売店にお問い合わせください。カタログご希望の方は、機種名・雑誌名と住所・氏名・年齢・職業を明記し、切手160円分（送料）を同封のうえ、右記までお申込み下さい。〒432－8611浜松市高塚町300スズキ（株）二輪カタログ発送センターSV400係まで。

インターネットでスズキの二輪情報がご覧いただけます http://www.sbi.co.jp/suzuki/

SV400/400S サウンド体感フェア開催！ 相局進呈！

※スタッフ一同ご来場をお待ちしております。

SUZUKI

独創の半世紀。

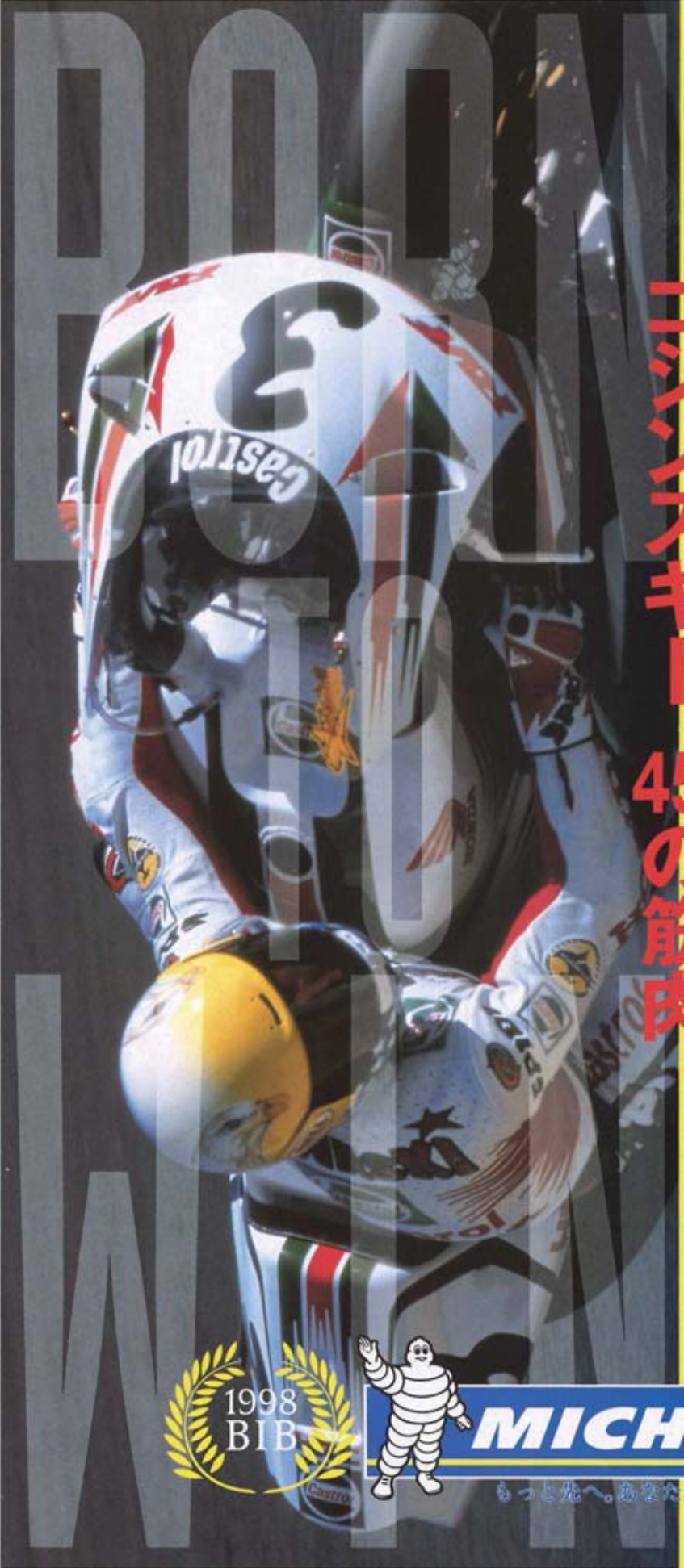
1/2世紀と1年。クシタニは今年創業半世紀を迎えた。
それは、クシタニの独創的で先進的なハイクオリティ製品の
歴史であり、高性能/安全性/快適性を追求していった
モーターサイクルの進化と共に歩んだ歴史でもある。

例えば、サーキットを駆けるレーシングスーツ。
より速いマシンを乗りこなすためには、より強靭な武装服が不可欠となる。
クシタニの革ツナギは、創業当時から他社を圧倒する高い安全性と
動きやすさで、一線で活躍する世界のGPライダーたちに支持されていた。
数え切れないほどのライダーを表彰台へと導き、
さらなる速さのために貢献し続けているのである。

実戦プロライダーからストリートライダーまで。
常に時代のニーズに応えた、独創テクノロジーの数々…。
その企画・開発ストーリーにピリオドはない。
クシタニは、次の世紀に向けて、全速力で邁進中である。

KUSHITANI
HAMAMATSU

安全の世界を創造します。
株式会社クシタニ
静岡県浜松市三島町231-1430-0853
TEL 053(441)2251



コシンスキー、45°の筋肉。

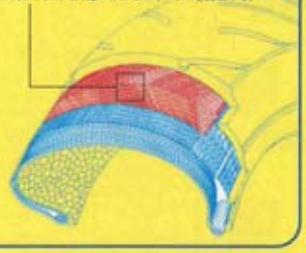
John Kochinski

1968年生まれ。アメリカ出身。
AMAで活躍の後、'87年全日本選手権にスポット参戦。
'90年にはWGP250ccクラスにフル・エントリー。
いきなりチャンピオンの座を獲得。
"天才児"ぶりをアピールした。
'97年スーパーバイク世界選手権の覇者。

彼の圧倒的な勝利を支えた、
ミシュラン・レーシングスリック。
その独創的な「45°クロスプライベルト構造」を、
そのまま日本のSPレース用に投入したのが
ミシュランTX15/25 RACE3。
ライバルが嫉妬するほどの
ラップタイムをたたき出す。

45° Cross-ply Belt

従来のラジアルカーカスとボジョイントレスベルトの上に巻いた、2枚の「45°クロスプライベルト」。この新構造によって横方剛性が格段に向上、旋回性、コーナリング中のグリップ力がアップ、より速いアクセルオープンを約束する。



HI-SPORT radial
TX15/25
RACE3

1998 BIB

MICHELIN

もっと先へ。あなたとともに。

http://www.michelin.co.jp/

SIGNAL FLAGS
公式シグナル(シグナル旗およびシグナル)

旗の種類		旗の意味 ロードレース	旗の意味 モトクロス
国旗		レーススタート（通常シグナルで示す）	レーススタート（スターティングマシンで行なう場合もある）
黄旗	静止	危険予告・追い越し禁止	危険予告・減速
	振動	コース上（ランオフエリア含む）に危険がある。減速・停止準備・追い越し禁止	危険予告・徐行・停止準備・安全確認・追い越し禁止
白旗	静止	この先に介入車両がある。（追い越し禁止）	
	振動	ひとつ先のポストまでの間に介入車両がある。(追い越し禁止)	
赤ストライプ付黄旗		コース表面が滑りやすい状態	
緑旗		先に出した合図の解除（コースクリアー）	
赤旗		レースまたはプラクティスが中断され、すべてのライダーは最大限の慎重さと注意を持ってそれぞれのピットに戻る。サーキットを閉鎖する場合にも用いる。	全ライダー停止
黒旗＋黒地に白文字のサインボード I		速やかにピットインしオフィシャルの指示に従う。(オイル漏れ等の場合は速やかに安全な場所に停止する)	サインボードで示された番号の競技車両は速やかにピットインする。
黒旗＋黒地に白文字の付されたサインボード PI		サインボードで示された番号の競技車両は、速やかにピットインし一旦停止のペナルティを受ける。	
オレンジボール／黒地にオレンジの円(直径40cm)の旗 3		提示されたゼッケンナンバーのライダーに対して彼のマシンが、彼もしくは他のライダーに危険をおよぼすような問題に見舞われており、早急にコース上から退去しなければならない事を知らせるものである。	
青旗	静止	追い越しシグナル。1台またはそれ以上のスピードの速いマシンが追い越そうとしている。	
	振動	追い越される直前	警告、ラップされようとしている。
チェッカー旗		レース終了	レース終了
青旗＋チェッカー		・トップライダーはゴール ・トップライダーの直前を走るライダーはゴールではない。	

レースナンバープレート
(ナンバープレート色見本)

ロードレース
タテ235×ヨコ285mm

12 GP125	34 GP250	56 SP
78 SB耐久	90 SB	19 ストックバイク

注：タテ×ヨコの数字はナンバープレートの寸法。
数字の書体は、FIMの指定に基づくMFJの正規のものである。

モトクロス
タテ235×ヨコ285mm

12 ジュニア	34 国内B級	56 国内A級
78 国際A級 (125cc)	90 国際A級 (250cc)	21 国際B級

※モトクロス国際A級の前年度チャンピオン(125,250)は赤地に白文字の"チャンピオンゼッケン"となる。

トライアル
タテ150以上×ヨコ175mm以上

31 ジュニア	41 国内B級	53 国内A級
64 T.NIPPON 国際B級	75 T.NIPPON 国際A級	8 T.NIPPON 国際A級スーパークラス

ヘルメットのMFJ公認マーク

ロードレース・モトクロス特選　ロードレース用・モトクロス用　トライアル用・ツーリング用

※MFJ公認ヘルメットでMFJ公認マークが貼付されていないヘルメットは、特別検査料(1,000円)を支払い、特別検査を受けなければならない。

レーシングスーツのMFJ公認マーク

MFJ STANDARD

※使用するレーシングスーツには、MFJ公認マークが付いていなければならない。

MFJ
国内競技規則書
1999年度版

CONTENTS

信号旗／レースナンバープレート・ライセンス識別カラー ……22
MFJ国内競技規則 ……23

ROADRACE

細則1　ロードレース競技細則 ……48
細則2　'99全日本選手権大会特別規則 ……63
細則3　'99エリア選手権大会特別規則 ……70

MOTOCROSS

細則4　モトクロス競技細則 ……88
細則5　'99全日本選手権大会特別規則 ……95

TRIAL

細則6　トライアル競技細則 ……106
細則7　'99全日本選手権大会特別規則 ……115

DRAGRACE

細則8　ドラッグレース競技細則 ……122
細則9　'99全日本選手権大会特別規則 ……130

TECHNICAL RULES

MFJ技術規則 ……142
基本仕様〈ロードレース〉 ……147
基本仕様〈モトクロス〉 ……156
基本仕様〈トライアル〉 ……161
SPクラスの仕様 ……166
耐久レースの追加仕様 ……172
国内GPクラスの仕様 ……174
国内モトクロスの仕様 ……178
国内トライアルの仕様 ……182
全日本・エリア選手権ロードレース技術仕様 ……184
FIM技術仕様〈モトクロス・トライアル〉 ……199
ドラッグレースの仕様 ……201
ロードレースジュニアクラスの仕様 ……209
ミニバイクの仕様 ……213
ストックバイククラスの仕様 ……216

SUPPLEMENT

細則10　MFJライセンス昇格・降格に関する規則 ……226
細則11　MFJ公認クラブ等の名称に関する規程 ……233
共済会制度 ……235
MFJ公認車両・部品・用品 ……236
全国公認サーキット ……253
歴代チャンピオンリスト ……256
ピットクルーに関する指導要項 ……260

1999年1月1日発行
ライディング臨時増刊・通巻353号
財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会
〒104-0045 東京都中央区築地2-11-24 第29興和ビル別館7F ☎03(5565)0900 FAX03(5565)0907
■発行所：財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会
■編集：亜玄㈱ライディング編集部　■印刷：河和田屋印刷㈱

この国内競技規則書は、日本小型自動車振興会からオートレースの公益資金の補助を受けて作成されたものです。

1999 MFJ国内競技規則

▼第1章　総　則
1．モーターサイクルスポーツの国内的統括……25
2．公認競技会、承認競技会の格式および種目……25
3．大会特別規則ならびに公式通知……26

▼第2章　競技ライセンス
4．競技ライセンスとその種目……27
5．競技ライセンスの取得資格……28
6．競技ライセンスの有効期間……30
7．競技ライセンスの効力の失効等……30
8．競技ライセンス資格の昇格および降格……30

▼第3章　競技会
9．競技参加者……31
10．競技参加者の遵守事項……31
11．ライダーの装備(MFJ公認ヘルメット及びレーシングスーツ)…32
12．出場車両……33
13．MFJ公認車両および公認部品・用品……33
14．燃料およびオイル……33
15．競技出場の申し込み……33
16．出場料および共済会掛金(保険料)……34
17．ライダーおよび車両の変更……34
18．車両検査……34
19．競　技……34
20．優勝者等の決定……35
21．入　賞……35
22．入賞者の車両検査……35
23．競技結果および記録の公表……35
24．公式得点（ポイント）……35
25．競技会の延期および中止等……36
26．損害に対する責任……37
27．抗　議……37
28．控訴権……38
29．違反行為に対する罰則……38
30．大会審査委員会の権限……38

本国内競技規則は、国際モーターサイクリスト連盟（Fédération Internationale Motocycliste：略称FIM)の国際スポーツ憲章、FIM競技規則に基づいて作成され、日本国内のモーターサイクル・スポーツ規則の一部として発行する。本国内競技規則は、総則と細則に大別され、競技種目によって内容に差異のある事項は細則に示される。

第1章 総則

1 モーターサイクルスポーツの国内的統括

1）この規則は、わが国のモーターサイクルスポーツの国内管理並びにこれの普及振興、競技の安全、公正および秩序を保持することを目的とする。

2）財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会（以下「MFJ」という）は、国際モーターサイクリスト連盟（Fédération Internationale Motocycliste以下「FIM」という）の日本における代表機関として、国際スポーツ憲章、FIM競技規則に準拠してこの規則を制定する。

3）モーターサイクルスポーツに参画するすべての者は、スポーツマンとしての誇りを堅持し、本国内競技規則ならびに特別規則等を遵守する等、善良なる市民でなければならない。

4）この規則は、MFJの主催またはMFJの公認する競技会に適用され、各競技種目の細部については、別に定めるそれぞれの細則による。また公認競技会以外の競技会（以下「承認競技会」という）についても準用される。

5）個々の競技会における判定および競技規約全般の解釈は、本規則に基づいて当該大会審査委員会が行い、これを最終的なものとする。

また競技会において疑義が生じた場合、本規則に規定されていない事項はFIM国際スポーツ憲章、FIM競技規則およびその趣旨により判定する。

2 公認競技会、承認競技会の格式および種目

1）公認競技会の格式

(1) 国内格式競技会

国内格式競技会は、MFJライセンス所持者のみが参加することができ、この競技会運営にはMFJ国内競技規則が適用される。

(2) 国際格式競技会

国際格式競技会は、各国モーターサイクル協会（以下「FMN」という）が発行するFIMインターナショナルライセンスを所持するFMNライダーが参加することができ、この競技会にはFIM競技規則が適用される。

2）格式の内訳およびその優先順位は、下記のとおりとする。

公認競技会			
優先順位	国際格式	優先順位	国内格式
1	世界選手権競技会（FIMカップ含む）	6	全日本選手権競技会
2	国際選手権競技会（アジア選手権含む）	7	特別競技会
3	日本（MFJ）グランプリ	8	エリア選手権競技会
4	全日本選手権（インターナショナル）	9	地方選手権競技会
5	国際競技会	10	県選手権競技会
		11	その他公認競技会
		12	承認競技会

3）公認競技会の種目

公認競技会の種目は次のとおりとする。

(1) ロードレース　(5) ドラッグレース
(2) モトクロス　(6) エンデューロ
(3) トライアル　(7) その他MFJ中央スポーツ委員会で認める競技
(4) スノーモビル

4）承認競技会の種目は、競技会の格式が銘柄競技会およびそれ以外の競技会で次のとおりとする。

(1) ロードレース　(5) エンデューロ
(2) モトクロス　(6) ミニバイクレース
(3) トライアル　(7) その他MFJ中央スポーツ委員会で認める競技
(4) スノーモビル

3 大会特別規則ならびに公式通知

1）競技会は、本規則および各種目別細則に基づいて行われるほか、競技会の運営、競技の細部および指示は、大会ごとの特別規則、公示または公式通知によって行われる。

2）大会特別規則および公式通知は、競技会主催者（以下「主催者」という）が制定または発行する。

(1) 大会特別規則には次の各項が示される。

① 競技会の名称・格式
② 競技会の組織
③ 主催者の名称、所在地および連絡先
④ 開催日時・場所
⑤ 競技の種目および内容
⑥ 参加資格
⑦ 出場申し込み受付け場所
⑧ 出場申し込み期間
⑨ 出場料と共済会掛金
⑩ 出走者の定員
⑪ 賞およびその詳細
⑫ その他

3）大会特別規則に規定し得なかった競技会運営の細部にわたる規則および大会特別規則発表後に生じた問題を処理するため、主催者は参加者に対し、公式通知をもって指示することができる。

ただし、その内容は大会特別規則およびMFJ国内競技規則に反するものであってはならない。

第2章 ライセンス

4 競技ライセンスとその種目

1）ライセンスには、競技ライセンス、Lライセンスおよびビットクルーライセンスとがあり、競技ライセンスは公認競技会に、Lライセンスは承認競技会に参加するために必要な証書である。

2）競技ライセンスの種目と競技会の参加区分は、次のとおりとする。

●競技ライセンス別の種目

ロードレース	
クラス	国　際
	国　内
	フレッシュマン
	ジュニア

モトクロス／トライアル	
クラス	国際A級
	国際B級
	国内A級
	国内B級
	ジュニア
	PC（モトクロスのみ）

スノーモビル	
クラス	A級
	B級
	ジュニア

ドラッグレース	
クラス	A級
	B級

●競技ライセンス別の参加できる競技会

参加できる種目 ＼ 取得しているライセンス		競技ライセンス						
		ロードレースライセンス	モトクロスライセンス	トライアルライセンス	スノーモビルライセンス	ドラッグレースライセンス	エンデューロライセンス	Lライセンス
公認競技会	ロードレース	○	—	—	—	—	—	—
	モトクロス	—	○	—	—	—	—	—
	トライアル	—	—	○	—	—	—	—
	スノーモビル	—	—	—	○	—	—	—
	ドラッグレース	—	—	—	—	○	—	—
	エンデューロ	—	—	—	—	—	○	—
承認競技会	ロードレース	○	—	—	—	—	—	—
	モトクロス	○	○	○	○	○	○	○
	トライアル	○	○	○	○	○	○	○
	エンデューロ	○	○	○	○	○	○	○
	ミニバイク	○	○	○	○	○	○	○
	スノーモビル	○	○	○	○	○	○	○
	その他MFJスポーツ委員会の認める競技会	○	○	○	○	○	○	○

※運転免許を受けているビットクルーライセンス（ライセンスにAと表記されているもの）所持者に限り、ライダーとして承認競技会に参加できる（Lライセンスと同じ）

'99ロードレースライセンス区分

ライセンス区分		参加可能格式
国際ライセンス（インターナショナル）		世界選手権（参加資格は別途定める） 国際選手権（参加資格は別途定める） 国内で行われるインターナショナル競技会 全日本選手権（参加資格は別途定める） エリア選手権 その他承認・公認競技会
国内ライセンス（ナショナル）		エリア選手権／地方選手権 地方大会／その他承認・公認競技会
	フレッシュマン	地方選手権／地方大会
	ジュニア	その他承認・公認競技会

3）FIMライセンス（MFJを経由して取得）

国内・国外における世界選手権競技会、国際競技会に参加することのできるライセンスの区分は、次のとおりである。

種目	競技会	必要なライセンス		申請資格
		シリーズ参加の場合	1大会のみ参加（国外でも使用可）	
ロードレース	世界選手権GP（グランプリ）	世界選手権GP用年間ライセンス	世界選手権GP用1大会ライセンス	ロードレース国際ライセンス所持者 最低年齢 ・125cc＝15歳 ・250cc＝16歳 ・スーパーバイク、その他＝18歳
	スーパーバイク世界選手権	SB世界選手権用年間ライセンス	SB世界選手権用1大会ライセンス	
	世界耐久選手権	世界耐久選手権用年間ライセンス	世界耐久選手権用1大会ライセンス	
	その他の国際競技会	FIMインターナショナルライセンス年間用	FIMインターナショナルライセンス1大会用	
モトクロス	世界選手権GP（グランプリ）及びスーパークロス	世界選手権GP及びスーパークロス用年間ライセンス	世界選手権GP及びスーパークロス用1大会ライセンス	モトクロス国際A級ライセンス所持者最低年齢 1世界選手権用 ①125cc＝15歳 ②250cc＝16歳 ③その他＝18歳 2その他の国際競技会用 125cc、250cc＝14歳
	その他の国際競技会	FIMインターナショナルライセンス年間用	FIMインターナショナルライセンス1大会用	
トライアル	世界選手権	世界選手権用年間ライセンス	世界選手権用1大会ライセンス	トライアル国際A級ライセンス所持者 運転免許証を受けていること
	その他の国際競技会	FIMインターナショナル年間用	FIMインターナショナルライセンス1大会用	
エンデューロ	ISDE等	ISDE用ライセンス		MFJモトクロスライセンス所持者でスポーツ委員会にて実績を認められた者
ラリーレイド	ラリーレイド	ラリーライセンス		

海外での競技会への参加に関しては、事前にMFJに報告し、許可を得なければならない。（相手国協会に対しMFJより出場許可を文書で発行する）

5 競技ライセンスの取得資格

競技ライセンス取得申請を行う者は、次の要件を満たしていなければならない。

1）日本にスポーツ国籍を有すること。

2）日本にスポーツ国籍を有しない者は、日本国内に3ヶ月以上継続的に居住した期間を公的に証明できる書類を提出でき、かつ当人が所属する国のFMNの承諾書を受けていること。ただし、当人が所属する国のFMNからライセンスの発給を受けており、かつFMNからの移籍許可を得、MFJ中央スポーツ委員会が認めた場合は、3ヶ月の居住証明は不要とする。

MFJから他国協会（FMN）にスポーツ国籍を移籍した者は、当該年度内はMFJライセンスの再取得はできない。

3）過去6ヶ月以内に重大な刑法上の犯罪により処罰された者でないこと。

4）種目による条件

(1) モトクロス、トライアル、スノーモビル、エンデューロ、Lライセンス

① 運転免許（小型特殊免許を除く・以下同じ）を受けていること。

② 運転免許を受けていない者はMFJの公認する競技ライセンス講習会の修了証（発行後6ヶ月以内のものに限る・以下同じ）を受けていること。

③ 運転免許を受けることのできる身体的要件を備えていること。

(2) ロードレース

① 国内ライセンス

下記いずれかの要件を満たしていること。

ⓐ MFJの公認するロードレース国内ライセンス講習会の修了証を受けていること。

有効期間：受講日より6ヶ月

ⓑ MFJ国内公認以上のサーキットにおける3時間以上の走行証明書を受けていること（走行券や走行カードは不可）。

準国内公認サーキットにおける走行の場合は上記に加えて当該サーキットと所属ブロック支部の推薦を必要とする。

有効期間：発行日より1年間

ⓒ フレッシュマンライセンスにて、公認・承認ロードレース大会に2回以上出走の実績があること。

準国内公認サーキットにおけるレースの場合は上記に加えて当該サーキットと所属ブロック支部の推薦を必要とする。

有効期間：前々年度（'97年1月1日以降）の大会より。

ⓓ フレッシュマンライセンスにて、MFJ国内公認サーキット以上の施設で開催された公認・承認ロードレース大会にて下記の成績を得たもの。

準国内公認サーキットにおけるレースの場合は下記に加えて当該サーキットと所属ブロック支部の推薦を必要とする。

・予選出走台数が20台以上のレースで10位以内に入賞。

・予選出走台数が10台以上のレースで6位以内に入賞。

有効期間：前々年度（'97年1月1日以降）の大会より。

② フレッシュマンライセンス

下記いずれかの要件を満たしていること。

ⓐ MFJ国内公認以上の格式のサーキットにてサーキットライセンス講習会の修了証を受けていること。

ⓑ MFJ準国内公認サーキットにてサーキットライセンス講習会の修了証を受けたものは上記に加えて当該サーキットと所属ブロック支部の推薦を必要とする。

ⓒ MFJの公認するフレッシュマンライセンス講習会を受講し修了証を得たもの。

ⓓ 満16歳以上で運転免許証を有しないものはMFJの公認するロードレースジュニアライセンス講習会を受講し修了証を受けていること。

③ ジュニアライセンス

満12歳以上16歳未満の者はMFJの公認するロードレースジュニアライセンス講習会を受講し修了証を受けていること。

(3) ドラッグレース

運転免許を受けており、下記要件を満たしていること。

MFJの公認するドラッグレース講習会を受講し修了証を受けていること。

(4) ピットクルー

16歳以上であること。

※本規則でいう「スポーツ国籍」とは競技参加者が最後にライセンスを交付されたFIM加盟の各国モーターサイクル協会「FMN」の国籍とする。
※ライセンス取得後の昇格については別に定めるMFJライセンス昇格・降格に関する規則による。(226頁参照)

6 競技ライセンスの有効期間

1．MFJの発行するライセンスの有効期間は、交付された日から当該ライセンスに表示された年の12月31日までとする。
2．MFJライセンスは未更新期間がある場合、ライセンス区分が降格したり、再度走行証明を取得する等の条件が付される場合がある。詳細については別に定めるMFJライセンス昇格・降格に関する規則による。(226頁参照)

7 競技ライセンスの効力の失効等

1）次の者のライセンスの効力は失効し、または停止される。
(1) 日本のスポーツ国籍を失った者。
(2) 運転免許の効力を失った者、または停止されている者。
(3) 氏名・年令等を偽り、不正にライセンスを受けた者。
(4) 前条の有効期限を経過し、継続申請をしなかった者。
(5) MFJ中央スポーツ委員会の裁定により、停止処分を受けた者（中央スポーツ委員会の定める期間）。

8 競技ライセンス資格の昇格および降格

1）競技ライセンスの昇格および降格については、別に定めるMFJライセンス昇格・降格に関する規則による（226頁参照）。

第3章 競技会

9 競技参加者

1）MFJの公認または承認する競技会に参加することのできる者は、次のとおりとする。

(1) ライダー

① 当該競技に必要なMFJ競技ライセンスを受け、参加申請した者（効力の停止中の者を除く）で当該競技に必要な身体的条件を備えていること。

② 当該競技の参加に必要な諸手続きを行なっている者。

③ 満20歳未満の者は、親権者の承諾書を提出した者。

④ 負傷しているライダーは、主催者の指定する医師の競技参加の承諾を得ているもの。

(2) ピットクルー

① 当該競技に必要なMFJピットクルーライセンスを受けて参加申請をした者。

② 当該競技の参加に必要な諸手続きを行なっている者。

(3) エントラント

ここで規定するエントラントとは下記の者で競技参加申請を行なった団体または個人を言う。

① MFJ公認クラブ(別に定める「MFJ公認クラブ等の名称に関する規程」(223頁参照)

② MFJライセンス取得者

③ MFJメーカーライセンスを所有している車両メーカー

④ MFJ賛助会員ライセンスを所有しているコンストラクター、部品関連メーカー

※ エントラント資格を有し、エントリー用紙により参加申請をすることによりMFJ国内競技規則に定められている抗議者の資格が得られる。

※ ロードレース全日本選手権に関しては、別途エントラントライセンス制度がある。

2）主催者および競技役員は、競技会当日随時ライセンスの提示を求めることにより、ライダーおよびピットクルーの資格要件を確かめることができ、もし本規則に違反している者に対しては、所定の罰則が適用される。

10 競技参加者の遵守事項

1）競技参加者は、次の事項を守らなければならない。

(1) 競技会中は、MFJ国内競技規則に従って行動し、すべての行動に対して責任を持たなければならない。

(2) 国内競技規則および競技管理上のあらゆる規定および競技役員の指示に従い、かつレース場以外では交通規則を守らなければならない。

(3) 常にスポーツマンとしての態度を保ち、下品でいやしい言葉や言動は厳に慎まなければ

ならない。

(4) 競技に関する業務についているときおよびライダーは、アルコール類あるいは薬品（興奮剤、麻薬等）によって精神状態をつくろってはならない。

(5) 競技会中は、有効なライセンスを必ず携帯していなければならない。

(6) 競技会に参加することが認められた者が出場しない場合（競技現場での不参加を含む）は、正当な理由をもって、その旨主催者に通告しなければならない。この通知を怠るか、または欠場の理由が正当でない場合、主催者は速やかにMFJ中央スポーツ委員会に報告し、ペナルティを求めることができる。

(7) ライダーまたはエントラントが集団で競技または予選を欠場した場合、または、そのような働きかけをした場合、主催者は速やかにMFJ中央スポーツ委員会に報告し、ペナルティを求めることができる。

2）特にライダーは、上記のほか次の事項を守らなければならない。

(1) 必要以上にハンドルから手を離したり、足をフットレストから離し、または外につき出したりするような危険な姿勢をとってはならない。

(2) 他のライダーの走行を妨害するような走りかたをしてはならない。

(3) 競技中（公式練習も含む）は、他人の迷惑、または危険を伴うような行為をしてはならない。

(4) 車両は、それ自体が持つ動力およびライダーの筋力、または重力などの自然現象以外の方法で、走ったり、加速したりしてはならない。

(5) 他の者の援助を一切受けてはならない。

他の者による援助とは、そのレースに参加しているライダー、決められた位置についている担当のメカニックおよび業務執行中の競技役員以外の者が車両に触れることをいう。

なお、援助に関する細部については、別に定める競技種目別細則による。

(6) 競技中の車両には、いかなる者も同乗させてはならない。

(7) ライダーは、コース（ラン・オフ・エリアを含む）にある間は、MFJが公認したヘルメットを装着しなければならない。

(8) 競技監督が必要と認めた場合、ライダーに対し医師団長もしくは指定医師による診断を受けさせ、競技出場の健康上の理由による可否を最終的に決定することができる。

11 ライダーの装備(MFJ公認ヘルメット及びレーシングスーツ)

1）ライダーの装備は、次のとおりとする。

(1) ヘルメット

① 競技に使用するヘルメットはMFJが公認したものでなければならない。

② MFJ公認ヘルメットには、規定の認証マークが貼付されていなければならない。

③ MFJが公認するヘルメットの規格については、各競技種目別細則により定める。

なお、国際競技会においてはFIMで認められた各FMN規格のマークが前項のマークとみなされる。

④ 競技会の車両検査の際、ヘルメット検査が行われ、MFJが公認したものであっても、損傷しているなど著しくその機能を失っていると認められるものは、ライダーの安全上その使用を禁止する。

⑤ MFJ公認ヘルメットで、その認証マークの貼付されていないヘルメットについては、その場で特別検査を受け合格すれば使用することができる。

この場合は、別に定める特別検査料（各競技種目別細則による）を支払わなければならない。

(2) 服装
① ロードレースのレーシングスーツについては、MFJ公認のものでなければならない。
② ライダーの服装は、競技中ライダーの身体の安全を確保し、運転を妨げるものであってはならない。
③ その他細部については、各競技種目別細則により定める。
(3) 装備の公認とは国内競技規則に合致することを認めるものであり、その安全性及び耐久性を保証するものではない。

12 出場車両

1）競技に出場する車両のクラス区分等は、各競技種目別細則の定めるところによる。
2）車両は細則に示す「出場車両」と「基本仕様」に合致し、かつ大会特別規則の条件を満たし、安全上完全に整備されているものでなければならない。
3）大会審査委員会により危険であると判断された車両は、理由のいかんを問わず競技に使用することはできない。
4）本規則に基づき改造・変更を行う場合、その対象の選定・保守・管理は自己の責任において行うものとする。

13 MFJ公認車両および公認部品・用品

1）MFJ公認車両および公認部品・用品については、「MFJ車両・部品公認ならびに承認に関する規則」の定めるところによる。
なお、公認された車両および部品・用品については、MFJの発行する月刊「ライディング」誌、その他により公示される。
2）公認は、MFJ技術委員会において審査し、承認された日を基準にして一定の告知期間の後に正式に発効する。告知期間は、MFJ技術規則第6章公認制度（144頁）を参照のこと。
3）車両は、当該競技会公式車検日時点で公認が発効されている車両でなければ出場申し込みをすることができない。
4）公認とは国内競技規則に合致することを認めるものであり、その安全性及び耐久性を保証するものではない。

14 燃料およびオイル

1）競技に使用する燃料・オイル等については別に定めるMFJ技術規則による。
2）その他燃料については、次のとおりとする。
(1) ガソリンおよびオイルは、オクタン価や燃焼効率を高めるような添加剤、あるいは起爆剤を加えてはならない。
(2) ガソリンにオイルを混合する必要がある場合、安全を確認して作業しなければならない。
(3) ガソリンおよびオイルを入れる容器とその取扱いは、消防法に適合する金属製の容器を使用すること。
3）世界選手権に関してはFIM規則が適用される。

15 競技出場の申し込み

1）競技会への出場の申し込みは、次のとおりとする。
(1) 主催者が準備した用紙の記載事項のすべてを記入し、この競技規則を厳守することを誓約しなければならない（エントリー時で当該ライセンスを取得していること）。

① 車両の登録はエントリー用紙に下記事項を記入すること。参加受理書発送後記入事項に変更がある場合は、選手受付時に車両変更手続きを行なわなければならない。
ⓐ銘柄 ⓑ車名 ⓒ年式 ⓓフレーム打刻型式頭番号 ⓔエンジン打刻型式頭番号

(2) 主催者は、エントラント、ライダーおよびピットクルーのいずれに対しても、その理由を明らかにすることなく申し込みを拒否、または無効とする権限を有する。

(3) 申し込み期間、申し込み場所、その他の詳細については、当該競技主催者の定める大会特別規則に示される。

2）競技出走者数または出場申し込み者数の定員は、大会特別規則に示される。
なお、出場申し込み者数が10名に満たない場合は、そのクラスの競技会を中止することがある。

16 出場料および共済会掛金（保険料）

1）エントラントまたはライダーは、出場申し込みのとき、大会特別規則に明示する出場料を支払わなければならない。

2）ライダーは、出場申し込みのとき共済会掛金(保険料)を主催者に支払わなければならない。主催者は、その共済会掛金を共済会に納める。(別に定める共済会規則による)

3）いったん主催者に受理された出場料および共済会掛金は、競技会の延期および中止等（36頁）に合致する以外は払い戻しされない。

17 ライダーおよび車両の変更

1）エントリーされたライダーの変更は認められない。

2）登録された車両の変更は、原則として認められない。変更する必要が生じた場合は、所定の書式に従って車両の変更申請を行い、競技監督がこれを認めた場合に限り、車両の変更が認められる。車両変更手数料は5,000円とする。

(1) 公式予選終了後、安全上の理由により、フレームボディおよびエンジンなどを交換する必要が生じた場合は、競技監督に申告し、元の部品を提示して、許可を受けなければならない。

(2) 公式車検終了後ライダー間でマシンを交換することは禁止される。

(3) 紛争に際して製造メーカー側の車両欠陥についての立証の責任は、参加者側にあるものとする。

18 車両検査

1）競技車両は、本規則および各競技種目別細則の定めるところにより、車両検査を受けなければならない。車両検査の時刻、および場所は公式通知により示される。

2）車両は、競技直前に車両検査を受けたままの状態に保たれているかどうかのチェックを受けなければならない（スタート前チェック）。チェックの時刻およびチェックの場所は、公式通知により示される。

3）ライダーが車両仕様申告を行う場合は、車両検査時に大会事務局より配布された車両仕様書をもって申請しなければならない。

19 競　技

1）出場者数が多い場合は、予選またはタイムトライアルによって決勝競技出場者を決定することがある。その詳細については、各競技種目別細則および大会特別規則の定めるところに

よる。

2）スタートの方法は各種目細則および大会特別規則の定めるところによる。

3）競技中競技役員が合図旗（シグナル旗）を示した場合、各ライダーはただちにそれに従わなければならない。

4）合図旗（シグナル旗）とその意味については、各競技種目別細則の定めるところによる。

5）停止

(1) 競技中、コース内で停止する場合には、ライダーはただちに車両をコース脇によせ、他のライダーの走行の邪魔にならないように十分注意しなければならない。

(2) 競技中、車両をコースの進行方向と逆方向に移動してはならない。ただし、競技役員の指示による場合はこの限りではない。

(3) 事故または車両故障などの理由によってリタイヤ（中途退場）する場合は、その地点からもっとも近い競技役員（コース審判）に報告し、用意してある用紙によってリタイヤ届けを提出しなければならない。

(4) ライダーは、リタイヤ届を提出した競技役員に車両をあずけて退場しなければならない。

(5) ライダーは、停止車両をその競技が終了するまで、競技役員の管理下におかなければならない。

ただし、その競技に支障のない地点まで、車両を移動させることを競技役員（コース審判）から指示された場合には、これに従わなければならない。

6）ゴールライン通過の際、ライダーは、マシンと離れた状態にあってはならない。

7）競技の終了

競技の終了は、チェッカー旗によりトップ走者がゴールしたのち、細則および大会特別規則に示す時間を経過した時点である。

20 優勝者等の決定

優勝者、入賞者および完走者の定義については、各競技種目別の細則の定めるところによる。

21 入　賞

賞の対象と再車検の対象

入賞者は、原則として6位までとし、その詳細は大会特別規則に示される。

賞は主催者（大会事務局）から交付されるが、その交付時間等詳細は大会特別規則または、公式通知により示される。

22 入賞者の車両検査

1）競技終了後、原則として1位から6位までの車両は、レース終了後、ただちに車両保管区域に暫定結果発表後30分間保管され、必要に応じて検査される。

2）その他、種目別細則ならびに大会特別規則による。

23 競技結果および記録の公表

1）競技終了後、暫定結果の公表を行う。

2）競技の正式結果は、暫定結果発表後遅くとも3時間以内に公表される。

3）参加者は、公表された競技の正式結果に対して抗議することはできない。

24 公式得点（ポイント）

1）公認競技会における成績により、MFJから公式に与えられる得点（ポイント）は、下記の

とおりとし、これの詳細は、別に定める「MFJライセンス昇格・降格に関する規則」(226頁)による。

① 全日本選手権・エリア選手権および地方選手権競技会

順位＼出走台数	25以上	22-24	20-21	18-19	16-17	14-15	12-13	10-11	8-9	6-7	5	0-4
1位	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	不成立
2位	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	
3位	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15		
4位	13	13	13	13	13	13	13	13	13			
5位	11	11	11	11	11	11	11	11				
6位	10	10	10	10	10	10	10					
7位	9	9	9	9	9	9						
8位	8	8	8	8	8							
9位	7	7	7	7								
10位	6	6	6									
11位	5	5										
12位	4	4										
13位	3											
14位	2											
15位	1											

※出走台数はそのクラスの決勝レースのスタートラインに並んだ台数とする。ただし、公式予選がある場合は、予選に参加した台数を総台数とする。

② 県大会その地

順位＼出走台数	12台以上	10~11	8~9	6~7	5	0~4
1位	10	10	10	10	10	不成立
2位	9	9	9	9	9	
3位	8	8	8	8		
4倍	7	7	7	7		
5位	6	6	6			
6位	5	5	5			
7位	4	4				
8位	3	3				
9位	2					
10位	1					

25 競技会の延期および中止等

1）競技は、天候・異変その他安全確保に支障をきたすおそれがある等、特別の理由がある場合にかぎり、その一部を打ち切りまたは中止することができる。

2）前項の判断決定は、大会審査委員会が行う。

3）すべての関係者は、大会審査委員会の決定した競技の一部打ち切りまたは中止に従わなければならない。

4）原則として中止されたレースの再レースは行なわれない。

5）レースの短縮及び打ち切り

(1) 決勝レース出走前の短縮

① 出走前にレース周回数・時間を短縮する場合は、原則として本来のレースの2/3以上とする。(但し、モトクロスの場合＋2周は考慮しない)

② 2/3以上に短縮し参加者に発表した後にさらに状況が悪化した場合さらにその2/3以上まで短縮することができる。

③ 上記を上回る短縮の場合は選手の得点（ポイント）は半分とする。

④ 上記の短縮の決定は大会審査委員会が行い、参加者にこのことが速やかに通知されなければならない。

(2) 決勝レース出走後の短縮・打ち切り

① トップ走者（トライアルの場合は、選手の95%以上）が定められた周回数／時間／セクション数の2/3を完走しないうちにレースを打ち切った場合。(但し、モトクロスの場合＋2周は考慮しない)

ⓐ ロードレース：走行が2周以下＝中止・ノーポイント'

走行が3周以上＝再スタートが不可能な場合は半分の得点(ポイント)

ⓑ トライアル：選手の95%以上が終了したセクション数が、全セクションの25%未満

のクラス＝中止・ノーポイント
選手の95％以上が終了したセクション数が、全セクションの25％以上のクラス＝半分のポイント

ⓒ モトクロス他：中止・ノーポイント

6）トップ走者（トライアルの場合は、選手の95％以上）が決められた周回数（または時間）の2/3以上を完走して競技を打ち切った場合は、大会審査委員会は、その競技の判定結果にその理由を付して発表するものとする。

7）競技の中止と出場料等の返却は、下記表の通りとする。参加者はその他の一切の損害賠償を主催者に請求することはできない。

事　例	出場料	共済会掛金
予選が１回も行われず中止	選手受付した全員に返却	共済会の適用となる練習走行が行なわれていなければ返却する
予選は行われ、決勝グリッド発表後中止	決勝進出者のみ返却	返却しない
決勝スタートが行われたのち中止	返却しない	返却しない

8）大会審査委員会が本項に関して下した裁定に対しては、抗議することはできない。
※上記の2/3またはパーセント表示で端数が出る場合、小数点以下は切り捨てる。

26 損害に対する責任

1）競技中、車両およびその付属品等が破損した場合、その責任は参加者が負わなければならない。（ただし、車両が車検長または大会審査委員会によって保管されている期間中に生じたものを除く。）

車検長または大会審査委員会は、車両を保管している期間中に、これらの車両がなんらかの理由によって破損した場合には、１台当たり10万円を最高限度額として、その所有者に補償する。

2）競技会開催期間中、またはその前後に生じた傷害は、参加者自ら責任を負うものとする。

3）競技役員は、その職務に最善をつくすが、仮に競技役員の行為によって起きたエントラント、ライダー、ピットクルーおよび車両等の損害に対しても、競技役員はいっさいの責任を負わない。

27 抗　議

1）抗議は、暫定結果発表後30分以内に当該ライダー及びエントラント代表者だけが行うことができる。抗議しようとするときの手続きならびにその措置は、次のとおりとする。

(1) 大会事務局に準備されている抗議書に記載し、１項目ごとに抗議保証金を添えて大会事務局に提出すること。

(2) 正式の手続きにより提出された抗議書のみが受付けられ、大会審査委員会において審議裁定される。

(3) 大会審査委員会は、証人を必要と認めた場合は証人をたて、その証言を求め、十分に実情を調査した上で裁定を下すものとする。

(4) 大会審査委員会が下した裁定に対しては、いっさい抗議することはできない。

(5) 抗議保証金は、抗議が成立した場合のみ返還される。
抗議保証金は、１項目につき10,000円、ガソリンに関する抗議保証金は100,000円とする。

28 控訴権

1）すべての当該競技参加者（ライダーまたはエントラント代表者）は、競技会審査委員会が宣告した罰則または裁定に対し、本協会に控訴する権利を有するものとする。

2）裁定機関

・大会審査委員会決定に関する控訴に関しては中央審査委員会にて裁定される。

・中央審査委員会決定を最終とする。

・中央審査委員会は、証人を必要と認めた場合は証人をたて、その証言を求め、充分に実情を調査した上で裁定を下すものとする。

3）控訴の期限

大会審査委員会決定に対する控訴の期限は、通知されてから５日以内とする。

4）控訴保証金

控訴保証金は５万円とする。

裁定機関は事情に応じて保証金の返還または没収について、または経費処理について指示する。

5）控訴が受理されるために必要な手続き

・期日までに控訴文書と控訴保証金がMFJ事務局まで提出されなければならない。

・文書には訴え出る決定の詳細・理由が的確に述べられていなければならない。

29 違反行為に対する罰則

1）大会中(競技中も含む)における本規則または大会特別規則に違反する行為に対しては、その軽重によって大会審査委員会ならびに競技監督の権限で下記の罰則を科することができる。

軽重順位	罰　則	内　容	決定機関
1	訓　戒	文書による注意……始末書を提出	大会審査委員会
2	罰　金	現金100,000円以下	大会審査委員会
3	タイム／ポイント／周回数に対する罰則	当該ライダーの実際の成績に影響を及ぼすタイム／ポイント／周回数の加算・減算のペナルティ	大会審査委員会
4	失　格	大会、イベント、レースまたは結果から失格となる	大会審査委員会
5	資格停止	一定期間競技会に参加する資格を停止する	中央審査委員会
6	資格剥奪	競技会に参加する資格を剥奪する	中央審査委員会

※罰金はMFJにて保管され、安全対策等に使用される。

※罰則の詳細はリザルト表に記述される場合がある。

違反の事実認定は、競技監督の判断を優先するが、罰則の量刑ならびに適用は、大会審査委員会の決定によるものとする。

2）ライセンスについての罰則は、大会審査委員会の報告に基づき、中央審査委員会によって、さらに事後の出場停止、資格停止まで及ぶかどうか審査裁定され、30日以内に通告される。

30 大会審査委員会の権限

大会審査委員会は、本規則ならびにその細則に基づき、当該競技会において最終的な権限を行使することができる。

附　則

1．本規則は、1999年１月１日から施行する。

モータースポーツのビッグステージ鈴鹿サーキットで、
腕を磨き、やがて世界にはばたく。
それは、走りが大好きなライダーのひとつの夢。
その夢を実現するために、
キミもチャレンジしてみないか。
ここから多くのライダーが飛び立ち、頂点に登ったように、
鈴鹿サーキットには大きな可能性が広がっているのだ。

1999年　鈴鹿サーキットロードレース暫定カレンダー

※下記日程は'98年12月1日現在のものです。今後変更となる場合がありますのでご注意ください。

選手権 / ライセンス / クラス	大会名	コース	世界/全日本選手権 国際 SB/S-NK	国際 GP250	国際 GP125	エリア選手権 国際・国内 S-NK	国際・国内 GP250	国際・国内 GP125	鈴鹿選手権 国内 GP250	FRE・国内 GP125	FRE・国内 SP400	FRE・国内 SP250	承認競技会 FRE・国内 ST250	FRE・国内 NK-ST	FRE・国内 NK4	FRE→国際 S-NK	主催者
2月14日	鈴鹿サンデーロードレース第1戦	西						○	○	○		●	◆		◆		テクニカルスポーツ
3月14日	鈴鹿サンデーロードレース第2戦	西					○	○	○		●			◆	◆		鈴鹿サーキット
4月10・11日	鈴鹿サンデーロードレース第3戦	全				◇東	○			○	●	●	◆	◆	◆	◇東	鈴鹿サーキット
5月9日	鈴鹿サンデーロードレース第4戦	西				◇			○	○	●	●	◆	◆		◇	鈴鹿サーキット
5月29・30日	鈴鹿スーパーバイク200km	全	☆	☆	☆			○							◆		鈴鹿サーキット
7月16～18日 7月24日 7月22～25日	鈴鹿NK4時間耐久ロードレース(仮称) 鈴鹿SP4時間耐久ロードレース 決勝(予定) "スプライト"鈴鹿8時間耐久ロードレース第20回大会	全	★								●4耐		◆2耐	◆2耐	◆4耐		鈴鹿サーキット
9月4・5日	鈴鹿スーパーバイクレース	全	☆	☆	☆		○			○							鈴鹿サーキット
9月25・26日	鈴鹿サンデーロードレース第8戦	全				◇東		○	○		●	●	◆	◆	◆	◇東	鈴鹿サーキット
10月17日	FUN&RUN! 2-Wheels Oct. Session(仮)	東	※その他、ナンバー付車両によるレースなど、開催カテゴリー検討中													◆2耐	鈴鹿サーキット
11月7日	鈴鹿サンデーロードレース第10戦	西					■		■	■		●	◆	◆			テクニカルスポーツ
12月4・5日	第35回NGK杯 鈴鹿サンデーロードレース併催MFJエリアGP	全				○	○	○	■	■	●	●			◆		鈴鹿サーキット
12月19日	FUN&RUN! 2-Wheels Dec. Session(仮)	東	※その他、ナンバー付車両によるレースなど、開催カテゴリー検討中														鈴鹿サーキット
開催戦数			1+2	2	2	3+1	4+1	4+1	6	6	6	7	6	6	7	4	

※S-NKの「◇」印レースはエリア選手権・鈴鹿シリーズのダブルタイトルレースです。また、スーパーバイククラスとの混走レースとなります。

鈴鹿ワンデーヒーローズレース

ライセンス / クラス	大会名	コース	FRE・国内 GP125	NK-ST	ST250	J・FRE・国内 ST150	GP80	L・J・FRE・国内 GP-mini	SB-OP	SB-P2	SB-P4	SB-PS	SB-MINI	主催者
2月28日	鈴鹿ワンデーヒーローズレース Winter Round	南	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	Jレーシング
5月2日	鈴鹿ワンデーヒーローズレース Spring Round	南	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	ミスターヒロ
7月11日	鈴鹿ワンデーヒーローズレース Summer Round	南	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	Jレーシング
9月19日	鈴鹿ワンデーヒーローズレース Autumn Round	南	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	ミスターヒロ
開催戦数			4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	

※鈴鹿ワンデーヒーローズレースでエントリー台数が少ないクラスは他クラスとの混走レースとなる場合があります。

★…世界選手権
☆…全日本選手権
◎…MFJエリアGP
○…自動昇格対象種目
●…申請昇格対象種目
◆…特別昇格可能種目
■…自動昇格対象期間外種目
□…昇格対象外種目

トップライダーへのパスポート。SMSCライセンス

鈴鹿モータースポーツクラブ(SMSC)では鈴鹿サーキット(国際レーシングコース/南コース)でスポーツ走行をお楽しみいただくための会員を募集中です。
世界選手権のレースが開催される世界最高峰のコースに君もチャレンジしてみませんか。

走行ライセンスのご案内

●2輪会員(国際レーシングコース/南コース)
●ミニバイク会員(南コース)
講習日:世界選手権レースの開催がない日曜日。
(あらかじめTELにてご確認ください)

※レース・スポーツ走行でライダーをアシストされる方のための「ピットクルーパスポート会員」も募集しております。(講習不要・毎日受付中)

SMSC会員には鈴鹿サーキット開催レース入場無料(世界選手権除く)やサーキットホテルの宿泊割引などさまざまな特典がございます。
SMSCライセンスについての詳細は鈴鹿サーキット/SMSC事務局までお問い合わせください。

SUZUKA CIRCUIT

〒510-0295　三重県鈴鹿市稲生町7992　鈴鹿サーキット/SMSC事務局　TEL.0593-78-3405
http://www.SuzukaCircuit.co.jp/

主催者/参加申込先
■テクニカルスポーツ　〒513-0825　三重県鈴鹿市住吉町6786　TEL.0593-78-1455
■チームミスターヒロ　〒580-0012　大阪府松原市立部2丁目499-1　TEL.0723-36-1550
■Jレーシング　〒468-0058　名古屋市天白区植田西3丁目901　TEL.052-802-0117

Castrol

MOTORCYCLE RACING

なぜA747なのか

1ℓ ¥4,000

【ひまし油の強さ】

金属と最もなじみが良い油種は植物油であることは一般的にもいわれていることですが、次の実験でもそれが証明されています。

- 金属板に鉱物油、合成油、植物油(ひまし油)を同量塗り、垂直に立てておきます。
- 時間の経過とともに①鉱物油②合成油の順に金属表面から流れ落ち、植物油は最後までベトベト付着しています。又、レース中には具体的にこの卓越した潤滑性がどういう場面で発揮されているのでしょうか？
- フルブレーキング(全閉)の状態では一瞬、混合燃料が送り込まれなくなり、金属表面の油膜が薄くなってきます。
- 次にアクセル全開にしていくときにその油膜が弱いと「焼きつき」の状態となります。
- 「A747」はひまし油(植物油)を使用しているため、このような状況下でも強固な油膜を形成し、このパターンの「焼きつき」はまず発生させません。この極限での「強さ」が世界GPや全日本のワークスチームをはじめ名門チームを勝利に導く一つの要因となっているのです。

Pure Racing for 2-Stroke Motorcyclesとは？

1ℓ ¥3,800

【新世代の100%化学合成油】

「A747」が絶対性能と同時に、ワークス、エキスパートの取扱いを要求されるのに対し、この商品はカストロールの最新合成油技術を投入することで、高い潤滑性を持ちながらも、メンテナンスの簡易性やガソリンとの混ざり易さ等「扱い易さ」を合わせもちビギナーからベテランまで手軽にお使いいただけるレーシングオイルとなっています。
植物油に比べ清浄性に優れているため、カーボン等の付着も最小限に抑えます。

【使用にあたって】

特におすすめするカテゴリーはモトクロス、ロードレース(SPクラス)です。ただし、セッティングについては燃焼温度の違い等から必ずしも「A747」と同じとは限らないため、新たにベストな状態をさがすようにしてください。

2輪車向けに開発されたRacing Special BIKETEC

カストロールの最新技術を投入し、4輪車との兼用ではなく2輪車のために開発しました。
耐久からスプリントまで対応できる4サイクルレーシングの最高峰。

3ℓ ¥12,000

【優れた粘度安定性】

長時間のレースでも安定した潤滑性と油膜を保ちます。

- 粘度低下を防ぐために添加剤で調整している通常のレーシングオイルは、時間の経過とともに粘度が下がってきてしまい、保護性能も低下してしまいます。
- 「BIKETEC」はもともとのエンジンオイルの性質から、粘度向上剤を使用する必要が無いため、粘度低下はほとんどゼロに近く、長時間理想の潤滑保護性能を保ちます。
- よって長い時間になればなるほど、その差が広がり、より「BIKETEC」の優位性が現れてくるのです。

【抜群の清浄性】

スラッジ等の堆積を防止し、各部の部品精度を保つと共に、異常燃焼を未然に防ぎます。
他社100%合成レーシングオイルとの比較テストではピストンのきれいさの違いが一目でわかります。
前述のように添加剤で粘度低下を抑えている一般的なレーシングオイルは、使用中に粘度が低下するため、初期には50番の粘度が必要になってきます。

【ローフリクション 10W-40】

しかし、「BIKETEC」は粘度低下がほとんど起きないため50番より抵抗の少ない40番を選択することができました。これにより、オイルによるエンジン各部のフリクションを極力抑えると同時に卓越した保護性能を両立し、エンジン性能を100%発揮させることができます。

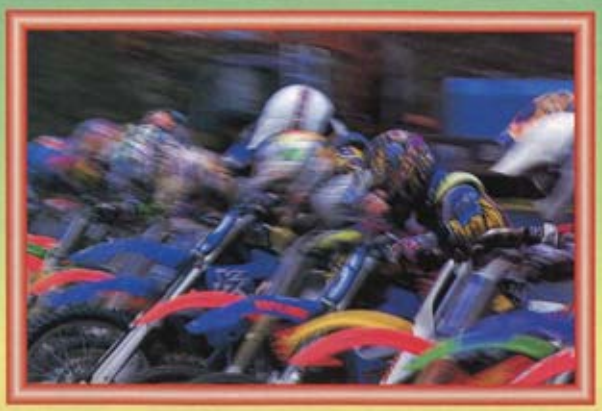
カストロール レーシングオイル 適合表

商品名	二輪メーカー指定・推奨車種		カストロールお薦めカテゴリー
A747	ヤマハ HRC カワサキ モリワキ	ロードレーサー／TZシリーズ モトクロッサー／YZシリーズ ロードレーサー／RSシリーズ モトクロッサー／KXシリーズ ロードレーサー／MH80	ロードレース全般 モトクロス全般 (エンジンのみ)
R30	ヤマハ	ロードレーサー／TYシリーズ(エンジン、ミッション) モトクロッサー／YZシリーズ(エンジン、ミッション)	ロードレース、モトクロス (エンジン、ミッション)
Pure Racing for 2-Stroke Motorcycles	カワサキ	モトクロッサー／KXシリーズ	ロードレース(SPクラス) モトクロス
TTS Formula			トライアル、ミニバイクレース
Racing Special BIKETEC			4サイクルレース全般

Castrol

カストロール株式会社
〒164-0012 東京都中野区本町2-46-1
TEL 03-5371-1021(大代表)

モータースポーツいろいろあります。



SUGOサーキットライセンス ～SSCM会員～

SUGOのインターナショナルレーシングコース・カートコース・モトクロスコース・トライアルコースでスポーツ走行をするには、原則としてSSCMへ入会し、サーキットライセンスを取得して頂くことになります。また、ロード・カートに関してはライセンス講習会の受講が必要となります。講習会の日程などサーキットライセンスに関しては、下記SUGOスポーツクラブまでお気軽にお問合せ下さい。

●SSCM事務局
〒989-1394　宮城県柴田郡村田町菅生6-1
TEL 0224(83)3127

1999 SUGO RACE CALENDAR

ROAD RACE

開催日	大会名
3/28(日)	SUGOロードレース選手権第1戦
4/18(日)	SUGOスプリングサウンドフェスティバル
5/2(日)	**全日本ロードレース選手権第2戦**
5/9(日)	SUGOロードレース選手権第2戦
7/4(日)	SUGOロードレース選手権第3戦
7/18(日)	SUGOサマーサウンドフェスティバル
8/8(日)	6時間オープン耐久ロードレース
8/22(日)	**全日本ロードレース選手権第6戦**
9/5(日)	SUGOロードレース選手権第4戦
9/26(日)	SUGOロードレース選手権第5戦
10/10(日)	**スーパーバイク世界選手権レース**
10/17(日)	SUGOサウンドフェスティバルファイナル
11/7(日)	SUGOロードレース選手権第6戦

OFF ROAD RACE

開催日	大会名
6/6(日)	**全日本モトクロス選手権**
9/12(日)	**全日本モトクロス選手権**
10/17(日)	**全日本トライアル選手権日本GP**

CAR & KART

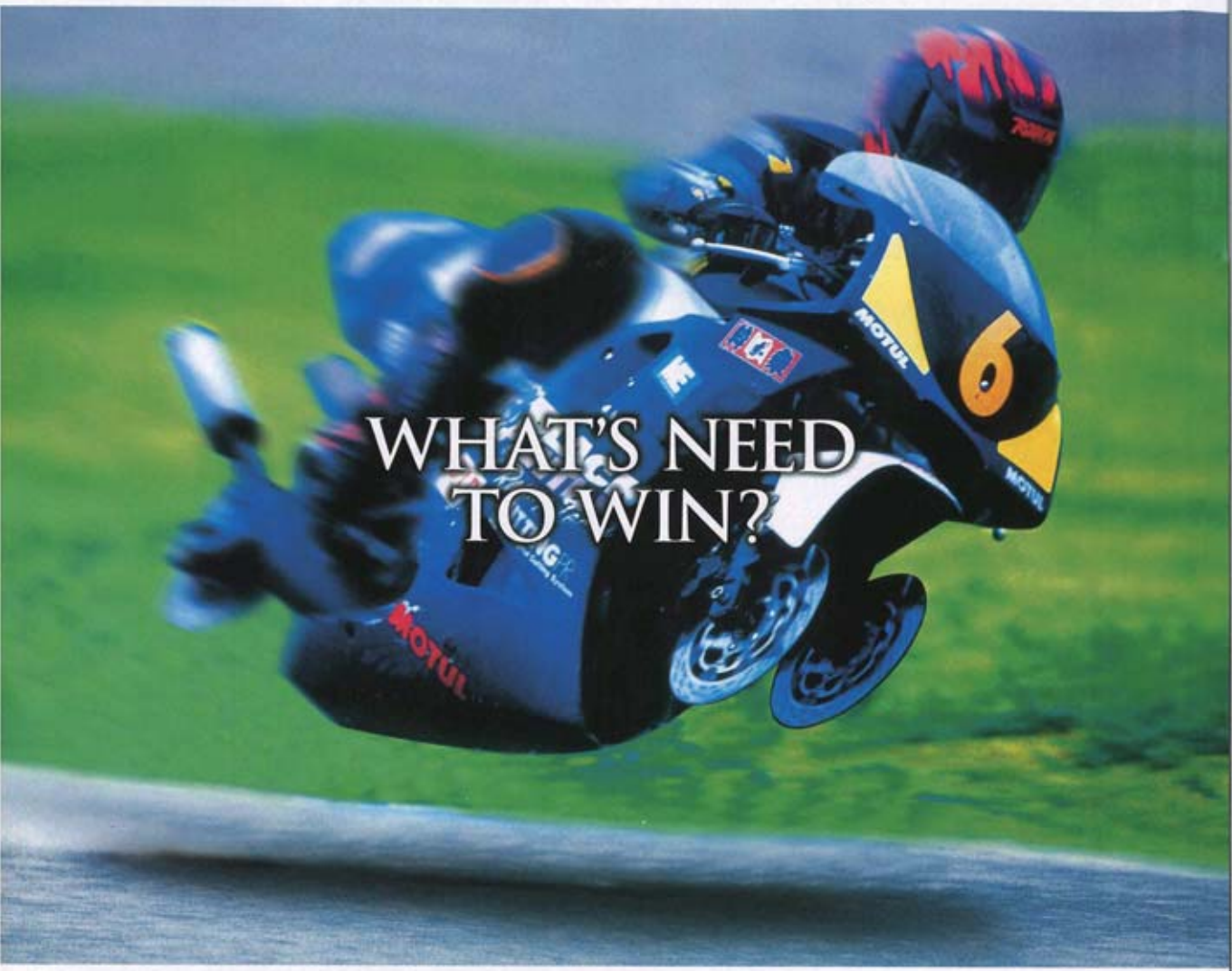
開催日	大会名
5/30(日)	**全日本GT選手権レース**
6/13(日)	**全日本カート選手権東地域**
8/1(日)	**フォーミュラニッポン第6戦**
10/31(日)	**スーパーシルエット/スーパーN1耐久レース**

（レース日程は98年11月現在、暫定）

情報満載SUGOホームページ公開中!!
アドレスは、http://www.spoortsland-sugo.co.jp

SUGO
〒989-1394
宮城県柴田郡村田町菅生6-1
TEL 0224(83)3111(代)

BRIDGESTONE



勝つために、勇気よりも、情熱よりも、必要なもの。

幸運の女神だけでは、壮絶なバトルは生き残れない。
天候・路面状況・マシン・チューニング…。苛烈な条件がレーサーを攻めたてる。
IT'S GRIP!——サーキットの極限でレーサーはこのグリップに運命を託す。

新登場

BATTLAX
BT-96
RACE TYPE

1999 TSUKUBA CIRCUIT ROADRACE CALENDAR（暫定）

開催日	大会名	全日本選手権			関東チャレンジカップ			関東・筑波選手権					筑波選手権						etc
		SB	GP250	GP125	エリアSB	エリア250	エリア125	GP250	GP125	SP400	SP250	SP125	GP125B	SP400B	SP250B	S80	GP80	N-NK	シングル&ツイン
		S	S	S	I·N	I·N	I·N	N	N·F	N	N	N·F	N·F	N·F	N·F	I·N·F	N·F·J	N·F	
2月13日(土)	筑波ロードレース選手権シリーズ第1戦							☆	☆	○	○	△							
3月13日(土) 14日(日)	筑波ロードレース選手権シリーズ第2戦 関東選手権第2戦・関東チャレンジカップ第2戦				◆		◆	★	★	●	○	▲				△	△	△	
4月10日(土) 11日(日)	筑波ロードレース選手権シリーズ第3戦 関東チャレンジカップ選手権シリーズ第4戦				◆	◆		☆	☆	○	○	△	△	△	△		△	△	
4月25日(日)	シングル・エンジョイ・レース in 筑波（春の大会）																		■
5月14日(金) 〜16日(日)	MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第3戦 筑波選手権第4戦・関東チャレンジカップ第5戦	◇	◇	◇		◆										△			
6月5日(土) 6日(日)	筑波ロードレース選手権シリーズ第5戦 関東選手権第7戦・関東チャレンジカップ第8戦				◆			★	★	○	●	▲	△	△	△			△	
7月10日(土) 11日(日)	筑波ロードレース選手権シリーズ第6戦 関東選手権第10戦・関東チャレンジカップ第11戦					◆	◆	☆	☆	●	●	▲				△	△	△	
8月28日(土) 29日(日)	筑波ロードレース選手権シリーズ第7戦 関東チャレンジカップ選手権シリーズ第14戦						◆	☆	☆	○	○	△	△	△	△		△		
9月17日(金) 〜19日(日)	MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第8戦 筑波選手権第8戦・関東チャレンジカップ第16戦	◇	◇	◇			◆									△			
10月24日(日)	シングル・エンジョイ・レース in 筑波（秋の大会）																		■
10月30日(土) 31日(日)	筑波ロードレース選手権シリーズ第9戦 関東ロードレース選手権シリーズ第10戦							★	★	●	●	▲	△			△	△	△	

※☆・○・△は筑波ロードレース選手権シリーズの開催クラスです。
★・●・▲は関東ロードレース選手権シリーズの開催クラスです。
※☆・★……自動昇格（資格）対象
○・●……昇格（資格）対象＜特別昇格申請可＞
△・▲……昇格対象外

S：スーパーライセンス
I：国際ライセンス
N：国内ライセンス
F：フレッシュマン
J：ジュニア

○筑波選手権のGP250・GP125・SP400・SP250・SP125クラスは、関東選手権筑波大会の同クラスで得たポイントを合算することができます。但し、筑波大会以外の関東選手権で得たポイントは、筑波選手権のポイントに合算することはできません。
また、筑波選手権第1戦、第2戦SP250、第3戦、第5戦SP400、第6戦GP250・GP125、第7戦で得たポイントは、関東選手権のポイントに合算することはできません。

筑波サーキットライセンスのご案内

筑波サーキットには「ファミリーライセンス」・「スポーツライセンス」の2種類のライセンスがあります。愛車の実力を知りたい、自分のテクニックを磨きたい、レースの世界で自分の可能性を試してみたいという方はライセンスの取得をおすすめします。

ファミリーライセンス………講習会で取得できます。吸排気系ノーマルの車両（レーサー・市販車改造を除く）によるファミリー走行が楽しめます。
講習会の当日午後1〜2時までに、筑波サーキットにて直接受付を行って下さい。予約の必要はありません。

ご用意していただく物

①受講料：26,000円（予約金 10,000円、MFJフレッシュマンライセンス取得料を含む）
②身分証明書（運転免許証等）③印鑑 ④筆記用具 ⑤写真：3×2.5㎝サイズ3枚（カラー光沢のみ、白黒不可）
⑥ヘルメット（フルフェイス）・グローブ・ブーツ・革ツナギ
※講習会時のみブーツ・ツナギのかわりに厚手の服・スニーカーでも可
⑦吸排気系ノーマルの車両（スクーター・レーサー・改造車両は不可）
⑧未成年の方は、親権者の承諾書（親権者の署名・捺印のあるもの）

筑波サーキットライセンス講習会日程

1月10日(日)	4月4日(日)	6月26日(土)	9月11日(土)	11月20日(土)
1月23日(土)	4月24日(土)	7月3日(土)	9月26日(日)	12月5日(日)
2月7日(日)	5月9日(日)	7月20日(祭)	10月11日(祭)	12月19日(日)
2月21日(日)	5月23日(日)	8月1日(日)	10月23日(土)	
3月14日(日)	6月19日(土)	8月22日(日)	11月6日(土)	

※日程・時間等は、都合により変更する場合がございます。予めお問い合わせの上ご来場下さい。

スポーツライセンス……ファミリーライセンス取得後、申請できるライセンス。レーサー・レース用改造車両によるスポーツ走行が楽しめます。
ファミリーライセンスを取得後、スポーツライセンス入会申込用紙に必要事項を記入・捺印の上、入会金28,000円と写真1枚（3×2.5㎝／カラー光沢）を添えて（財）日本オートスポーツセンターまで現金書留にてご郵送下さい。

財団法人日本オートスポーツセンター（JASC）

〒104−0041　東京都中央区新富1−9−6新富一丁目ビル6F
TEL：03−3555−6051
FAX：03−3555−1048
ホームページアドレス　http：//www.jasc.or.jp

筑波サーキット

〒304−0824　茨城県結城郡千代川村村岡字西原
TEL：0296−44−3146
FAX：0296−43−2952

WAKO'S

'98GP250ランキング3位　松戸直樹選手

実

WAKO'S は

WAKO'S は全日本選手権などの
と共に日進月歩
そして
コストダウンすることなくそのまま

ホンダRS
IN側が帯状に黒いカーボンが着き、センターに向かってそれよりも若干茶色のカーボンが広がります。

ヤマハTZ
外周が黒くなり、センターが赤茶色に焼けてきます。

無鉛ハイオク専用オイル

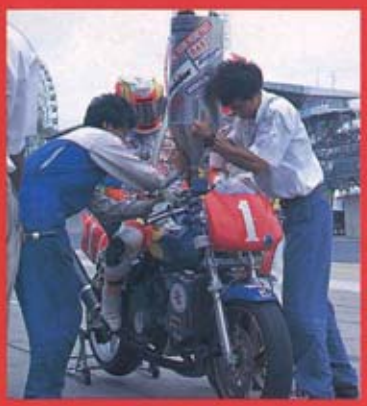
WAKO'Sでは無鉛ハイオクに移行する2年前から無鉛ハイオク仕様専用オイルの開発を進め、実走行テストを重ね「RV-R」は完成。「RV-R」はエンジンセッティングを明瞭にするため無鉛ハイオク仕様のレーシングエンジンに合わせてカーボン発生を意図的にコントロール。セッティングの決め手となる"焼け"が明確にでき、それをもとにベストセッティングが可能となっている。RV-Rのセッティング能力の高さ、その"焼け"が武器になることは、激戦のGP125クラスで2位となった稲毛田選手、GP250で3位となった松戸選手をはじめとする多くの選手が実戦で証明している。

RV-R
化学合成油＋
変性植物油
混合専用
2サイクルエンジン
オイル
1L／3,800円

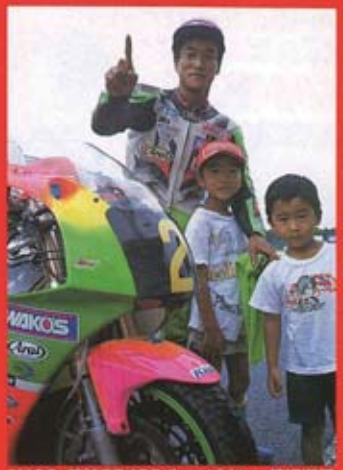
IA250　村野選手

株式会社 和光ケミカル
神奈川県小田原市前川16-2 TEL.0465-48-2211(代)

【営業所】仙台　福島　新潟　群馬　栃木　茨城　埼玉　埼玉北　埼玉南
千葉　千葉南　東京　東京西　横浜　湘南　西湘　山梨　長野
静岡　浜松　岡崎　名古屋　岐阜　三重　大阪　大阪南　京都



鈴鹿4耐 NK4・SP400両制覇
鈴鹿SP400チャンピオン獲得
RTハニービー



SUGO・筑波SP400チャンピオン　渡辺選手

証明！ エンジン無改造のNK4やSP400. 4サイクルで上位を狙うチームはオイルの粘性抵抗をも重要視し、フリクションロスの低減を厳しく追求しています. さらに耐久レースは低フリクションと耐久性という相反する性能が必須!今年の鈴鹿4時間耐久レース決勝でもNK4の30%、SP400では40%のチームが4CRを使用. また、シリーズチャンピオンを獲得するにはポイントの取りこぼしは許されない、つまり壊れないオイルであることが耐久レース同様重要になり、SUGO・筑波SP400ダブルチャンピオン、鈴鹿SP400チャンピオン、筑波N-NKチャンピオンが4CRを使用している事実がそれを実戦で証明しています.

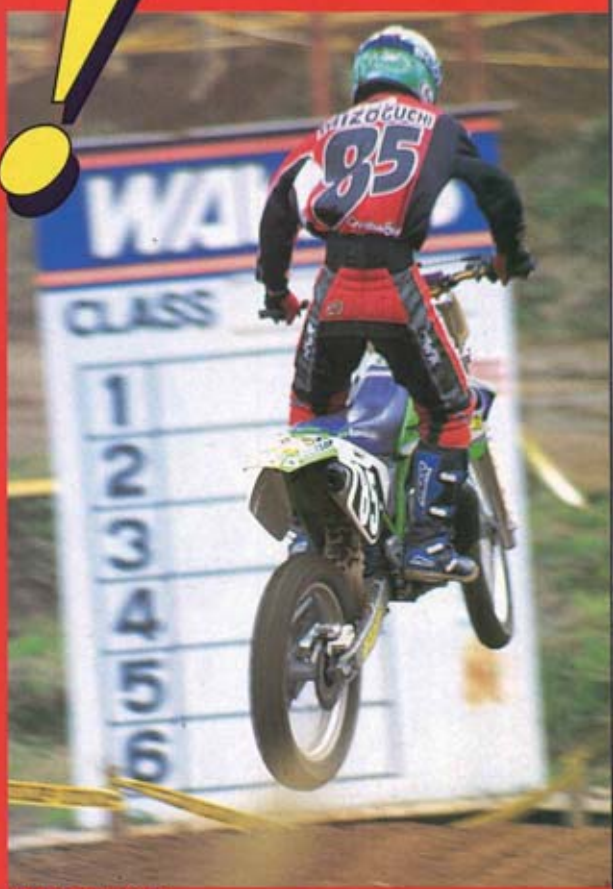
4CR（5W-40・15W-50）
100%化学合成 4サイクルエンジンオイル 1L／2,800円

筑波N -NKチャンピオン　岸選手

戦力！

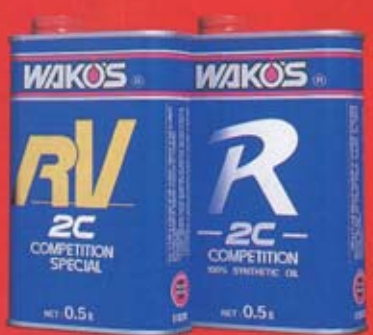
常に最前線で開発中！

最前線で戦う戦士たち（選手、チューナー、メカニック）
する状況に対し常に開発を続けています。
彼らと共に鍛え上げた製品は、
WAKOSを愛用する皆様にお届けしています。



IA125　溝口選手

IA250　大塚選手



モトクロス用レーシングオイル
推奨混合比40:1

2CR（写真右）
100%合成油なのでビギナーから上級者までフォローし、レスポンスとコストパフォーマンスに優れ、ノーマルエンジンのポテンシャルをあますことなく引き出します。●100%化学合成油　500ml／1,800円

2CRV-R（写真左）
上級者及びチューニング・エンジンの要求に応える、ロードレース生まれのヘビー指向のオイル、パーツ寿命を延ばしつつ、カーボンの発生量を抑える。●化学合成油+変成植物油　500ml／2,200円

お求めはお近くの WAKOS ステッカーのお店で。

オートバイ用品専門店

MOTORCYCLE TOP FASHION LEADER
NANKAI
FOR GOOD MOTORCYCLE LIFE

CHAMPION
MICHAEL DOOHAN

THANK YOU NANKAI FOR MANY GREAT YEARS!

V5
'94 '95 '96 '97 '98
WGP 500cc CLASS

すべてに抱かれる。

安全性
機能性
品質

MFJ公認

NANKAIレーシングスーツの3大要素
「革」・「縫製」・「プロテクション」

NANKAI契約の歴代世界チャンピオン、スペンサー・ガードナー・レイニーたちや、ドゥーハン・ビーティー・平など国内外のトップライダーたちから絶大な信頼と絶賛を受けているNANKAIレーシングスーツ。それは30年にわたり蓄積されたNANKAIのノウハウとNANKAI契約ライダーたちの実戦からの的確なアドバイス、そして厳選された素材と最先端技術を駆使して製作された究極のレーシングスーツです。

GPライダーたちのノウハウが活きる！
高品質で安心できる本格仕様
ツナギの中の
ツナギ
MFJ
STANDARD
MFJ公認レーシングスーツ

NR RACING SUITS MFJ公認

NR-レーシングスーツの主な共通仕様

- 立体裁断、立体縫製
- 国内産高級牛革使用
- 裏地：ポリエステルメッシュ、内ポケット付
- スライディングパッド付
- コシ、ヒザ上にシャーリング
- セキズイパッド(7mm圧縮ウレタンパッド、さらに中心部は3mm同パッドをプラス)
- ワキ、ヒジ、ヒザ裏にオペロンニット使用
- カタ、ヒジ、コシ、ヒザ、スネに各種パッド
- MFJ公認レーシングスーツ

既製価格のままで
カラーオーダーができる

[システムB] カラーオーダー
(NR-56A・Bカラー限定)
¥120,000

お近くのN.S.C.加盟店でレザースーツカラーサンプル全36色からお選びください。

NR-57
プロレーシングスーツ
¥120,000
A 赤/白/黒 B 赤/黒/白
M、L、LL、XL
NR共通仕様以外に
- 黄、ヒジにナンカイ・PROパッドII使用
- マタ下ケブラーニット
- ワキ下ケブラーニット

NR-56
プロレーシングスーツ
¥120,000
A 白 B 黒 C 白/赤 D 白/青
E 白/ピンク F 白/黄
M、L、LL、XL
NR共通仕様以外に
- ナンカイ・PROパッドII使用
- マタ下ケブラーニット

- 変更カラーは1色のみで、ベース(胴体前面と背中面・太もも前面と後ろ部分・袖裏部)は、白または黒のみとさせていただきます。
- カラー変更可能箇所は、エリ・上袖・腰シャーリング・ヒザ下部分のみとさせていただきます。また、ヒジ・腰・太もも部のNANKAIロゴは変更カラーと同色になります。

サイズは既製サイズNR-56A(白)・(黒)のみを基本ベースにします。変更箇所は限られます。

あらゆるレーシング用品・パーツはお近くのN.S.C.(ナンカイスピードショップチェーン)へ!!

FOR GOOD MOTORCYCLE LIFE
南海部品株式会社
〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地2-6-28 ☎(06)6344-1581

RoadRace

ロードレース

▼ 細則1　ロードレース競技細則

1．適用の範囲……48
2．ロードレース……48
3．競技会と開催クラス……48
4．公式シグナル……49
5．参加資格……50
6．出場申し込み……50
7．参加受理……50
8．ゼッケン・ナンバー……50
9．ライダーの装備……51
10．出場受付け……51
11．出場車両の変更……51
12．車両および装備の検査……52
13．ブリーフィング……52
14．公式予選……52
15．決勝レース出場台数……53
16．スタート方法……53
17．スタートにおける反則……56
18．"ウェット"および"ドライ"レース……56
19．レース中の行為……57
20．停車指示……58
21．レースの一時停止……58
22．赤旗中断されたレースの再スタート……60
23．リタイヤ（棄権）……60
24．レース終了……61
25．優勝者、入賞順位、完走者および得点……61
26．レース終了後の車両保管と再検査……61
27．レースおよび大会の延期・中止等……62
28．抗議……62
29．違反に対する罰則……62
30．本規則の解釈……62
31．本規則の施行……62

▼ 細則2　'99全日本選手権大会特別規則

1．公　示……63
2．開催種目と競技会の日程……63
3．参加定員……63
4．追加のクラス……63
5．コースと最多出場台数……64
6．大会審査委員会……64
7．参加資格……64
8．出場料および共済会掛金（保険料）……65
9．ピット要員……65
10．スポーツ走行……65
11．レース当日の練習走行……65
12．ゼッケンナンバー……66
13．車両の変更……66
14．タイヤ使用本数制限……67
15．ピットロードのスピード制限……67
16．公式予選……67
17．タイムキーピングシステム……67
18．スターティンググリッド……67
19．レース距離……67
20．賞および得点……67
21．主催者の権限……68
22．本規則の施行……68
'99全日本ロードレース選手権開催日程……69

※'99年度の規則変更点は太字で示されています。

▼ 細則3　'99エリア選手権大会特別規則

1．公示……70
2．開催種目……70
3．追加のクラス……70
4．選手権……70
5．コース……70
6．大会審査委員会……70
7．参加定員……70
8．出場料および共済会掛金（保険料）……71
9．ピット要員……71
10．ゼッケンナンバー……71
11．車両の変更……71
12．タイヤの使用本数制限……71
13．公式予選……71
14．タイムキーピングシステム……71
15．スターティンググリッド……72
16．賞および得点……72
17．主催者の権限……72
18．本規則の施行……72
'99エリア選手権開催日程……73

細則 1

ロードレース競技細則

1 適用の範囲

以下に記す規則は、国内競技規則に基づき、すべての国内のロードレース競技会に適用される（世界選手権を除く）。

2 ロードレース

ロードレースとは、舗装され、完全にクローズドされたサーキットで行われるレースであり、国内競技規則およびこの細則により運営・管理される。ロードレースは、スプリントレースと耐久レースに区別される。

耐久レースの詳細については特別規則による。

スプリントレースの定義：①レースの総走行距離250km以下、もしくは走行時間２時間以下
②個人競技

耐久レースの定義：下記いずれかに合致すること。
①レースの総走行距離が250kmを超えるもの、もしくは走行時間２時間を超えるもの。
②２人もしくは３人の交代で行われる。

3 競技会と開催クラス

競技会と開催クラスは下記とする。

出場可能ライセンス	大会格式	昇格ポイント対象種目			その他承認公認レース（特別昇格は可能）
		自動昇格		申請昇格	
国際ライセンス（参加資格は別途定める）	全日本選手権	GP125 GP250 SB/S-NK			
国際ライセンス 国内ライセンス	エリア選手権	⇧GP125 ⇧GP250 ⇧SB/S-NK（国内ライセンス）		SP250 SP400	ネイキッド その他シングル／ツインレース等
国内ライセンス	地方選手権	⇧GP125 ⇧GP250		SP250 SP400	SP125 ネイキッド GP80 その他シングル／ツインレース等
フレッシュマンライセンス		⇧GP125		SP250 SP400 ストックバイク	SP125 ネイキッド GP80 MP12（ミニバイク） その他シングル／ツインレース等
ジュニア				GP80 その他	

自動昇格＝規定の得点を得た場合は、次年度は上級クラスへ自動的に昇格となる。
申請昇格＝規定の得点を得かつ申告をした者のみ昇格する。昇格申請は'99年１月31日消印有効。
特別昇格＝規定の得点に満たない者または自動／申告昇格対象種目以外のクラスで同等の成績を得た者が申告を行い、審査の上昇格する。

4 公式シグナル

ライダーは掲示される公式シグナルを確認する義務があり、そのシグナルに従わなければならない。

1）公式練習、予選および決勝レース中は、下記の公式シグナルが使用される。

(1) 寸　法

・シグナル用旗　60×80cm（**予告：'99年の世界選手権および2000年からの国内競技会では80cm×100cmとなる**）

・赤旗　80×100cm

(2) コントロールラインで使用される旗

・シグナルライトまたは国旗……レース・スタート

・白黒チェッカー旗……レース終了

・赤　旗……レースまたはプラクティスが中断され、すべてのライダーは最大限の慎重さをもってそれぞれのピットに復帰。赤旗はサーキットを閉鎖する場合にも用いられる。

・黒旗と白ナンバーを付した黒の合図板との併用……示されたナンバーを付けているモーターサイクルのライダーは次のラップでピット停止。

・チェッカーフラッグと青旗を同時に掲示……ファイナルラップにフィニッシュラインの手前でトップのライダーの前に他のライダーが走行している場合。トップのライダーはチェッカーであるが、直前を走行しているライダーはもう一周しなければならない事を伝える。

・オレンジボール旗と白ナンバーを付した黒の合図版との併用……示されたナンバーの車両は本人または他のライダーに対して危険を及ぼすような問題に見舞われている（主にオイルもれ）ので、早急にコース上から退去し安全な場所に停止する。
原則的にはコントロールラインで掲示されるが、必要に応じて各ポストにおいても掲示される。

(3) 各コーナーポストで使用される旗

・黄　旗……危険！
　静　止……追い越し禁止。
　振　る……減速・停止準備・追い越し禁止。

・赤色ストライプ付き黄旗……コース表面滑りやすい。

・赤　旗……レース停止。コントロールライン上で赤旗が出されたらすぐに提示する。

・緑　旗……先に出した合図の解除（コースクリア）。**先に白旗が提示されていた場合：追い越し禁止の解除。**

・白　旗……**ゆっくり動く車両、救急車などの介入車両がコース上にある。追い越しは禁止される。ペースカーを除くスロー走行車両の追い越しは認められる。**
　静　止……**この先に介入車両がある。**
　振　る……**ひとつ先のポストまでの間に介入車両がある。**

・青　旗……追い越しシグナル。1台またはそれ以上の高速マシンが貴方を追い越そうとしている。
　静　止……間もなく追い越される。
　振　る……追い越される寸前。

・黒旗と白ナンバーを付した黒のシグナル板との併用……示されたナンバーを付けているモーターサイクルのライダーはピット停止。
フライングによるピットストップの場合は、区別するためにPの文字をシグナル板に示す。

オイルもれの場合はすみやかに安全な場所で停止する。

2）ライトによるシグナル

スタートの際、国旗の代わりに、ライトによるシグナルを使うことができる。

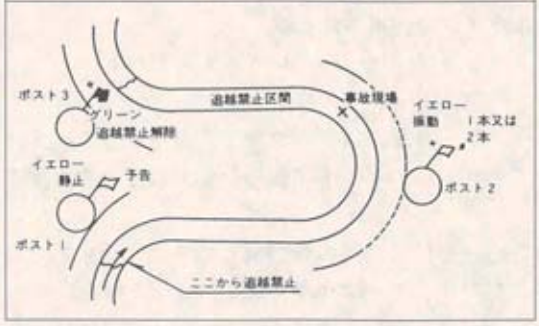
・黄色燈の点滅　黄旗と同意味。

・緑色燈　緑旗と同意味。

・赤色燈　赤旗と同意味、競技監督および監視ポストで使用。

ライトによるシグナルは、スタート時と特に夜間に行われるレースに使用されなければならない。

黄旗の出され方



5 参加資格

1）エントラントおよびライダー

エントラントおよびライダーは、1999年度版 MFJ 国内競技規則・第3章〔⑨競技参加者〕(31頁）に合致していなければならない。

6 出場申し込み

1）出場申し込み場所および期間は、大会特別規則の定めるところのものとする。

2）出場申し込み手続き

(1) 各部門とも所定の申し込み書に必要事項をすべて記入し、出場料および共済会掛金(保険料）を添えて大会事務局に提出しなければならない。

(2) 2クラス以上に出場を申し込む場合は、別々に申し込み書を提出しなければならない。

(3) 郵送の場合は、現金書留又は主催者の定める方法とし、締切り日当日の消印のあるものまでが有効となる。

(4) 電話による申し込みおよび締切り日以後の申し込みはいっさい受付けない。

（締切り日以降のエントリー料金返却に際しての郵送料、送金手数料は返却金から差し引かれる）

7 参加受理

1）必要事項を記入した出場申し込み書、出場料及び共済会掛金(保険料)を大会事務局が受理した者のみに対し、参加受理書が発送される。

2）いったん受理された出場料、共済会掛金(保険料)はいかなる理由があっても返却されない。公式予選を通過しなかった者も同様である。

3）大会が取り止めになった場合、また参加申請が拒否された場合のみ出場料、共済会掛金が返却される。(申し込み者が必要な手続きを怠った場合は、返却されない)

8 ゼッケン・ナンバー

1）主催者によってナンバーが割り当てられ、参加受理書に記入して通知される。

2）ゼッケン・ナンバーは、車両検査までに、規定の書体および色分けで記入しておかなければならない。

3）ゼッケン・ナンバーについては、車両検査時に検査され、判読しにくいと判断された場合には修正が要求される。ゼッケンの修正を要求された場合、速やかに修正を行い、再度車両検査を受けなければならない。

9 ライダーの装備

1）ヘルメット

(1) ヘルメットはフルフェイス型のもので、MFJが公認したものでなければならない。

(2) MFJの公認したヘルメットには、下記の認証マークが貼付されている。

(3) 競技会の車両検査受付け時に、ヘルメット検査が行われる。検査に合格しなかったヘルメットは、当該ライダーの安全上その使用を禁止する。

(4) MFJ公認ヘルメットであっても、MFJの公認マークの貼付されていないヘルメットについては、特別検査料（1,000円）を支払い、特別に検査を受け合格しなければならない。

2）ライダーの服装

(1) レーシングスーツ

① 革もしくは革と同等の素材（MFJの許可を得たもの）であり、MFJの公認したものでなければならない。

② MFJが公認したレーシングスーツには、公認マークが貼付されている。

③ 競技会の車両検査受付け時にレーシングスーツの検査が行われ、合格しなかった場合は、ライダー本人の安全上使用を禁止する。

④ 競技会使用時には公認時のパット類が装備されていること。

MFJが公認したレーシングスーツには、シルバー地の公認マークが付いていなければならない

(2) ブーツ・グローブ

革もしくは革と同等の素材（MFJの許可を得たもの）であり、フックなどが外部に突出していないものでなければならない。

(3) 競技中のライダーは、レーシングスーツの下に肌着を着用しなければならない。ただし、レーシングスーツに裏地がついている場合は着用しなくてもよい。

10 出場受付け

1）出場受付けの時間および場所は、公式通知に示される。

2）定められた時間内に、必ず本人または参加者がMFJライセンス、参加受理書を提出して出場資格の確認を受けなければならない。

3）MFJライセンスまたは参加受理書の提示ができない者は、出場が認められない。

11 出場車両の変更

1）車両の変更は国内競技規則・第3章〔⑰ライダーおよび車両の変更〕（34頁）による。

2）車両変更の申請は、同部門・同クラスの車両に限られ、手数料5,000円を添付して大会事務局に申請しなければならない。

12 車両および装備の検査

1）車両検査は、公式通知に示されたタイムスケジュールに従って、パドック内の車両検査区域において行われる。

2）車両検査のための車両は、ライダー本人が持参し、必ずタイムスケジュールに示された時間内に検査を受けなければならない。これ以後の検査は、競技監督が不可抗力な事情によるものとして特別に認めた場合以外は行われない。

3）ライダーは、車両仕様書を提出し、装備品一式の検査を受けなければならない。

4）一大会において同一車両を複数のライダーが使用する事はできない。

5）同一車両で複数の種目へのエントリーはできるが、競技運営進行上支障をきたさないことを条件とする。

6）車両検査時持込み台数は、地方選手権および地方大会は出場１レースにつき１台に限られ、**エリア選手権**・全日本選手権は２台までとする（Tカーは同一メーカーに限る）。

7）車両検査において、規則違反または安全上出場が不適当と判断された車両は、公式予選を含むいっさいの走行を拒否される。

8）テレメトリーは禁止される。ラップタイム計測装置はテレメトリーとみなされない。

9）音量測定は車検時に全車測定、もしくは予選通過車両全車に対して行なう。

10）主催者は、大会期間中、必要に応じて随時車両検査を行う権限を有する。

11）ガソリン

① 地方選手権大会／エリア選手権／全日本選手権においては２サイクル・４サイクルともにMFJの定める無鉛ガソリンを使用しなければならない。MFJの定める無鉛ガソリンの定義はMFJ技術規則による。

② 使用するガソリンおよびオイルはMFJ技術規則(145頁参照)に合致していなければならない。

③ 使用するガソリンは当該レースのサーキットで供給するものを使用しなければならない。供給されるガソリンの仕様は特別規則もしくは公式通知に記載される。

④ 承認競技会における使用ガソリンとその仕様並びに供給方法については各大会特別規則による。

13 ブリーフィング

主催者がブリーフィング（競技に関する要領説明）を行なう場合はライダー本人が必ず出席しなければならない。出席なき場合は罰則が課せられる場合がある。

14 公式予選

1）公式予選

(1) 公式予選は、原則として各クラス別に行われる。

(2) 公式予選の日程および時間は、特別規則に示される。

(3) 公式予選は、タイムトライアル方式とレース方式がある。
通常はタイムトライアル方式で行う。レース方式で行う場合は、特別規則または公式通知等に示される。

2）公式予選の内容

(1) レースに出場するすべてのライダーは、必ず公式予選に参加し、最終的に出場資格を取得しなければならない。

(2) 公式予選においては、競技役員による車両の安全チェックがなされた後にスタートし、定められた時間内であれば走行を中断し、また再スタートすることができる。

(3) 公式予選では、ラップタイムが測定されている。この測定で、ベストラップタイムが甚

だしく劣る者はたとえ定員内であってもレース出場資格を与えられない場合がある。

●予選通過基準タイム

全日本選手権：トップタイムの110%以内

エリア選手権以下：トップタイムの120%以内

複数の予選がある場合、予選通過基準タイムはいずれかの予選ごとに上記に示すタイムをクリアすれば、通過基準タイムを満たしたものとする。

(4) 公式予選において測定される各ライダーのベストラップタイムにより、大会特別規則に示されたレース出場台数を限度としてスタート位置が定められる。ベストラップタイムが同じ場合は、セカンドラップタイムによる。

(5) 各クラスの公式予選義務周回数は、特別規則に示される。なお、最初の1ラップ目は計測されないが、周回数には算定される。

(6) 2種目以上に出場するライダーは、出場全種目の公式予選に出場しなければならない。

(7) 予選が複数の組にわかれて行われる場合の予選順位

① 予選結果を総合タイム順によって決定する場合と予選組ごとの順位により決定する場合がある。

② 天候の変化等により路面状況に大きな差異が認められると競技監督が判断した場合には各予選組ごとの順位によって決定する。この決定に対する抗議は一切受けつけない。

③ 各予選組ごとのタイム順で決定した場合のグリッドは各予選組のトップのタイムと比較しその順番で振り分けることとする。

④ 各予選組ごとのタイム順で決定した場合にグリッド数によって端数が出る場合の優先順序は下記とする。(ウエイティングも同様)

例：グリッド数30台、予選4組

ⓐ 予選組上位7台で28台が選抜される。

ⓑ 残り2台を予選組の8位（4台）のなかから決定するには…

・各予選組の1位のタイムと8位のタイムを比較する。

・各予選組8位のものからタイム差の少ない順に2名を選出する

(8) 最終的な予選選出方法とスターティンググリッドは大会審査委員会の決定による。

(9) 予選通過者で出場不可能となった者は、すみやかにその旨を届け出なければならない。

(10) レース出場が不可能となったことを届け出たライダーがいた場合、予選タイムを基準として繰り上げる場合がある（スタート前チェック時間内に連絡のないライダーはリタイヤとみなす）。

(11) ウエイティング（繰り上げ出場）の方法

① 予選結果発表後主催者が規定する時間以内にウエイティングの願い書を提出する。

② 主催者が規定する時間内にリタイヤがいない場合は出走は不可となる。

③ 審査委員会による正式グリッド発表後は、一切の繰り上げ出場は認められない。

15 決勝レース出場台数

決勝レース出場台数は、各サーキットごとに定められ、特別規則に示される。

16 スタート方法

1）レースのスタート位置は、各ライダーに与えられているゼッケンナンバーとは関係なく、公式予選の結果によって決定される。

2）スタート方法は同時スタートとし、下記の3種類がある。通常はクラッチスタートにて行われる。

(1) 押しがけスタート

(2) クラッチスタート
(3) ルマン式スタート（耐久）

3）スタート位置は、すべてのライダーが正規のスタートラインからスタートするものとし、各ライダーに与えられたスタート位置による距離的、時間的なハンディキャップは一切考慮されない。

4）クラッチスタートの場合のスタート手順は以下の通りとする。

(1) **ウォームアップラップ**スタート約30分前

ライダーはスタート前チェックを受け、マシンとともにコース外のウエイティングエリアに待機する。

(2) **ウォームアップラップ**スタート15分前

サイティングラップのためにピットレーン出口が開放される。ピット出口で5分、4分、3分、2分、1分前のカウントダウンボードが掲示される。

(3) **ウォームアップラップ**スタート10分前

ピットレーン出口が閉鎖される。サイティングラップは義務づけられない。サイティングラップに参加しないライダーはウォーミングアップラップ開始の5分前まではオフィシャルの指示に従って自分のマシンをグリッドに押してゆくことができる。

ライダーが所定の位置に着くのを助けるために、コースサイドでオフィシャルがグリッド列を示すボードを掲げる。この段階で競技監督はレースを『ウェット』または『ドライ』のいずれかを選んで宣言する。この宣言はグリッド上にいるライダーとピットレーンにいるライダーに対してボードで示す。ボードが出されない場合は自動的に『ドライ』とみなされる。

グリッドに着く際には十分に徐行し、所定のグリッドに着かなければならない。

サイティングラップ中に技術的なトラブルに見舞われたライダーは、ピットに戻って調整またはマシンの交換（Tカー登録可能競技のみ。以後同様）を行うことができる。

この場合当該ライダーはピットレーンからウォームアップラップを開始しなくてはならない。

この段階でグリッド上のライダーはマシンの調整を行ったりコースコンディションに合わせてタイヤ交換を行うことができる。グリッド上でのタイヤウォーマーの使用は許可されるが、ジェネレーター、バッテリーまたはその他の電源をグリッドに持ち込むことは禁示される。

サイティングラップ開始後のグリットにおける給油は禁止される。

サイティングラップ開始後のグリットとピットにおいては、余熱以外のタイヤウォーマーの使用は禁止される。

すべての調整は『3分前』のボードが出るまでに完了しなければならない。このボードが掲示されたら、さらに調整を行うことを希望するライダーはマシンをピットレーンまで押してゆき、そこで調整またはマシンの交換を行うことができる。この場合当該ライダーはピットレーンからウォームアップラップを開始する。サイティングラップが開始されてからの給油は禁止される。

(4) ウォームアップラップ開始5分前ボード

グリッド上で5分前のボードが掲示される。

(5) ウォームアップラップ開始3分前ボード

グリッド上で3分前のボードが掲示される。

この時点でライダー1名につき1名のメカニックとそのライダーのために傘を持って立つ1名、主催者の認めるTVクルー、および必要なオフィシャル以外の人間は全員グリッドから退去しなければならない。**全てのタイヤウォーマー（グリッドおよびピット）は取り**

外さなくてはならない。

(6) ウォームアップラップ開始１分前ボード

グリッド上で１分前のボードが掲示される。(エンジンスタート)

この時点でライダー１名につき１名のメカニック以外の全員がグリッドから退去する。このメカニックはライダーが押しがけするのを助けその後速やかにグリッドから退出する。(車検で許可された外部スターターの使用が認められる)

(7) ウォームアップラップ開始30秒前ボード

グリッド上で30秒前のボードが掲示される。

全ライダーはエンジンが始動している状態でグリッドの所定の位置に着かなくてはならない。これ以降メカニックの援助は禁示される。マシンをスタートできないライダーはマシンをピットレーンに移動し、そこでさらにマシンが始動するよう試みるかマシンを交換することができる。このようなライダーはピットレーンからウォームアップを開始することができる。

(8) ウォームアップラップ開始（レースのスタート約２分前）

ウォームアップラップの開始を示すためにグリーンライトが点灯される。ライダーは各列ごとに役員の指示に従ってスタートし、１周走行し、その後ろにセーフティーカーが続く。集団が通過したらピットレーンで待機していたライダーはウォームアップラップに加わることが許可され

ウォーミングアップ走行が開始されたら各ポストはライダーに旗の掲示位置を確認させるためにグリーンフラッグを掲示する。

グリッドに戻ってきたらライダーはモーターサイクルのエンジンを始動したまま、フロントホイールをグリッドポジションを示すラインに合わせ、所定の位置につかなければならない。グリッド最前列の前には赤旗を持ったオフィシャルが立つ。

セーフティーカーが到着した後でグリッドに戻ってきたライダーはピットに導かれ、ピットからレースをスタートする。

ウォームアップラップ途中でトラブルに見舞われたライダーは、ピットレーンに戻って修理またはマシンの交換ができる。

グリッドでエンジンをストールさせたライダーまたはその他のトラブルに見舞われたライダーは、モーターサイクルにまたがったままの状態で腕を上げる。その方法によって意図的にレースのスタートを遅らせることは許されない。

グリッドの各列が整列したらオフィシャルは担当する列が整列したことを示すためにグリッド列ボードを降ろす。ある列のライダーがエンジンをストールさせたり、または他のトラブルに見舞われているときにはその列のボードは降ろされない。すべてのボードが降ろされて、セーフティーカーが戻ってきたら、グリット後方に待機するオフィシャルがグリーンフラッグを振る。

その後スターターはグリッド前方で赤旗を掲示するオフィシャルにコースサイドに歩くよう指示を出す。

(9) レッドライトが点灯しその２～５秒後にグリーンライトが点灯しレースがスタートする。

フライングをしたライダーに対しては30秒間のタイム加算もしくはピットストップのペナルティが与えられる。ペナルティは当該ライダーのピットクルーにも通達されなければならない。

グリーンライトが点灯された後で、マシンがストールした場合、オフィシャルはエンジンがかかるまでそのマシンをコースに沿って押すことを補佐する。それでも始動しない場合にはオフィシャルの指示に従ってマシンをピットレーンに押して行かなければならない。ピットレーンでは当該ライダーのメカニックがエンジン始動させるために援助するこ

ととマシンを交換することが許可される。

ライダー達の集団がピットレーン出口を通過したらオフィシャルはピットレーンに待機するライダーをスタートさせる。

トップを走行するライダーが1周目を終えてフィニッシュラインを通過した後ではレースが中断されない限りマシンの交換は許可されない。

スタート時の安全性を脅かすようなトラブルがグリッド上で発生した場合にはスタートを受け持つオフィシャルがイエローライトを点滅させ『スタートディレイド』のボードを掲示する。この場合ライダーはエンジンを停止させなければならない。各ライダーについて1名のメカニックがエンジン始動を補佐するためにグリッドに立ち入ることが許可される。

スタート手順は『1分前』ボードの段階から再開され、ライダーは追加のウォームアップラップを1周走行し、レース周回数は1周減算される。

※サイティングラップスタートの時間、グリッド列ボードの配列（隔列の場合もある）、またはその他の手順について省略する場合がある。この場合、各特別規則ならびに公式通知に示される。

17 スタートにおける反則

1）スタートラインについた車両およびライダーは、スタート用意からスタート合図が出されスタートが終了するまでスタート合図の統制下にある。

2）スタート合図が行われる前に自分のスタートポジションから前進した場合（**フロントホイールスピンドルが各自のスタートラインより前進した**）は、競技監督の決定により、下記いずれかのペナルティが科せられる。

(1) 競技結果への30秒の加算。

(2) ピットストップ

① 所定の場所での一旦停止

② 当該ライダーに黒旗と黒のシグナル板にPの文字とゼッケンナンバーを付したペナルティボードを掲示する。

③ 当該ライダーが停止指示を出したのちに停止しなかった場合、失格となる。

④ 同時に複数のフライングが発生した場合、原則的に一周ごとに停止させる。停止の順番は予選タイムに基づきタイム順に停止の指示を出す。ボードは複数同時に掲掲示する場合もある。

⑤ ピットストップする前に赤旗中断で再レースになった場合、再レース開始後停止することを要求される（30秒加算の場合もある）。ペナルティを抱えたまま再レースのスタートでもフライングをした場合、当該ライダーは、失格となる。

3）ピットクルーがスタートの規則に従わなかった場合も反則とみなされ、当該ライダーに1分間もしくは失格のペナルティが科せられる。

4）ペナルティは、当該ライダーのピット要員にただちに通告されるが、判定に対する抗議は一切受付けられない。

18 “ウェット”および“ドライ”レース

1）すべてのレースはウェットかドライに分けられる。グリッド上で、ボードが掲示される。

ボードが掲示されない場合にはレースは自動的にドライとなる。この分類の目的は、ライダーにレース中天候状況の変化による影響があることを示すためである。

2）ドライレース

ドライレースと分類されたレースは天候状況が路面状態に影響を及ぼし、ライダーがタイヤ交換を望む可能性があると競技監督が判断した場合に中断される。

3）ウェットレース

ウェットレースと分類されたレースは、変化して行く状況、またはウェットの状況で通常開始され、天候の理由により中断されることはない。タイヤ交換を望むライダーはレース中ピットに入りタイヤ交換する。

4）すべての場合において、最初にレースが天候上の理由により中断された場合、再スタートは自動的に“ウェット”レースとなる。

19 レース中の行為

1）走行中の遵守事項は、国内競技規則・第3章〔⑩競技参加者の遵守事項〕（31頁）のほかに次による。これに違反した場合罰則が科せられる。

(1) ライダーは、指示を伝えるフラッグシグナルに従わなければならない。

(2) もしライダーがコースアウトしたら、ライダーは、オフィシャルが指示した場所または、そのライダーが有利にならないような場所からレースに復帰することができる。

※この際オフィシャルは下記の補助ができる。

・マシンを起こす補助。

・修理・調整が行われている間マシンを支えている。

・ライダーの再スタートを補助する。

(3) リタイヤする場合、ライダーは自分のマシンをオフィシャルに指示された安全な場所に止めなければならない。

(4) もしライダーがレースからリタイヤを余儀なくされるようなマシントラブルにあった場合、そのライダーは遅いスピードでピットまで戻ろうと試みずに、コースアウトしてオフィシャルの指示に従い、安全な場所にマシンを止めなくてはならない。

(5) コース上にオイル等の液体をまき散らす恐れのあるようなトラブルにあった場合、そのライダーはピットまで戻ろうと試みずに、コースアウトして安全な場所にマシンを止めなければならない。

又、停止後再スタートを希望する場合はオフィシャルの確認を必要とする。

上記に違反した場合、最低罰金10,000円以上の罰則が科せられる。

(6) 修復作業のためにゆっくりと戻るライダーは、できるかぎりピット設置側を走行しなければならない。

(7) コース外側より、作業もしくは工具・部品等の援助を受けてはならない。この場合は失格とされる。

いかなる場合でも、逆方向への走行あるいは規定外のコースを走行してはならない。これに違反した場合は罰則が科せられる。

(9) レース中（予選中を含む）直線部分では前車を追い越すためあるいは後車のスリップ・ストリーミングを外す目的以外で、進路を著しく変更することは禁止される。

2）ピット

ピットとは車両の修理、調整、部品交換、燃料補給などの作業を行うことを目的に、ライダーに与えられた区域である。

3）ピットイン

(1) ピットインする車両のライダーは、ピットロード入口手前よりピット側に車両を寄せ、手または足でピットインの合図を行ったのち、安全を確認してピットロードを徐行しなければならない。

ピットエリア（停車区域）を走行することは禁止される。

(2) ピットインする車両のライダーは、自己のピットにできるだけ近いピットロードからピットエリアに入り、できるだけ自己のピットに近づけて車両を停車させなければならない。

(3) ピットインしてピットエリアに入った車両及び当該車両のライダーやピットクルーは、ピットロード及びピットエリアにおいて他の車両の通過を妨げてはならない。

(4) ピットインの際、自己のピット前を通り過ぎて停車した車両のライダーは、競技役員の承認を得て、当該車両のライダーおよびピットクルーによって押し戻し、自己のピットにつけることができる。

4）ピットアウト

(1) ピットロードにおいてはピットインしてくる車両に優先権がある。

(2) ピットロードに出てコースに復帰するライダーは、ピットロードを出て最初のコーナー出口に達するまで、コースピット側に沿って走行しなければならず、その間、後方から近づく車両の走行を妨げてはならない。

(3) ピットでエンジンを止めたライダーは、メカニックの補助を受けてマシンを再スタートすることができる。

5）ピット作業

(1) レース中、車両の修理、調整、部品交換は、ピットに準備してある部品と工具によって行わなければならない。給油中は、必ずエンジンを停止しなければならない。

(2) ピット区域内にオイルをこぼしたり、汚したりした場合は、安全上ただちに清掃しなければならない。

6）ピット作業人員

(1) 大会の格式によって登録できるピットクルーの人数が大会特別規則に示される。

(2) レース中にピットインした車両に対しての作業は、登録した2名のメカニックと、その車両のライダーの計3名だけに限られる。（全日本選手権は細則2全日本選手権特別規則〔⑨ピット要員〕参照）（65頁）

(3) ライダーに対するピットクルー（メカニック、ピットサインマンおよびヘルパー）の合図は、大会競技役員の使用する合図旗にまぎらわしいものであってはならない。また主催者により定められたピット区域またはピットサインエリアのみで合図を送ることができる。

(4) ピット作業を行う者は、すべてピットクルーライセンス所持者で、大会への参加申請がなされた者でなければならない。大会当日の追加は一切認められない。ただし参加申請がなされている者の変更は認められる（変更料1,000円）。

(5) ピットクルーは競技期間中を通じて、すべて大会競技役員の指示に従わなければならない。ピットクルーが諸規則に違反した場合の責任は、そのピットクルー担当のライダーに帰属し、罰則が科せられる。

20 停車指示

1）レース続行が危険とみなされるライダーまたは車両について、競技監督は、大会審査委員会の同意を得てピットインを命じるか、レースから除外することができる。

2）天災、大事故等の不慮の事態が発生した場合は、競技監督は、赤旗によって全ライダーに対し、停止を指示することができる。

21 レースの一時停止

競技監督が天候上の理由、あるいはそのほかの理由からレースを中断することを決定したら、**1）赤旗を掲示する。2）ペースカーを導入する。の2つの方法のいずれかを選択することができる。**

1）赤旗を掲示する場合

(1) 赤旗がスタートラインとすべてのマーシャル・ポストで掲示される。ライダーはただちにスローダウンし、ピットレーンに戻らなくてはならない。当該レースの結果は前の周を終えた時点でのものとされる。

したがって、結果はレースを続行していたライダー全員が、赤旗が掲示されずにフルラップを完了した時点でのものとされる。

(2) トップのライダー、およびトップのライダーと同じ周回数を走っていた残りのライダー全員が3周未満しか走行していないことを結果が示した場合、当該レースは無効とされ、まったく新たにレースが行われる。もしレースの再スタートが不可能だと判明した場合、このレースは中止になったと宣言される。

(3) トップのライダー、およびトップのライダーと同じ周回数を走っていた残りのライダー全員が3周以上、しかし本来のレース距離の2/3未満（小数点以下切り捨て）であった場合、レースの最終結果は二つのレースの周回数とタイムを合計して出される。もしレースの再スタートが不可能だと判明した場合、ポイントは半分与えられる。

30周のレースの場合の例：

トップのライダーは9周目を終えて10周目に入ったが、その他のライダー全員が9周目を終えていない時点で赤旗が掲示された場合、レース結果は8周目を終えた時点でのものとされ、セカンド・ヒートは22周となる。

トップのライダー、およびトップのライダーと同じ周回数を走っていた残りのライダー全員が9周目を終えて10周目に入っていた時点で赤旗が掲示された場合、レース結果は9周目を終えた時点でのものとされ、セカンド・ヒートは21周となる。

(4) トップのライダー、およびトップのライダーと同じ周回数を走っていた残りのライダー全員が本来のレース距離2/3（小数点以下切り捨て）を走行した場合、当該レースは完了したとみなされ、ポイントはフルに与えられる。

2）フルコースコーション（事故発生時に競技監督の判断によってペースカーが介入してレースを一時非競技化し、スロー走行で先導し、その間に事故処理を行う方法。）

(1) 競技監督がフルコースコーションを決定したら、イエローの回転灯を点灯したペースカーが定められた場所からコースに入る。この瞬間から、すべての監視ポストには白旗が不動表示され、全ての競技車両はペースカーを先頭に一列縦隊に並ばなければならない。追い越しは禁止される。

※ペースカーは原則として2台であるが大会によっては1台の場合もある。ペースカーには（PACE CAR）と記入されており、イエローライト（黄色の回転灯）とブルーライト（青の回転灯）を屋根に装備されている。

(2) フルコースコーションをライダーに通達するために“ペースカー（PACE CAR)”ボードがコントロールライン上に提示される。

(3) フルコースコーションの間にピットインすることは許可される。フルコースコーション中にピットアウトする場合は、ピットレーン出口にあるグリーンライトが点灯されている間にコースインすることが出来る。ペースカーの後ろに並んだマシンの列の、最後尾のマシンがピットレーン出口を通過後10秒間グリーンライトが点灯する以外は、ピットレーンはレッドライトで閉鎖される。ピットアウトできなかったライダーは、次のグループが通過後のグリーンライトまで待たなければならない。

(4) 競技監督がペースカーの呼び戻しを決定後、ペースカーはイエローライト・ブルーライトの両方を点灯したままコースを一周する。ペースカーは定められた位置から退出し、所定の位置へ戻る。

同時に定められた監視ポストからグリーンフラッグが振動表示され、この時点からフル

コースコーションは解除され、レース状態に戻る。

※ペースカーの所定の位置は“ペースカー（PACE CAR)”と鮮明に書かれたイエローの反射ボードをコース脇に置くことによって示される。

(5) フルコースコーション中の走行ラップもレース周回数として計算される。

(6) フリープラクティス中に、ペースカーを使用したフルコースコーションの練習を行う場合がある。

※アンダーラインの位置ならびにペースカーの数などの詳細については各大会の特別規則または公式通知に示す。

22 赤旗中断されたレースの再スタート

レースが再スタートされる場合、再スタートはコース・コンディションが許すかぎり早く行われなくてはならない。ライダーがピットに戻りしだい、競技監督は新たなスタート時刻を発表する。このスタート時刻は状況が許すかぎり最初の赤旗が掲示されてから30分以内に設定される

1）競技結果が2周以下の場合の再スタートには下記各項が適用される。

(1) 全ライダーがスタートできる。

(2) マシンは修理・給油ができる。

(3) 転倒車両を使用する際には車検長の許可を必要とする。

(4) 登録され車検に合格しているTカーに交換できる。

(5) 周回数は原則的にもとのレースと同じとする。

(6) グリッドポジションは本来のレースと同じとする。

(7) 再スタートできないライダーのグリッドはそのまま空席とする。

(8) スタートの手順は通常にサイティングラップから始める。

2）競技結果が3周以上2/3（小数点以下切り捨て）未満の場合の再スタートには下記各項が適用される。

(1) 前回のレースでトップの周回数の2/3（小数点以下切り捨て）を走行しているライダーだけが再スタートできる。

(2) 第2レースが開始される前に、第1レースの結果が公示されなくてはならない。

(3) 転倒車両を使用する際には車検長の許可を必要とする。

(4) マシンは修理・給油ができる。

(5) 登録され車検に合格しているTカーに交換できる。

(6) 第2レースの周回数は、本来のレース距離を満たすために必要な周回数とする。（前回のレース結果の周回数に基づく）

(7) グリッドポジションは第1レースの結果に基づく。

(8) レースの最終結果は、二つのレースの周回数を合算し、最大数の周回のライダーが優勝者となる。周回数が同数の場合、二つのレースのタイムを合計したタイムによって順位が決定される。

23 リタイヤ（棄権）

1）リタイヤと停止は、国内競技規則・第3章〔⑲競技〕(34頁）による。

2）ライダー本人が負傷その他の理由でリタイヤ届を提出できないときには、競技役員の判定によりリタイヤと認めることができる。

3）ピット以外の地域でリタイヤする場合、ライダーは車両をレース（または予選）終了まで競技役員の管理下におかなければならない。ただし、競技役員から車両移動を指示された場合は、これに従わなければならない。

24 レース終了

1）トップのライダーにチェッカーフラッグが掲示された後、引き続き後続ライダーにも特別規則に示す時間掲示される。この時間が経過した時をもってレース終了となる。
※原則的にコース1周の距離1kmにつき1分とする。

2）ファイナルラップにフィニッシュライン手前でトップのライダーのすぐ前に他のライダーがいる場合、スタート・フィニッシュマーシャルは同時にチェッカーと青旗を掲示する。これはトップを走行するライダーはレースを終了するが、そのすぐ前を走っているライダーはファイナルラップを完走しチェッカーフラッグを受けなければならないということを意味する。

3）トップを走行するモーターサイクルが、所定の周回数を完了する前にレース終了の合図が出された場合、当該レースはその時点で終了したものとみなされる。
何らかの理由によって、レース終了の合図が遅れた場合でも、レースはそれが本来終了する時点で終了したものとみなされる。

25 優勝者、入賞順位、完走者および得点（ポイント）

1）優勝者

(1) 優勝者は規定の距離（周回数）または時間を完走して最初にフィニッシュライン（コントロールライン）を通過したライダーである。

(2) 写真判定が用いられる場合には勝者の決定はフロントホイールの先端がフィニッシュラインを最初に通過した方を有利とする。

(3) 優勝者がフィニッシュラインを通過したら他のライダーはその時点で走行している周回を終え、フィニッシュラインを通過したら終了となる。

2）入賞者および順位の優先順位

優先順位：

1.チェッカーを受けた完走者の中から周回数の多い順に決定される。同周回数の場合はフィニッシュラインの通過順位による。

2.チェッカーを受けなかった完走者を周回数の多い順に決定する。同周回数の場合はコントロールライン通過順位による。

チェッカーは優勝者がフィニッシュラインを通過したのち特別規則に示す時間、フィニッシュラインで掲示される。

3）完走者

優勝者の周回数の75%（少数点以下切り捨て）以上を走行したライダー。

4）得点

得点は、国内競技規則・第3章〔㉔公式得点〕(35頁）によって与えられる。

26 レース終了後の車両保管と再検査

1）上位入賞車両は、所定の位置より競技役員の誘導に従って車両保管区域へ入らなければならない。

2）上位入賞車両は、音量測定およびエンジンを分解して排気量を測定するほか、規定を越える改造などについて再検査を行うことがある。

3）上位入賞車両は、暫定結果発表後30分間保管される。
地方選手権においては、保管時間を特別規則で定める場合がある。

4）燃料検査

燃料検査の手順

(1) 燃料検査は各大会の審査委員会が必要と認めた場合実施できる。

(2) 燃料検査を行う対象クラス、ライダーは審査委員会が決定する。
(3) 燃料テストは審査委員会が必要と認めた場合レース期間中いつでも行うことができる。
(4) レース終了後に燃料タンク内に検査に必要な量が残っていなければならない。
(5) 各分析ごとに、それぞれ検査に必要な量のサンプルを2サンプル摂取する。
ひとつは検査用、ひとつは保管用として封印され、当事者によってサインが施され、主催者が保管する。
潤滑油を混合した場合は混入したオイルも添えて提出しなければならない。
車検にて判別できない場合はMFJ指定の機関にて分析を依頼し検査する。
サンプルはエントラントに提出義務があり、その検査の費用は自己負担とする。
(6) 結果が不合格であった場合、当事者は本人の費用負担によってMFJ指定の別の機関にて保管用サンプルの分析を依頼することができる。
(7) 分析の費用負担は下記の通り
① 大会審査委員会の決定により、特定の大会もしくはクラスに検査を行う場合。
・最初の検査の費用は主催者が負担する。
・結果が不合格で当事者が再度検査を要求する場合は当事者が負担する。
② 抗議が出され特定のライダーの検査をする場合は抗議者が費用を負担し、検査の結果違反が立証された場合は返却される。
③ 検査の結果違反が立証された場合は違反者が検査料を負担しなければならない。
(8) 競技結果
サンプル分析の結果、違反が立証された場合MFJスポーツ委員会に報告され、罰則が科せられる。また、当日受領した賞典等は返却しなければならない。
5）出場者は、車両保管解除と同時に、保管車両を速やかに引き取らねばならない。主催者は車両保管解除発表後、保管車両の責任は一切負わない。

27 レースおよび大会の延期・中止等

1）大会は、原則として本規則に基づいて発表した日程から変更または延期されることはない。
2）レースまたは大会が参加申し込み後に中止された場合、参加者が支払った出場料、共済会掛金は返還されるが、他の一切の損害賠償を主催者に請求することはできない。

28 抗議

1）抗議は、国内競技規則・第3章〔㉗抗議〕(37頁）による。
2）車両の分解検査に要した費用は、その抗議が不成立の場合は抗議提出者、成立した場合には抗議対象者が支払わねばならない。この車両の分解等に要した費用は車検長が算定する。
3）ガソリンに関する抗議の場合の保証金は100,000円とする。

29 違反に対する罰則

競技規則による違反行為に対する罰則は、国内競技規則・第3章〔㉙違反行為に対する罰則〕(38頁）による。

30 本規則の解釈

規則および競技に関する疑義は、事務局あてに質疑をすることができる。なお、この回答は、大会審査委員会の解釈、決定が最終的なものとして示される。

31 本規則の施行

本規則は、1999年1月1日より有効となる。

細則2

'99全日本ロードレース選手権大会特別規則

1 公　示

全日本ロードレース選手権はFIM国際スポーツ憲章に基づいたMFJ国内競技規則と全日本選手権シリーズを通じて、共通した項目をまとめた本大会特別規則と各大会の特別規則に基づきFIM・MFJ公認の国際格式競技会として開催される。

2 開催種目と競技会の日程

1）開催種目は下記とする。

GP125
GP250
スーパーバイク（スーパーネイキッド混走）

2）レースウィークの日程

① 全日本選手権は下記日程で開催される。

月～木曜日：当該大会にエントリーしている選手は走行してはならない。これに違反した場合罰則が適用される。
金曜日：スポーツ走行　各クラス最低30分×2回
土曜日：公式予選　　各クラス最低20分×2回
日曜日：午前　ウォーミングアップラン　各クラス10分
10：30～16：00以内　決勝レース

3）競技会の日程は巻末（69頁参照）に示す。

3 参加定員

エントリーの上限

もてぎ、SUGO、TI	48名
鈴鹿	52名（※200kmレースのスーパーバイクのみ104台）
MINE	43台
筑波（2組）	64台

4 追加のクラス

1）全日本選手権には、エリア選手権が必ず1種目以上併催される。
2）その他の併催レースを追加する場合は、全日本／エリア対象クラスを含めて、全体で6クラスとする。

3）上記併催種目の設定に際しては、パドック並びに全日本の予選、決勝に影響しないことを条件とする。

5 コースと最多出場台数

コースはMFJが国際公認もしくは準国際公認したコースとする。
各施設ごとの同時出走最多台数は以下の通り。

施設	決勝	予選
SUGO	40	48
筑波	32	48
もてぎ	40	48
鈴鹿	44	48
TI	40	52
CP MINÉ	36	43

6 大会審査委員会

1）大会審査委員長はMFJロードレース委員会の委員、もしくは主催者が指名する1級競技役員でMFJが任命する。
2）任命された審査委員長が定時までに会場に到着しない場合は、次席のものがこれにあたる。
3）審査委員長は必要に応じてエントラントの代表者を指名し、同席させることができる。

7 参加資格

1）スーパーライセンス（年間資格）
(1) 全日本選手権のどの大会にもエントリーが受け付けられるのは、スーパーライセンス取得資格を得てＭＦＪに登録した者である。
(2) '99スーパーライセンスの取得資格
① '98全日本ロードレース選手権にてポイントを獲得した者。
② 上記以外のライダーにスーパーライセンスが与えられるケースは下記である。
・'99トップエントラントチームが起用し、全戦参加することを契約したライダー（国際ライセンス所持者）。※年間契約チームの登録には別途定める。
・'99年間契約チームが起用し、全戦参加することを契約したライダー（国際ライセンス所持者）。
・ワイルドカードで出場し、ポイントを得たライダー（選択可）。
・プロモーション実行委員会が特に認めた者（GPライダー等・他FMNライダー含む）。
※スーパーライセンス資格の者で、年度内に降格（スーパーライセンス資格の辞退）を希望する者は、MFJに申請することができる。ただし、ポイントを得ていない事を条件とする。
(3) 予告事項
① '99年の全日本ロードレース選手権でポイントを得られなかった者は、2000年のスーパーライセンス資格を失う。
② '99年6月までの開催状況によって、2000年のスーパーライセンス資格数の制限が必要となった場合は、取得人数を制限する場合がある。
③ '99年度各エリア選手権の年間ランキング上位3名の者には、2000年のスーパーライセンス資格が与えられる（選択可）。
2）ワイルドカード（スーパーライセンス所持者以外の1大会ごとの参加資格）
(1) ワイルドカードの出場枠

① 大会ごとにスーパーライセンスの所持者がサーキットごとに定められたエントリー受付の上限に満たない場合、各主催者は地域のエリア選手権の成績優秀者（国際ライセンスに限る）から、ワイルドカードエントリーを受け付けることができる。

② '99年度全日本選手権各大会の、ワイルドカード選抜に該当する地域区分は、下記とする。

'99全日本選手権	該当する'98エリア選手権	該当する'99エリア選手権
SUGO大会	SUGOエリア選手権	ノースエリア選手権
筑波・もてぎ大会	関東チャレンジカップ	イーストエリア選手権
鈴鹿・TI大会	鈴鹿エリア選手権 TIエリア選手権	ウエストエリア選手権
MINE大会	西日本エリア選手権 九州エリア選手権	サウスエリア選手権

(2) ワイルドカードの優先順位

① '99全日本ロードレース選手権第1戦～第5戦

第1優先：'98年度のエリア選手権ランキングの上位順6名。排気量区分は自由であるが、当該クラスのランキングが優先される。

第2優先：'99年度のエリア選手権当該クラスのランキング上位順で6名。

第3優先：上記以外は主催者が任意に選択する。

② '99全日本ロードレース選手権第6戦～第10戦

第1優先：'99年度のエリア選手権で当該クラスのランキング順で6名。

第2優先：'98年度のエリア選手権ランキングの上位順6名。排気量区分は自由であるが、当該クラスのランキングが優先される。

第3優先：上記以外は主催者が任意に選択する。

8 出場料およびMFJ共済会掛金

出場料：1クラス　14,000円
共済会掛金(保険料)　1人　3,000円
合　計：17,000円

9 ピット要員

1）1ライダーに対して6名のピットクルーが認められる。いずれもピットクルーライセンスが必要であり、当日の変更は可能であるが追加は認められない。

2）ピットエリアではライダー1名について3人のピットクルーが作業できる。

10 スポーツ走行

1）スポーツ走行は各クラス（予選組）ごとに最低下記時間が設定され、MFJライセンスにて走行できる。

無料のスポーツ走行時間：30分間
有料のスポーツ走行時間：30分間

2）天候等やむを得ない理由で短縮または中止される場合がある。

11 レース当日の練習走行

1）レース当日の朝、各クラスごとに最低10分間の練習走行が行われる。

2）天候等やむを得ない理由で短縮または中止される場合がある。

12 ゼッケンナンバー

1）前年度全日本選手権の有得点者**で当該年度のスーパーライセンス申請者には、**当該クラスのランキング順位に従って年間指定ゼッケンナンバーが与えられる。

2）その他のライダーには大会ごとに主催者からゼッケンナンバーが指定される。

3）ランキング順位に従って定められたゼッケンナンバーを変更する場合はスポーツ委員会にて許可が必要であり、別途定める料金を必要とする。

4）全日本選手権ゼッケン（ナンバープレート）規定

① モーターサイクルのフロントと両サイドにナンバーが装着され、観客と競技役員が明確に識別できるようにしなくてはならない。

② 文字およびバックグラウンドは、図Aに記載されている寸法に適合していなくてはならない。

③ 文字の色は黒か白とし、バックグラウンドの色と判別しやすいようにされなくてはならない。※S-NKのX-Formulaは白地に赤文字、NK-1は赤字に白文字とする。

④ バックグラウンドは最低限、下記の面積が単色でなければならない。蛍光色は禁止される。

・幅＝275㎜　　・高さ＝200㎜

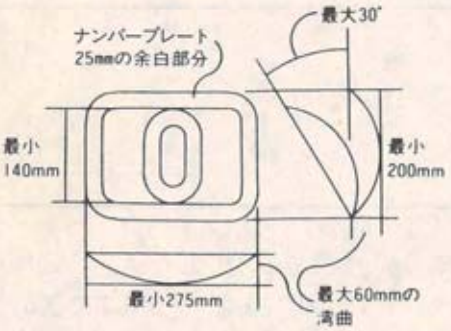
⑤ ナンバープレートは、垂直から30°以上傾斜してはならない。

⑥ ナンバープレートは、湾曲による突出が水平方向からも垂直方向からも60㎜以上あってはならない。

⑦ 文字の周囲には最低25㎜幅の余白が残されていなくてはならない。

⑧ ナンバーの明瞭度に関して議論が持ち上がった場合、車検長の決定を最終のものとする。判別しにくいと判断された場合はすみやかに修正しなければならない。

図A



図B（基準の書体）

13 車両の変更

1）公式予選ではライダーは複数の車両を使用してもよいが、これはそのライダーの名前でTカーとして登録され、車検に合格していることを条件とする。

2）公式車検終了後選手間でのマシンの交換はできない。

3）何らかの理由で、レースが停止されることになった場合、レースの再スタート前にマシンを交換する事が出来るが、そのライダーの名前でTカーとして登録され車検に合格していることを条件とする。

4）**レースがスタートした後のTカーとのマシン交換はトップの走者が1周目を終えてフィニッシュラインを通過するまでとする（赤旗中断されたレースの再スタートの場合を除く）。**

14 タイヤの使用本数制限

1）予選において使用出来るタイヤは2セットに制限する。
　① 雨天時のレインタイヤの使用本数の制限はない。
　② 「雨天時」とは路面が一部でも濡れている状況をいう。
　③ 「レインタイヤ」とはスリックタイヤ以外のすべてのタイヤをいう。カットスリックもレインタイヤとみなすが、カットスリックのレインタイヤ判定は競技監督が行なう。
2）予選のスタート前チェック時にペイントを行う。
3）予選終了後は制限しない。
※上記制限は1エントリーに対するものとし、Tカーも含み以上の本数とする。

15 ピットロードのスピード制限

大会期間中を通じてピットロードのスピード制限は85km/hとする。
違反した場合は罰則が科せられる。

16 公式予選

1）公式予選
(1) 予選
　① 予選は各クラス・予選組ごとに最低20分間を2回行う。但し、天候等やむを得ない理由にて短縮される場合がある。
　② 予選の同時出走最多台数は決勝レースグリッドの120%である。

17 タイムキーピングシステム

主催者の定める大会特別規則にて自動計測装置の取り付けを義務づけられた場合、これに従わなければならない。

18 スターティンググリッド

スターティンググリッドの数、配置は各大会の特別規則に示される。

19 レース距離

1）各クラスの決勝レースの距離を下記のように定める。

GP125	50km～130km
GP250	60km～130km
スーパーバイク	60km～250km

2）天候等やむを得ない理由によって上記の距離から短縮される場合がある。

20 賞および得点

1）賞の詳細については公式通知に示される。
2）得点は国内競技規則・第3章〔㉔公式得点〕(35頁）によって与えられる。
3）MFJのスポーツ国籍以外の選手については賞典は与えられるが、全日本選手権の得点が与えられない。(但し下位は繰上げない)

4）MFJグランプリ大会については上記の得点に3点が追加される。
5）全日本選手権のランキングは上記得点の総合計によって決定される。その他の詳細は全日本選手権ランキング決定基準（232頁）に示される。

21 主催者の権限

1）参加申し込みの受付に際して、その理由を示すことなく、参加者、ライダー、ピットクルーを選択あるいは参加を拒否することができる。
2）競技監督が必要と認めた場合、ライダーに対し、指定医師による健康診断書の提出を要求し、競技出場の健康上の理由による可否を最終的に決定することができる。
3）競技番号の指定、あるいはピット・ガレージの割り当て等にあたり、各参加者の優先順位を決定することができる。
4）やむを得ない理由により、公式プログラムの印刷に間に合わなかったライダーの氏名登録または変更について許可することができる。
5）すべての参加者、ライダー、ピットクルーおよびその参加車両の音声、写真、映像など報道、放送、放映、出版、ビデオ等に関する権利を有し、この権限を第3者が使用することを許可できる。

22 本規則の施行

本規則は、各競技会の参加申し込み受付日より有効となる。なお本規則に示されていない事項は国内競技規則による。

本規則は1999年1月1日より適用される。

1999年1月1日
全日本ロードレース選手権
大会事務局長

'99全日本ロードレース選手権開催日程

開催月日	大会名／開催クラス	周回数	出場申込先	出場申込期間
3月19日（金） 〜 3月21日（日）	MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第1戦 CP MINÉスーパーバイクレース 会場：セントラルパークMINÉサーキット ☎08375（8）0321	SB/SNK:26L GP250:22L GP125:18L	セントラルパークMINÉサーキット 〒759-2152 山口県美祢市西厚保町 ☎08375（8）0321	2月9日（火） 〜 2月18日（木）
4月30日（金） 〜 5月2日（日）	MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第2戦 SUGOスーパーバイクレース 会場：スポーツランドSUGO ☎0224（83）3111	SB/SNK:25L GP250:20L GP125:18L	SUGOスポーツクラブRR係 〒989-1324 ☎0224（83）3127	3月23日（火） 〜 4月1日（木）
5月14日（金） 〜 5月16日（日）	MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第3戦 筑波スーパーバイクレース 会場：筑波サーキット ☎0296（44）3146	SB/SNK:30L GP250:30L GP125:25L	（財）日本オートスポーツセンター 〒104-0041 東京都中央区新富1-9-6 新富一丁目ビル6F ☎03（3555）6051	4月6日（火） 〜 4月15日（木）
5月28日（金） 〜 5月30日（日）	MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第4戦 鈴鹿スーパーバイク200km 会場：鈴鹿サーキット ☎0593（78）1111	SB/SNK:35L GP250:17L GP125:15L	（株）鈴鹿サーキットランドSMSC事務局 〒510-0295 ☎0593（78）3405	4月20日（火） 〜 4月29日（木）
6月11日（金） 〜 6月13日（日）	MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第5戦 もてぎスーパーバイクレース 会場：ツインリンクもてぎ ☎0285（64）0001	SB/SNK:22L GP250:20L GP125:17L	ツインリンクもてぎレース事務局 〒321-3597 栃木県芳賀郡茂木町桧山120-1 ☎0285（64）0200	5月4日（火） 〜 5月13日（木）
8月20日（金） 〜 8月22日（日）	MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第6戦 SUGOスーパーバイクレース 会場：スポーツランドSUGO ☎0224（83）3111	SB/SNK:25L GP250:20L GP125:18L	SUGOスポーツクラブRR係 〒989-1324 ☎0224（83）3127	7月13日（火） 〜 7月22日（木）
9月3日（金） 〜 9月5日（日）	MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第7戦 鈴鹿スーパーバイクレース 会場：鈴鹿サーキット ☎0593（78）1111	SB/SNK:20L GP250:17L GP125:15L	（株）鈴鹿サーキットランドSMSC事務局 〒510-0295 ☎0593（78）3405	7月27日（火） 〜 8月5日（木）
9月17日（金） 〜 9月19日（日）	MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第8戦 筑波スーパーバイクレース 会場：筑波サーキット ☎0296（44）3146	SB/SNK:30L GP250:30L GP125:25L	（財）日本オートスポーツセンター 〒104-0041 東京都中央区新富1-9-6 新富一丁目ビル6F ☎03（3555）6051	8月10日（火） 〜 8月19日（木）
10月22日（金） 〜 10月24日（日）	MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第9戦 TIスーパーバイクレース 会場：TIサーキット英田 ☎08687（4）3311	SB/SNK:25L GP250:20L GP125:16L	TIサーキット英田全日本RR事務局 〒701-2612 岡山県英田郡英田町滝宮1210 ☎08687（4）3311	9月14日（火） 〜 9月23日（木）
11月5日（金） 〜 11月7日（日）	MFJグランプリスーパーバイクレースinもてぎ MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第10戦 会場：ツインリンクもてぎ ☎0285（64）0001	SB/SNK:22L GP250:20L GP125:17L	ツインリンクもてぎレース事務局 〒321-3597 栃木県芳賀郡茂木町桧山120-1 ☎0285（64）0200	9月28日（火） 〜 10月7日（木）

※各大会とも3日制：金曜日・公式練習／土曜日・公式予選／日曜日・決勝レース
※各大会ともFIM公認国際格式レース

'99世界選手権競技会および主要競技会の開催日程

開催月日	大会名／会場	開催クラス	出場申込先
4月23日（金） 〜 4月25日（日）	FIMロードレース世界選手権第2戦 マールボログランプリ・ジャパン 会場：ツインリンクもてぎ ☎0285（64）0001	GP500 GP250 GP125	ツインリンクもてぎレース事務局 〒321-3597 栃木県芳賀郡茂木町桧山120-1 ☎0285（64）0200
7月22日（木） 〜 7月25日（日）	FIM世界耐久選手権第4戦 スプライト鈴鹿8時間耐久ロードレース 会場：鈴鹿サーキット ☎0593（78）1111	SB／S-NK	（株）鈴鹿サーキットランドSMSC事務局 〒510-0295 ☎0593（78）3405
10月8日（金） 〜 10月10日（日）	FIMスーパーバイク世界選手権 SUGOスーパーバイク日本大会 会場：スポーツランドSUGO ☎0224（83）3111	SB	SUGOスポーツクラブRR係 〒989-1324 ☎0224（83）3127
7月4日（日）	SUGO6時間オープン耐久フェスタ 会場：スポーツランドSUGO ☎0224（83）3111	オープン（125cc以上）	SUGOスポーツクラブRR係 〒989-1324 ☎0224（83）3127
8月29日（日）	1999サマー・エンデュランス・カーニバル もてぎ7時間耐久 会場：ツインリンクもてぎ ☎0285（64）0001	オープン	ツインリンクもてぎレース事務局 〒321-3597 栃木県芳賀郡茂木町桧山120-1 ☎0285（64）0200
10月17日（日）	FUN&RUN! 2-Wheels <SUPERNAKED SUZUKA2時間耐久ロードレース> 会場：鈴鹿サーキット ☎0593（78）1111	S-NK （X-Formula・NK-1）	（株）鈴鹿サーキットランドSMSC事務局 〒510-0295 ☎0593（78）3405

※鈴鹿サーキットランド・スポーツランドSUGOへの郵便物は、郵便番号と宛名のみで届きます。

細則3

'99エリア選手権大会 特別規則

1 公　示

エリア選手権ロードレースはFIM国際スポーツ憲章に基づいたMFJ国内競技規則とエリア選手権レースの共通した項目をまとめた本大会特別規則と各大会の特別規則に基づきMFJ公認の国内格式競技会として開催される。

2 開催種目

① 参加資格：国際・国内（スーパーライセンス資格の者は参加できない）。
② クラス：GP125・GP250・スーパーバイク（S-NK含む）

3 追加のクラス

エリア選手権には併催クラスが追加されてもよい。

4 選手権

'99エリア選手権は下記4地域で開催される。
・ノースエリア選手権（SUGO・エビス）
・イーストエリア選手権（筑波・富士・もてぎ）
・ウエストエリア選手権（鈴鹿・TI）
・サウスエリア選手権(CP MINÉ・HSR九州・SPA直入）
※各エリア選手権の各クラスのランキング上位3名は、次年度のスーパーライセンス取得資格が与えられる（選択可）。

5 コース

コースはMFJが国内公認したコースとする。開催上限クラスはその施設の公認された上限クラスに限定される。

6 大会審査委員会

1）大会審査委員長は主催者が任命する。
2）任命された審査委員長が定時までに会場に到着しない場合は次席のものがこれにあたる。

7 参加定員

参加定員は定めない。

8 出場料および共済会掛金（保険料）

エントリー料金は主催者によって定められる。　共済会掛金（保険料）は3,000円

9 ピット要員

1）1ライダーに対して最大4名のピットクルーが認められる。いずれもピットクルーライセンスが必要であり、エントリー時に申請が必要であり、当日の変更は可能であるが追加は認められない。

2）ピットエリアではライダー1名について2人のピットクルーが作業出来る。

10 ゼッケンナンバー

ライダーには大会ごとに主催者からゼッケンナンバーが指定される。

1）国内ライセンスのプレートカラーはクラスごとに下記に定められる。

GP125	黒地に白文字	S-NK	X-Formula	白地に赤文字
GP250	緑地に白文字		NK1	赤地に白文字
スーパーバイク	白地に黒文字			

2）国際ライセンス（S-NKは除く）のプレートは全日本特別規則12—4）・66頁のプレートカラーの規定とする。

11 車両の変更

1）公式予選ではライダーは複数の車両を使用してもよいが、これはそのライダーの名前でTカーとして登録され、車検に合格していることを条件とする。

2）車検終了後の選手間でのマシンの交換は出来ない。

3）何らかの理由で、レースが停止されることになった場合、レースの再スタート前にマシンを交換することが出来るが、そのライダーの名前でTカーとして登録され、車検に合格していることを条件とする。

4）レース停止の場合を除き、マシン交換はレーススタート後トップのライダーが1周するまでとする。

12 タイヤの使用本数制限

1）予選・決勝を通じ使用できるタイヤは2セットとする。

① 雨天時のレインタイヤの使用本数の制限はない。

② 「雨天時」とは路面が一部でも濡れている状況をいう。

③ 「レインタイヤ」とはスリックタイヤ以外のすべてのタイヤをいう。カットスリックもレインタイヤとみなすが、カットスリックのレインタイヤ判定は競技監督が行う。

2）予選または決勝のスタート前チェック時にペイントを行う。

3）上記チェックの実施については主催者が定め、公式通知に公示する。

13 公式予選

公式予選は主催者により設定される。（最低時間は設けない）

14 タイムキーピングシステム

主催者の定める大会特別規則にて自動計測装置の取り付けを義務づけられた場合、これに従わなくてはならない。

15 スターティンググリッド

スターティンググリッドの数、配列は各大会の特別規則に示される。

16 賞および得点（ポイント）

1）賞の詳細については公式通知に示される。
2）得点は国内競技規則第３章〔㉔公式得点〕（35頁）によって与えられる。
3）耐久レースの場合は2倍のポイントがそれぞれのライダーに与えられる。ただしチームが3人からなる場合、レースの総距離あるいは総走行時間の20%以上を走ったライダーに得点が与えられる。
4）国内ライセンスで獲得する昇格ポイントは総合順位によって与えられる。
5）やむを得ず排気量クラスの混走を行う場合のポイントは，それぞれのクラスの予選出走台数から適用する。
6）国内ライセンスにて出場し優勝した場合は、国際ライセンスに昇格する権利を与えられる（当該年度中であればいつでも可）。
7）全日本選手権と同日併催されるエリア選手権クラスには、最低賞金が設定される（各大会特別規則告知）。

17 主催者の権限

1）参加者申し込みの受付に際して、その理由を示すことなく、参加者、ライダー、ピットクルーを選択あるいは参加を拒否することができる。
2）競技監督が必要と認めた場合、ライダーに対し、指定医師による健康診断書の提出を要求し、競技出場の健康上の理由による可否を最終的に決定することができる。
3）競技番号の指定、あるいはピット・ガレージの割り当て等にあたり、各参加者の優先順位を決定することができる。
4）やむを得ない理由により、公式プログラムの印刷に間に合わなかったライダーの氏名登録または変更について許可することができる。
5）すべての参加者、ライダー、ピットクルーおよびその参加車両の音声、写真、映像など報道、放送、放映、出版、ビデオ等に関する権利を有し、この権限を第3者が使用することを許可できる。

18 本規則の施行

本規則は、各競技会の参加申し込み受付日より有効となる。なお本規則に示されていない事項は国内競技規則による。
本規則は1999年１月１日より適用される。

1999年１月１日
エリア選手権
大会事務局長

エリアGP

各エリア選手権から選抜者による全国大会（エリアGP）を12月4日／5日に鈴鹿サーキットにおいて開催します。
エリアGPの各クラスの優勝者には下記の特典が与えられます。
・各クラス優勝者には2000年度のスーパーライセンス資格が与えられる。
・スカラシップ賞として各クラスの優勝者には翌年の全日本選手権に全戦参加することを条件に、優勝したクラスのマシン（同メーカー）の車両が贈られます。

SB/S-NK…ベースマシン（提供可能な車両に限る）
GP125/GP250…市販レーサー

エリア選手権開催日程

'99ノースエリアロードレース選手権開催日程

シリーズ	日程	会場	主催者	SUPERBIKE	GP125	GP250
第1戦	3月29日	スポーツランドSUGO	SUGO			○
第2戦	4月4日	エビスサーキット	エビス		○	○
第3戦	5月2日（全日本併催）	スポーツランドSUGO	SUGO		○	
第4戦	5月9日	スポーツランドSUGO	SUGO	○		
第5戦	5月30日	エビスサーキット	エビス			○
第6戦	7月18日	スポーツランドSUGO	SUGO		○	
第7戦	7月25日	エビスサーキット	エビス		○	
第8戦	8月22日（全日本併催）	スポーツランドSUGO	SUGO			○
第9戦	9月5日	スポーツランドSUGO	SUGO	○	○	
第10戦	9月26日	スポーツランドSUGO	SUGO			○

'99関東チャレンジカップロードレースエリア選手権開催日程（イーストエリア選手権）

シリーズ	日程	会場	主催者	SUPERBIKE	GP125	GP250
第1戦	3月7日	ツインリンクもてぎ（フルコース）	TRM			○
第2戦	3月14～15日	筑波サーキット	JASC	○	○	
第3戦	3月27日	富士スピードウェイ	ANCL	○	○	○
第4戦	4月10～11日	筑波サーキット	JASC	○		○
第5戦	5月8日	富士スピードウェイ	ANCL	○	○	
第6戦	5月15～16日（全日本併催）	筑波サーキット	JASC			○
第7戦	5月30日	ツインリンクもてぎ（東コース）	TRM		○	
第8戦	6月5～6日	筑波サーキット	JASC	○		
第9戦	6月12～13日（全日本併催）	ツインリンクもてぎ（フルコース）	TRM			○
第10戦	6月26日	富士スピードウェイ	ANCL	○	○	○
第11戦	7月10～11日	筑波サーキット	JASC		○	○
第12戦	7月31日	富士スピードウェイ	ANCL	○		○
第13戦	8月8日	ツインリンクもてぎ（東コース）	TRM		○	
第14戦	8月28～29日	筑波サーキット	JASC		○	
第15戦	9月12日	ツインリンクもてぎ（東コース）	TRM			○
第16戦	9月18～19日（全日本併催）	筑波サーキット	JASC		○	
第17戦	9月25日	富士スピードウェイ	ANCL	○		○
第18戦	11月6～7日（全日本併催）	ツインリンクもてぎ（フルコース）	TRM	○		

※主催者：TRM＝ツインリンクもてぎ／JASC＝筑波サーキット／ANCL＝アンクルレーシング

'99ウエストエリアロードレース選手権開催日程

シリーズ	日程	会場	主催者	SUPERBIKE	GP125	GP250
第1戦	2月14日	鈴鹿サーキット	鈴鹿		○	
第2戦	3月14日	鈴鹿サーキット	鈴鹿		○	○
第3戦	3月28日	TIサーキット英田	TI英田		○	
第4戦	4月10～11日	鈴鹿サーキット	鈴鹿	○		○
第5戦	4月25日	TIサーキット英田	TI英田	○	○	○
第6戦	5月9日	鈴鹿サーキット	鈴鹿	○		
第7戦	5月29～30日（全日本併催）	鈴鹿サーキット	鈴鹿		○	
第8戦	7月4日	TIサーキット英田	TI英田	○	○	○
第9戦	8月8日	TIサーキット英田	TI英田		○	○
第10戦	9月4～5日（全日本併催）	鈴鹿サーキット	鈴鹿			○
第11戦	9月25～26日	鈴鹿サーキット	鈴鹿	○	○	
第12戦	10月23～24日（全日本併催）	TIサーキット英田	TI英田			○
第13戦	11月7日	鈴鹿サーキット	鈴鹿			○
第14戦	12月4～5日（エリアGP）	鈴鹿サーキット	鈴鹿	○	○	○

'99サウスエリアロード選手権開催日程

シリーズ	日程	会場	主催者	SUPERBIKE	GP125	GP250
第1戦	2月21日	セントラルパークMINÉサーキット	CP MINÉ	○	○	○
第2戦	3月21日（全日本併催）	セントラルパークMINÉサーキット	CP MINÉ			○
第3戦	4月4日	SSRF SPA直入	SPA直入	○	○	○
第4戦	5月2日	HSR九州	HSR九州	○	○	○
第5戦	6月27日	SSRF SPA直入	SPA直入	○	○	○
第6戦	8月8日	セントラルパークMINÉサーキット	CP MINÉ	○	○	○
第7戦	9月19日	HSR九州	HSR九州	○	○	○
第8戦	10月31日	セントラルパークMINÉサーキット	CP MINÉ	○	○	○

'99エリアGP大会

日程	会場	主催者	SUPERBIKE	GP125	GP250
12月4～5日（エリアGP）	鈴鹿サーキット	鈴鹿	○	○	○

ロードレースにおける
2次災害防止について

最近転倒後に後続車にひかれる2次的な事故が多発しております。
転倒、もしくは故障で停止したときに2次事故防止に充分に気を配って行動して下さい。

転倒、又は故障停止したら

2次災害防止を基本的に

転倒したら2次災害の防止。つまり、後続車にひかれる、あるいは後続車を転倒させる等、事故の増大を防止するよう心がけて下さい。

まず逃げる

転倒したら、まず安全な所にできるだけ早く逃げて下さい。

特に、オイルによる転倒は、後続車も同じ所に次々と転倒してきます。

後続車への合図

ポストから黄旗が振られますが、できるかぎり後続車に知らせる努力をして下さい。タイミングを見て、電源と燃料コックをOFFにして火災やガス漏れの防止をして下さい。

障害物のかたづけ

オフィシャルと協力して散乱部品のかたづけを素早く行って下さい。オイルやガソリンがこぼれていたら処理作業も素早く行って下さい。安全上、走ってくるレーサーに背中を向けないよう心がけて下さい。

コース内はヘルメットを

自分が転倒した所は他のライダーも転倒しやすい場所です。いつ飛び込んで来るか分かりません。

ガードレールの外に出るまではヘルメットを被ったままで行動して下さい。コース内（グリーンも含む）にライダーがいる間は黄旗が振られ、追い越し禁止です。他のライダーを拘束しますので、できるだけ早くコース外に退場して下さい。

転倒車両を見たら

転倒したマシンは、オイル、ガソリン等をこぼす可能性があります。

走行中に転倒車を目撃したら次の周には充分注意をして通過して下さい。

再スタート

マシンが再スタートが可能かどうかの確認をして下さい。

マシンの点検はコース内の危険な場所で行わないで下さい。オフィシャルの指示に従い安全な場所に移動して下さい。

1）オイル、ガソリン、冷却水、ブレーキオイル等の漏れがないか確認をして下さい。オイル漏れなどがあった場合は、無理にピット帰還はしないで下さい。

2）走行に危険のある部分の破損、重要保安部品の破損がないか、また破損部分が鋭利になり2次被害を与えないか確認して下さい。

3）カウリング内に泥、砂利、草等が入っていないかを確認し、またタイヤに泥が付着したままライン上に復帰してはいけません。後方の安全を充分に確認し余裕をもってコースに復帰して下さい。

サーキット走行に関する指導要項

平成９年５月16日制定

1．目的

本指導要項は、財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会（以下MFJという）が、ロードレースコース（サーキット）において走行する際の基本的な走行方法、マナーなどについて指導するための基準である。

2．定義

1）サーキット走行は、全ての者が、その持ち得る技量及び車両の能力において、でき得る限りより速く、かつ安全に走ることを目的として走行しなければならない。（後述のスロー走行除く）

2）レコードラインの定義

レコードラインとは、そのサーキットをでき得る限りより速く、かつ安全に走るための理想的走行ラインをいう。

3．サーキット走行における遵守事項

サーキット走行する際は、各サーキットごとに定められた規則を熟知し、当該施設の指導員・係員等の指示に従わなければならない。

1）優先権

(1) サーキット走行においては、基本的にはレコードラインを走行する者に優先権がある。

(2) スロー走行中の者は、レコードラインを走行する者を妨げてはならない。

スロー走行とは、以下をいう。故障車両／初心者／ならし運転中の者／コース慣熟走行中の者。

スロー走行車は基本的にはコースピット側を走行する。

(3) ピットロードにおいては、ピットインしてくる車両に優先権がある。

(4) ピットアウトしてコースに復帰するライダーは、ピットロードを出て最初のコーナー出口に達するまでは、コースピット側に沿って走行しなければならず、その間、後方から近づく車両の走行を妨げてはならない。レコードラインへの合流に際しては、充分な速度まで加速しなければならない。

2）走行中の遵守事項

(1) シグナル

フラッグおよびシグナルを確認し、その指示に従う義務がある。

(2) 通常予想できない地点での不必要な急減速をしてはならない。

(3) いかなる場合も、逆方向への走行あるいは規定外のコースを走行してはならない。

(4) 直線部分では、前車を追い越す以外の目的で進路を著しく急激に変更することは禁止される。

(5) 他のライダーの走行を妨害するような走行をしてはならない。

(6) 必要以外にハンドルから手を離したり、足をフットレストから離し、また外に突き出し

たりするような危険な姿勢をとってはならない。

3）転倒・コースアウト

(1) コースアウト

1　もしコースアウトしたら、復帰する場合は後方を確認したのちコースに復帰することができるが、マシンの確認（破損・オイル漏れ・グラベルの砂利等）も留意しなければならない。

2　トラブルなどで走行を止める場合は、マシンをコース外の安全な場所に止めてから退去する。

(2) 転倒

1　自分が転倒した場合、2次災害の防止つまり後続車にひかれる、あるいは後続車を転倒させる等の事故の増大を防止するように心がけなければならない。

2　転倒したらまず安全な所へ避難すること、特にオイルによる転倒は、後続車も同じ場所で続々と転倒してくる可能性があるので注意すること。

3　安全な場所から、でき得る限り後続車へ知らせる努力をすること。安全なタイミングを見て電源と燃料コックをオフにして火災やガス漏れを防止する。また、可能な限り散乱部品を撤去すること。

4　ガードレールの外に出るまでは、ヘルメットを着用していなければならない。

5　転倒したマシンは、オイル・ガソリン等をこぼす場合が多いので、転倒車両を目撃したら次の周回は充分注意して走行すること。

(3) コースへの復帰

1　安全な場所にてマシンが走行可能かどうか確認する。

2　オイル・ガソリン・冷却水・ブレーキオイル等の漏れがないか確認する。漏れがあった場合は、無理にピットまで帰還しないこと。

3　走行に危険がある部分の破損、重要保安部品の破損、または破損部が鋭利になっていないかを確認する。

4　カウリング内に泥、砂利、草等が入っていないか確認し、またタイヤに泥が付着したままライン上に復帰してはならない。

5　後方の安全を充分に確認して余裕を持ってコースに復帰する。

4）マシントラブル

(1) 走行中にマシントラブルに見舞われた場合、レコードラインを走行するライダーの妨げにならないように注意してピットに戻ることができるが、後方の安全を確認し合図をしてからピット設置側を走行すること。

(2) コース上にオイル等の液体を撒き散らす恐れのあるようなトラブルがあった場合は、スロー走行でピットに戻ろうとはせずに、すみやかにコースアウトして安全な場所にマシンを止めなければならない。

(3) 車両は、自己の責任において安全装備等各サーキットにて要求される仕様を満たし、完全に整備されていなければならない。

5）ピットイン

(1) ピットインする車両のライダーは、ピットロード入り口手前より後方を確認したのち、ピット側に車両を寄せ、手または足でピットインの合図を行ったのち、安全を確保しピットロードを徐行しなければならない。

ピットエリア（停車区域）を走行することは禁止される。

(2) ピットインする車両は、自己のピットにできるだけ近いピットロードからピットエリアに入り、自己のピットにできるだけ寄って停車しなければならない。

(3) ピットロードのスピード制限を設けてある場合は、当該サーキットの規則に従わなければならない。

6）その他

(1) 常にスポーツマンとしての態度を保ち、品格を疑われるような言動は厳に慎まなければならない。

(2) 走行時には、アルコール類あるいは薬品（興奮剤等）を使用してはならない。

4．損害に対する責任

1）走行中自己の車両及びその付属品及び安全装備等が破損した場合、またサーキットの付帯設備等を破損した場合も、その責任は自己が負わなければならない。

2）走行に際して起こった負傷等は、参加者自らが責任を負うものとする。

2輪雑誌最強最速のバイヤーズガイド!

ナップマン

●逆輸入ビッグから50ccまで、
毎月アッ!と驚く情報満載!!

▦ニューモデル
ぶっち切りスクープ!!
▦新型バイク&グッズ
徹底テスト!!
▦最新ロードレース情報も
満載!!

毎月1日発売 570円(税込)

(株)内外出版社 〒110-8578 東京都台東区台東4-19-9 ☎03-3833-2565 振替口座00180-9-36541

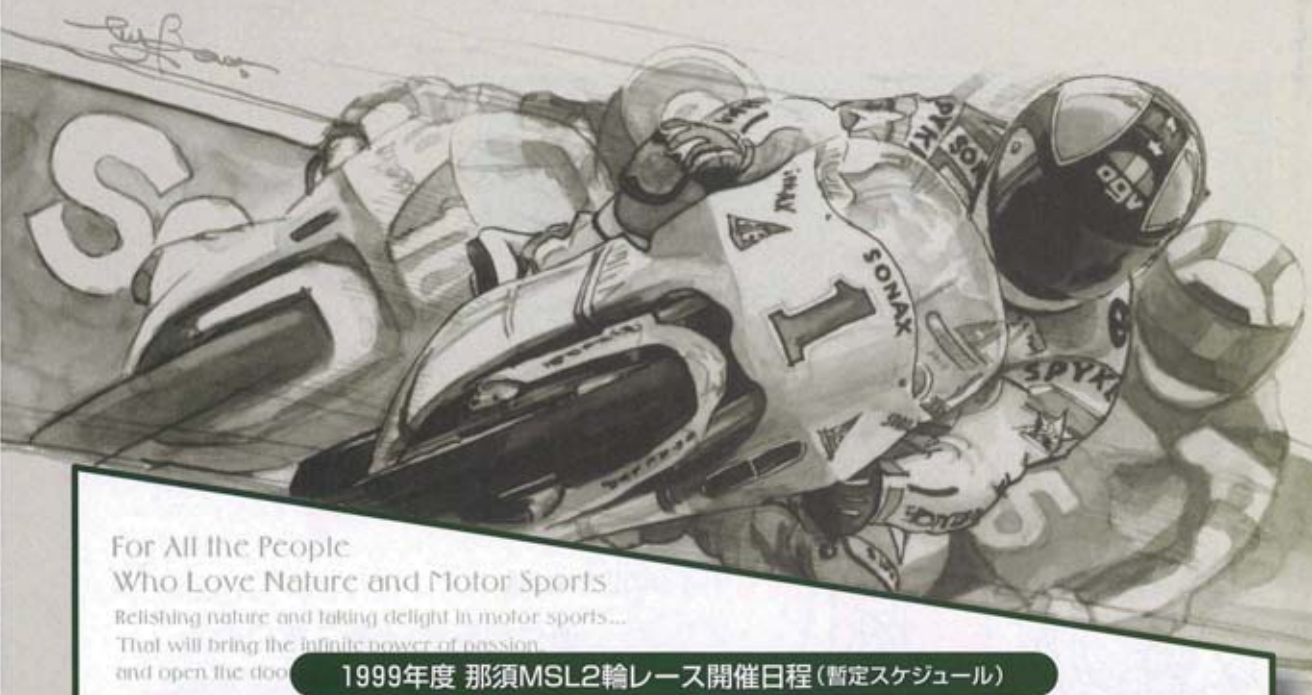
BIG MACHINE

ーすべての大型免許ライダーへー

▦全ページをビッグバイク関連の記事で構成
▦ビッグバイクを買う・操る・楽しむ・いじる
を応援します!

毎月6日発売 880円(税込)

Nasu
MOTOR SPORTS LAND



For All the People
Who Love Nature and Motor Sports

Relishing nature and taking delight in motor sports...
That will bring the infinite power of passion
and open the doo

1999年度 那須MSL2輪レース開催日程（暫定スケジュール）

	那須ロードレース選手権										併催レース				
	関東ロードレース選手権					ノーマル250			ミニスプリント						
開催日	GP125	SP125	S80	GP125B	GP80	NSR	TZR	RGV-r	スーパーミニ	フレッシュマン	ミニ耐久	R-ニーラ（サイドカー）	ST150（NSR150）	MH耐久
3月21日(日)				○		○	○	○			□		△	
4月 4日(日)	●	●	○		○				○	△				
5月16日(日)				○	○	○	○	○			□			
6月20日(日)			○	○	○	○	○	○	○	△		△		
7月25日(日)					○						□(4時間)		△	
8月15日(日)	●	●	○	○		○	○	○	○	△				
10月24日(日)					○	○	○	○			□	△		
11月21日(日)			○						○	△				□

●印…関東ロードレース選手権　○印…那須ロードレース選手権シリーズ　△印…併催レース　□印…耐久レース
＊那須ロードレース選手権すべてのクラスにシリーズポイントがつきます。　＊関東ロードレース選手権は、該当クラスにポイントがつきます。　＊スケジュールは変更される場合がありますので、ご確認ください。

mosla
NASU MOTOR SPORTS LAND CLUB

モスラ倶楽部会員募集中!

サーキット走行をお楽しみ頂くための
モスラ倶楽部会員を募集しています。
お気軽にお問い合わせください。

NASU MOTOR SPORTS LAND
栃木県黒磯市寺子字坂の上677 〒325-0011
TEL.0287(63)7300(代)　FAX.0287(63)7301
http://www.acekogyo.co.jp/

ベストライダーの皆さまへ

ベストライダーに欠かせない

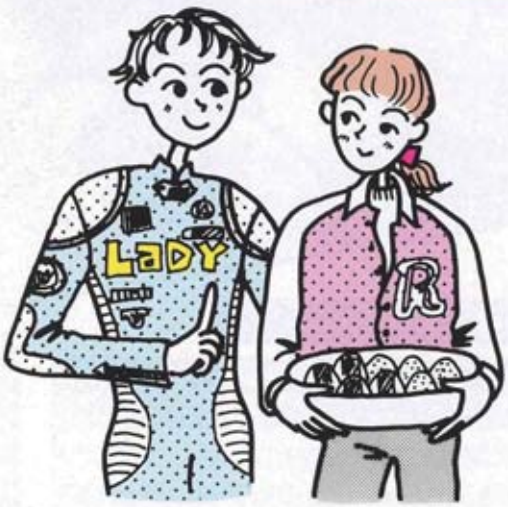
バイクの《**自賠責保険**》

★法律によって加入が義務づけられている保険です。

大きな安心、おとどけします

自賠責保険をつけずにバイクを運転すると

- ◎6ヶ月以下の懲役または5万円以下の罰金
- ◎6点の減点
- ◎30日の免許停止処分



バイクの自賠責保険料　（平成９年５月１日改正）

	原付自転車（125cc以下の2輪）	軽二輪自動車（125cc超　250cc以下）
3年	11,250円	27,000円
2年	9,500円	20,300円
1年	7,700円	13,250円

損害保険代理店

ホンダ開発株式会社

本　社　〒107-8556　東京都港区南青山2丁目1番1号（ホンダ青山ビル）☎03-3423-2312

事業部

和光事業部	〒351-0114	埼玉県和光市本町9番1号	☎048-461-0843
狭山事業部	〒350-1331	埼玉県狭山市新狭山3丁目9番2号	☎0429-53-7351
浜松事業部	〒433-8114	静岡県浜松市葵東1丁目13番2号	☎053-436-2241
鈴鹿事業部	〒513-0827	三重県鈴鹿市大池3丁目13番20号	☎0593-79-5407
熊本事業部	〒869-1231	熊本県菊池郡大津町大字平川1500番地	☎096-293-6222
栃木事業部	〒321-3325	栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台56番地2	☎028-677-3108

FUJI INTERNATIONAL SPEEDWAY

FISCOは
あなたのトライを
待っている。

'99年 FISCOロードレース開催スケジュール

開催日	タイトル / ライセンス / クラス	関東選手権 N	関東選手権 N・F	関東選手権 N	関東選手権 N	エリア選手権（チャレンジカップ） I・N	エリア選手権（チャレンジカップ） I・N	エリア選手権（チャレンジカップ） I・N	FISCO選手権 I・N・F	FISCO選手権 N・F
		GP250	GP125	SP400	SP250	SB	GP250	GP125	NK-N-4-M-0	STOCKBIKE
3月27日(土)	関東ロードレース選手権 SATURDAY in FUJI ①	◎		◎	◎	○	○	○	●	●
5月 8日(土)	関東ロードレース選手権 SATURDAY in FUJI ②	◎	◎	◎	◎	○		○	●	●
6月26日(土)	関東ロードレース選手権 SATURDAY in FUJI ③		◎	△（耐久）		○	○	○	●（耐久）	
7月31日(土)	関東ロードレース選手権 SATURDAY in FUJI ④	◎	◎	◎	◎	○	○		●	●
9月25日(土)	関東ロードレース選手権 SATURDAY in FUJI ⑤	◎	◎	△（耐久）	◎	○	○		●（耐久）	

◎印は関東選手権ポイント対象　○印はエリア選手権ポイント対象　●印はFISCO選手権ポイント対象　△印はノンタイトル

体験走行のご案内

◇走行日　レース／イベント開催日、定休日を除く毎日12時～
◇料　金　1回1台¥2,000（2輪・4輪）記念ステッカー付
◇受　付　当日11:00～12:00まで。
◇内　容　ペースカー先導により、国際レーシングコース（1周4.40km）を3周まわる。

※ご自分の乗用車・オートバイで気軽にご参加ください。

スポーツ走行ライセンス講習会のご案内

◇講習日　：土・日・祝日（レース開催の週は予選日の前日）
◇受付時間　：9:00～10:00（当日FISCO教室で受付）
◇講習時間　：10:00～12:30（講義のみ希望者は体験走行あり）
◇必要なもの：①受講料　20,000円
②運転免許証（公安委員会）
③印鑑
④証明写真1枚（3×3）
⑤筆記用具
⑥血液型（各自調べておく）
◇注意事項　：16歳未満で2輪講習会をご希望の方は、MFJ・MCFAJライセンス所持者で承認レース以上のレース経験のある方（要　証明書提出）に限らされていただきます。
但し、講習会に親権者の同伴を条件とさせていただきます。（親権者は、身分の証明できるものを提出していただきます。）
免許証をお持ちで20歳未満の方は、所定の契約書に親権者の署名捺印が必要となります。
◇お問い合せ：FISCOライセンス事務局
TEL0550－78－1233　FAX0550－78－0302

FISCO

富士スピードウェイ株式会社
■本社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-7-3（東京ビル5F）
TEL.03-3216-5611　FAX.03-3216-5619
■レース場
〒410-1308　静岡県駿東郡小山町大御神
TEL.0550-78-1234　FAX.0550-78-0205

Run!

走るために生まれてきた人がいる。
勝利するために生まれてきた人がいる。
TIサーキット英田は、
モータースポーツを愛する人々に、
最高のコンディションのコースと、
最大級の声援を送り続けます。

もっと、もっと速く、そして力強く。

1999年 2輪レースカレンダー

1998.12.1時点

名称	開催日	開催クラス																申込み期間
		地方選手権										ウエストエリア選手権			全日本選手権			
		承認競技会						公認競技会										
		その他	F-NK	NK4	N250	NSR/KR150	S80	MH80	SP250	SP400	GP125	GP250	GP125	GP250	SB/S-NK	GP125	GP250	SB/S-NK	
第1戦	2月28日(日)		●			●	●		●		●	●							1月25日(月)～2月1日(月)
第2戦	3月28日(日)			●	●			●	●	●			●						2月22日(月)～3月1日(月)
第3戦	4月25日(日)	ミニ50cc耐久									●	●	●	●	●				3月23日(火)～3月30日(火)
鈴フェスティバル	5月1・2日	オープン	○	○	○	○	○	○	○	○									3月26日(日)～4月5日(月)
第4戦	5月30日(日)				●				●	●	●	●							4月25日(日)～5月6日(木)
第5戦	7月4日(日)				●		●	●					●	●	●				5月30日(日)～6月7日(月)
第6戦	8月8日(日)					●	●	●	●	●		●	●	●					7月 4日(日)～7月12日(月)
第7戦	9月19日(日)		●		●					●	●	●							8月16日(月)～8月23日(月)
全日本RR	10月23・24日													●		●	●	●	9月15日(水)～9月24日(金)
第8戦	11月14日(日)				●			●	●		●	●							10月12日(火)～10月19日(火)
第9戦	12月12日(日)			●		●	●	●		●	●								11月 8日(月)～11月15日(月)
開催回数			(4)	(4)	5	(4)	4	5	5	5	6	6	(8)	(8)	(5)	1	1	1	

■F-NK,NK4,NSR150,KR150は、上記を含め計4戦を予定しています。

★1999年よりARC入会（サーキットライセンス取得）料金・更新料金がお安くなりました。★

■ARC入会のご案内

ARC（アイダレーシングクラブ）は、モータースポーツへの参加を希望する全ての方を対象とし、楽しくTIサーキット英田でのスポーツ走行をしていただくクラブです。

●入会資格

満12歳以上で、親権者の承諾を得られる方。
普通自動2輪免許又は、MFJライセンス所持者と同等の運転技量をお持ちの方。

●講習会スケジュール

基本的に毎日開講しておりますのでご希望の日程をあらかじめお電話にてご予約ください。当日のスケジュールは講義、実技走行の約半日となります。

●当日ご用意して頂くもの

●入会費用　¥39,000（税別）
●運転免許証 ●競技ライセンス
●印鑑 ●顔写真　2枚
●実技走行に必要な車両・装備（ヘルメット・レーシングスーツ・グローブ・ブーツ）

■交通アクセスのご案内

●中国自動車道美作ICより約25km
●山陽自動車道和気ICより約25km
●山陽自動車道備前ICより約25km

●お問合わせ・お申込み先

INTERNATIONAL RACING COURSE
TI Circuit AIDA

〒701-2612 岡山県英田郡英田町滝宮1210　TEL08687-4-3311

BACKOFF オフロードとオートバイが存在する限り、人間はダートに夢を見る!!!

BACK OFF!!! OFFROADERS MAGAZINE

price 630 yen

毎月24日発売

MX, RALLY & ENDURO OFFROAD-TOURING

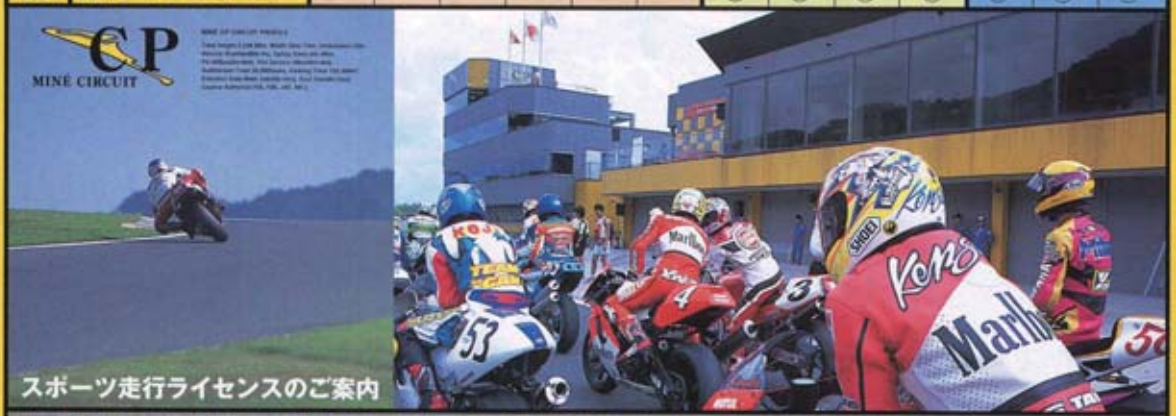
すべてのオフロードはバックオフのために存在する!!

株式会社フィールド出版
〒151-0071 東京都
渋谷区本町1-20-2
パルムハウス初台306
TEL03-3373-4866

CP MINÉ CIRCUIT

1999 CP MINÉサーキットロードレース暫定カレンダー

開催日	格式 / レース名	承認競技 S80	NK	ST	ST150	ST250	S5	地方選手権 GP250	GP125	SP400	SP250	エリア選手権 SB·SNK	GP250	GP125
2/21	西日本ロードレース第1戦(エリア)	○	○							○	○	○	○	○
3/19-20-21	全日本ロードレース選手権第1戦	SB·S-NK GP250 GP125										GP250(エリア)		
4/18	西日本ロードレース第2戦	○	○		○	○		○	○	○	○			
6/6	西日本ロードレース第3戦							○	○	耐久4H	耐久4H			
8/8	西日本ロードレース第4戦(エリア)	○	○		○	○						○	○	○
9/5	西日本ロードレース第5戦(ミニバイク耐久)						耐久	○	○	○	○			
10/3	MOTOBUSTER/耐久フェスタ	○	125cc以上のプロダクション車両による耐久		○	○								
10/31	西日本ロードレース第6戦(エリア)							○	○	○	○	○	○	○



スポーツ走行ライセンスのご案内

レース界でトップを目指す人、愛車で楽しみたい人、スタイルは違えどサーキットを走行するためのライセンスです。
ライセンスの取得は、講義と実走行で半日の講習会参加でOKです。

講習会開催日:レースイベントのない土日祝日
取得費用:39,900円(税込)
受講方法:受講日を電話予約して下さい。

当日必要な物:運転免許証、競技ライセンス(以上お持ちの方のみ)、
印鑑、顔写真2枚、実技走行に必要な車両、皮ツナギ、ヘルメット、グラブ、ブーツ

体験走行のご案内

CP MINÉサーキットは、どんなコースなのか自分の車、バイクで気軽に体験いただけます。
レースイベント開催日を除く毎日12時すぎから実施中。

料金:1台1,500円(2輪·4輪)
受付:当日9時~12時
内容:ベースカーの先導によりレーシングコース(約3.3Km)を2周いたします。

車、バイクでご来場の場合
中国自動車道美祢西ICより約5分(福岡ICより約70分、広島ICより約90分)

電車でご来場の場合
JR厚狭駅下車タクシーで約20分(99年春、新幹線厚狭駅開業予定)
JR小月駅下車タクシーで約20分

セントラルパークMINÉサーキット

〒759-2152 山口県美祢市西厚保町 TEL:0837-58-0321 FAX:0837-58-0323
通常営業時間 8:30~17:30
http://www.c-mash.co.jp/cpmine/

この世で一番カッコイイ
乗り物は、オートバイだ。
ライダーが知りたい
情報フルパック！
二輪誌BIG4!!
ライダーズスピリットを結集!!
オートバイ
毎月1日発売!
定価570円
We're Windy people!
Mr.Bike
毎月6日発売!
定価300円
FIRST MAGAZINE for FRESH RIDERS
Mr.Bike BG
毎月14日発売!
定価330円
Magazine for Bike People
GOGGLE
毎月24日発売!
定価500円
モーターマガジン社
〒105-8611 東京都港区新橋5丁目33番10号
☎03(3434)3151(代表)
モーターマガジン社のホームページ
http://www.mediagalaxy.co.jp/MCUBE/

新緑の風になる
大地、ひとりじめ
街をぬけ、ガルルストリートへ
風さわやか、汗さわやか
『自然とバイクと人間のよりよい共存』がガルルのテーマです。
OFF-ROAD BIKE体感マガジン 月刊ガルル
GARRR
New Excellent Off-Road Bike Magazine
毎月6日発売 ●A4変型判／定価490円(税込)
実業之日本社 〒104-8233 東京都中央区銀座1-3-9 TEL.03-3535-4441

Motocross

モトクロス

▼細則4　モトクロス競技細則

1．適用の範囲……88
2．モトクロス……88
3．コースの仕様……88
4．レース中の公式シグナル（合図）……88
5．出場車両……88
6．MFJ公認車両・公認部品……89
7．ライダーの装備……89
8．参加資格……89
9．出場申し込み……89
10．参加受理……90
11．公式通知・タイムスケジュール……90
12．参加定員……90
13．ゼッケンナンバー……90
14．燃料およびオイル……90
15．出場受付……91
16．車両検査……91
17．ライダーの変更……91
18．車両の変更……91
19．部品の変更……91
20．フリープラクティクスおよび公式練習……91
21．ピットおよびサインエリア……92
22．公式予選……92
23．決勝レース出場台数……92
24．スタート位置の決定方法……92
25．ウォーミングアップ……92
26．レース……92
27．レースの終了……93
28．優勝者、入賞者、完走者および得点……93
29．入賞車両の検査……94
30．レースおよび大会の延期、中止等……94
31．抗　　議……94
32．レース中の違反行為に対する罰則……94
33．本規則の解釈……94
34．本規則の施行……94

▼細則5　'99全日本選手権大会特別規則

1．公　　示……95
2．競技会開催日程等……95
3．運営・実行組織……95
4．開催部門・クラス……95
5．参加資格……96
6．出場申し込み……96
7．出場料および共済会掛金……96
8．参加受理……96
9．競技内容……96
10．賞および得点……97
11．出場車両……97
12．ゼッケンナンバー……97
13．ガソリンおよびオイル……99
14．車両検査……99
15．車両の変更……99
16．フリープラクティスおよび公式練習……99
17．決勝レース出場資格……99
18．サイティングラップ……99
19．スタート……100
20．レース……101
21．入賞車両の検査……101
22．総合順位の決定方法……101
23．抗　　議……101
24．本規則の解釈……101
25．本規則の施行……102
'99全日本モトクロス選手権開催日程……102

※'99年度の規則変更点は太字で示されています。

細則 4

モトクロス競技細則

1 適用の範囲

以下に記す規則は、国内競技規則に基づき国内すべてのモトクロス競技会に適用される。(世界選手権は除く)

2 モトクロス

モトクロスとは、走路面に凹凸、急勾配、走路方向が急変するような地形のところで行われるクロス・カントリーレースである。国内競技規則および本細則により管理される。

3 コースの仕様

コースの長さは1周1㎞以上、2㎞以下とし、その幅は少なくとも追い越し可能なゆとりを持たせなければならない。また、コース等は、別に定めるモトクロス会場に関する規則に準拠し、適切なレーシングコンディションと安全性とが確保されていなくてはならない。

4 レース中の公式シグナル(合図)

1) 公式シグナル(合図)は、約750㎜×600㎜寸法の旗を使用し、次のように与えるものとする。

シグナル	意味
赤旗	全員走行停止
黒旗とゼッケンを記したボード	当該ライダーは走行停止
黄旗(静止)	危険予告
黄旗(振動)	徐行、安全確認、追い越し禁止
青旗	警告、ラップされようとしている
緑旗	先に出した合図の解除、コースクリア
白黒チェッカー旗	レース終了

2) 競技内容が示されている規定の時間を経過した後、トップのライダーがゴールを通過した時点から、残りの周回数を示すボードが提示される。

5 出場車両

車両は、国内競技規則・第3章[⑫出場車両](33頁)の限度を充たし、安全上完全に整備されているものでなければならない。

尚、改造されて型式(モデル)が判別できないような車両は競技会に出場することはできない。

6 MFJ公認車両・公認部品

MFJ公認車両及び公認部品は、国内競技規則・第３章［⑬MFJ公認車両および公認部品・用品］（33頁）による。

7 ライダーの装備

1）ヘルメット

(1) ヘルメットはジェット型かフルフェイス型のもので、MFJが公認したものでなくてはならない。

(2) MFJの公認したヘルメットには、公認マークが貼付されている。

(3) 競技会の車両検査時にヘルメットの検査が行われ、検査に合格しなかったヘルメットは、MFJの公認したヘルメットであっても当該ライダーの安全上、その使用を禁止される。

(4) MFJ公認マークの貼付されていないヘルメットについては、特別検査を受け、公認ヘルメットと判明した時点で、公認シールが貼付される。その際、特別検査料（1,000円）を支払わなければならない。

2）ゴーグル

ガラスを用いたゴーグルの使用は一切禁止される。枠は柔軟な素材を使用したもので転倒による衝撃を受けた場合でも危険でないものでなくてはならない。

3）ライダーの服装

(1) 服装は、レース中ライダーの身体の安全を確保し、車両の操縦を妨げるものであってはならない。

(2) 耐火性で溶けない素材の丈夫な生地で自由な動作を妨げない長袖のジャージを着用しなくてはならない。

(3) 突出部分のない革、または革と同等以上の性能を持つ手袋及びブーツを着用しなければならない。

(4) ライダーは競技会中、難燃性の素材を使用した肌着を着用しなければならない。

(5) プロテクター（ブレストガード等）の着用が望ましい。

8 参加資格

参加者及びライダーは、国内競技規則・第３章［⑨競技参加者］（31頁）に合致していなければならない。

9 出場申し込み

1）出場申し込み場所および期間は、大会特別規則の定めるところのものとする。

2）出場申し込み手続き

(1) 各部門とも所定の申し込み書に必要事項をすべて記入し、出場料及び共済会掛金（保険料）を添えて大会事務局に提出しなければならない。

(2) ２クラス以上に出場を申し込む場合でも、申込書は１枚でよい。ただし、２クラス以上出場に必要な事項をすべて記入すること。もし記入漏れのあった場合、申し込みを拒否される場合がある。

(3) 郵送の場合は現金書留を使用し、締切日当日の消印のあるものまでが有効となる。

(4) 締切日以降の申し込み及び電話・FAX等の申し込みは一切受けつけない。

10 参加受理

1）必要事項を記入した出場申し込み書、及び所定の金額を大会事務局が受理したもののみ、参加受理書が発送される。

2）大会が中止された場合、また参加者が何らかの理由によって拒否された場合、（申込者が必要な手続きを怠った場合はこれに当てはまらない）にのみ出場料、共済会掛金が返却される。

3）いったん受理された出場料・共済会掛金は、上記2）及び国内競技規則・第3章［㉕競技会の延期および中止等］（36頁）の場合を除き、いかなる理由があっても返却されない。公式予選を通過しなかった場合も同様である。

11 公式通知・タイムスケジュール

公式通知及びタイムスケジュールの詳細は、申し込み締切後に通知される。

12 参加定員

定員は定めない。

13 ゼッケンナンバー

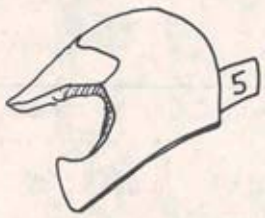
1）ゼッケンナンバーは、車両検査までに規定の書体及び色で記入しなければならない。（22頁参照）

2）年間指定ゼッケンナンバーを与えられているライダーは、ヘルメットの両側面にゼッケンナンバーを記入しなければならない。

3）ゼッケンナンバーの状態は、車両検査時に車検員によって点検され、判読しにくいと判断された場合には修正が要求される。
ゼッケンの修正を要求された場合、速やかに修正を行い、再度車両検査を受けなければならない。

4）レース中、ナンバープレートや配布されたゼッケン及びヘルメットナンバーシールを装着せずに走行したり、間違ったゼッケンナンバーを装着して走行した場合は、その周回数は記録されない。

5）雨天の場合、競技監督の判断によりヘルメット後部に補助ゼッケンプレート（9㎝×9㎝程度）を取り付けなければならない。



←（補助ゼッケンプレート）

14 燃料およびオイル

1）ガソリンは無鉛ガソリンに制限されている（AVガス、航空機用燃料等は使用できない）。ガソリン及びオイルに関する詳細は国内競技規則・第3章［⑭燃料およびオイル］（33頁）及びMFJ技術規則第7章、ガソリン・オイル・クーラント（145頁）による。

2）ガソリンの銘柄及びその詳細が主催者によって指定された場合は、当該指定ガソリンを使

用しなければならない。
3）ガソリンの運搬については、消防法第16条の規定に従った方法で行わなければならない。

15 出場受付

1）出場受付の時間及び場所は、公式通知によって示される。
2）定められた時間内に、必ずライダー本人または当該ライダーのメカニックがMFJライセンス、参加受理書および健康保険証（**コピー可**）を提示して出場資格の確認を受けなければならない。
3）MFJライセンスを提示できない者は、出場が認められない。

16 車両検査

1）車両検査は、公式通知に示されるタイムスケジュールに従って、パドック内の車両検査区域において行われる。
2）車両検査のための車両は、ライダー本人又は当該ライダーのメカニックが車両仕様書とともに持参し、必ずタイムスケジュールに示された時間内に検査を受けなければならない。規定時間以外の車両検査は、競技監督が不可抗力な事情によるものとして特別に認めた場合以外は行わない。
3）車両検査において、規則違反または安全上出場が不適当と判定された車両は、公式予選を含む一切の走行を拒否される。
4）主催者は、大会期間中、必要に応じて随時車両の検査を行うことができる。

17 ライダーの変更

ライダーの変更は認められない。

18 車両の変更

登録された車両の変更は原則として認められない。変更する必要が生じた場合は、所定の書式に従って変更申請を行い、競技監督が認めた場合に限り認められる。（国内競技規則第３章⑮競技出場の申し込み、⑰ライダーおよび車両の変更（33～34頁）による）

1）エントリー車両と、車検を受ける車両の変更
参加受理書発送後エントリー用紙記入車両に変更がある場合、選手受付時に車両変更手続きをしなければならない。
2）車検終了後の車両変更
車検終了後の変更は、大会事務局にて車両変更手続きをしなければならない。
3）車両変更は同部門、同クラス間の変更のみ許可される。車両変更手数料は5,000円とする。

19 部品の変更

フレーム、クランクケース、サイレンサーの変更は原則として認められない。ただし、交換のためにあらかじめ検査を受けたサイレンサーは除く。フレームの変更、クランクケースの変更は、車両の変更とみなされる。

20 フリープラクティスおよび公式練習

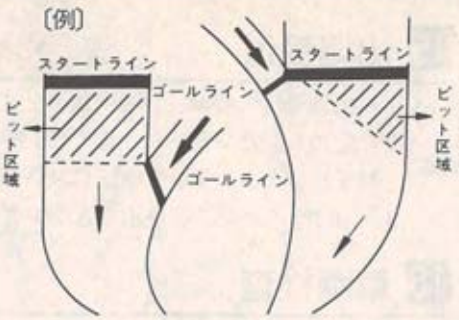
大会によって、フリープラクティス及び公式練習が設けられる。フリープラクティスへの参加は義務づけられていないが、ライダーは、安全確保のためにも主催者が設けた公式練習に参加しなければならない。

21 ピットおよびサインエリア

1）ピット及びサインエリアは主催者により指定される。特に指定のない場合のピットエリアは、スタートラインからゴールラインまでの、周回走行にさしつかえのないコースサイドまたはコース上である。

2）ピットクルーはサインエリアの区分を厳守しなければならない。

3）レース中に、ピット区域以外のパドックに戻った場合は失格となる。



22 公式予選

各クラスの出場申し込み台数が、決勝レース出場台数を越えた場合、決勝進出者決定のために公式予選が行われる。

公式予選の内容

(1) 公式予選は、原則として各クラス別に行われる。

(2) 公式予選の日程は、特別規則に示される。

(3) 公式予選は原則として大会公示に示される周回数のレースによって行われる。

23 決勝レース出場台数

決勝レース出場台数は原則として最大30台とするが、各コースごとに定められる公式通知に示される。

24 スタート位置の決定方法

スタート位置の決定方法は、大会特別規則もしくは公式通知に示される。

一度スタート位置を選択し、グリッドに着いたものはそのスタート位置を変更することはできない。

25 ウォーミングアップ

1）エンジンのウォーミングアップは主催者により指定された場所及び時間帯に限られる。

2）ウォーミングアップ以降、スタート係によってスタートのためのエンジン始動の合図がなされた後は（キックスタートの場合は、エンジン停止の合図がなされた後）ライダーからタイムのサインがあっても競技は続行される。

26 レース

1）スタートまでの行動

(1) ライダーは、特別規則に定められたタイムスケジュールを厳守しなければならない。

(2) ライダーは、スタート前チェックの後車両とともに指定区域内に待機していなければならない。

2）スタート

(1) スタートの方法については、原則として各部門ともスターティングマシンを使用したエンジンランニングスタートとする。ただしスターティングマシンを使用しない場合は、必

ずヘルメット上部に左手をあてて待機し、スタート合図によりスタートすることとする。

(2) スタート位置は、すべて正規のスタート・ラインからなされるものとし、各ライダーに与えられたスタート位置による距離的、時間的なハンディキャップは、一切考慮されない。

(3) スターティングマシンが使用される場合は、車両の位置はスターティングマシンの後方の区域内とする。

(4) スタートの合図は、スタート係の合図（国旗等）によって行われる。ただし、スターティングマシンを使用する場合は、この限りでない。

(5) スタート時にフライングが認められた場合は、スタートライン前方（第1コーナー付近）において赤旗が提示され、再スタートとなる。その際、同一ライダーが再びフライングをした場合、当該ライダーは失格となる。

3）コースアウト

ライダーは、走行中、やむを得ず定められたコースを外れ、再びコースに戻る場合には、外れた地点よりコースに進入しなければならない。

4）ピットエリア内で車両整備などに従事するメカニックの数は、2名以内に限定される。

5）レース中、サイレンサー、マフラー、チャンバーが外れた場合、または破損した場合は、競技役員より当該ライダーに対して黒旗及びゼッケンを記したボードが提示される。提示されたライダーは速やかにピットエリアに入り、修理しなくてはならない。修理後競技役員の許可を得た上で、再出走が認められる。

27 レース終了

1）レース終了は、優勝者の完走後、チェッカー旗が振られ、マーシャルが定位置を離れるか、またはマーシャルがコースを一巡することによって示される。

2）トップを走行するライダーが、所定の周回数を完了する前にレース終了の合図が出された場合、当該レースはその時点で終了したものとみなされる。

何らかの理由によって、レース終了の合図が遅れた場合でも、チェッカーフラッグが提示された周をもって終了したものとみなされる。

28 優勝者、入賞者、完走者および得点（ポイント）

1）優勝者

優勝者は、定められた周回数またはレース時間プラス2周を最短時間で完走したライダーとする。

2）入賞者及び順位の優先順位

入賞者及び入賞順位は、チェッカーを受けた完走者の中から周回数の多い順に決定され、同周回数の場合は、ゴールラインの通過順位による。

3）その他の順位の優先順序

周回数の多いものを優先する。同周回数の場合はゴールラインの通過順位による。

4）完走者

(1) 優勝者の75%（少数点以下は切り捨てる）以上の周回数を完了したライダーを完走者とする。

(2) レース途中でリタイヤしたライダーも完走周回数を完了している場合は、完走者とみなされる。

5）得点

(1) 得点は国内競技規則・第3章［㉔公式得点(ポイント)］（35頁）によって与えられる。

(2) 得点は完走者に与えられる。
(3) オープンクラスに関しては、自動昇格得点対象外とする。

29 入賞車両の検査

1）レース終了後、入賞車両は直ちに車検員によって決められた区域内に管理され、暫定結果発表後30分間保管され、必要に応じて検査される。
2）入賞車両は、必要に応じて車両重量及び音量が測定され、規定を満たしていない車両の当該ライダーは失格となる。

30 レースおよび大会の延期、中止等

国内競技規則・第3章［㉕競技会の延期および中止等］（36頁）による。

31 抗　議

1）抗議は、国内競技規則・第3章［㉗抗議］（37頁）による。
2）抗議は、暫定結果発表後30分以内（全日本選手権では20分以内）に当該ライダーおよびエントラント代表者だけが行うことができる。
3）車両の分解検査に要した費用は、その抗議が不成立の場合は抗議提出者、成立した場合は、抗議対象者が支払わなければならない。この車両の分解等に用した費用は車検長が算定する。
4）車両の分解検査に立ち合う者は、車検長及び抗議を受けた当事者のみとする。

32 レース中の違反行為に対する罰則

レース中の違反行為については、競技監督並びに大会審査委員会がその権限において下記の罰則を課すことができる。

1）失格
(1) 故意に走路を妨害した場合。
(2) レース中に他の援助を受けた場合。
(3) コースを逆走した場合。
(4) 示された合図旗に従わなかった場合。
(5) 1度コース外に出て、明らかに自分に有利となる所より再びコースに復帰したと判断された場合、1周減算または失格とする。
(6) フライングを2度繰り返した場合。

2）1周減算
(1) ウォーミングアップ中止後、競技役員の許可なくエンジンを始動させた場合。
(2) 上記1）失格(5)の場合。

その他、競技規則に対する罰則は、国内競技規則・第3章［㉙違反行為に対する罰則］（38頁）による。

33 本規則の解釈

本規則及び競技に関する疑義は、大会事務局あてに質疑申し立てできる。なお、この回答は大会審査委員会の決定を最終的なものとする。

34 本規則の施行

本規則は、1999年1月1日より有効とする。

細則5

'99全日本モトクロス選手権大会特別規則

1 公　示

全日本モトクロス選手権はFIM国際スポーツ憲章に基づきMFJ国内競技規則、モトクロス競技細則及び全日本選手権シリーズを通じて共通した項目をまとめた本特別規則と、各大会の特別規則に基づき開催される。

2 競技会開催日程等

1）レースウィークの日程

月～木曜日：占有走行は禁止される。スポーツ走行は開催されてもよい。

金　曜　日：すべての練習走行は禁止される。

土～日曜日：競技会日

2）競技会の日程は巻末に示す（102頁参照）。

3 運営・実行組織

大会運営・実行組織は、公式プログラムまたは公式通知に示される。

4 開催部門・クラス

1）全日本選手権シリーズの開催部門、クラス区分は次のとおりとする。

部門	国際B級	国際A級
クラス	125cc・250cc	125cc・250cc

2）全日本選手権は原則として国際B級、国際A級の2部門にて開催されるが、事前に選抜された2クラスまでのレース、およびエキジビション（ポイント対象外）レースを併催することができる。ただし併催レースは全日本選手権のクラスに影響しない範囲に限り認められる。

3）国際A級250cc・125ccのクラス指定について

① 国際A級部門は、125ccクラスと250ccクラスを開催し、クラスの選択は自由とするが、その選択は12月31日までに所定のクラス選択用紙を使用し行うこととする。

② 国際B級から国際A級への昇格者についても、クラスの選択は自由とする。

③ 一度クラスの選択を行なった以降のクラス変更は認められない。

4）国際B級部門のクラス指定

国際B級部門は、125/250のいずれか1クラスにのみ出場できる。（1大会で両クラスに出場することはできない。）また出場するクラスは大会ごとに選択することができる。

5 参加資格

1）参加者及びライダー

参加者及びライダーは、国内競技規則・第3章［⑨競技参加者］（31頁）に合致していなければならない。

2）年齢制限

大会に出場できる最低年齢を、下記のように定める。

125：15歳　　250：16歳

※いずれも大会予選日に誕生日を迎えていること。ただし'99年全日本選手権における実績を有する者は、スポーツ委員会にて審査される（MFJ事務局への手続きが必要）。

6 出場申し込み

1）競技会への出場申し込みは主催者が準備した用紙の記載事項のすべてを記入し、競技規則を厳守することを誓約しなくてはならない。（エントリー時点で当該ライセンスを取得していること。）

2）申込期間、申込先などの詳細は102頁参照。

3）ピットクルーの登録

(1) 出場申込後に、ピットクルーの追加は一切できない。但し大会当日の出場受付時間内に、他のピットクルーライセンス所持者と変更することはできる（変更手数料が必要）

(2) ひとりのピットクルーを、複数のライダーに登録することはできない。

(3) 参加ライダー本人を自分のピットクルーとして登録することはできない。（但し作業はできる）

(4) **ピットクルーパス及びピットクルーライセンスの装着義務**

ピット作業を行なうクルーは、各自が用意するパスケースにピットクルーパス及びピットクルーライセンスを収納し、判別しやすいように左腰前部に装着しなければならない。

7 出場料および共済会掛金（保険料）

出場料および共済会掛金は、以下の通りである。

総　額	内　訳	
	出場料	共済会掛金
12,000円	10,500円	1,500円

8 参加受理

モトクロス競技細則［⑩参加受理］（90頁）による。

9 競技内容

1）公式予選

公式予選の有無、周回数、予選組分け、その他の詳細は公式通知、またはプログラムに示される。

2）国際A級の予選組分けについて

① 国際A級は大会当日（第2戦以降）、受付終了時点にて最新（暫定）のランキング順により予選組を振り分けられる。（スターティンググリッドもこれに準ずる）

② 第1戦においては、抽選により予選組が振り分けされる。（スターティンググリッドもこ

れに準ずる）

※この方式は国際B級には適用されない。

3）ラストチャンスレース

下記規定に則り、ラストチャンスレースが開催される。

① 公式予選総出場台数が決勝出走台数を越えた場合に開催される。

② ラストチャンスレースの順位により決勝レース出場者、およびリザーブライダー（2名）の優先順位が決定される。

③ 決勝レースへ公式予選より出場できる人数、ラストチャンスより出場できる人数は、予選組数、グリッド数によって異なるため、公式通知に示される。

④ ラストチャンスレースのグリッドは公式予選における各組トップタイムの早い組順とする。但し、予選順位のつかない場合、（1周もまわらずにリタイヤした場合等）、予選出走のグリッド順を優先する。

⑤ その他、当該大会審査委員会は天候等の理由により、ラストチャンスレースの有無について決定することができる。

4）レース距離（レース時間） ※天候その他の理由により、変更する場合がある。

① 公式予選 国際A級：15分＋2周、国際B級：公式通知に示す。

② ラストチャンス 国際A級：5分＋2周、国際B級：公式通知に示す。

③ 決勝レース 国際A級：30分＋2周、国際B級：25分＋2周

決勝スタート前に、コース安全確認のためのサイティングラップ（1周）を行なう。（99頁参照）

10 賞および得点（ポイント）

1）賞の詳細は、公式通知に示される。

2）全日本選手権ランキングの得点

(1) 得点は国内競技規則・第3章［㉔公式得点］（35頁）によって与えられる。

(2) 日本グランプリ大会については、規定の得点に3点が加算される。

(3) 全日本選手権ランキングの順位は、上記によって与えられた得点のすべてが加算され、その得点合計によって決定される。

その詳細は、全日本選手権ランキング決定基準（232頁）に示される。

3）賞及び得点の制限

国内競技規則・第3章［㉔公式得点］（35頁）による。

11 出場車両

車両は、細則4［⑤出場車両］（88頁）を遵守しなければならない。

12 ゼッケンナンバー

1）国際A級及び国際B級の一部（30番まで）のライダーには、年間指定ゼッケンナンバーが割り当てられる。

指定ゼッケンを与えられた選手については、ジャージ背中側に指定ゼッケンの印刷が義務付けられる。

(1) **指定ゼッケンを決定するための優先順位**

下記規定は、12月31日までにクラス選択申請を行った者が対象とされ、それ以外の場合については、全てo.（98頁）を適用する。

① 国際A級250ccクラス

a．250ccクラスを12月31日までに申請し、選択した者で、1999年度250ccクラスの成績により総合得点の多い者。
b．a.にて同点の場合、上位入賞回数の多い者。
c．b.にて定められない場合、全日本選手権のみの獲得点数の多い者。
d．c.にて同点の場合、全日本選手権での上位入賞回数の多い者。
e．上記a.～d.にて定められない場合、前年度ゼッケン順とする。
f．1999年度125ccクラスに出場していた者で、12月31日までに250ccクラスを選択し、1999年度全日本選手権成績の合計得点の多い者。
g．f.にて同点の場合、上位入賞回数の多い者。
h．g.にて定められない場合、全日本選手権のみの獲得点数の多い者。
i．h.にて同点の場合、全日本選手権での上位入賞回数の多い者。
j．上記f.～i.にて定められない場合、前年度ゼッケン順とする。
k．国際B級からの昇格者で250ccクラスを選択した者で、1999年度全日本選手権国際B級250ccクラスランキング順。
l．国際B級からの昇格者で250ccクラスを選択した者で、地方選手権における獲得点数の多い者。
m．l.で同点の場合、地方選手権での上位入賞回数の多い者。
n．k.～m.で決定できない場合、クラス選択申請順。
o．その他は、全日本選手権エントリー時に、主催者によって決定される。

② 国際A級125ccクラス

a．125ccクラスを12月31日までに申請し、選択した者で、1999年度125ccクラスの成績により総合得点の多い者。
b．a.にて同点の場合、上位入賞回数の多い者。
c．b.にて定められない場合、全日本選手権のみの獲得点数の多い者。
d．c.にて同点の場合、全日本選手権での上位入賞回数の多い者。
e．上記a.～d.にて定められない場合、前年度ゼッケン順とする。
f．1999年度250ccクラスに出場していた者で、12月31日までに125ccクラスを選択した者で、1999年度全日本選手権成績の合計得点の多い者。
g．f.にて同点の場合、上位入賞回数の多い者。
h．g.にて定められない場合、全日本選手権のみの獲得点数の多い者。
i．h.にて同点の場合、全日本選手権での上位入賞回数の多い者。
j．上記f.～i.にて定められない場合、前年度ゼッケン順とする。
k．国際B級からの昇格者で125ccクラスを選択した者で、1999年度全日本選手権国際B級125ccクラスランキング順。
l．国際B級からの昇格者で125ccクラスを選択した者で、地方選手権における獲得点数の多い者。
m．l.で同点の場合、地方選手権での上位入賞回数の多い者。
n．k.～m.で決定できない場合、クラス選択申請順。
o．その他は、全日本選手権エントリー時に、主催者によって決定される。

(2) チャンピオンゼッケン

前年度国際A級シリーズチャンピオンは、チャンピオンゼッケンとして赤地に白文字を使用する。また出場クラスについては問わない。

(3) 国際B級（30番まで）の年間指定ゼッケンナンバー決定基準は以下のとおりとする。

① 125/ 250クラスを比較し、順位が高いクラスをそのライダーの代表クラスとする。

② 代表クラスの順位を比較し、上位の者が優先される。
③ 代表クラスが同順位の場合、そのクラスの上位入賞回数の多い者が優先される。
④ ③で決定できない場合は、代表クラスの排気量の大きい方を優先する。
⑤ ④まで決定できない場合は、スポーツ委員会にて最終決定する。

(4) **ルーキーゼッケン**

① 国際B級から国際A級に昇格する上位の選手にはルーキーゼッケンが与えられ、各クラスごとに01～09が与えられる。よって各クラス合計最大18名にルーキーゼッケンが与えられる。

② また国際A級のルーキーゼッケンは、クラス指定の自由化に伴い廃止される。

2）上記(1)、(2)、(3)に記載されている他のライダーには、大会毎に主催者によって**各クラス**ゼッケンナンバーが割り当てられ、参加受理書に記入して通知される。

13 ガソリンおよびオイル

ガソリンは無鉛ガソリンに制限されている。(AVガス、航空機用燃料等は使用できない)
MFJ技術規則第7章ガソリン・オイル・クーラント（145頁）参照。

14 車両検査

1）モトクロス競技細則［⑯車両検査］(91頁）参照。
2）車両検査持ち込み台数は、1クラスにつき国際B級部門は1台に限定し、国際A級部門については制限を設けない。ただし、車両検査を受けていない車両の使用は一切認められない。

15 車両の変更

1）モトクロス競技細則［⑱車両の変更］(91頁）参照。

16 フリープラクティスおよび公式練習

1）競技会前日の練習走行は禁止される。
2）ライダーは、主催者が設けた公式練習に参加しなければならない。

17 決勝レース出場資格

1）公式予選通過者（予選通過人数は各大会による）
2）ラストチャンスでの上位者（人数は各大会による）
3）リザーブライダー
ラストチャンスにて決勝レース出場資格を得られなかったライダーのうち、上位2名は、リザーブライダーの権利を得る。
リザーブライダーは、各決勝レース前の**サイティングラップに必ず参加しなければならない（⑱サイティングラップ参照）。**

18 サイティングラップ

決勝スタート前に、コース安全確認のためにサイティングラップ（1周）が行われる。このサイティングラップには、リザーブライダーを含む決勝出場者全員が参加しなければならない。
サイティングラップは、以下に記す手順によって行われる。
1）サイティングラップ開始10分前までに、リザーブライダーを含む決勝出場者はウェイティ

ングエリアに待機していなければならない。

2）サイティングラップのために、第1ライダーがウェイティングエリアを離れた時点で、ウェイティングエリアゲートは閉鎖される。

3）ゲート閉鎖に間に合わないライダーは、決勝レースへ出場することはいかなる理由があろうとも認められない。

4）サイティングラップ終了後、スタートのためにウェイティングエリアに待機していた第1ライダーが、スターティンググリッドに移動した時点で、サイティングラップからウェイティングエリアに戻ってきていないライダーのある場合は競技除外とされる。

5）ゲート閉鎖に間に合わない決勝出場者が出た場合、競技監督の判断により、リザーブライダーの決勝出場が認められる。

6）サイティングラップ中におけるライダーへの援助は、オフィシャルの判断あるいはオフィシャルの認めた者だけが行うことができる。

他の援助を受けたライダーは、競技除外とされる。

19 スタート

1）スタートの方法

(1) 原則として、各部門ともスターティングマシンを使ったエンジンランニングスタートとする。

(2) スターティングマシンを使用しないエンジンランニングスタートの際は、必ずヘルメット上部に左手を当てて待機し、スタート合図によりスタートすることとする。

2）スタートの手順

(1) スターティングエリアへは、スターティンググリッドに着くために移動する以前は、ライダーであっても立入りが禁止される。

(2) ライダーはスタートの10分前までにウェイティングエリアに待機していなければならない。ウェイティングエリアは、ウェイティングエリアから第1ライダーがスターティンググリッドに着くために移動した時点で閉鎖される。[⑱サイティングラップ] (100頁) 参照。

(3) 出場ライダー全員がスターティンググリッドに着くまでグリーンフラッグが、提示される。

(4) ライダー全員がスターティンググリッドに着いたことが確認された後、15秒ボードが15秒間提示される。

(5) 15秒ボードに引き続き5秒ボードが提示される。

(6) 5秒ボードが提示されて5～10秒以内にスタートとなる。

3）予選におけるスタート位置を選択する優先順位

(1) **国際A級** [細則5.⑨競技内容・2）国際A級の予選組分けについて] (96頁) 参照。

(2) **国際B級**スタートの位置は、抽選結果の順位による。

4）決勝レースのスタート位置を選択する優先順位

国際B級

スタート位置を選択する優先順位は、予選順位に基づき決定される。

国際A級

両ヒート（第1、第2ヒート）ともそれぞれの予選組のトップ走者の周回数の多い組。同周回の場合はタイムの早い組から、交互に上位より順番に選択できる。

5）ウォーミングアップ

エンジンのウォーミングアップは主催者により指定された時間帯及び場所に限られる。

6）ウォーミングアップ以降、スタート係によってスタートのためのエンジン始動の合図がなされた後は（キックスタートの場合は、エンジン停止の合図がなされた後）ライダーからタイムのサインがあっても競技は続行される。

7）予選・決勝におけるスタート位置の選択

決められた優先順位に従い、グリッドを選択するために、ウェイティングエリアから移動することができる。

一度スタート位置を選択し、グリッドに着いたものはそのスタート位置を変更することはできない。

20 レース

1）レース中の遵守事項は、国内競技規則・第3章［⑩競技参加者の遵守事項］（31頁）による。

2）ピットエリア内で車両整備などに従事するメカニックの数は、2名以内とする。

3）レース中、サイレンサーまたはエキスパンションチャンバーが外れた場合、また破損した場合は、競技役員より当該ライダーに対して黒旗及びゼッケンを記したボードが提示される。提示されたライダーは速やかにピットインし、修理の後、当該競技役員の許可を得て、再出走が認められる。

21 入賞車両の検査

モトクロス競技細則［㉙入賞車両の検査］（94頁）参照。

1）レース終了後、入賞車両は直ちに車検員によって決められた区域内に管理され、暫定結果発表後20分間（全日本選手権以外では30分）保管され、必要に応じて検査される。

2）入賞車両は、必要に応じて車両重量及び音量が測定され、規定を満たしていない車両の当該ライダーは失格となる。

22 総合順位の決定方法

レースが2ヒートに分かれて行われる場合の総合順位の決定は、以下に記すとおりとする。

1）1ヒート、2ヒートの合計得点が多い者。

2）上記1）で決定できない場合は、2ヒート目の成績を優先する。

23 抗　議

モトクロス競技細則［㉛抗議］（94頁）および国内競技規則第3章［㉗抗議］（37頁）による。

1）抗議は、暫定結果発表後20分以内（全日本選手権以外では30分以内）に当該ライダー及びエントラント代表者だけが行うことができる。

24 本規則の解釈

本規則及び競技に関する疑義は、大会事務局あてに質疑申し立てできる。なお、この回答は大会審査委員会の決定を最終的なものとする。

25 本規則の施行

本規則は、出場申し込み受付日より有効とする。なお、本規則に示されていない事項は、国内競技規則・細則4・モトクロス競技細則による。

1999年1月1日
全日本モトクロス選手権
大会事務局長

'99全日本モトクロス選手権シリーズ開催日程

開催日	大会名	出場申込先	会場	出場申込期間
3月27日（土） 〜 3月28日（日）	MFJ全日本モトクロス選手権 シリーズ第1戦 中国大会	MFJ中国 〒733-0031 広島県広島市西区観音町新町1-18-9 広島県二輪車安全普及協会内　☎082（295）6994	広島県 グリーンパーク弘楽園	2月16日（火） 〜 2月25日（木）
4月17日（土） 〜 4月18日（日）	MFJ全日本モトクロス選手権 シリーズ第2戦 近畿大会	MFJ近畿 〒550-0012 大阪府大阪市西区立売堀1-7-14 ☎06（6534）6422	奈良県 名阪スポーツランド	3月9日（火） 〜 3月18日（木）
5月22日（土） 〜 5月23日（日）	MFJ全日本モトクロス選手権 シリーズ第3戦 九州大会	MFJ九州 〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵3-11-9 メゾンド水巻1F-B　☎092（473）2616	熊本県 HSR九州	4月13日（火） 〜 4月22日（木）
6月5日（土） 〜 6月6日（日）	MFJ全日本モトクロス選手権 シリーズ第4戦 SUGO大会	SUGOスポーツクラブMX係 〒989-1394 ☎0224（83）3127	宮城県 スポーツランドSUGO モトクロスコース	4月27日（火） 〜 5月6日（木）
6月19日（土） 〜 6月20日（日）	MFJ全日本モトクロス選手権 シリーズ第5戦 関東大会	MFJ関東 〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-43-5 アルス新大塚202　☎03（3971）0022	長野県 コングランド	5月11日（火） 〜 5月20日（木）
7月3日（土） 〜 7月4日（日）	MFJ全日本モトクロス選手権 シリーズ第6戦 北海道大会	MFJ北海道 〒007-0823 北海道札幌市東区東雁来3条1丁目4-3 札幌地区軽自動車会館2F　☎011（782）1492	北海道 わっさむサーキット	5月25日（火） 〜 6月3日（木）
7月17日（土） 〜 7月18日（日）	MFJ全日本モトクロス選手権 シリーズ第7戦 東北大会	藤沢町モータースポーツ協会 〒029-3405岩手県東磐井郡藤沢町藤沢字町裏105番地 藤沢町役場内　☎0191（63）2111	岩手県 藤沢スポーツランド	6月8日（火） 〜 6月17日（木）
9月11日（土） 〜 9月12日（日）	MFJ全日本モトクロス選手権 シリーズ第8戦 SUGO大会	SUGOスポーツクラブMX係 〒989-1394 ☎0224（83）3127	宮城県 スポーツランドSUGO モトクロスコース	8月3日（火） 〜 8月12日（木）
10月9日（土） 〜 10月10日（日）	MFJ全日本モトクロス選手権 シリーズ第9戦 中国大会	MFJ中国 〒733-0031 広島県広島市西区観音町新町1-18-9 広島県二輪車安全普及協会内　☎082（295）6994	広島県 グリーンパーク弘楽園	8月31日（火） 〜 9月9日（木）
10月23日（土） 〜 10月24日（日）	MFJ全日本モトクロス選手権 シリーズ第10戦 第37回モトクロス日本グランプリ大会	MFJ関東 〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-43-5 アルス新大塚202　☎03（3971）0022	埼玉県 ホンダエアポートライダーズパーク（HARP）	9月14日（火） 〜 9月23日（木）

※スポーツランドSUGOへの郵便物は郵便番号と宛て名のみで届きます。

'99モトクロス主要競技会開催日程

開催日	大会名	出場申込先	会場
8月22日（日）	第3回MFJオフロード 全国大会	（財）日本モーターサイクルスポーツ協会 〒104-0045 東京都中央区築地2-11-24 第29興和ビル別館7F　☎03（5565）0900	埼玉県 ホンダエアポート ライダーズパーク（HARP）

手続き簡単

とっても便利!!
ホンダモトロマンの らくらく通信販売

手続き簡単

FAXまたは電話で注文

後は家で待つだけ!

ホンダ純正パーツやオイル・ケミカル・MXウエアー…etc
モトロマン取扱商品が自宅に居ながら購入できます

- 送金、振込みの手続き不要。
- クロネコヤマトのコレクト便で代金は商品引き換えです。
- ホンダCRシリーズ純正パーツは常時在庫（ピストン・クラッチ・レバー…etc）
- 在庫商品は午後2時までにご注文いただければ翌日お手元に届きます。（一部地域を除く）
- オンロード用HRCパーツ・他メーカー純正パーツも取り寄せできます。（要納期確認）
- 部品名・部品番号を明記の上ご注文下さい。住所・氏名・電話番号も忘れずに！

マシンメンテナンス
スペシャルマシン制作承ります

フロントサスペンションオーバーホール	¥ 8,000〜
リヤサスペンションオーバーホール	¥15,000〜
エンジンオーバーホール	¥36,000〜

※その他仕様変更、スペシャルマシン制作は別途お問い合わせ下さい。

ガレージ会員募集中

当店自慢のガレージ会員システムの特典は…

- ▶会員専用ガレージの使用・洗車スペースの使用・シャワールームの使用・店内商品の割引・軽井沢モーターパーク走行料割引・宿泊施設の使用…
- ▶特に専用ガレージでは自分のマシンを持ち込んで自分でメンテナンスできます。メンテナンスやセッティングでわからない事はスタッフがこの場で分かりやすくアドバイスします。
- ▶ビギナーからエキスパートまでどなたでも安心してモトクロスを楽しんでいただけるユーザー本意のシステムです!!

さあ!私たちと一緒にモトクロスを楽しみましょう!!

MotoRoman

New & Used CR Seller - Motocross & Kart Garage - MTB & BMX - Off Road Play School - Suspension Maintenance - Rental Bikes

〒350-0133 埼玉県比企郡川島町表418-3●Tel.0492-97-5959●Fax.0492-97-5956
●火曜・水曜定休●OPEN(平日)10:00〜7:00PM (日・祭)8:00AM〜7:00PM

いつまでもモーターサイクル。

フレッシュで充実した情報をキメ細かく編集。あなたのバイクライフを応援します。

情報いっぱい! 伝統のバイク総合誌

モーターサイクリスト

毎月1日発売　●定価560円

夢を広げる、大人のバイクライフマガジン

別冊 MOTOR CYCLIST

毎月15日発売　●定価660円

※定価は税込み

株式会社 八重洲出版

本　社 ●〒104-8488 東京都中央区八丁堀4-5-9　エイトビル ☎03(3552)8431㈹

大阪支社 ●〒530-0002 大阪市北区曾根崎新地1-3-16 京富ビル ☎06(6344)2015㈹

Trial

トライアル

▼細則6　トライアル競技細則

1．トライアルの定義……106
2．適用の範囲……106
3．コース……106
4．セクション……107
5．持ち時間(タイムキーピング)……107
6．練　習……108
7．出場に関する手続き……108
8．技術規則関連……108
9．ペナルティ……109
10．定　義……111
11．結果の記録……112
12．セクションの閉鎖……112
13．結果と順位……112
14．大会の中断……112
15．同　点……112
16．賞……112
17．抗　議……112
18．本規則の解釈……112
19．本規則の施行……112
附　則……113

▼細則7　'99全日本トライアル選手権大会特別規則

1．適用の範囲……115
2．セクション……115
3．開催クラス……115
4．参加資格……115
5．出場料および共済会掛金(保険料)……115
6．ゼッケンナンバー……116
7．メカニック……116
8．車両検査……117
9．スタート……117
10．結果の記録(採点カード)……117
11．持ち時間(タイムキーピング)……117
12．ペナルティ……117
13．賞および得点……118
14．本規則の施行……118
'99全日本トライアル選手権開催日程……119

細則 6

トライアル競技細則

1 トライアルの定義

トライアルとは、ライダーの技術および正確性が結果の基盤をなす、モーターサイクル競技である。

コースのなかにセクションが配置される。セクションとは走行するライダーの技術が観察され、減点が科される区間である。加えてコースを走行するにあたり、コースの一部分またはコース全体に時間制限が与えられる。

コースはクロスカントリーの地形（小道、田舎道、林道など）で構成されても良いし、インドアに設定されても良い。

2 適用の範囲

国内のトライアル競技会は以下に記すトライアル競技細則、国内競技規則（24～38頁）、および各大会の主催者より配布される大会特別規則（公式通知）によって開催される。

3 コース

競技は大別して、同時にスタートして各セクションを自由にめぐる方式と、コースを定めて順次セクションをめぐる方式がある。大会特別規則（公式通知）で特に定めない限り、コースを定めて順にセクションをめぐる方式が採用される。

コースとはスタート地点から最終ゴール地点まで、定められた順路全体を指す。

コースを定める場合、移動は原則として一方通行となる。例外的に交互通行となる場合、通路を区分けしたり、オフィシャルを配置するなど、安全上の対策がされる。

完走者[1]となるためには、そのライダーの車両が、その車両自身の推進力かライダー自身の努力によって、コース全体を走りきらなくてはならない（主催者が特に認めた補助や、認められたショートカットコース[2]の使用は例外的に認められる）。

これに違反した場合、失格となる。

1）距　離

コース全長は、特別規則（公式通知）に記載される。

2）コース指示（コースマーク）

コースはコースマーク（案内矢印）、看板、コーステープによって表示される。

表示されたコースを正確に通らなくてはならない。コースから離れてしまったライダーは、離れてしまった地点からコースに復帰しなくてはならない。

3）コース内での補助

1．完走者：競技を完了した者。順位が認定されるための資格。
2．ショートカットコース：コースをセクション順にまわらずにパドックに戻るための、主催者により設定された通路、近道。

コース上では誰からでも品物を受け取ることができる（セクション内を除く）。ただし車両の補修、部品の交換などの作業はライダー本人がしなくてはならない（全日本選手権ではルールが異なる）。

4）ライダーパドック

主催者の定めるライダーパドック（選手用駐車場）内であれば、車両の補修、部品の交換などであっても、誰からでも補助を受けることができる。

5）コース移動に関する義務

コースの移動は原則として時速20km以下とし、観客の移動を最優先しなくてはならない。

4 セクション

大会のセクション数は、特別規則書（公式通知）に記載される。

すべてのセクションには、セクション番号が明確に表示されている。ライダーはその番号の順序に従って、第1セクションから順にトライしなくてはならない。

すべてのセクションには、“セクション入り口”を「IN」と、“セクション出口”を「OUT」と明確に表示される。

“セクション入り口”と“セクション出口”の間のセクション区間内は、右側がセクションテープ（色の区別はない）または赤色セクションマーカー。左側はセクションテープ（色の区別はない）または青色セクションマーカーによって示される。これらのセクションを示すために使われるテープ、杭、マーカー等すべてを「セクション表示物」と呼ぶ。

セクションの幅は、セクションマーカーによって制限される場合1.2m以上、セクションテープによって制限される場合2.0m以上の幅があることを原則とする。

セクション内にいた時間とは、車両のフロントホイールの中心（ホイールスピンドル）が“セクション入り口”の表示を通り過ぎてから、“セクション出口”の表示を通り過ぎるまでの時間をいう。“セクション入り口”“セクション出口”の表示をリヤホイールがフロントホイールより先に通過した場合“失敗”となる。

1）各クラス用ゲート

ひとつのセクションを複数クラスが混走する場合、クラス別専用ゲート[4]を設ける。この場合、各クラスとも自クラスのゲートを通過しなければならない。

他クラス用ゲートは通過しても、通過しなくても良い。しかし、セクション表示物の現状を変化[5]させると“失敗”となる。

5 持ち時間（タイムキーピング）

1）持ち時間

ライダーの持ち時間は特別規則に記載される。すべてのライダーに、完走するための持ち時間が同様に与えられる。

スタート時間に遅れたペナルティは1分まで毎に1点。20分以上の遅れは失格となる。

ゴール時間に遅れた場合、失格となる。（全日本選手権ではルールが異なる）

2）スタート時間管理

スタート時間コントロールは、スタート地点で行われる。

3）ゴール時間管理

特別規則（公式通知）に特別に記載されなかった場合、最終タイムコントロールは最終セクションを出てすぐに、明確に、そして良く見えるように設置される。しかし最終ゴール地点でゴールチェック（車両チェック）を受けるまで、ライダーは競技の管理下にある。

3．“失敗”：セクションの走行技術に関して、もっとも重い減点（5点）。定義は後に述べる。
4．ゲート：セクションを部分的に制限する関門のこと。左右一対のゲートマーカーで表示され、原則的に左右1.2m以上の間隔で制限される。
5．現状の変化：テープ、マーカー、杭などに車両、ライダーが干渉して壊す、たるませる、移動させる、押し倒す、引きちぎる等の行為。

4）セクション持ち時間

セクション個々に持ち時間が設定される場合、持ち時間はどのライダーにも、どのセクションにも同様に与えられ、時間管理の方法とともに特別規則に記載される。持ち時間以内にセクション完走が果たせなかったライダーは、そのセクションに関して“失敗”となる。

6 練 習

設定されたコース中での練習と、セクションでの練習は、大会日以前であっても禁止される。これに違反した場合は失格となる。

大会会場での練習が認められる期間と場所は、特別規則（公式通知）に記載される。

大会期間中に練習することが認められている場所を、ウォーミングアップエリアと呼ぶ。

7 出場に関する手続き

1）大会へのエントリー

出場申し込み方法の詳細は特別規則に記載される。申し込み用紙に必要事項をすべて記入し、定められた出場料、および共済会掛け金を添えて申し込むこと。

締め切り日以降のエントリーは認められない。電話による申し込みなど、定められた以外の方法は認められない。

受理された車両は、同メーカー同型式の場合を除いて変更できない。しかし競技監督に書類で申し込み、許可が得られた場合は例外とされる。（手数料5000円）

2）エントリー費用

エントリー費用は特別規則に記載される。

3）ライダー、メカニックのゼッケンナンバー

ライダーおよびメカニックは、主催者から指定されたナンバーを車両検査までに、規定の書体、規定の色分けで記入していなくてはならない。

4）メカニックの登録

メカニックの登録は、全日本選手権にのみ認められている。

5）出場者受付

大会当日にライダーとメカニックの出場資格の確認を行なう。

確認するもの：MFJライセンス、参加受理書

出場者受付の時間は、特別規則（公式通知）に記載される。

8 技術規則関連

1）モーターサイクルの装備

車　　両：車両は国際A級、国際B級はトライアル基本仕様（161頁）に合致した車両。国内A級以下はトライアル基本仕様と国内トライアルの仕様（182頁）に合致したMFJ公認車両でなくてはならない。改造されて型式が判別できない車両は、出場が認められない。

タ イ ヤ：国内A級以下では、タイヤはMFJ公認のものだけが認められる。

ガソリン：トライアル技術規則に適合するガソリンだけが認められる。

これらの規則に完全に適合しない場合、失格となる。

ヘルパーの使用する車両は、MFJ公認車両でなくてはならない。

2）ライダーとメカニックの装備

MFJ公認ヘルメットの着用が義務づけられる。MFJ公認ヘルメットには、公認マークが貼

付されている。

服装は、下半身は長ズボン、上半身は長袖でなければならない。手袋、および足首以上を保護する突出部分のないブーツなど革靴、またはゴム長靴が義務づけられる。

3）音量規制

競技前に、車両の音量が車両規則に沿って計測される。不合格の車両は、基準に達するまで調整したり、部品を交換することができる。テストに合格したサイレンサーだけがマーキング[6]を受ける。

音量の規制値は、FIM方式（50cm離れて5000回転）で測定し、94dB/Aを超えないこと。

4）車両検査

大会当日出場資格の確認後、ライダーとヘルパーの車両検査を行なう。検査を受ける車両は、ライダー、メカニック各1名に対し1台までに制限されている。

5）部品のマーキング

部品がマーキングされる場合、その詳細が特別規則（公式通知）に掲載される。マーキングされた部品は、競技期間中交換が禁止される。

サイレンサーがマーキングされた後ダメージを受け、大幅に音量が増した場合、サイレンサーを交換するか走行を停止しなくてはならない。サイレンサーを交換した場合、オフィシャルに申し出なくてはならない。サイレンサーを交換した車両は、最終ラップのマシンチェック後、主催者によって車両が保管され音量検査がされる（規制値を超えていた場合、失格となる）。

6）ライダーの責任

マーキングが行われた場合、ライダーはパーツが適正にマーキングされたことを、自分の責任で確認してから競技を開始しなくてはならない。

7）部品のチェック

主催者は、競技中にどの車両でも、いつでも部品をチェックすることができる。マーキングされた部品からマークが消えていた場合、その部品を交換したとみなされる。

9 ペナルティ

1）タイムペナルティと持ち時間関連

スタート遅れ1分まで毎　　1点
スタート遅れ20分を超えた場合　失格
最終タイムコントロール遅れ　　失格（全日本選手権ではルールが異なる）

2）減点

セクションにおいて
－足つき（**足つきまたは停止**）1回　　1点
－足つき（**足つきまたは停止**）2回　　2点
－足つき（**足つきまたは停止**）3回以上　　3点

足つき停止の定義は111頁 参照

－停止中の足つき1回　　2点
－停止中の足つき2回　　3点
－後ろへの動き　　5点
－前進動作なしに前後ホイールのいずれか、または両方が横へ移動した　　5点

セクション持ち時間が設定されない場合、不必要に長い間停止を続けることは禁止される。すみやかにトライを続けることをオフィシャルに指示され、これに従わない場合失敗とみなされる。

6．マーキング：車検を受けた部品であることを証明するため、ペンキなど落ちにくい塗料で部分的に塗装する。

－失敗　　5点

－セクション内で、外部からの援助を受けた

5点

－セクションにトライしないことを、ライダー本人がセクションオフィシャルに申告した。

5点

－ライダーがセクションを著しく変化させた

5点

－セクション見落とし（次のセクションにトライしてしまった場合、見落としたセクションに対して）　　10点

ひとつのセクションで、いくつかの減点が累積する場合、もっとも重い減点だけが適用される。しかし、以下の減点は加算される。

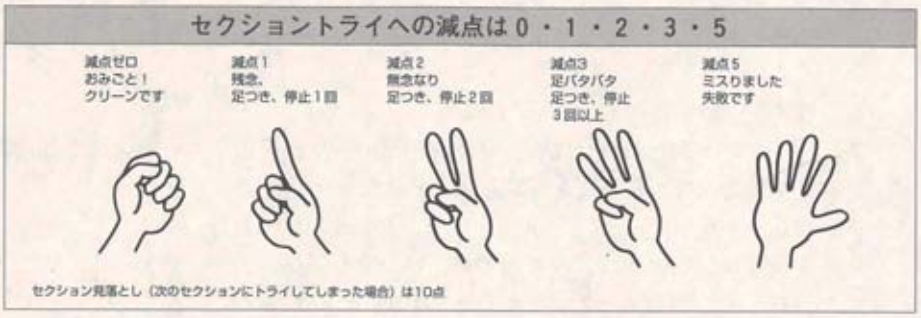
－失敗後、**セクション持ち時間経過後も**オフィシャルの指示に従わず、セクションから出ない。

5点

－セクションを1番から順にトライしなかった。

20点

図A



以下の3）罰金、4）失格は審査委員会の承認に基づき、競技監督からライダーへ通告される。

3）罰金

ライダーかメカニックによるオフィシャルへの暴力的な言動、行動

1万円以上5万円以下の罰金

4）失格

ライダーは以下の行為により失格となる。

－ライダーかメカニックによるオフィシャルへの暴力的な言動、行動（重大な場合）。

－ヘルメットを着用しないでの走行

－コース指示の見落とし（コース間違い）。

－競技中の車両、またはライダーの変更。

－認められないタイヤの使用。

－認められないガソリンの使用。

－禁止された薬物の使用。

－ゼッケンナンバーの変更。

－コースを見失った地点以外からのコース復帰。

－競技期間中のセクションでの練習。

7．地形：地面、木、枝、壁、石、岩、杭など総称して「地形」と呼ぶ。
8．フットレスト：ステップの別称。
9．エンジンケース：ここではクランクケースを指す。
10．エンジンカバー：ここではアンダーガードを指す。

10 定　義

以下の定義は、これと異なる解釈が特別規則(公式通知)に明確に記載されない限り適用される。

1）足つき

ライダーの体のどこかの部分、または以下に記す例外以外のマシンのどこかの部分が地面に接したり、地形に寄りかかるたびに「足つき」とみなされる。

足つきの解釈において、足をついた場所がセクション内であってもセクション外であっても、車両がセクション内にあれば、同じ足つきとみなされる。

地面に触れてペナルティの対象とならないのは：タイヤ、フットレスト、エンジンケース、エンジンカバー。

2）停止

車両が前進するのを止めるたびに、そのつど停止したとみなされる。

3）失敗

ー足を着いた状態、または着かない状態であっても、後方へ移動してしまったら失敗とみなされる。

ー前進動作なしに前後ホイールのいずれか、または両方が横へ移動してしまったら失敗とみなされる。

ー停止中に足を着いた際、両手をハンドルバーに置いていなかった場合、失敗とみなされる。

ーライダーが車両から落ちてしまって、**車両の片方のサイド、または後方に両足を着いてしまった。**

ー車両がセクションの境界を越えてしまったときで、越えたそのホイール（タイヤ含む）が接地した状態。

ーゲートマーカー、およびセクションマーカーが示す方向以外へ車両が進んでしまった。

ーライダーがどこかに寄りかかっている状態で、エンジンが停止した場合。

ータイヤを除く車両の一部が地面に接しているときに、エンジンが停止した場合。

ー車両のハンドルバーが地面に接してしまった。

ーセクション表示物の現状を変化させる。

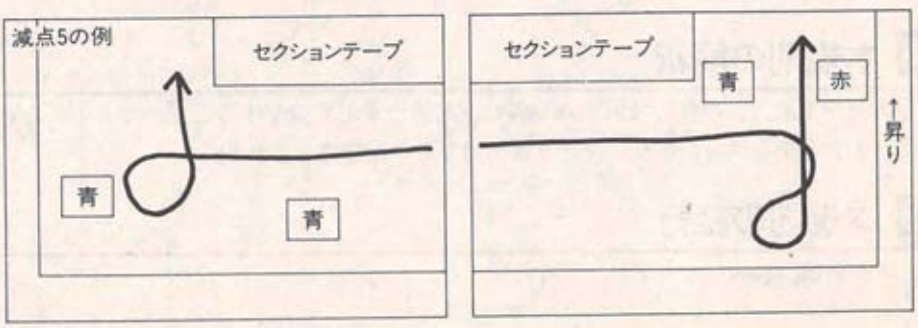
ーセクション内で車両、またはライダーが外部からの援助を受ける。

ーセクション内でライダー自身の車両がつけたわだちに再び触れたり、踏みつけたり、または飛び越えた。

ー“セクション入り口”“セクション出口”の表示を、リヤホイールがフロントホイールよりも先に通過する。

ーフロントスピンドルが“セクション入り口”の境界から中に入っている。

図B



11. バックマーカー：オフィシャルの役職名。セクション閉鎖を指示する。

11 結果の記録

パンチカードが使用される場合、溶けにくい素材でできたカードが配布される。

ライダーは自分のスコアカードに各セクションでマークを受け、求められたときにはリザルトオフィシャルにスコアカードを手渡す責任がある。パンチを間違えてしまった場合、正解を示す点数だけを除いて残る点数を全部パンチする。

12 セクションの閉鎖

競技時間が残されていても、最終ライダー通過後バックマーカー"がセクションを閉鎖する場合がある。

同時スタート方式の場合、タイムスケジュールで定められた時刻にセクションが閉鎖される。

13 結果と順位

大会の優勝者は、[⑨ペナルティ]（109頁）による減点数がもっとも少ないライダーである。

14 大会の中断

大会が終了前に中断されてしまった場合、審査委員会はその大会を無効・取り消しとするか、その結果と賞が正当とするか、状況によって判断する。

15 同　点

同点が生じた場合、0点がもっとも多いライダーを勝者とする。依然として同点だった場合1点が最も多いライダー、2点が最も多いライダー、3点が最も多いライダーという順序で判断する。

それでも同点だった場合、少ないタイムペナルティ（または、計っていたら少ない所要時間）で完走したライダーを勝者とする。

16 賞

得点は国内競技規則第3章［㉔公式得点］（35頁）による。

17 抗　議

抗議は国内競技規則第3章［㉗抗議］（37頁）による。

セクション審判が下したジャッジには抗議できない。

車両の分解検査に要した費用は、抗議不成立の場合提出者、抗議成立の場合対象者が負担する。費用の算定は車検長が行なう。

18 本規則の解釈

本競技細則および競技に関する疑義は、事務局あて質疑をすることができる。なお、この回答は、大会審査委員会の解釈、決定を最終的なものとして示される。

19 本規則の施行

本規則は、1999年1月1日より有効とする。

付属附則1　判例集

以下は現在までの適用例をまとめたものです。規則に準じて適用されます。

マナーに関する「ことがら」

競技中の事故や、競技の参加を取りやめる（リタイヤする）場合は、すみやかに大会本部へ連絡しなくてはならない。

ライダーはセクションに入る準備ができしだい、手を挙げてセクションオフィシャルに合図しなければならない。

ライダーの装備に関して

1．MFJ公認ヘルメットであってもMFJの公認マークの貼付されていない場合、特別検査によって公認ヘルメットであることが確認され、かつ安全性が確認されればその競技で使用することができる。（検査料1000円が必要）

競技の進行に関して

2．ライダーは、スタートの合図を受けて始めてエンジンを始動することができる。

3．ライダーはセクション内で一切の援助を受けてはならないが、“失敗”後は例外である。

ライダーへの援助

4．許可された場所（パドック）以外で、外部から整備の援助（部品の交換を含む）を受けた場合、失格となる。

セクション関連

5．ゲート通過後に再びゲートを逆に通過した場合、ゲート不通過とみなされる。

6．複数クラスが混走するためクラス別ゲートが使用される場合で最下位クラス用ゲートが設けられていない場合、同クラスはセクション内のどこを通っても良い。

ペナルティ関連

7．以下の場合、車両が前進していれば1回の足つきとみなす。

—体の部分で手、足についてはその付け根から先を同一とみなす。したがって足つきと同時にひざを接地しても、1回の足つきである。

—足つき状態でつま先とかかとを交互についた。

—足つき状態のまま、数メートル引きずられてしまった。

—片足を軸にして、車両を回転させた。

—手を立ち木、壁についた。

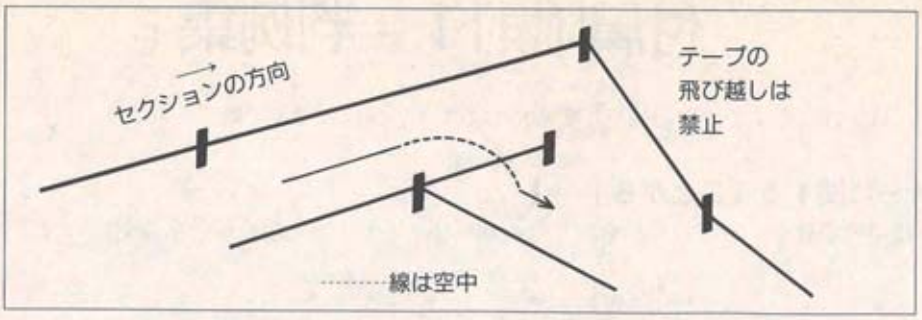
—身体または車両が地形にもたれかかり、バランスを修正した。

8．以下の場合、“失敗”とみなす。

—上り坂等での足つきの状態で、フロントタイヤが浮いてタイヤがバックした。

—テープを飛び越えた（114頁図参照）。

図



9．以下の場合、“減点”または“失敗”とみなされない。

—ライダーの身体や車両の部分が地形に接触したが、明らかなバランス修正はしなかった。

—セクション表示物への単純な接触で、現状は変化しなかった。

—テープの上からフローティングターンなどによりフロントタイヤ、リヤタイヤのどちらか片方がテープ外に出て、地形に接触しないでテープ内に着地した。

—ゲートマーカー、セクションマーカー付近でのフローティングターン等によるマーカー迂回で、テープ内にあるタイヤの接地面はマーカーの内側を通った。

—V字型の地形でフットレスト（ステップ）がかみ込んで停止した場合、フットレスト（ステップ）に足が乗っていれば“足つき減点”にならない（停止の減点は科される）。そのフットレスト（ステップ）上のつま先、足の裏部分が接地していても、意識的なバランス修正が無い場合、足つき減点の対象とならない。

細則 7

'99全日本トライアル選手権大会特別規則

1 適用の範囲

トライアル全日本選手権は以下に記す全日本選手権特別規則、トライアル競技細則（106～112頁）、国内競技規則（24～38頁）、および各大会の主催者から配布される大会特別規則（公式通知）によって開催される。

2 セクション

大会前日に査察が行なわれ、査察団によって最終的にセクションが認定される。査察団は審査委員長を団長とし、競技監督、セクション設定責任者、選手会代表で構成される。

3 開催クラス

国際A級部門、国際A級スーパークラス部門、および国際B級部門とする。

4 参加資格

国際A級スーパークラス：

前年度全日本選手権国際A級スーパークラスランキング上位10名。および国際A級ランキング上位3名（MFJ事務局への手続きが必要）。

当該年に有効なライセンス所持者。

国際A級、および国際B級：

それぞれ当該年に有効なライセンス所持者。

メカニック：

当該年に有効な国内B級以上のライセンス所持者。

5 出場料および共済会掛金（保険料）

	総額	内訳	
		出場料	共済会掛け金
国際A級部門（スーパークラス含む）	12,000円	11,700円	300円
国際B級部門	12,000円	11,700円	300円
メカニック	6,000円	5,700円	300円

参加受理

1）必要事項を記入した出場申込書、出場料を大会事務局が受理した時点で参加受理書、公式通知等が発送される。

2）いったん受理された出場料、共済会掛金はいかなる理由があっても返還されない。
3）大会が取り止めになった場合、また参加が拒否された場合にのみ出場料、共済会掛金が返還される。(申込者が必要な手続きを怠った場合は、これに当てはまらない)

6 ゼッケンナンバー

全日本選手権の年間指定ゼッケンは以下の基準による。

国際A級

(1) 前年度全日本選手権国際A級スーパークラス上位から指定する。(ポイント獲得者)
(2) 次いで、国際A級上位から指定する。(ポイント獲得者)
(3) 次いで、国際B級からの昇格者を指定する。

国際B級

(4) 国際A級への昇格者を除く、前年度のランキング上位から指定する。(ポイント獲得者)
(5) 上記以外は大会ごとに指定する。

ナンバープレートの色は以下のとおり。

国際A級スーパークラス：赤地黄色文字
国際A級（スーパークラス除く）：赤地白文字
国際B級：緑地白文字
国際A級のメカニック（スーパークラス含む）：白地赤文字
国際B級のメカニック：白地緑文字

ゼッケン番号は、メカニックを登録するライダーと同じ。

7 メカニック

1）メカニックの登録

ライダー1名に対し、1名のメカニックが認められる（登録できる)。

メカニックは、ライダーの出場申込みの際同時に登録する必要がある。この場合ライダーは、登録したメカニックの行動すべてに責任を負うことを認めたものとみなされる。(メカニックの受けた罰則は、登録したライダーがその罰則を受ける。)

登録したメカニックは、有資格者であれば変更が認められる。この場合大会当日の出場者受付に変更手数料（1000円）を添えて申し込まなければならない。

ライダー単独でエントリーした場合、大会当日のメカニック登録はできない。

大会により、メカニックの登録を認めない場合がある。

2）メカニックの義務

メカニックミーティングが開催される場合、これに出席しなくてはならない。

移動コースは、特に指示の無い場合ライダーと同一とする。逆走はできない。

メカニックは、登録したライダーと同時にスタートしなくてはならない。

3）メカニックの行なって良い行為（下記以外は認められない)

パドック以外での車両整備（部品の交換を含む）は、選手本人およびその選手に登録されたメカニックのみが行なうことができる。

メカニックは原則としてセクション内に立ち入ることはできない。ただしトライ失敗の際の補助（安全上の目的）として、その選手に登録されたメカニックがセクションオフィシャルの許可を受けた場合に限り、そのセクション内への立ち入りが認められる。

8 車両検査

競技前の車検に合格した車両にはステッカーが貼付され、以下の部分にマーキングを行なう。マーキングを受けた部品以外は、車検後でも交換することができる。

パーツ名	ペイント部分
フレーム	フレーム前方(ステアリングヘッド)右側
クランクケース	右側
サイレンサー	サイレンサー本体

9 スタート

第1戦のスタート順序はゼッケン下位からとする。

第2戦以降は、ポイント獲得者以外のゼッケン下位の者から先にスタートし、次いで前戦までのランキング下位の者からスタートする。

10 結果の記録（採点カード）

1）ライダーはスタート時に採点カードを受け取り、各ラップごとに交換すること。
2）セクションでのパンチの点数は、その場でライダーが確認すること。
3）セクションをトライしてもパンチを受けないで次のセクションへ入った場合、前セクションは“セクション見落とし”とみなされる。(減点10)
4）採点カードの破損等によって、採点が確認できない場合、当該セクションはエスケープとみなされる。
5）採点カードは選手自身がパンチを受け、管理しなくてはならない。
6）採点カードを紛失した場合、失格とされる。
7）採点カードはコンピューター処理されるので、折り曲げたりしてはならない。
8）採点カードの交換場所は、大会特別規則（公式通知）に示される。

11 持ち時間（タイムキーピング）

1）ゴールに遅れたライダーは、1分まで毎に1点の減点が科せられ、20分以上の遅れは失格とする。
2）ゴールタイムチェックを受けたライダーは、定められたコースに従い10分以内にカード交換場所に戻り、採点カードを係員に提出すること。この時点でゴール完了となる。ゴール完了前に指定されたコース外に出たり、パドックに入ったりしてはならない。

12 ペナルティ

トライアル競技細則に定める減点に加え、下記減点を科す。

1）セクションでの持ち時間
各セクションごとに2分の持ち時間が与えられ、2分以内にセクションアウトできなかった場合は、“失敗”となる。

減点

ーライダーまたはメカニックがセクションを著しく変化させた。　5点
ーオフィシャルの許可を受けずに、メカニックがセクションに入った。　5点

罰金

メカニックが以下の条項に従わなかった。 メカニックが判定に抗議した場合 <追加5点

モーターサイクル乗車中は、ブーツ、長ズボン、ヘルメットを装備しなくてはならない。
罰則1回目：罰金1万円、2回目：罰金2万円、3回目：罰金5万円

13 賞および得点（ポイント）

1）各大会ごとに国際A級、国際B級の各クラス（スーパークラスは除く）へベストクリーン賞が与えられる（クリーン数が同数の場合は、成績が上位のものとする）。

2）国際A級、国際A級スーパークラス、国際B級部門全日本選手権ランキングの得点

(1) 得点はMFJ国内競技規則第3章［㉔公式得点］（35頁）によって与えられる。

(2) 日本グランプリトライアル大会については、規定の得点にさらに3点が加算される。

(3) 全日本選手権ランキングの順位は、上記によって与えられた得点のすべてが加算され、その合計得点によって決定される。

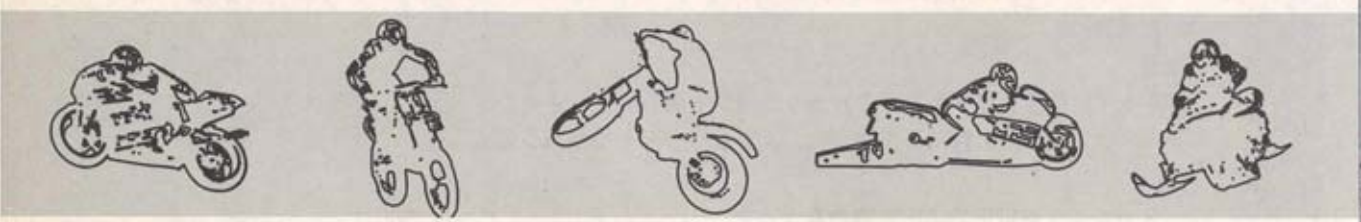
(4) 国際A級スーパークラスは、出走台数に関わらず上位10位までにポイントが与えられる。

(5) 詳細は全日本選手権ランキング決定基準（232頁）に示される。

14 本規則の施行

本規則は、出場申し込み受付日より有効となる。なお、本規則に示されていない事項は、国内競技規則、トライアル競技細則による。

1999年1月1日
全日本トライアル選手権
大会事務局長



'99全日本トライアル選手権シリーズ開催日程

開催月日	大会名	出場申込先	会場	出場申込期間
3月6日（土） 〜 3月7日（日）	MFJ全日本トライアル選手権 シリーズ第1戦 九州大会	MFJ九州 〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵3-11-9 メゾンド水巻1F-B ☎092（473）2616	長崎県 トライアルパーク 宝蔵寺	1月26日（火） 〜 2月4日（木）
4月10日（土） 〜 4月11日（日）	MFJ全日本トライアル選手権 シリーズ第2戦 関東大会	MFJ関東 〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-43-5 アルス新大塚202 ☎03（3971）0022	茨城県 真壁トライアル ランド	3月2日（火） 〜 3月11日（木）
5月22日（土） 〜 5月23日（日）	MFJ全日本トライアル選手権 シリーズ第3戦 関東・新潟大会	ケプラン内 全日本TR係 〒951-8154 新潟県新潟市堀割町1-7 ☎025（232）1811	新潟県 大日ケ原	4月13日（火） 〜 4月22日（木）
7月17日（土） 〜 7月18日（日）	MFJ全日本トライアル選手権 シリーズ第4戦 近畿大会	MFJ近畿 〒550-0012 大阪府大阪市西区立売堀1-7-14 ☎06（6534）6422	兵庫県 猪名川サーキット	6月8日（火） 〜 6月17日（木）
8月7日（土） 〜 8月8日（日）	MFJ全日本トライアル選手権 シリーズ第5戦 北海道大会	MFJ北海道 〒007-0823 北海道札幌市東区東来3条1丁目4-3 札幌地区軽自動車会館2F ☎011（782）1492	北海道わっさむ サーキット	6月29日（火） 〜 7月8日（木）
8月21日（土） 〜 8月22日（日）	MFJ全日本トライアル選手権 シリーズ第6戦 中国大会	MFJ中国 〒733-0036 広島県広島市西区観音新町1-18-9 広島県二輪車安全普及協会内 ☎082(295)6994	広島県 吉舎町	7月13日（火） 〜 8月19日（木）
10月2日（土） 〜 10月3日（日）	MFJ全日本トライアル選手権 シリーズ第7戦 中部大会	MFJ中部 〒466-0812 愛知県名古屋市昭和区八事富士見 1603 ☎052（833）9676	岐阜県 坂内バイクランド	8月22日（火） 〜 9月2日（木）
10月16日（土） 〜 10月17日（日）	MFJ全日本トライアル選手権 シリーズ第8戦 日本グランプリトライアル大会	SUGOスポーツクラブTR係 〒989-1394 ☎0224（83）3127	宮城県 スポーツランド SUGO	9月7日（火） 〜 9月16日（木）

'99トライアル主要競技会カレンダー

開催月日	大会名	出場申込先	会場
11月14日（日）	トライアルグランドチャンピオン大会	MFJ中部トライアル委員会 〒470-0151 愛知県愛知郡東郷町白鳥諸輪字東脇59-99 鈴木唯一様方 ☎05613（8）0736	岐阜県 坂内バイクランド

※スポーツランドSUGOへの郵便物は郵便番号と宛て名のみで届きます。

モーターサイクルスポーツのメンタルパーツ

RIDER'Sビック保障プラン

加入している方へ
追加契約
受付中

1 無配当新定期保険 (災害入院特約、疾病入院 手術特約付)

給付金の種類	支払事由	給付金額
災害入院給付金 [入院日額 × (入院日数−4日)] 1入院120日、通算700日限度	災害で5日以上継続入院したとき	日額 5,000円
疾病入院給付金 [入院日額 × (入院日数−4日)] 1入院120日、通算700日限度	疾病で5日以上継続入院したとき	日額 5,000円
手術給付金 手術に応じて [入院日額の50・30・15倍]	災害または疾病で所定の手術を受けたとき	手術種類により 25・15・7.5万円
災害死亡 高度障害保険金	災害によって死亡 所定の高度障害のとき	500万円
疾病死亡 高度障害保険金	疾病によって死亡 所定の高度障害のとき	500万円

■月払保険料表【抜粋】 【集団扱い・特約保険料含む】

年齢	男性	女性	年齢	男性	女性
5才	1,830円	1,725円	30才	2,620円	2,370円
10才	2,030円	1,810円	35才	2,915円	2,595円
15才	2,310円	1,980円	40才	3,495円	3,000円
20才	2,455円	2,125円	45才	4,335円	3,555円
25才	2,495円	2,240円	50才	5,700円	4,285円

2 資料請求について

■お気軽にお電話で資料請求ください。
● 9:30〜16:00 (土曜/日曜/祝祭日を除く)

FreeDial **0120-893104**
MFJ保険事務局 (直通)

045-201-2188
日本団体生命(株) 財日本モーターサイクルスポーツ協会担当まで

■おハガキで資料請求する場合は下記要領で

■資料請求■
●〒 ●住所(フリガナ)
●氏名(フリガナ) ●性別
●電話 ●生年月日
●ライセンス番号
または証券番号
追加契約を希望
積立型と比較希望

50 104-0045
東京都 中央区
築地 2-11-24
第29興和ビル 別館
財団法人
日本モーターサイクル
スポーツ協会 内
ライダースビック保障プラン
保険事務局 係

■ご契約の際には「ご契約のしおり・約款」・パンフレットを必ずご覧下さい。
■ご職業・既契約・既往症・地域などによってはご契約が出来ない場合があります。
■このプランは【満期金】【配当金】がない掛捨型の生命保険です。
■加入年齢は5歳〜60歳。医師の診断などははない【告知扱い 書類診査 】です。
■保険料は抜粋です。ご契約時点の年齢で1才きざみで保険料は異なります。
■保障期間は【保険期間10年・自動継続型・主契約65才・特約80才】です。
■保険料は一般契約よりも割安な【集団割引・月払保険料】です。
■引受保険会社 日本団体生命保険株式会社

3 RIDER'Sビック保障プラン Q&A

Q1.趣味としてモーターサイクル・スポーツを楽しんでいますが？

もち論、保障します。
ロードレース・モトクロス・トライアル・スノーモビル・ドラッグレース エンデューロなどモーターサイクルスポーツ中（練習・予選・決勝を含む）に発生したケガ／死亡を国内／海外と場所地域を問わず保障します。
また、海岸・河川敷・林道など一般公道以外で発生した事故もOKです。
さらに【一般公道上の交通事故】【スキー、ダイビング等レジャー中の事故】【仕事中の労災事故】そして【病気】【成人病】【ガン】までも保障します。
脳にオールマイティな保障を重点においた保険です。
つまり、モーターサイクルスポーツシーンを含み、キミの生活を24時間にわたり一般には加入出来ない割安な保険料で保障する素晴らしい保険です。

※参考 一般の傷害保険（交通傷害保険・傷害保険等）は「危険なスポーツでの傷害事故は免責（保障対象外）」と約款（契約上の取り決め）で定めています。つまり、モーターサイクルスポーツは一般的傷害保険では「危険なスポーツ」とされ保障されません。ご注意下さい。

Q2.申込締切日と保障開始日とその支払方法は？

■申込書の締切日は 毎月 1日
事務局から保険会社へ提出する締切日が毎月1日。
事務局には毎月20日ごろまでご返送下さい。
■保障の開始日は 翌々月の1日〜
■保険料は 第一回目から安心確実な口座自動振替

Q3.通院や自宅で療養中の場合は保障されますか？

残念ながら、通院・整骨・療養は保障の対象外です。
また、たとえ入院であっても人間ドックなど検査を目的とする入院や出産（異常出産は適用）も保障の対象外です。つまり治療入院が対象です。

Q4.現在ケガで通院中ですが、このプランに加入出来ますか？

残念ですがご契約出来ません。契約する時点が〔健康な方〕が条件です。
ケガをしっかり治したあとにお申し込み下さい。
なお、現在リハビリ中の方、骨折されてギプス/プレート/針金等で固定中の方、また医師の指導/指示をうけ薬を服用中の方、病気などで定期検査を指示されている方、また妊娠中の女性の方も同様に申込み出来ません。
また、ご職業・既往症などによってもお申し込みが出来ない場合もありますのでお問い合わせください。
『備えあれば、憂いなし』ということわざがあります。保険も重要なパーツです。マシンとともにメンタル部分もチューンナップが必要。
思非、ナニかが起こる前に、ご加入する事をおすすめします。

Q5.モーターサイクルスポーツ中の保障を具体的に教えてください？

お支払例
●大腿骨骨折で90日入院。接合手術あり（抜釘手術含む）の場合。

災害入院給付金	430,000円 [5,000円×（90日間−4日間）]
手術給付金 [給付倍率15倍]	75,000円 [5,000円×15倍]
お支払い合計	505,000円

1事故ないし1入院のお支払対象期間は120日が限度です。
保険期間中の通算日数はケガ・病気とも700日間、計1400日間を保障致します。

Q6.加入資格、またモーターサイクルスポーツを卒業された場合は？

このプランは、財団法人、日本モーターサイクルスポーツ協会に登録された会員の方、またその家族に限り加入することが出来ます。保険料は一般に契約するよりも割安な集団割引を適用した団体保険です。契約後、モーターサイクルスポーツをご卒業されたとしても、MFJメンバーズサービスとしてそのままの保険料で継続いたしますので大丈夫。なお保険期間は10年間。さらに自動継続制度で終期85歳（特約80歳）まで保障。継続時がたとえ傷病中であってもその時点の年齢別保険料で自動継続します。

Q7.保障の額を引き上げたいのですが？また積立型はありますか？

まずはこのプラン【無配当新定期保険】にご加入ください。
なお、死亡保障額を引き上げたい方はお電話でご相談ください。
また【積立型】をご希望の方、無配当新定期保険と比較したい方はお電話または資料請求時に【積立型と比較希望】と明記して下さい。

Q8.すでに加入しています。追加の契約が出来ますか？

朗報 すでにRIDER'Sビック保障プランをご加入されている方に朗報。追加契約が出来ますのでご用命下さい。【積立型】や従来型【医療保険】もありますのでご気軽にご用命下さい。ただし【医療保険】は2口加入が出来ませんのでご了承ください。

すでに契約されている方も追加OK

MFJ 会員の皆様へ

RIDER'Sビック保障プランは【安い保険料】
【幅広い保障】でキミのレーシングライフを
24時間体制でサポートいたします。

Drag Race

ドラッグレース

▼ 細則8　ドラッグレース競技細則

1．適用の範囲……122
2．ドラッグレース……122
3．レース出場車両……122
4．参加資格……122
5．出場申し込み……122
6．参加受理……123
7．ゼッケン・ナンバー……123
8．ライダーの装備……123
9．出場受付……123
10．出場車両の変更……124
11．車両および装備の検査……124
12．スタート方法とスターティングシステム……124
13．スタート手順……125
14．競　技……126
15．順位の決定……127
16．計測システムと計時結果……128
17．禁止行為……128
18．リタイヤ(棄権)と停止……128
19．賞　典……128
20．レース終了後の車両保管と再車検……128
21．レースの成立……129
22．レースおよび大会の延期・中止等……129
23．抗　議……129
24．違反に対する罰則……129
25．本規則の解釈……129
26．本規則の施行……129

※'99年度の規則変更点は太字で示されています。

▼ 細則9　'99全日本ドラッグレース選手権大会特別規則

1．公　示……130
2．開催種目と競技会の日程……130
3．追加のクラス……130
4．コース……130
5．大会審査委員会……130
6．参加定員……130
7．出場料および共済会掛金(保険料)……130
8．ピット要員……131
9．ゼッケンナンバー……131
10．公式予選……131
11．決勝レース……131
12．コース選択……131
13．賞および得点……131
14．主催者の権限……132
15．本規則の施行……132

細則8
ドラッグレース競技細則

1 適用の範囲

以下に記す規則は、国内競技に基づき、すべての国内のドラッグレース競技会に適用される。

2 ドラッグレース

1）ドラッグレースとは完全にクローズドされたコースで行われ、2台の車両が先着を競う競技である。

2）区間タイム（Elapsed Time：以降E.T.という）を測定するコースの長さは下記3種類が設定される。

① SS1/4マイル（402.33m）
② 1,000フィート（304.8m）
③ SS1/8マイル（201.165m）

3 レース出場車両

1）一大会において同一車両を複数の種目のレースに使用することはできない。

2）一大会において同一車両を複数のライダーが使用することはできない。

4 参加資格

1）エントラント及びライダー

エントラント及びライダーは、1999年度版MFJ国内競技規則第3章〔⑨競技参加者〕（31頁）に合致していなければならない。

5 出場申し込み

1）出場申込場所は、大会特別規則の定めるところとする。

2）出場申込手続き

(1) 各クラスとも所定の申込書に必要事項をすべて記入し、出場料および共済会掛金(保険料)を添えて大会事務局に提出しなければならない。

(2) 2クラス以上に出場を申し込む場合は、別々に、申し込み書を提出しなければならない。

(3) 郵送の場合は、現金書留又は主催者の定める方法とし、締め切り当日の消印のあるもの迄が有効となる。

(4) 電話による申込及び締め切り日以降の申込は一切受けない。

6 参加受理

1）必要事項を記入した出場申込書、金額を大会事務局が受理した時点で、参加受理書が発送される。
2）いったん受理された出場料、共済会掛金はいかなる理由があっても返還されない。公式予選を通過しなかった場合も同様である。
3）大会が取り止めになった場合、また参加が拒否された場合のみ出場料、共済会掛金が返還される（申込者が必要な手続きを怠った場合は、これにあてはまらない）。

7 ゼッケン・ナンバー

1）主催者によってナンバーが割り当てられ、参加受理書に記入して通知される。
2）ゼッケン・ナンバーは、車両検査までに規定の書体および色分けで記入しておかなければならない。
3）ゼッケン・ナンバーについては、車両検査以降においても、判断しにくいと判断された場合には修正が要求される場合がある。
4）最初決められたゼッケン・ナンバーは、年度末まで変更できない。

8 ライダーの装備

1）ヘルメット
(1) ヘルメットはフルフェイス型のもので、MFJが公認したものでなければならない。
(2) MFJの公認したヘルメットには、下記の認証マークが貼付される。
(3) 競技会の車両検査受付時に、ヘルメットの検査が行われる。MFJの公認したヘルメットでも、検査に合格しなかったヘルメットは、当該ライダーの安全上その使用を禁止する。
(4) MFJ公認ヘルメットであっても、MFJの公認マークの貼付されていないヘルメットについては、特別検査料（1,000円）を支払い、特別に検査を受けなければならない。

2）ライダーの服装
(1) レーシングスーツ
① 皮もしくは、同等の素材であること。MFJ公認スーツが望ましい。スーツはワンピースデザインもしくはウエストでつながるジッパータイプ。

MFJが公認したレーシングスーツには、シルバー地の公認マークが付いている。

(2) ブーツ・グローブ
ブーツはくるぶしが完全に覆われるもので、皮製、サイドボタンタイプ。
グローブは、手を覆うサイドボタンタイプ。

3）競技中のライダーは、難燃性の素材を使用した肌着を着用しなければならない。

9 出場受付

1）出場受付けの時間および場所は、公式通知に示される。
2）定められた時間内に、必ず本人または参加者がMFJライセンス、参加受理書を提出して出

場資格の確認を受けなければならない。
3）MFJライセンスまたは参加受理書の提示ができない者は、出場が認められない。

10 出場車両の変更

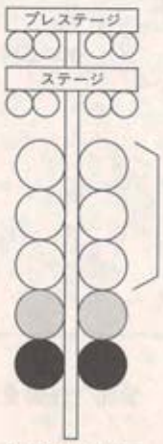
1）車両の変更は国内競技規則・第3章〔⑰ライダーおよび車両の変更〕(34頁）による。
2）車両変更の申請は、同部門・同クラスの車両に限られ、手数料5,000円を添付して大会事務局に申請しなければならない。

11 車両および装備の検査

1）車両検査は、公式通知に示されたタイムスケジュールに従って、パドック内の車両検査区域において行われる。
2）車両検査の車両は、ライダー本人が持参し，必ずタイムスケジュールに示された時間内に検査を済ませなければならない。これ以後の検査は大会審査委員会が、不可抗力な事情によるものとして特別に認めた場合以外は行われない。
3）ライダーは、車両仕様書を提出し、装備品一式の検査を受けなければならない。
4）車両検査持ち込み台数は、地方選手権および地方大会は出場1レースにつき1台に限られる。
5）車両検査において、規則違反または安全上出場が不適当と判断された車両は、公式予選を含む一切の走行を拒否される。
6）主催者は、大会期間中、必要に応じて随時車両検査を行うことがある。

12 スタート方法とスターティングシステム

1）スタート方法はスタンディングスタートとし、下記の2種類とする。クラス毎のスタート方法は大会特別規則に示す。
(1) プロスタート
スリーアンバーライト（プレスタートライト）（3個同時）が点灯してグリーン（スタート）ライトが点灯までの間隔0.4秒。
(2) ストックスタート
スリーアンバーライト（プレスタートライト）（上よりカウントダウン）が点灯してグリーン（スタート）ライトが点灯までの間隔0.5秒。
2）スターティングシステム（クリスマス・ツリー）

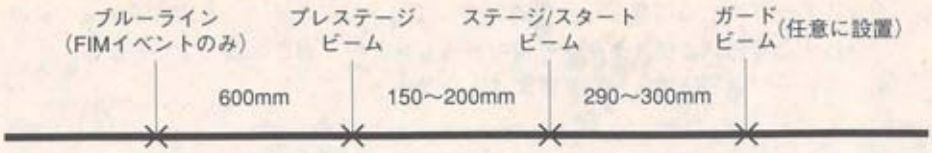


クリスマス・ツリー

Pre-Stage light：スタートするために、まずプレステージライトを点灯させる。
Stage light：デュアルスタートの場合、対戦相手がプレステージライトを点灯させる前にステージライトを点灯させてはならない。
Three Amber Light：ステージライト点灯後1～5秒後に点灯。
(Pre-Startlight)　①Pro-Start：3段同時点灯。
②Stock-Start：上段より順次点灯。点灯間隔0.5秒。
Green-Start light：スリーアンバーライト(プレスタートライト)点灯後
①Pro-Start：0.4秒、②Stock-Start：0,5秒で点灯。
Red light：**Foul Start**：グリーンライトが点灯する前にスタート／ガードビームを横切った場合に点灯。

3）スタートライン（ビーム）

スタートエリアには下図のようなライン／ビームがある。



(1) ブルーライン（FIMイベントのみ設置）

スターターの合図でステージングする際、フロントホイールがブルーラインを超えたら何者も車両に触れてはならない。

(2) プレステージビーム

このビームを横切るとプレステージライトが点灯する。

(3) ステージ／スタートビーム

このビームを横切るとステージライトが点灯する。

スタートの計時を開始するための光電管。

(4) ガードビーム（任意に設置）

車両の低い位置に着いている部品がステージビームを者遮断したままの状態でフライングスタートが切られることを防止する。

ステージビームが遮断されたままガードビームが作動した場合、ファールとなる。

13 スタート手順

1）バーンアウト

(1) クラスにより場所を制限する。

(2) バーンアウトの際にセンターラインを超えてしまっても失格にはならない。

(3) バーンアウト後ピットクルーが安全確認のために車両進行方向修正を行なう以外に車両に触れることは禁止される。

(4) ドライホップは1回まで許可される。

2）コース選択

(1) タイムトライアルでは、コースイン順に競技役員の指示に従って行われる。

(2) ラダー競技では、前のヒート（公式予選含む）のタイムの良い方に選択権がある。

3）ステージング

(1) コースインした時点でスタート準備が完了していること。

(2) セルフスタートし、セルフステージしなければならない。*

※セルフとは車両のエンジン動力で行うことを言う。

(3) ステージビームと車両の位置を確認するために機械や電子装置等補助具を使用してはならず、ライダーの肉眼のみで行うこと。

(4) ステージビームに進む前にプレステージライトを点灯させなければならない。デュアルスタートの場合は両者がプレステージライトを点灯するまでステージビームに進んではならない。

(5) **ステージングの際、プレステージ・ステージライト点灯後、さらに深くステージングする為に前進し、プレステージライトを消灯するいわゆるディープステージを故意にした場合は失格となる。**

(6) スタートするためには、プレステージライトを点灯させなければならない。ステージ完

了前にステージライトを消灯した場合は、失格となる。ただし決勝ヒートにおいて両者がステージライトを消灯させてしまった場合は再スタートするものとする。

(7) ステージのために与えられる時間のリミットはスターターに委ねられる。このリミットを越えた場合およびスターターの指示通りステージしない場合失格となる。

(8) ステージ完了後ステージし直すことは禁止される。

4) スタート

(1) クリスマスツリーのグリーンライトが点灯した時をスタート合図とする。

(2) 決勝レースにおいてステージ完了後、スリーアンバーライトが作動（点灯）する前にステージライトを消灯した場合は、当該ヒート無効とする。

(3) リアクションタイム（以下RTと呼ぶ）によって反則とみなされる場合を以下に示す。

① ファールスタート

a．プロスタートの場合：RTが0秒以上～0.4秒未満

b．ストックスタートの場合：RTが0秒以上～0.5秒未満

② ジャンプスタート

RTが0秒未満

14 競　技

競技方法は次の2種類とする。

1) タイムトライアル競技

2～3回のタイムトライアルを行いE.T.（区間タイム）を競う。

2) トーナメント競技

(1) 公式予選

① 決勝のラダーポジションを決定するために、**最低1回のタイムトライアルによる公式予選を行なう。**

② 各ライダーは、最低1回公式予選に出走しなければならない。

③ 予選の優先順位

a．有効なスタートと、有効なゴールを行なったライダーのE.T.順。

b．aが同タイムの場合はトップスピードの速い順。

c．bが同スピードの場合はRTが規程数値に近い順。

d．ファールスタートを行ったライダーは、RTが規程数値に近い順。

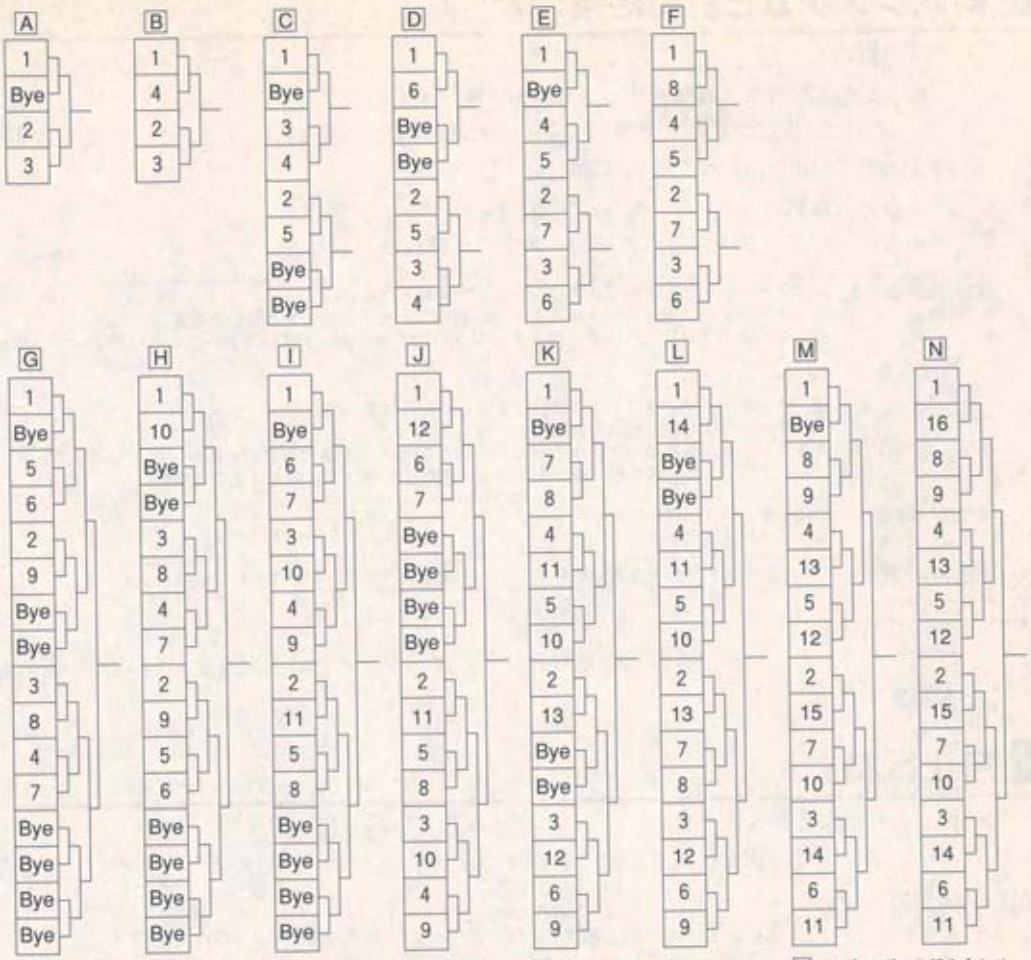
e．有効なスタートを行ったが1分未満にゴールに到着しなかったライダーには、59.999秒のタイムが与えられる。複数の場合のラダーポジションは大会審査委員会の決定に委ねられる。

f．上記以外の予選に関する順位付けは、審査委員会の決定に委ねられる。

(2) 決勝

決勝出走台数による決勝出走組み合わせ（ラダーポジション）は、タイムトライアルの順位によって以下の表の通りとする。

American Pro ladder by-run system (FIM Road Racing Rules Appendix028)



A：3名ラダーの組み合わせ
B：4名ラダーの組み合わせ
C：5名ラダーの組み合わせ
D：6名ラダーの組み合わせ
E：7名ラダーの組み合わせ
F：8名ラダーの組み合わせ
G：9名ラダーの組み合わせ
H：10名ラダーの組み合わせ
I：11名ラダーの組み合わせ
J：12名ラダーの組み合わせ
K：13名ラダーの組み合わせ
L：14名ラダーの組み合わせ
M：15名ラダーの組み合わせ
N：16名ラダーの組み合わせ

15 順位の決定

タイムトライアル、公式予選	トーナメント、決勝レース
1．E.T.のベストタイムの早い者が上位。 2．1．が同タイムの場合、トップスピードの速い者が上位。 3．2．が同速度の場合、リアクションタイムの早い者が上位。 4．ファールスタートの場合、RTが規定数値に近い者が上位。E.Tは無効。	1．勝者の決定 (1) 2台同時にスタートし、先にゴールラインを超えた者が勝者。 (2) (1) で同着の場合、E.T.の早い者が勝者。 (3) (2) が同タイムの場合、トップスピードの速い者が勝者。 (4) (3) が同速度の場合、前ヒートのE.T.の速い者が勝者。 (5) (4) が同タイムの場合は大会審査委員会の決定による。 2．順位の決定 (1) 最終ヒートの勝者が優勝となる。 (2) 最終ヒートの敗者が2位となる。 (3) 3位以下の順位は当該ライダーの完了したヒートごとのE.T.順に決定する。

16 計測システムと計時結果

1）タイム計測

(1) E.T.を光電管計測装置を使用し、1/1000秒単位まで計測を行う。

(2) 光電管計測装置が故障、事故等によって使用できない場合はストップウォッチを使用し手動計測で1/10秒単位まで計測する。

2）タイム発表は原則としてE.T.のみとする。

3）タイム計測ができない場合およびレース中の反則行為の取り扱い。

(1) 当該ヒート無効	① ステージング完了前にステージライトを消灯した場合。 ② ステージング後スタートシステム作動前にステージライトを消灯した場合。 ③ 相手側がプレステージまたはステージングしてから著しくプレステージまたはステージングが遅い場合。 ④ ファールスタート ⑤ センターライン等コースを区分けするラインを越えた場合。 ⑥ コースの設備、計測装置に接触した場合。 ※ラインを越えるとは、タイヤの一部でもライン塗装上を越えることを言う。ただしデュアルスタートで相手との接触を避けるためにラインを越えた場合は反則とは見なされない。
(2) 計測不能	① グリーンランプ点灯後5秒以内にスタートしない場合。 ② ジャンプスタート
(3) 59.999秒	タイムトライアル・予選においてスタート後ゴールラインを超えられない場合。

4）速度計測

ゴールラインの手前に設置された光電管によりゴールラインの通過速度（トップスピード）を測定する。

17 禁止行為

次の行為を行った場合失格となる。

1）バーンアウトで車両を後退させることができない場合：旋回してスタートラインへ戻ることは禁止される。

2）スタート前に2回エンジンが止まった場合：エンジンの再始動は1回のみ許される。

3）競技役員の許可なしにコースを逆走した場合。

4）パドック内、リターンロードでの最低速度遵守違反。

18 リタイヤ(棄権)と停止

1）リタイヤと停止は、国内競技規則・第3章［⑲競技］(34頁）による。

2）ライダー本人が負傷その他の理由でリタイヤ届を提出できないときには、競技役員の判定によりリタイヤと認めることができる。

19 賞典

1）賞典は大会特別規則または公式通知にて示される。

2）賞典は参加台数により制限される場合がある。この制限は、大会特別規則または公式通知にて示される。

3）全日本選手権、地方選手権ポイントは、細則9［⑬賞および得点］(131頁）による。

20 レース終了後の車両保管と再車検

1）上位入賞車両は、所定の位置により競技役員の誘導に従って車両保管区域へ入らなくてはならない場合がある。

2）エンジンを分解して排気量を測定するほか、規定を越える改造などについて再車検を行うことがある。

3）出場者は、必要に応じて車両保管を行うことがある。

21 レースの成立

1）成立の条件

各クラスの参加者が全員１回の走行が終了していればその時点で競技は成立したものとする。走行とは、タイムスケジュールに基づき競技役員の指示によってコースインを完了した以降をいう。この判定に対する抗議は受け付けない。

2）レース中断／中止時の順位の決定

タイムトライアル、予選	トーナメント、決勝レース
1．完了したヒートのE.T.のベストタイムが速い者が上位。 2．1.が同タイムの場合、ドップスピードの速い者が上位。 3．R.T.の速い者 4．3.が同じ場合、大会審査委員会の決定による。	1．公式予選のみ完了の場合、タイムトライアルに準ずる。 2．完了したヒートの勝者のE.T.の速い者が上位。 3．完了したヒートの敗者のE.T.の速い者が上位。

22 レースおよび大会の延期・中止等

1）大会は原則として本規則に発表した日程から変更または延期されることはない。

2）レースまたは大会が参加申込後に中止された場合、参加者が支払った出場料、共済金掛金は返還されるが、他の一切の損害賠償を主催者に請求することはできない。

23 抗　議

1）抗議は、国内競技規則・第３章〔㉗抗議〕(37頁）による。

2）車両の分解検査に要した費用は、その抗議が不成立の場合は抗議提出者、成立した場合には抗議対象者が支払わなければならない。車両の分解等に要した費用は車検長が算定する。

24 違反に対する罰則

競技規則による違反行為に対する罰則は、国内競技規則・第３章〔㉙違反行為に対する罰則〕(38頁）による。

25 本規則の解釈

本特別規則および競技に関する疑義は事務局宛に質疑をすることができる。なお、この回答は、大会審査委員会の解釈、決定が最終的なものとして示される。

26 本規則の施行

本規則は、各競技大会の参加申込受付日より有効となる。なお本規則に示されていない事項は国内競技規則による。本規則は、1999年１月１日から施行する。

細則9

'99全日本ドラッグレース選手権特別規則

1 公　示

全日本ドラッグレース選手権は、FIM国際スポーツ憲章に基づいたMFJ国内競技規則と各大会の特別規則に基づきMFJ公認の国内格式として開催される。

2 開催種目と競技会の日程

1）開催種目は下記とする。
ドラッグレースライセンスA級　プロストックバイク（PB）
2）競技会の日程は後日、ライディングにて発表。
3）ドラッグレースA級所持者であっても全日本選手権に出場するためには、一定の制限が設けられる場合がある。

3 追加のクラス

全日本選手権には併催クラスが追加されてもよい。但し下記の条件が満たされなければならない。パドックが充分広く、主催者が全日本選手権のレースを優先させ規定の予選・決勝レースを設定できること。

4 コース

コースはMFJが国内公認したコースとする。

5 大会審査委員会

1）大会審査委員長は、MFJが任命する。
2）任命された審査委員長が定時までに会場に到着しない場合は次席の者がこれにあたる。

6 参加定員

制限が設けられる場合がある。

7 出場料および共済会掛金（保険料）

出場料：40,000円（共済会掛金1,500円含む）

8 ピット要員

1）1ライダーに対して3名のピットクルーが認められる。いずれもピットクルーライセンスが必要である。エントリー時に申請が必要であり、当日の変更は可能であるが追加は認められない。

9 ゼッケンナンバー

1）前年度全日本選手権の有得点者には当該クラスのランキング順位に従って年間指定ゼッケンナンバーが与えられる。

2）その他のライダーには大会ごとに主催者からゼッケンナンバーが指定される。

10 公式予選

1）公式予選は、タイムトライアル方式により最低1回行う。

11 決勝レース

1）16台によるトーナメント（勝ち抜き方式）によって行われる。また参加台数によって32台のトーナメントを行う場合がある。

12 コース選択

1）コース選択は、経過タイムにより決定する。予選のE.T.（直線の区間タイム）の速い方が第1ヒートのレーン選択ができる。続くヒートでは、前回のヒートの速い方がレーン選択をできる。同タイムの場合は、トップスピードの速い者が優先される。

13 賞および得点（ポイント）

1）賞の詳細については大会特別規則または公式通知にて示される。

2）得点はトーナメント競技では、下記のポイント表の通りとする。

・トーナメントラダー

1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位	12位	13位	14位	15位	16位
250	220	200	180	160	140	120	100	80	70	60	50	40	30	20	10

a）**予選に参加し予選を通過して決勝トーナメントに残ったライダーには、その順位によって下記のポイントが与えられる。**

予選　1位……50　4位……20
　　2位……40　5位～8位……15
　　3位……30　9～16位……5

b）競技が当初よりタイムトライアルで行われた場合、a）項は削除し、下記のタイムトライアル競技の〈ポイント表〉に従いポイントが与えられる。

また、トーナメント競技において不可抗力により競技の途中で続行が不可能になった場合は、その時点で決定された順位により、下記のタイムトライアル競技の〈ポイント表〉に従いポイントが与えられる。この場合、a）項のポイントは有効となる。

c）出走台数が2台に満たない場合はポイントは与えられない。

タイムトライアル競技では、得点は、下記の〈ポイント表〉の通りとする。

1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位	12位	13位	14位	15位	16位
150	130	110	100	90	80	70	60	50	40	30	25	20	15	10	5

※ドラッグレースの全日本選手権・地方選手権は上記の得点を公式得点とする。

14 主催者の権限

1）参加申込みの受付に際して、その理由を示すことなく、参加者、ライダー、ピットクルーを選択あるいは参加を拒否することができる。

2）競技監督が必要と認めた場合、ライダーに対し、指定医師による健康診断書の提出を要求し競技出場の健康上の理由による可否を最終的に決定することができる。

3）競技番号の指定、あるいはピットの割り当て等にあたり、各参加者の優先順位を決定することができる。

4）やむを得ざる理由により、公式プログラムの印刷に間に合わなかったライダーの氏名登録又は変更について許可することができる。

5）すべての参加者、ライダーピット要員およびその参加車両の音声、写真、映像など報道、放送、出版、ビデオ等に関する権利を有し、この権限を第3者が使用することを許可できる。

15 本規則の施行

本規則は、各競技会の参加申込受付日より有効となる。なお本規則に示されていない事項は国内競技規則による。

1999年1月1日
全日本ドラッグレース選手権
大会事務局長

'99全日本ドラッグレース選手権シリーズ開催日程

開催日	大会名	会場	出場申込期間
4月18日（日）	MFJ全日本ドラッグレース選手権シリーズ第1戦 日本ドラッグレースウェイ大会	仙台ハイランド・日本ドラッグレースウェイ	2月22日（月） 〜 3月5日（金）
5月23日（日）	MFJ全日本ドラッグレース選手権シリーズ第2戦 ツインリンクもてぎ大会	ツインリンクもてぎ・スーパースピードウェイ	3月29日（月） 〜 4月9日（金）
8月8日（日）	MFJ全日本ドラッグレース選手権シリーズ第3戦 日本ドラッグレースウェイ大会	仙台ハイランド・日本ドラッグレースウェイ	6月14日（月） 〜 6月25日（金）
9月5日（日）	MFJ全日本ドラッグレース選手権シリーズ第4戦 ツインリンクもてぎ大会	ツインリンクもてぎ・スーパースピードウェイ	7月12日（月） 〜 7月23日（金）
10月10日（日）	MFJ全日本ドラッグレース選手権シリーズ第5戦 日本ドラッグレースウェイ大会	仙台ハイランド・日本ドラッグレースウェイ	8月16日（月） 〜 8月27日（金）

出場申し込み先：ビッグエンドレーシングクラブ（BERC）
（全戦共通）　〒243-0805　神奈川県厚木市中依知329-1（株）ビッグエンド内　TEL:0462-45-7707

用語の解説

・ラダー（Ladder）
トーナメント競技の組み合わせ表のこと。

・E. T.（Elapsed Time）
スタートからフィニッシュまでの区間タイムのこと。

・R. T.（Reaction Time）
リアクションタイムのこと。スリーアンバーライトが点灯してから車両が動き出すまでの反応時間。

・バーンアウト（Burn Out）
タイヤのグリップ向上を目的として、スタートエリアに着く前に指示されたエリアで水を撒き、後輪を空転させて暖める行為。

・ドライホップ（Dry Hop）
バーンアウト後にタイヤに付着したタイヤかすを飛ばしたり、水を乾燥させるために行う短い前進。

・ステージング（Staging）
スタートエリアに入り、プレステージライトを点灯させるために移動を始めてから、ステージライトを点灯させるまでの一連の行動。

'99仙台ハイランドミニバイク
6時間耐久レース8月14日開催

仙台ハイランドレースウェイ
Hi-land Raceway

『'99仙台ハイランドロードレース選手権 全クラスの入賞者に奨励金を支給!!』

	地方選手権							
	承認					公認		
開催日	SP12	M50	S80	N250	OPEN	SP125	SP250	GP125
第1戦 4月11日(日) 申込期間 3月2日(火)～3月11日(木)	○	○	○	○	○	○	○	○
第2戦 6月20日(日) 申込期間 5月11日(火)～5月20日(木)	○90分耐久 ○スプリント	○	○	○	○	○	○	○
第3戦 8月14日(土)～8月15日(日) 申込期間 7月 6日(火)～7月15日(木)	○6時間耐久(8/14) ○スプリント(8/15)	○	○	○	○	○	○	○
第4戦 10月24日(日) 申込期間 9月14日(火)～9月23日(木)	○	○	○	○	○	○	○	○
開催回数	6	4	4	4	4	4	4	4
MFJライセンス区分	原付免許以上 Lライセンス以上 (ピットクルーライセンス含む)		フレッシュマン以上			フレッシュマン・国内		

※第2戦及び第3戦のSP12クラスは、1大会において同一車両でのスプリントと耐久のダブルエントリーは認める。

■走行ライセンス・走行料金のご案内

■受付時間
AM8:30～9:00まで

■当日持参するもの
運転免許証、印鑑、健康保険証、写真2枚(3cm×2.5cm、無背景、無帽)、筆記用具(万年筆またはボールペン)、ヘルメット、皮手袋、皮ツナギ、ブーツ、2輪車(No付、レーサー共に可)
※20歳未満の方については、所定の契約書に親権者の署名と、なつ印(実印)を必要とします。

■費用
新規ライセンス発給料15,000円(ミニバイク新規8,000円)
更新ライセンス発給料10,000円(ミニバイク更新5,000円)

■開催日
3月から12月までの間

■申込方法
申込希望日の前日までに電話で予約してください。
※MFJ国内ライセンス以上の所持者の方は簡単な座学(15分)のみで発給しております。

■走行料金
1単位、25分につき2,000円(保険料500円)

スプリング
キャンペーン
新規走行ライセンス
発給料が、15,000円に!
その他多数特典あり!!
この機会にぜひ取得下さい。
※対象期間:3月～5月末日まで

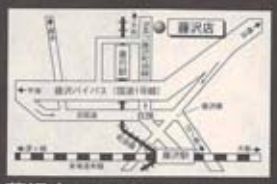
'99スプリングキャンペーン実施中
- 新規ライセンス発給料を大幅割引
- レースウェイステッカー進呈
- 入場料優待券各10枚進呈

〒989-3434 仙台市青葉区新川早坂12
仙台ハイランドレースウェイ
☎022-395-2120.2123

大阪支店 TEL.0727(24)1555
大阪府箕面市萱野2-4-8
●新御堂筋・171号交差点そば

練馬店 TEL.03(3904)3147
東京都練馬区高野台4-19-5
●環八通り・目白通り交差点そば

DAINESE®
世界のレーシングシーンをリードする。



藤沢店 TEL.0466(81)2757
神奈川県藤沢市亀井野3263-4
●藤沢町田線沿い、藤沢バイパスからは入れません

チャレンジ精神を応援します。

コミネショップは現在13店。ウェア・パーツからアクセサリー・オイルまで
国内外の一流ブランドを取り揃え、皆様の活躍とご来店をお待ちしております。

世田谷店 TEL.03(3327)7732
東京都杉並区下高井戸1-18-19
●20号線沿い、京王線桜上水駅そば

世田谷2 TEL.03(5300)2087
東京都杉並区下高井戸1-18-14
●世田谷店から隣布方面に30m

246・駒沢店 TEL.03(5486)4258
東京都世田谷区駒沢3-16-13
●246号線沿い、新町1丁目交差点そば

多摩店 TEL.042(551)9623
東京都福生市熊川1115-7
●横田基地第5ゲートそば

相模原店 TEL.042(752)3686
神奈川県相模原市横山2-15-8
●相模原市役所通り沿い

千葉店 TEL.043(232)1884
千葉県千葉市中央区都町3-22-5
●126号、都町五差路そば

鳩ヶ谷店 TEL.048(284)2961
埼玉県鳩ヶ谷市桜町1-6-11
●122号線沿い、川口高校そば

東松山店 TEL.0493(23)0335
埼玉県東松山市今泉277
●旧道254号沿い

高崎店 TEL.0274(42)3215
群馬県藤岡市立石1221
●関越自動車道・17号線交差地点そば

太田店 TEL.0276(32)0438
群馬県太田市新道町59-1
●前橋古河線沿い

アンサー／ダイネーゼ 日本代理店

KOMINE

http://www.komine-mca.co.jp

株式会社コミネオートセンター

本社・〒111-0056　東京都台東区小島2-20-11
TEL03(3862)9811(代)　FAX03(3866)5134(代)

DIRT
SUZUKA
AMA NATIONAL
AND MORE!
ダートクールの好奇心は、世界中のモトクロス場を駆け巡ります
隔月刊モトクロス専門誌 ダートクール 偶数月24日発売
発行／株式会社ニューズ出版 〒154-8575 東京都世田谷区三宿2-4-7 Tel. 03-5430-4440（販売）
制作／有限会社エアタイム 〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-11-5-106 Tel. 03-5423-5464（広告・編集）
http://www.dirtcool.com/
DIRT cool

TWIN RING MOTEGI

参加することから始まるモータースポーツがここにあります。

観る、走る、遊ぶ、泊まる「ツインリンクもてぎ」は、気軽に楽しめる、さまざまなステージをご用意しました。

ロードレース

ダートトラッカー

イエローバード ツインリンクドライブ

コ ー ス 走 行

マイカーで、本格的レーシングカーで、本物のレーシングコースを自分の肌で感じられるメニューが盛りだくさん!コースの貸し切りもできます(カートランド、ダートトラック、マルチコース)。

■Experience Run(同乗走行)

インストラクターの運転でスーパースピードウェイ、ロードコースを走行。ストックカーも体験できる。

■Family Drive & Touring(体験走行)

マイカーでスーパースピードウェイ、ロードコースを走行(先導者有り。バイクはロードコースのみ)。

もてぎスクール オブ レーシング

気軽に本格的アメリカンモータースポーツを楽しめるレーシングスクール。

プレイングミジェットカー

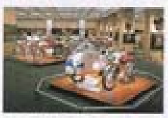
A.S.T.P.M.(Active Safety Training Park Motegi)

バランスコース

危険な状況を体験しながら気軽に楽しく学べる。21世紀の交通環境へ向けた新しい安全運転トレーニング。

オートキャンプ場

ホテルツインリンク


ホンダコレクションホール

ホンダファンファンラボ
※'99 9/末まで営業予定

−TRMC-S会員募集中− ツインリンクもてぎクラブ−スポーツ

とにかく走りたい人のための会員制クラブ。

- ツインリンクもてぎの全ての国内レースが観戦無料!
  (チャンプカー(インディカー)とナスカーのレースを除く/駐車場料金は別途頂きます)
- ナンバー付の車両でもレーシングコースを走れる!
- 年度途中入会の場合、年会費は月割料金でOK!
- 通常営業日の入場/駐車場が無料!
- その他特典がいっぱい!(詳しくは"入会のご案内"をご覧下さい)

●受付・お問い合わせ ☎0285-64-0202
ツインリンクもてぎクラブ-スポーツ(TRMC-S)

T.R.M.C. FAN CLUB CARD

−ツインリンクもてぎ ファンクラブカード−

モータースポーツファンのための特典が満載です。

●お問い合わせ先 東京☎03-5276-7855
ミリオンインフォメーションセンター
受付時間/AM9:00〜PM5:30
(土・日・祝日も営業)

'99 1/14(THU)よりチケット発売予定!!

'99 FIMロードレース世界選手権シリーズ第2戦

'99 FIMロードレース

Marlboro Grand Prix of JAPAN

ロードレース日本GPがもてぎにやってきます。

●開催クラス:GP500、GP250、GP125

'99 4/23(Fri)▶25(Sun)

チケット&インフォメーション
0285-64-0080

1999 TWIN RING MOTEGI RACE CALENDAR(2輪・暫定)

日程	レース	コース	WGP			全日本 S			エリア I.N			地方選手権 N				地方選手権 N.F	オープン I.N	レース数
			GP500	GP250	GP125	SB	GP250	GP125	SB	GP250	GP125	GP250	GP125	SP400	SP250	STB		
3/7	もてぎロード①	フルコース								○			△		●	△	△	5
4/23〜25	マールボログランプリジャパン	フルコース	◇	◇	◇													3
5/30	もてぎロード②	東コース									○	△		●		△	△	5
6/12, 13	全日本ロード	フルコース				○	○	○		○								4
7/4	もてぎロード③	フルコース										●					△	2
8/8	もてぎロード④	東コース									○	△		●	●	△		5
8/28, 29	もてぎ耐久	フルコース															□	1
9/12	もてぎロード⑤	東コース								○			●	●	●	△		5
11/6, 7	MFJ GP	フルコース				○	○	○	○									4
11/13, 14	もてぎロード⑥	東コース										●	●	●	●	△	△	6
		計	1	1	1	2	2	2	1	3	2	4	3	4	4	5	5	

◇=世界選手権 ◎=全日本選手権 ○=エリア選手権 □=特別競技会 ●=地方選手権(関東選手権併催) △=地方選手権(もてぎロード選手権)
S=スーパーライセンス I=国際ライセンス N=国内ライセンス F=フレッシュマン STB=承認競技

■「ダートトラッカー」レース全6戦で開催予定 ①4/18 ②5/23 ③8/8 ④9/12 ⑤10/10 ⑥11/28
※上記内容は暫定であり、変更になる場合がございます。

ツインリンクもてぎ

■通常営業時間 AM9:00〜PM5:30

※営業時間は変更する場合がありますので、お問い合わせください。
休業日設備保守点検のため、休業させていただく場合があります。

●ツインリンクもてぎ
〒321-3597 栃木県芳賀郡茂木町桧山120-1
TEL0285-64-0001 FAX0285-64-0009

●本社
〒104-0028 東京都中央区八重洲2-6-20
TEL03-3278-0777 FAX03-3278-0733

ツインリンクもてぎ ホームページ
http://www.twinring.co.jp

ACCESS

交通のご案内 **東京からクルマで約2時間!**

■電車でご来場の場合
JR宇都宮駅下車、西口よりバスで約90分/真岡鉄道・茂木駅下車、バスで約15分
JR烏山線・烏山駅下車、車で約25分

■車でご来場の場合
常磐自動車道・水戸インターより約40分/那珂インターより約40分
東北自動車道・鹿沼インターより約90分/宇都宮インターより約80分

目指すものは同じだよね!

最高の笑顔にシャンペンシャワー。ルールとマナーがあるから盛り上がる。
バイクを使って競う無限な感動ドラマ。オフを走る人にも、応援する人にも、そんな熱いハートを伝えたい。
ダートスポーツが目指すものも“これからの基準”です。

走って飛んで、笑って泣いて
オフをとことん楽しむ
マンスリーバイクマガジン

全国書店またはオフロードショップでも、お買い求め頂けます
毎月24日発売・定価580円(税込み)

発行/(株)造形社 〒164-0012 東京都中野区本町6-21-15
TEL.03-3380-1061 FAX.03-3380-1016

DIRT SPORTS

CLASH KING OVERGUARD SUITS

ツーピースで行こう！

サンデーレースからツーリングまで、「セパレート型ツナギ」の旋風だ！
クラキン印のオーバーガードスーツは、おかげさまで大好評。
街では本格派バイカーズJACとしてクールに決める。
ツーリングではパンツに付いた脊椎パッドがセーフティーにプロテクト。
そして上下ジョイントで真骨頂発揮、
そう！「MFJ公認スーツ」としてレースに出場出来てしまうのだ。
ハーレーのワンメイクレース「スポーツスター・カップ」を始め
いろんな草レースじゃもうお馴染み。
要するにコレ、バイカーズライフを網羅する究極のアイテムなのである。
デザイン充実、ますます元気なクラキンスーツ、
フルオーダーで右記のプライス。
さあ、ご一考あれ。
気分はもうサーキット、あなたもサンデーレーサーへまっしぐら！

（この写真はFLAREタイプのデザイン変更パターンです。）

CLASH KING OVER GUARD SUITS -STD
■マットブラック×アイボリー
■カラーチェンジ無料
[フルオーダー品：ロゴ入り]
●JACEKET:￥90,000～
●PANTS　:￥90,000～
[フルオーダー品：ロゴ無し]
●JACEKET:￥80,000～
●PANTS　:￥85,000～

CLASH KING OVER GUARD SUITS -OHV SPECIAL
■ホワイト×オレンジ×ブラック
■カラーチェンジ無料
[フルオーダー品：ロゴ入り]
●JACEKET:￥100,000～
●PANTS　:￥100,000～
[フルオーダー品：ロゴ無し]
●JACEKET:￥90,000～
●PANTS　:￥95,000～

CLASH KING OVER GUARD SUITS -BASIC
■マットブラック×マットブラック
■カラーチェンジ無料
[フルオーダー品：デザイン無し]
●JACEKET:￥80,000～
●PANTS　:￥85,000～

CLASH KING OVER GUARD SUITS -FLARE
■マットブラック×ホワイト×レッド
■カラーチェンジ無料
[フルオーダー品：ロゴ入り]
●JACEKET:￥100,000～
●PANTS　:￥90,000～
[フルオーダー品：ロゴ無し]
●JACEKET:￥90,000～
●PANTS　:￥85,000～

CLASH KING OVER GUARD SUITS -CLASSIC
■モスグリーンソク×アイボリー
■カラーチェンジ無料
[フルオーダー品：ロゴ入り]
●JACEKET:￥100,000～
●PANTS　:￥100,000～
[フルオーダー品：ロゴ無し]
●JACEKET:￥90,000～
●PANTS　:￥95,000～

*上下単品でのオーダー、特別仕様の他ワンピースタイプも承ります。
*身長180cm以上、体重80Kg以上の場合はUP料金がかかります。
*カラーは好きな色が金額内でオーダー可能。（特色、蛍光色は￥10,000UP）
*オリジナルのデザインは別途料金がかかります。
*文字・マーク等は自由に入れられます。（一文字￥600～）

オーダーについての詳細、申し込みは本店までお問い合わせください。
通信販売でのオーダーも受け付けております。
●オーダー申込資料、総合カタログご希望の方は左の三角券と600円分の切手を同封の上、カドヤ本社通販係までお気軽にご請求下さい。
カドヤ本社通販係　TEL.03（3842）2000
〒111-0035 東京都台東区西浅草3-29-21

CATALOG MFJ '99

KADOYA

RACING SPIRIT AND CRAFTSMANSHIP
SINCE 1935

(株)カドヤ 本店 〒111-0035 東京都台東区西浅草3-29-21 TEL.03(3843)2000
カドヤ 仙台店 〒981-0902 宮城県仙台市青葉区北根2-6-15 TEL.022(233)8000
カドヤ 栃木店 〒326-0845 栃木県足利市大前町688-2　TEL.0284(63)0769
●営業時間／AM10:00～PM7:00　●定休日／毎週水曜日

Technical Rules

技術規則

■MFJ技術規則……142
■基本仕様〈ロードレース〉……147
■基本仕様〈モトクロス〉……156
■基本仕様〈トライアル〉……161
■SPクラスの仕様……166
■耐久レースの追加仕様……172
■国内ロードレースGPクラスの仕様……174
■国内モトクロスの仕様……178
■国内トライアルの仕様……182
■全日本・エリア選手権ロードレースの仕様……184
■FIM技術仕様〈モトクロス・トライアル〉……199
■ドラッグレースの仕様……201
■ロードレースジュニアクラスの仕様……209
■ミニバイクの仕様……213
■ストックバイクの仕様……216

項目の分類

1 「章」

規則は大分類の「章」と分類の「条」で整理されます。

章	大分類項目	種目			条
		ロードレース	モトクロス	トライアル	
第1章	目的	○	○	○	基本的共通項
第2章	クラス	○	○	○	
第3章	排気量	○	○	○	
第4章	テレメトリー	○	○	○	
第5章	重量	○	○	○	
第6章	公認制度	○	○	○	
第7章	ガソリン、オイル、クーラント	○	○	○	
第8章	ロードレースの基本仕様	○			カテゴリー毎の基本仕様（FIM規則をもとに、MFJ規則として編集した）
第9章	モトクロスの基本仕様		○		
第10章	トライアルの基本仕様			○	
第11章	全日本・エリアロードレースの仕様				
第12章	FIM技術仕様（モトクロス・トライアル）				
第13章	ロードレースSPクラスの仕様	○			○○○○○○○○○○○
第14章	耐久レースの追加仕様（国内クラス）	○			○○　○　　○
第15章	国内ロードレースGPクラスの仕様	○			○○○○○○○○○○
第16章	国内モトクロスの仕様		○		○○○○○○○○○○
第17章	国内トライアルの仕様			○	○○○○○○○○○○
第18章	ロードレースジュニアクラスの仕様				○○○○○○○○○○
第19章	ドラッグレースの仕様				
第20章	ミニバイクの仕様				
第21章	ストックバイクの仕様				
					01条 02条 03条 04条 05条 06条 07条 08条 09条 10条 11条

2 「条」

各「章」で分けられた種目別の規則（第10章～第19章）のなかの各事項のナンバーは一部を除き統一されています。

条	項目
01条	クラス区分
02条	出場車両
03条	条制限事項（ベース事項に対して）
04条	改造制限
05条	重量
06条	絶対に適合すべき事項
07条	禁止事項
08条	公認手続き・条件
09条	音量規則
10条	互換性
11条	追加仕様（耐久等）

3 小分類ナンバー

国内の各種目別の規則においては、各「条」に出てくる対象部分には共通の小分類ナンバーが与えられ、許可または制限されていない場合はその項目番は削除されています。

小分類ナンバー	項目	小分類ナンバー	項目
1	エンジンの型式	31	発電機、スパークプラグ、バッテリー
2	シリンダーの数	32	ワイヤーハーネス
3	ピストンストローク	33	――予備――
4	ケース、シリンダー、シリンダーヘッド、ギヤボックスの材質と形状	34	コントロールワイヤー関係
5	クラッチの型式	35	灯火器
6	エンジン、ミッションの内部の動く部品の材質	36	メーター関係
7	4ストロークの圧縮比、バルブの径とリフト量	37	――予備――
8	2ストロークのポートタイミング、ポートサイズ、圧縮	38	保安部品関係
9	ケースに対するシリンダー・シリンダーヘッドの位置	39	――予備――
10	吸排気のバルブ、ポート、キャブの数	40	ドライブチェーン
11	クランクケースカバー廻りの材質、形状	41	ファイナルスプロケット
12	シリンダー、シリンダーヘッド関係	42	リヤホイール
13	クランクシャフト、ピストン、リング関係	43	リヤブレーキ、キャリパー、ディスク、マスターシリンダー
14	カムシャフト、バルブ、バルブスプリング、リードバルブ	44	フロントホイール
15	――予備――	45	フロントブレーキ、キャリパー、ディスク、マスターシリンダー
16	キャブレター	46	ブレーキペダル
17	フュエルタンク、フュエルコック、フュエルライン	47	――予備――
18	エキゾーストパイプ、チャンバー、マフラー	48	タイヤ
19	ラジエター、水ポンプ、キャッチタンク（冷却系）	49	――予備――
20	――予備――	50	フレームボディ、ステップ関係含む、カウルステー類
21	――予備――	51	フロントフォーク
22	クラッチ関係（プライマリーを含む）	52	リヤクッション、リヤフォーク、サスリンケージ
23	ミッションギヤ関係（ドライブスプロケット含む）	53	ハンドル、トップ・ボトムブリッジ、ステアリングダンパー
24	シフト関係、チェンジペダル	54	ストリームライニング（カウリング）とステー
25	スタート装置	55	シートカウル、フェンダー
26	分離給油オイルポンプ関係	56	ワイヤーロック（安全）
27	ブリーザーシステム、エアクリーナーボックス	57	オイルクーラント
28	――予備――	58	ガソリン
29	材質	59	調整、仕上げ
30	イグニッションコイル、点火ユニット	60	軽量化
		61	ウイリーバー

MFJ
技術規則

モーターサイクルとは、ホイールが4つまでで、エンジンによって推進され、ひとり、あるいはそれ以上の人間（そのうちのひとりは車両のドライバーとなる）の輸送のためにデザインされたすべての車両を意味している。ホイールは、瞬間的またはある種の例外的な場合を除いて、通常路面に設置していなければならない。

第1章　目　的

1　安全の確保
2　平等性を最大限に維持する。
3　車両のコスト上昇を極力抑える。

第2章　クラス

1．ロードレース

GPフォーミュラ	
50cc	50cc以下
80cc	50ccを越え　80cc以下
125cc	100ccを越え　125cc以下
250cc	175ccを越え　250cc以下
500cc	250ccを越え　500cc以下

スポーツプロダクションフォーミュラ			
		2st	4st
50cc	50cc以下	○	○
80cc	50ccを越え　80cc以下	○	○
125cc	100ccを越え　125cc以下	○	○
250cc	175ccを越え　250cc以下	○	○
400cc	250ccを越え　400cc以下	—	○

※スーパーバイクは全日本・エリア選手権技術仕様参照

2．モトクロス

	2ストローク	4ストローク
80cc	50ccを越え　80cc以下	
125cc	100ccを越え　125cc以下	250cc以下
250cc	175ccを越え　250cc以下	550cc以下

※4ストロークは国内クラス（国際B級以下）のみを対象とする。

3．トライアル　排気量区分は定めない
4．エンデューロ　別に定める
5．スノーモビル　別に定める
6．ドラッグレース　別に定める

（参考）　ライセンス区分と規則の適用範囲

	ライセンス区分					
ロードレース	（全日本・エリア選手権）		（地方選手権）			J
モトクロス	IA	IB	NA	NB	J	J
トライアル	IA	IB	NA	NB		
	FIM規則をもとに定める		MFJ規則による			MFJ・J規則

第3章　排気量

総排気量はシリンダー容積を測定するのに用いられる幾何学公式に依って計算される。すなわち直径はボアによって表され、高さはピストンがその最上部から最下部まで移動するのに占めるスペースで表される。

公式

$$\text{排気量} = \frac{D^2 \times 3.1416 \times C}{4} \times \text{気筒数}$$

D＝ボア　C＝ストローク　単位＝cm　小数点以下4ケタで切り捨て

測定の際にはボアに1/ 10㎜までの許容誤差が認められる。この許容誤差を考慮しても排気量が当該クラスのリミットを越える場合、エンジンが冷えた状態で再測定が1/100㎜のリミットまで行われる。

シリンダーのボアが真円でない場合断面積を測定し、計算することとする。

全てのカテゴリーにおいて、スーパーチャージは禁止される。

第4章　テレメトリー

走行中のモーターサイクルから、またはモーターサイクルへの無線等による情報の伝達は行ってはならない。

車両には公式計測装置が義務付けられる場合がある。

自動ラップタイミング装置はテレメトリーとみなされない。

自動ラップタイミング装置は、公式計測装置の作業および装置に干渉するものであってはならない。

第5章　重　量

参加車両は以下に定める最小限重量値を半乾燥重量で満たしていること。バラストによる調整は認められない。ただし重量規制が変更され、新たな規則が実施される初年度に限り、5.0kgを限度として完全に固定されたバラストの使用を認める。

レース終了後は1％の誤差が認められる。

1.1）ロードレース

GPフォーミュラ			スポーツプロダクション		スーパーバイク
50cc	70kg		50	70kg	162kg
80cc	70kg		80	70kg	
125cc	70kg		125	95kg	
250cc	100kg		250	115kg	
500cc	4気筒	131kg	250F	130kg	
	3気筒	116kg	400	145kg	
	2気筒以下	101kg	750	165kg	

重量測定の際、燃料タンクを外した場合には、下記が規定重量より差し引かれる。

GPフォーミュラ：2kg　(スーパーバイク：4kg)

※いずれも排気量による違いはない

ただし、世界選手権を除く国内競技会において、上記の方法で規定重量を下まわった場合、燃料を抜いたタンクを装着し、通常の規定重量にて再度計測を受けることができる。

2）モトクロス

クラス	2ストローク	4ストローク
80cc	61kg	—
125cc（4ストローク250cc以下）	88kg	88kg
250cc（4ストローク550cc以下）	98kg	98kg

※4ストロークは国内クラス（国際B級以下）のみを対象とする。

3）トライアル　　特に定めない
4）エンデューロ　　特に定めない
5）スノーモビル　　特に定めない
6）ドラッグレース　PBは249.47kg（ライダーが乗車した状態）、他は特に定めない

第6章　公認制度

公認制度の目的

公認車両制度は種目別に出場できる車両を指定し、また車両を種目別規定の範囲内で改造を実施する際に、平等性と低コストと安全性を最低限確保することを目的とする。

従って平等性を確保するために最低数を設定する。制度設定の主旨に合わないと判断された場合は、公認されない場合もあり得る。

1．参加車両は市販レーサーまたは一般生産型車両で、MFJの公認を受けた車両に限定される。

2．完成車公認

公認申請を行うには、下記の条件を満たしていること。

1）台数

最低台数が出荷されていること。

	国産車		輸入車	
	レーサー	市販車	レーサー	市販車
ロードレース	25台	250cc以下　500台 250cc越える　250台	10台	25台
モトクロス	100台	250cc以下　500台 250cc越える　250台	10台	25台
トライアル	5台	250cc以下　500台 250cc越える　250台	5台	25台
スノーモビル	5台	―	5台	25台

2）種目別付帯条件

スポーツプロダクション（SP）については各々の種目別公認条件を満たしていること。

第11章　08条……SP

（スポーツプロダクションのコンプリート車両の公認申請を行うには、ベース車両が市販車として公認を受けており、ベース車両からの改造の範囲はSPの仕様以内であること。）

3．部品公認

1）公認範囲

部品名	ロードレース			モトクロス		トライアル
	SP	SS	GP	80,125,250	4ストローク	
シリンダー		◎	○	○	○	
シリンダーヘッド		◎	○	○	○	
カムシャフト		◎			○	
ミッションギヤー	○			○	○	
キャブレター	○		○	○	○	
クラッチ	○					
フロントフォーク		○	○	○	○	
リヤークッション		○	○	○	○	
リヤーフォーク		◎	○	○	○	
タイヤ	○				○	○
エアクリーナーボックス	○					
バルブ					○	

注）1．◎印は公認時に組み込まれていた部品の追加工に限定される。またリヤフォーク以外は材料の削除による改造に限る。
2．SP用タイヤは一般公道用として製作されたもの、またはレーシングレインタイヤに限る。

2）数量

最低数量が出荷されていること。

カテゴリー	数量
ロードレースGP	25個以上
ロードレースSP・SS	50個以上
モトクロス	50個以上
トライアル	50個以上

3）制限

公認申請に際しては各々の部品の仕様は各々のカテゴリー、クラスの種目別仕様に合致していること。

4．公認申請資格

1）車両及び部品の公認申請を行うことのできる資格者は、MFJの特別会員であるモーターサイクル製造会社または賛助会員であり、かつ当該製品の製造会社、または輸入総代理店でなければならない。申請会社代表者は毎年、車両及び部品の公認申請に関する担当責任者を登録し、その者のみが公認申請を行うことができる。

2）公認申請書は必要書類を添付し、定例技術委員会の開催される月の20日までに事務局に送付されていなければならない。

5．公認発効と有効期限

1）公認審査は技術委員会が行う。

2）定例技術委員会は原則として毎月第4火曜日に開催される。

3）審査に合格した車両で、すでに発売されている車両の場合は会議日から2ヶ月後の同日付きで公認発効する。

発売日が会議日以降の場合は、発売日の2ヶ月後の同日付きで公認発効する。

4）審査に合格した部品で、すでに発売されている部品の場合は会議日から1ヶ月後の同日付きで公認発効する。

発売日が会議日以降の場合は、発売日の1ヶ月後の同日付きで公認発効する。

5）競技専用車両（市販レーサー）の場合は上記車両の公認発効までの期間を、各々会議日の翌日、発売日が会議日以降の場合は、発売日の翌日付きで公認発効する。

6）有効期限は発効年を含み5年間とし、5年目の12月末日で失効する。

7）失効した車両または部品は、再申請することができる。

第7章　ガソリン・オイル・クーラント

(1) 競技に使用できるガソリン（ドラッグレース・スノーモビルは特別規則による）

競技に使用できるガソリンは下記の項目のすべてに合致していなくてはならない。

① 競技用ガソリンとは一般公道用の市販車に供するために通常のガソリンスタンドにて購入できるもの、あるいはMFJ公認サーキットのガソリンスタンドにて購入できるガソリンとする。（ロードレースに関しては大会時にサーキットにて購入できるガソリンに限る）

② 競技用ガソリンは下記のMFJの定める仕様以内（無鉛ガソリン）に制限される。（AVガス、航空機用ガソリン等は使用できない）

ⓐ 鉛の含有量は0.013 g/l以下であること。

ⓑ リサーチオクタン価が100.0（RON）、モーターオクタン価が89.0（MON）以下であること。

ⓒ 密度は15℃において0.725 g/ml～0.780 g/mlであること。

注意：'97年1月1日より、ロードレース2ストロークエンジンに対しても、上記無鉛ガソリンに制限されている。

③ 大会特別規則（全日本選手権特別規則等）によって、ガソリンの銘柄、および供給方法等を指定した場合、それに従わなくてはならない。

(2) 競技用ガソリンには販売時に混入されている以外のいかなるものも添加されてはならない。ただし一般に販売されているスタンダードの潤滑油および1.5%以下のアルコール（燃料精製中に混入されているものに限る）については認められる。

(3) 水冷エンジンの冷却水は、水あるいは水とアルコールの混合物に限られる。

HSR九州

HSR九州コースライセンス取得のご案内

HSR九州では、サーキットコース、ドリームコースで走行するために、施設を安全かつ有効に利用して頂くためのライセンスを発行致します。HSRにおいて、個人でスポーツ走行やファミリー走行を行う方は、必ずコースライセンス講習会を受講して下さい。

●受講料

ライセンス区分	対象	受講月	1月~9月	10月~12月
		有効期間	12月末日迄有効	翌年12月末日迄有効
スポーツ走行ライセンス	レーサー,SP,GP,NKで走る方		25,000円	27,000円
ファミリー走行ライセンス	ミニバイク,市販車で走る方		12,000円	14,000円
MFJ国内ライセンス1日パック	1日でMFJ国内ライセンスが取得可		41,000円	43,000円

※MFJ国際ライセンスパックはMFJライセンス発行料を含めて更にお安くなりました。
※ライセンス講習会の詳しい内容についてはお問い合わせ下さい。

▶申し込み方法は電話で予約して下さい。
▶開催日
1/12・31　2/13・28　3/13・28　4/10・25
5/9・23　6/12・20　7/10・25　9/12
10/9・24　11/6・28
▶必要な物
運転免許証・健康保険証・写真2枚(2.5cm×3cm)
印鑑・筆記具・受講料・車両・ツナギ・ヘルメット・グローブ・ブーツ・同伴者1名

'99 HSR九州カレンダー <暫定>

ロードレースイベント

開催日	レース名	クラス
1月10日(日)	HSR九州新春感謝デー	
3月7日(日)	ライディングスポーツカップ　春大会	S&T.N.BOM等
5月2日(日)	MFJ公認ロードレースサウスエリア選手権第4戦	SB.GP
6月6日(日)	九時間耐久レース	
7月4日(日)	ライディングスポーツカップ　夏大会	S&T.N.BOM等
9月5日(日)	ライディングスポーツカップ　秋大会	S&T.N.BOM等
9月19日(日)	MFJ公認ロードレースサウスエリア選手権第7戦	SP.GP
11月21日(日)	MFJ公認九州ロードレース選手権第6戦	SP.GP
12月5日(日)	ライディングスポーツカップ　冬大会	S&T.N.BOM等

ミニバイクレースイベント

開催日	レース名	クラス
2月14日(日)	クシタニカップミニバイクレース第1戦	N.SP.S.4st
4月4日(日)	MFJ承認ライディングスポーツ杯ミニバイクレース①	
5月16日(日)	ホンダミニスポーツワールド	N.SP.S.4st
6月13日(日)	MFJ承認ライディングスポーツ杯ミニバイクレース②	N.SP.S.4st
7月18日(日)	MFJ承認ライディングスポーツ杯ミニバイクレース③	N.SP.S.4st
9月26日(日)	MFJ承認ライディングスポーツ杯ミニバイクレース④	N.SP.S.4st
11月7日(日)	MFJ承認ライディングスポーツ杯ミニバイクレース⑤	N.SP.S.4st
12月19日(日)	クシタニカップミニバイクレース第2戦	N.SP.S.4st

バリアブルコースイベント

開催日	レース名	内容
3月28日(日)	'99二輪車ジムカーナ大会第1戦	タイムトライアル
5月30日(日)	'99二輪車ジムカーナ大会第2戦	タイムトライアル
7月25日(日)	'99二輪車ジムカーナ大会第3戦	タイムトライアル
9月12日(日)	'99二輪車ジムカーナ大会第4戦	タイムトライアル
11月14日(日)	'99二輪車ジムカーナ大会第5戦	タイムトライアル

ドリームコースイベント(二輪)

開催日	レース名	クラス
7月11日(日)	モトチャンプ杯ミニバイクレース選手権	N.SP12.SP50.SP50EX
11月24日(日)	モトチャンプ杯ミニバイクレース選手権	N.SP12.SP50.SP50EX

モトクロスレースイベント

開催日	レース名	クラス
1月17日(日)	HSR九州新春モトクロス大会	キッズ.Jr.NB,NA,IB,IA
4月11日(日)	HSR九州春のモトクロス大会	キッズ.Jr.NB,NA,IB,IA
4月25日(日)	MFJ公認九州モトクロス選手権佐賀大会	キッズ.Jr.NB,NA,IB
5月9日(日)	MFJ公認九州モトクロス選手権熊本大会	キッズ.Jr.NB,NA,IB
5月22日(日)	MFJ公認全日本モトクロス選手権九州大会	IB.IA
5月23日(日)	MFJ公認全日本モトクロス選手権九州大会	IB.IA
6月27日(日)	HSR九州梅雨のモトクロス大会	キッズ.Jr.NB,NA,IB,IA
8月8日(日)	MFJ公認九州モトクロス選手権熊本大会	キッズ.Jr.NB,NA,IB
11月7日(日)	HSR九州秋のモトクロス大会	キッズ.Jr.NB,NA,IB,IA
12月19日(日)	HSR九州年末モトクロス大会	キッズ.Jr.NB,NA,IB,IA

1/31 2/21 6/13 7/11 8/29 11/28	エンジョイモトクロスフェスティバル	キッズ.80ccの初心者レース

エンデューロレースイベント

開催日	レース名	クラス
2/7 3/21 5/5 9/5 10/31 12/5	'99ガルルカップエンデューロin九州	3H耐久.2H耐久.キッズ.80ccスプリント

その他のイベント

開催日	レース名	クラス
8月8日(日)	エコノパワー燃費競技九州大会	燃費競技大会

※上記日程・内容等は予告なく変更する場合がありますのでご了承下さい。
※上記イベントの他に、四輪走行会やジムカーナ大会、四輪車、二輪車のスクール、コース貸切イベント等行っております。詳しい内容は下記までお問い合わせ下さい。
※MFJ承認ライディングスポーツ杯ミニバイクレースとガルルカップエンデューロin九州のお問い合わせ、申込先は㈱アール・エス・シーまで

株式会社　アール・エス・シー　熊本県菊池郡大津町大字平川1784−1　☎096−293−3505

【お問い合わせ先】ホンダセーフティ&ライディング・プラザ九州
熊本県菊池郡大津町大字平川1500番地　☎096−293−1370

第8章
ロードレース基本仕様

＊ロードレース基本仕様は'98年版FIMロードレース技術規則をもとに、'99年からのFIMのおもな変更点をもり込んでMFJロードレース基本仕様として編集しています。原文との比較がしやすいように、文頭にはもととなったFIM規則の項目番号が表示してあります。

01.25 基本仕様

下記仕様はロードレースのすべての車両、およびすべての競技会に適用されるが、主催者が特別の指示を与えた場合は例外とする。ある種の競技へはさらに細かい仕様が必要になるが、これらはその競技会の特別規則（SR）に明記される。

25.01 チタニウム合金

すべての車両についてフレーム、フロントフォーク、ハンドルバー、スイングアーム、スイングアーム・スピンドル、およびホイール・スピンドルの構造にチタニウム合金を使用することは禁止される。ホイール・スピンドルに関しては、軽合金の使用も禁止される。チタニウム合金ナットとボルトは使用してもよい。

＊リヤスプロケットガード（足がチェーンとリヤスプロケットの間に噛みこむのを防ぐ目的）の取り付けが2000年1月1日より義務付けられる（予告）。

01.26 フレームの定義

フレームとは図（155頁、図D）で示す通り、エンジンが取りつけられる部分を中心にステアリング取りつけ部分とリヤサスペンションの取りつけ部を含む構造全体をいう。シートを取りつける為のサブフレームはフレーム本体に溶接されている場合はフレームと見なし、ボルトオンタイプ（脱着可能）のものはフレームとみなさない。

01.27 スタート装置

スタート装置は耐久レースに関してのみ義務づけられる。

01.31 エキゾースト・パイプ

エキゾースト・パイプとサイレンサーは、音量規制に関する必要条件をすべて満たさなくてはならない。

31.01 エキゾースト・パイプの先端は、最低30㎜にわたってモーターサイクルの中心軸と水平かつ平行でなくてはならない。（許容誤差±10°）

31.02 排気ガスは後方に排出しなければならないが、ほこりを立てたり、タイヤやブレーキを汚したり、またパッセンジャーや他のライダーに迷惑をかけるような放出方法であってはな

らない。後続ライダーに迷惑をかけないようにするために、オイルの飛散を防ぐ措置を施さなくてはならない。

31.03 エキゾースト・パイプの後端は、リヤ・タイヤの垂直接線より後ろにあってはならない。

01.33 ハンドルバー

33.01.02 ハンドルバーの最低幅は、80ccまでのマシンは最低400㎜。80ccを越えるマシンは最低450㎜とする。

33.04 ハンドルバーの最低幅はグリップの外側の先端から、反対側のグリップの外側先端までの距離で測定される。……154～155頁の図参照

33.05 ハンドルバーの先端が露出される場合は、固形物質を詰めるか、ゴムでカバーされていなければならない。

33.06 ハンドルバーの中心線、または中央位置から両側への回転角度は、最低各15° 以上なくてはならない。……154～155頁の図参照

33.07 ストリームライニングがある場合、ハンドルバーがどの位置にあってもフロントホイールがストリームライニングに接触してはならない。

33.08 ライダーの指が挟まれないようにするために、ハンドルを左右いっぱいに切ってもハンドルバー（レバーを含む）と燃料タンクの間に最低30㎜の間隔があるように、ストッパー（ステアリングダンパー以外のもの）を取りつけなくてはならない。

33.09 ハンドルバー・クランプは、ハンドルバーが折れやすい部分ができないように、丸みをつけて製作しなくてはならない。

33.11 軽合金ハンドルバーの溶接による補修は禁止される。

01.35 コントロールレバー

35.01 すべてのハンドルバー・レバー類（クラッチ、ブレーキ等）は、原則として端部がボール状（このボールの直径は最低19㎜）でなくてはならない。このボールを平たくすることも認められるが、どのような場合も端部は丸くなっていなくてはならない（この平たくした部分の厚みは最低14㎜とする）。レバー端部は、レバーと一体構造に固定されていなくてはならない。

35.03 各コントロールレバー（ハンドおよびフット・レバー）はそれぞれ独立したピボットを持っており、そのレバー自体のピボットにマウントされていなくてはならない。

35.04 もしブレーキ・レバーが、フットレストの軸にピボットされている場合、フットレストが曲がり、又は変形した場合など、どのような場合でも作動できなくてはならない。

01.37 スロットルコントロール

37.01 スロットルコントロールは、手を離した時に自動的に閉じるものでなくてはならない。

01.38 フュエルポンプ

38.01 電動フュエル・ポンプは、事故の際に自動的に作動するサーキット・カットアウト（回路開閉器）を介して配線されなくてはならない。

この機能が車両検査時に確認できるよう、電動フュエルポンプにはテスト機能がなくてはならない。

01.39 フットレスト

39.01 フットレストの先端には最低半径8㎜の、中空でない球状の一体構造のプロテクションが設けられていなくてはならない。
フットレストは折りたたみ式でもよいが、この場合は自動的に元の位置に戻る仕組みになっていなくてはならない。

39.02 折りたたみ式でないスチール製フットレストの先端には、プラスチック、テフロンあるいはそれと同等の材質でできた先端（プラグ）が固定されなくてはならない（最低直径16㎜）。

01.41 ブレーキ

41.01 すべてのモーターサイクルは最低2つの効果的なブレーキ（各ホイールにひとつ）がなくてはならず、これは独立してホイールと同心的に作動しなくてはならない。

01.43 マッドガードおよびホイールプロテクション

43.01 マッドガードはタイヤの両側方に張り出していなくてはならない。

43.02 フロント・マッドガードは、ホイールの周囲を最低100°に渡ってカバーしていなくてはならない。また、下記角度の範囲内でなければならず、その部分はホイール自体がカバーされてもよい。マッドガードの前端とホイールの中心を結ぶ線と、ホイールの中心を通る水平線の作り出す角度は45°と60°の間でなくてはならない。マッドガードの後端とホイール中心を結ぶ線と、ホイールの中心を通る水平線の作り出す角度は20°を越えてはならない。

43.03 リヤ・マッドガードは、ホイールの周囲を最低120°に渡ってカバーしていなくてはならない。リヤ・マッドガード後端とホイールの中心を結ぶ線と、ホイールの中心を通る水平線の作り出す角度は20°を越えてはならない。（155頁図D参照）

43.04 ストリームライニングがある場合、マッドガードは必要とされない。ストリームライニングが無い場合にはマッドガードが必要とされる。シートのフェアリングがリヤ・タイヤの後側の垂直接線にまで達している場合には（許容誤差−50㎜）、リヤ・マッドガードを装着する必要は無い。

01.45 ストリームライニング（カウリング、ウインドスクリーン含む全てのボディワーク）

45.01 フロントホイールは（タイヤを除く）、フロントマッドガードに隠れる部分を除き、各サイドからはっきりと見えなくてはならない。

45.02 ストリームライニングのいかなる部分も、フロント・ホイール・アクスルから前方100㎜を通る垂直線より前にあってはならない。ノーマルのマッドガードはストリームライニングとはみなされない。

※スポーツプロダクションクラスに限り、車両公認時の形状がこの項目に合致しない場合、種目別仕様である公認時の形状の維持が優先される。

45.03 ストリームライニングのいかなる部分も、リヤ・ホイール・アクスルを通る垂直線の後部にあってはならないうえ、リヤ・ホイールのリムは、この線の後部円周180°に渡ってはっきり見えなくてはならない。モーターサイクルのいかなる部分も、リヤ・ホイール外側の後端の垂直接線より後方にあってはならない。

※スポーツプロダクションクラスに限り、車両公認時の形状がこの項目に合致しない場合、種目別仕様である公認時の形状の維持が優先される。

45.04 エアフォイル、またはスポイラーは、それがフェアリングまたはシートと一体構造になっ

ている場合に限り取りつけることができる。これは、フェアリングの幅を越えてはならないうえ、ハンドルバーの高さを越えてはならない。尖っているエッジは、少なくとも半径8㎜の丸みを持たせなくてはならない。

45.05 ウィンドスクリーンの先端と、全てのストリームライニングの露出部分の先端は丸められていなくてはならない。

45.06 通常のライディング・ポジションにおいてライダーは後方の両側及び上から全体（腕の前部を除く）が視認されなくてはならない。ライダーの顔またはヘルメットとストリームライニング（ウインドスクリーン含む）との間の最低スペースは100㎜とする。この規則の適用を免れるために透明な材質を使用することは禁止される。

45.07 ライダーシートの後部の高さは最高150㎜とする。この高さは、シートの固いベースの最下部から、ライダー後方のフェアリングの最上部までを測った場合のものである。

45.08 ハンドルバーの位置がどこにあっても、ストリームライニングとハンドルバー先端あるいはステアリング・ステム、およびそれに装着されている装備類との間隔は最低20㎜なくてはならない。

45.09 ナンバープレートが固定されている前部の傾斜角度は垂直面から後部へ30°以上あってはならない。（155頁図D参照）

45.11 シートまたはその後方にある、いかなる部分（排気系を除く）の幅も450㎜以上あってはならない。

45.12 燃料タンクのキャップは、**燃料タンクの外観形状**からはみ出さないように、また転倒の際に外れることがないように取り付けられなくてはならない。
※この規則の国内競技への適用は2000年以降の市販車から対象となる。

45.13 **全ての4ストローク車両については**、エンジンの破損または故障時に、そのエンジンに使用されるエンジンオイルおよびエンジン・クーラント総量の最低半分を保持できる構造になっていなくてはならない。（国内のSPとストックバイクは推奨事項）
フェアリング下部（オイル受け）の端部は、一番低いところから最低50㎜の高さであることが推奨される。

フェアリング下部の内側には、オイルを吸収する難燃性の素材が貼られてもよい。この規則を満足させるための最低限の外観変更が許可される。
上記変更以外に、スポーツプロダクションのフェアリングには、何も追加できない。

01.46 モーターサイクルの傾斜角とサスペンション

ロードレース（GPクラス）およびプロダクションレースにおけるモーターサイクルは、荷重がかからない状態において、タイヤ以外のいかなる部分も地面に触れることなく、垂直線から50°の角度に傾斜することができなくてはならない。（154～155頁図BおよびDを参照）

01.47 ホイールリムとタイヤ

47.01 メーカーが出荷した一体構造ホイール（キャスト、モウルド、リベット）または従来の着脱式リムに対して、スポーク、バルブまたは安全ボルト以外へはいかなる改造も禁止される。

ただし、タイヤがリムから外れることを防ぐために使用される、テンションスクリューは例外とする。

47.02 リムの最大幅は下記の通りとする。(スポーツプロダクションは限く)
ホイールリムの幅は、ETRTO(ヨーロッパタイヤリム技術機構)の定める方法によりフランジウォールの内側にて測定される。

47.03 リムの最低直径は400㎜とする。

クラス	最大幅
125	3.5インチ
250	5.5インチ
500	6.25インチ
スーパーバイク	6.25インチ

01.55 ナンバープレート

55.03 ナンバープレートは長方形で頑丈な材質で出来ていなくてはならない。最低寸法は285㎜×235㎜とする。

55.04 プレートは平面から50㎜以上カーブ(突出)していてはならない。また、カバーされたり曲げたりされてはならない。

55.05 1枚のプレートがフロントに、垂直面から後方に向かって30°以内の角度で傾斜して固定されなければならない。他の2枚はモーターサイクルの両側に、外に向かって垂直に固定されなくてはならない。ナンバープレートははっきりと見えるように装着され、モーターサイクルのいかなる部分、またはライダーが自分のシートに座った時に身体で隠れてしまわないようにしなくてはならない。
ナンバープレートの数字の間に穴を開けることができる。しかしどのような状況においても数字自体に穴を開けてはならない。穴の部分も規定の色に見えなくてはならない。

55.06 別個のナンバープレートを装着する代わりに、ボディーまたはストリームライニングに同寸法のスペースをつや消し色でペイントするか、あるいは固定してもよい。

55.07 数字ははっきり読めるように、また太陽光線の反射を避ける為に、地の色同様につや消しで書かれなければならない。
数字の最低寸法は下記のとおりとする。
数字の高さ 140㎜ 数字の幅 80㎜
ストローク幅 25㎜ 数字間のスペース 15㎜

55.08 数字は英国式を使用する。「1」は垂直の1本線「7」は水平のラインなしの単純な傾斜線。

55.09 正規のナンバーと混同する恐れのあるその他のナンバープレート、またはマーキングは競技会の開始前にすべて取り外されなくてはならない。

55.10 すべてのナンバープレートの周囲には最低50㎜の余白が残され、ここにはいかなる広告も表示されてはならない。この規則に適合していないナンバー・プレートを装着しているモーターサイクルは、車検長によりレース参加の許可を得ることができない。

55.12 ナンバープレートの地色及び数字の色は下記のとおりとする。(蛍光色は禁止)
GP125 黒地に白文字 SP黒地に黄文字 ストックバイク 白地に黒文字
GP250 緑地に白文字 SB白地に黒文字
GP500 黄地に黒文字 耐久黒地に白文字(白文字は反射素材のもの)

01.56 フュエルタンク及びオイルタンク

56.01.1 フュエルタンクの最大容量は下記の通りとする。
・ロードレース 32ℓ ・耐久 24ℓ
・スーパーバイク 24ℓ
・その他スポーツプロダクションは各カテゴリーごとに設定する。

56.01.2 燃料はマシンにしっかりと固定された1つのタンク内に入れるものとする。シートタンクおよび補助タンクは禁止される。すべての競技において、給油の為に容易に脱着出来る取り換えタンクを使用することは厳禁される。

56.01.3 タンクの容量を減少させる一時的充填物の使用は禁止される。

56.01.4 タンクに防爆材を完全に充填することが義務づけられる。
国内SPクラス、STクラスで、車両公認時の燃料タンクに一切の改造、変更のない場合は、この条件を免除される。

56.02 オイルキャッチタンクとブリーザーシステム
オイルブリーザーパイプが装着される場合、オイル放出は容易に手が届く場所に設けられたキャッチタンクに行う。このタンクは競技の前に空にしなくてはならない。
オイル・キャッチタンクの最低サイズは、ギヤーボックス・ブリーザーの場合250ccとし、エンジン・ブリーザーの場合には500ccが勧められる。
すべての4ストローク車両は、クローズド・ブリーザーシステムを備えていなければならない。オイルブリーザーパイプはエアボックス接続され、ボックス中に排出されなくてはならない。(154頁図A参照)

56.03 オイル・ドレーンプラグおよび供給パイプ
すべてのオイルドレーンボルトは確実に固定され、ドリルで穴を開け、ワイヤーで所定の箇所に固定されなければならない。オイル供給パイプは所定の位置に適切にワイヤー止めされなくてはならない。
オイルキャビティに進入する外部オイル・フィルターのスクリューやボルトは、安全にワイヤーロックされなければならない。

56.04 燃料タンク・ブリーザー・パイプ
ノン・リターン・バルブを燃料タンク・ブリーザー・パイプに取りつけなくてはならない。これは、適切な材質でできた、最低容量250ccのキャッチ・タンクに放出されるようになっていなくてはならない。

56.05 燃料タンク・フィラー・キャップおよびオイル・フィラー・キャップ
燃料タンク・フィラー・キャップおよびオイル・フィラー・キャップは、閉じた状態で漏れないようになっていなくてはならない。さらにこれらはいかなる場合においても誤って開くことのないように完全にロックされていなくてはならない。

01.63 燃料、燃料／オイルの混合液

すべての車両には、MFJの定める無鉛ガソリンが使用されなくてはならない。(AVガス、航空機用燃料の使用は禁止される)

注意：'97年1月1日より、ロードレース2ストロークエンジンに対してもMFJの定める無鉛ガソリンに制限されている。

仕様の詳細はMFJ技術規則第7章ガソリン・オイル・クーラントの項(145頁参照)。

＊大会特別規則(全日本ロードレース特別規則等)によりガソリンの銘柄および供給方法が指定される場合、それに従わなくてはならない。

01.79 音量規制

79.01 計測のためのマイクロフォンの位置は排気管後端から500㎜で、かつ中心線から後方45°で排気管と同じ高さとする。
ただし高さが200㎜以下である場合は45°上方の点で行う。

79.02 ノイズ・テストの際、ギヤ・ボックスにニュートラルがないマシンは、スタンドに載せた状態で測定を受けなくてはならない。

79.03 規制に適合しているサイレンサーには車検にてマークが付けられ、車検後にサイレンサーを変更することが禁止される。ただし同様に車検合格し、マークを受けたスペア・サイレンサーに関しては例外とする。

79.04 ギヤはニュートラルとしてエンジンを回転させ、所定のrpm域に達するまでエンジンの回転を増していかなくてはならない。測定は所定のrpmに達した時に行うものとする。

79.05 rpmは、エンジンのストロークに相応するピストンの平均速度に基づく次の式にて求められる。

$$\text{所定のエンジン回転数(rpm)} = \frac{30{,}000 \times \text{ピストンスピード(m/s)}}{\text{ピストンストローク(mm)}}$$

79.06 ロードレースに関して、音量測定を実施する平均ピストンスピードは13m／秒（2ストロークエンジン）、および11m／秒（4ストロークエンジン）とする。(154頁・図C参照)
全日本・エリア選手権ロードレースにおいては下記規則が適用される。
国内の各クラスにも1998年1月1日より、下記固定回転数方式が適用される。
エンジン型式および排気量ごとに、エンジンストロークはほぼ同等と見なされるので、測定は下記固定回転数にて実施する。

スポーツプロダクション、スポーツプロダクションをベースとしたエンジン。スーパーバイク(国内SPクラス)

	1気筒	2気筒	3気筒	4気筒
250cc（4・stroke）	5,500RPM	7,000RPM		
400cc（4・stroke）	5,000RPM	6,300RPM	7,200RPM	8,000RPM
600cc（4・stroke）	4,400RPM	5,500RPM	6,300RPM	7,000RPM
750cc（4・stroke）	4,000RPM	5,100RPM	5,900RPM	6,500RPM
over750cc（4・stroke）	3,900RPM	5,000RPM	5,200RPM	5,500RPM

その他レース用エンジン、GPフォーミュラ。(国内SPおよびGPクラス)

	1気筒	2気筒	3気筒	4気筒
125cc（2・stroke）	7,000RPM			
250cc（2・stroke）		7,000RPM		
500cc（2・stroke）		5,500RPM		7,000RPM

79.07 2気筒を越えるエンジンの音量計測は、各エキゾースト・パイプの先端で測定される。

79.08 規制値をオーバーしているマシンは、レース前車検において再度測定を受けることができる。

79.10 バンケルエンジンの場合の測定回転数は、6,000rpmとする。

79.11 現行の音量規制値
2ストローク・エンジンについてはピストンスピード13m/secで測って105dB/Aまで。4ストローク・エンジンについては11m/secで測って105dB/Aまでとする。レース終了後は3dB/Aの許容誤差が認められる。全日本・エリア選手権においては79.06の固定回転数を使用することもできる。
スーパーバイクの規制値は、102dB/A、国内のSPクラス、STクラスの規制値は99dB/A

79.12 周辺への音量は、モーターサイクルから半径5m以内において90dB/Aまでとする。

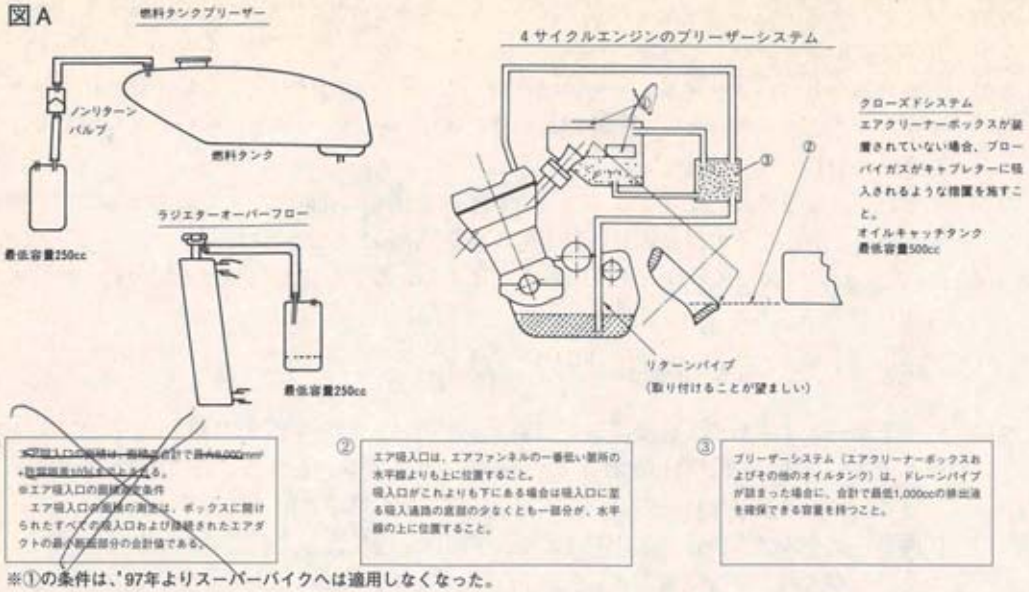
79.13 音量測定は気温20°を基準とする。気温10°以下の場合許容誤差＋1dB/Aが認められる。気温0°以下の場合許容誤差＋2dB/Aが認められる。

＊音量測定方法で、ここに記載されていない項目はFIM規則による。

1 冷却系のオーバーフロー(国内の仕様)

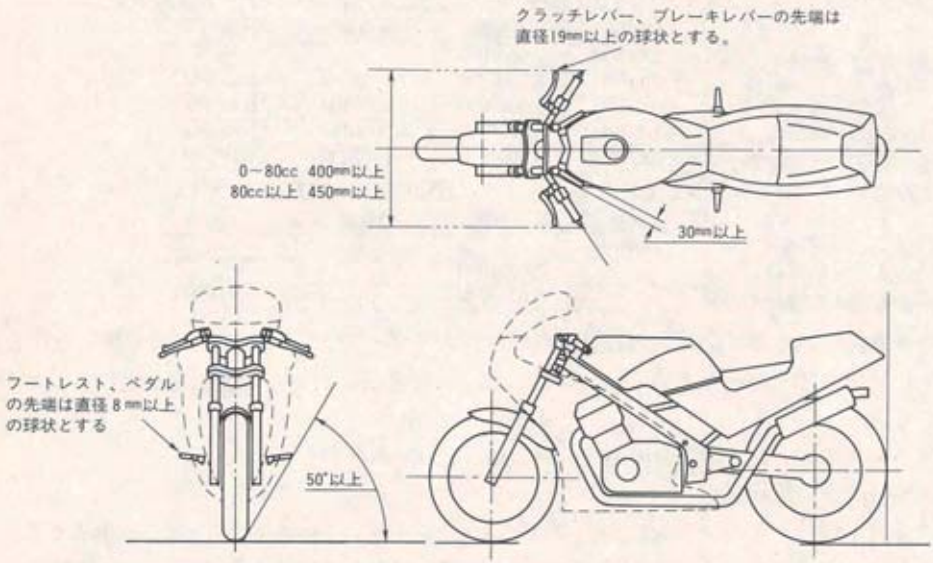
1）水冷式のすべての車両は冷却液オーバーフローパイプを取りつけた場合、最低容量250cc以上のキャッチタンクを取りつけること。

図A



※①の条件は、'97年よりスーパーバイクへは適用しなくなった。

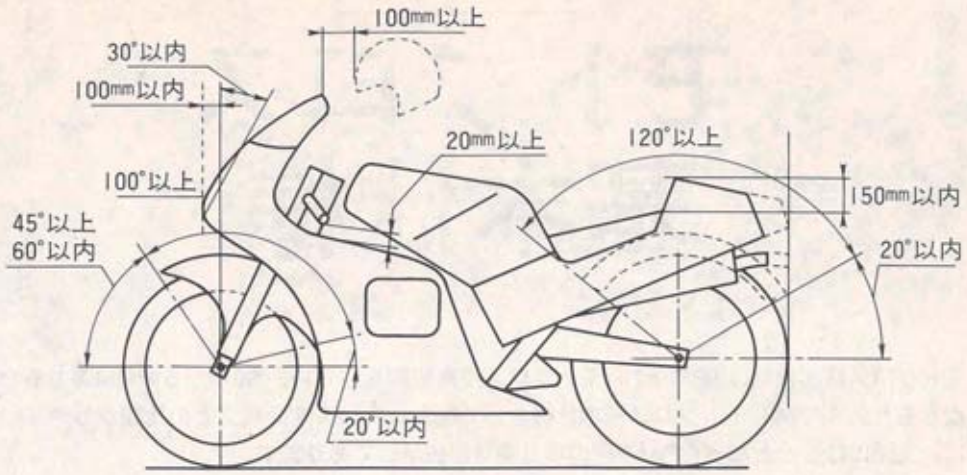
図B［スポーツプロダクション］

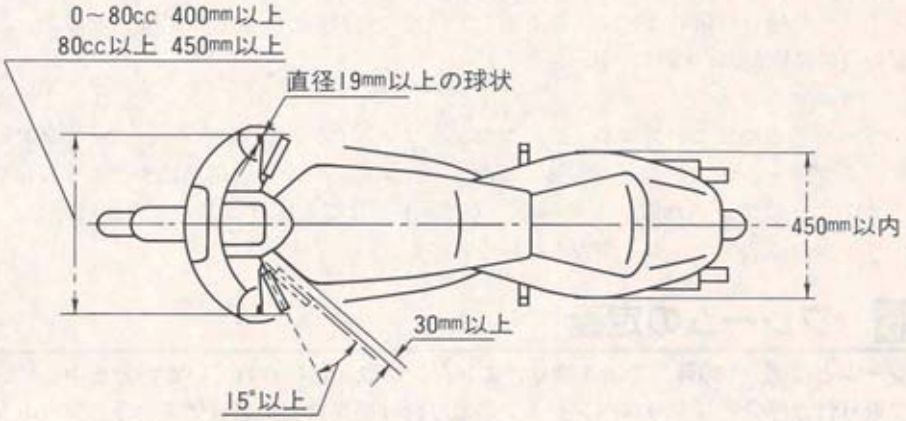


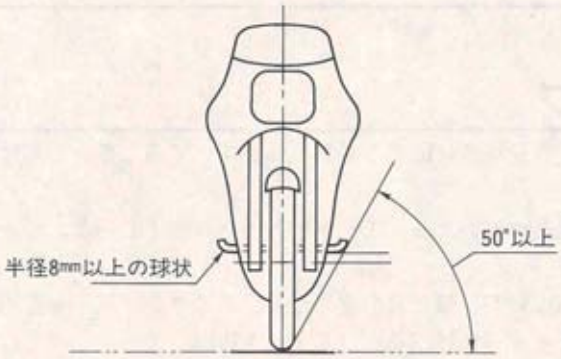
図C　ピストンストロークに相応するエンジン回転数(2ストローク　13m/sec、4ストローク　11m/sec)

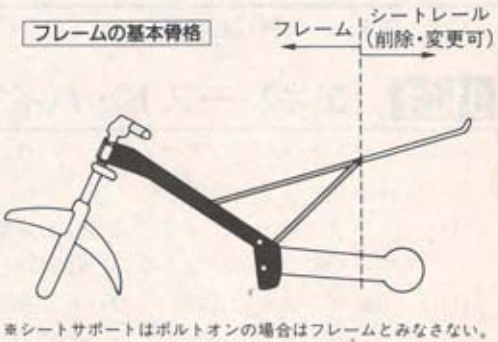
ピストンストローク	2ストローク	4ストローク	ピストンストローク	2ストローク	4ストローク	ピストンストローク	2ストローク	4ストローク
30	13,000	11,000	42	9,285	7,857	54	7,222	6,111
31	12,580	10,645	43	9,069	7,674	55	7,090	6,000
32	12,187	10,313	44	8,863	7,500	56	6,964	5,893
33	11,818	10,000	45	8,666	7,333	57	6,842	5,789
34	11,470	9,706	46	8,478	7,174	58	6,724	5,690
35	11,142	9,429	47	8,297	7,021	59	6,610	5,593
36	10,833	9,167	48	8,125	6,875	60	6,500	5,500
37	10,540	8,919	49	7,959	6,735	61	6,393	5,410
38	10,263	8,684	50	7,800	6,600	62	6,290	5,323
39	10,000	8,462	51	7,647	6,471	63	6,190	5,238
40	9,750	8,250	52	7,500	6,346	64	6,093	5,156
41	9,512	8,049	53	7,358	6,226	65	6,000	5,077

図D［GPフォーミュラ］









※シートサポートはボルトオンの場合はフレームとみなさない。

第9章
モトクロス基本仕様

＊モトクロス基本仕様は'98年版FIMモトクロス技術規則をもとに、'99年からのFIMのおもな変更点をもり込んでMFJモトクロス基本仕様として編集しています。原文との比較がしやすいように、文頭にはもととなったFIM規則の項目番号が表示してあります。

01.25 基本仕様

下記仕様はモトクロスのすべての車両、およびすべての競技会に適用されるが、主催者が特別の指示を与えた場合は例外とする。ある種の競技はさらに細かい仕様が必要になるが、これらはその競技会の特別規則（SR）に明記される。

25.01 チタニウム合金

すべての車両についてフレーム、フロントフォーク、ハンドルバー、スイングアーム、スイングアーム・スピンドル、およびホイール・スピンドルの構造にチタニウム合金を使用することは禁止される。ホイール・スピンドルに関しては、軽合金の使用も禁止される。チタニウム合金ナットとボルトは使用してもよい。

01.26 フレームの定義

フレームとは図（160頁）で示す通り、エンジンが取り付けられている部分を中心に、ステアリング取り付け部分とリヤサスペンションの取り付け部を含む構造全体をいう。シートを取り付けるためのザブフレームはフレーム本体に溶接されている場合はフレームと見なし、ボルトオンタイプ（脱着可能）のものはフレームと見なさない。

01.27 スタート装置

1）スタート装置は義務づけられる。

01.31 エキゾースト・パイプ

エキゾースト・パイプとサイレンサーは、音量規制に関する必要条件をすべて満たさなくてはならない。

31.01 エキゾースト・パイプの先端は、最低30㎜にわたってモーターサイクルの中心軸と水平かつ平行でなくてはならない。（許容誤差±10°）

31.02 排気ガスは後方に排出しなければならないが、ほこりを立てたり、タイヤやブレーキを汚したり、またパッセンジャーや他のライダーに迷惑をかけるような放出の仕方をとってはならない。後続ライダーに迷惑をかけないようにするために、オイルの飛散を防ぐ措置を

施さなくてはならない。

31.03 エキゾースト・パイプの後端は、リヤ・タイヤの垂直接線より後ろにあってはならない。

01.33 ハンドルバー

33.01 ハンドルバーの幅は、660㎜未満でも850㎜を越えてもならない。

33.02 ハンドルバーには、クロスバーの上に保護パッドを取り付けなくてはならない。クロスバーがない場合、ハンドルバーの中央にハンドルバークランプを広くカバーするパッドを取り付けなくてはならない。

33.05 ハンドルバーの先端が露出される場合は、固形物質を詰めるか、ゴムでカバーされていなければならない。

33.08 ハンドルをいっぱいに切った時にハンドルバー（レバー類含む）とタンクの間に最低30㎜のすき間を設けるためにハンドルストッパー（ステアリングダンパー以外のもの）を、取り付けなくてはならない。

33.09 ハンドルバー・クランプは、ハンドルバーが折れやすい部分ができないように、慎重に丸みをつけて製作しなくてはならない。

33.10 ハンド・プロテクターが使用される場合には、非粉砕材質でなくてはならない。

33.11 軽合金ハンドルバーの溶接による補修は禁止される。

01.35 コントロールレバー

35.01 すべてのハンドルバー・レバー類（クラッチ、ブレーキ等）は、原則として端部がボール状（このボールの直径は最低19㎜）でなくてはならない。このボールを平たくすることも認められるが、どのような場合も端部は丸くなっていなくてはならない（この平たくした部分の厚みは最低14㎜とする）。レバー端部はレバーと一体構造に固定されなくてはならない。

35.03 各コントロール・レバー（ハンドおよびフット・レバー）はそれぞれ独立したピボットを持っており、そのレバー自体のピボットにマウントされていなくてはならない。

35.04 もしブレーキ・レバーが、フットレストの軸にピボットされている場合、フットレストが曲がり、または変形した場合など、どのような場合でも作動できなくてはならない。

01.37 スロットルコントロール

37.01 スロットルコントロールは、手を離した時に自動的に閉じるものでなくてはならない。

37.03 モーターサイクルには有効なイグニッション・キルスイッチ、又はボタンがハンドルバーの右か左（ハンドルグリップを握って届く位置）に設けられなくてはならない。このスイッチは始動しているエンジンを停止できなくてはならない。

01.39 フットレスト

39.01 フットレストの先端には最低半径８㎜の、一体構造のプロテクションが設けられていなくてはならない。（158頁図E参照）

フットレストは折りたたみ式でもよいが、この場合は自動的に元の位置に戻る仕組みになっていなくてはならない。

39.02 フットレストが折りたたみ式でない場合、及びゴムのカバーを装着していない場合は、その先端を最低半径８㎜以上の球状に丸められていなくてはならない。

01.41 ブレーキ

41.01 すべてのモーターサイクルは、最低２つの効果的なブレーキ（各ホイールにひとつ）がなくてはならず、これは独立してホイールと同心的に作動しなくてはならない。

01.43 マッドガードおよびホイールプロテクション

43.01 マッドガードはタイヤの両側方に張り出していなくてはならない。

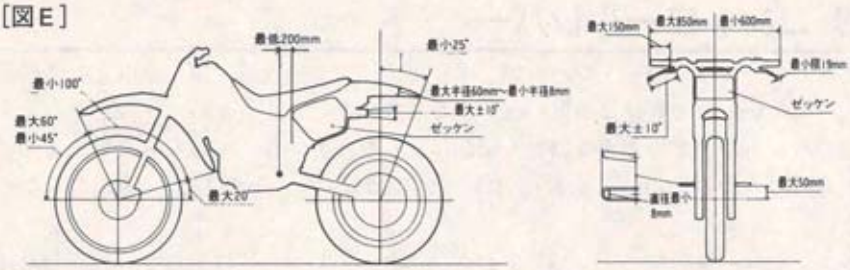
43.02 フロント・マッドガードは、ホイールの周囲を最低100°にわたってカバーしていなくてはならない。マッドガードの前端とホイールの中心を結ぶ線と、ホイールの中心を通る水平線の作り出す角度は45°と60°の間でなくてはならない。マッドガードの後端とホイールの中心を結ぶ線と、ホイールの中心を通る水平線が作り出す角度は20°を越えてはならない。（図Ｅ参照）

43.04 リヤ・マッドガードは、リヤホイール・スピンドルを通る垂直線から25°の角度で後方に引かれる線よりも後方まで及んでいなくてはならない。

43.05 マッドガードの後端は丸められていなくてはならず、この丸め方は最低半径８㎜で、かつ半径60㎜を越えてはならない。

43.07 キャストホイール、または溶接されたホイールが使用される場合には、頑丈なディスクでスポークを覆う形でプロテクションが施されなくてはならない。

［図Ｅ］



01.45 ストリームライニング

ストリームライニング（カウリング等空気整流効果のあるもの）の装着は禁止される。

01.47 ホイールリム、タイヤ

47.02 メーカー出荷時の一体構造ホイール（キャストホイール、モウルドホイール、リベットホイール）、又はリムに対しては、スポーク、バルブ又は安全ボルト以外へはいかなる改造も禁止される。ただし、タイヤがリムから外れることを防ぐために使用されるビードストッパーは例外とする。

01.49 モトクロスタイヤ

49.01 使用されるタイヤの種類に制限はない。

49.02 スクープまたはパドル（横断面に連続したリブを持つ）タイヤ、あるいは高さが19.5㎜以上のラグ（ブロックの高さ）を持つタイヤの使用は禁止される。

49.03 外観および外面的な寸法は制限されない。

49.04 タイヤ表面に後から滑り止めスパイク、特殊チェーン等の装置を取りつけることは禁止される。

01.55 ナンバープレート

55.03 ナンバープレートは長方形で頑丈な材質で出来ていなくてはならない。最低寸法は285㎜×235㎜とする。

55.04 プレートは平面から50㎜以上カーブ（突出）していてはならない。またカバーされたり曲げたりされてはならない。

55.05 フロントナンバープレート

一枚のプレートがフロントに、垂直面から後方に向かって30°以内の角度で傾斜して固定されなくてはならない。ナンバープレートには数字の間に穴を開けてもよいが、いかなる場合においても、数字自体に穴を開けてはならない。

55.06 サイドナンバープレート

サイド・ナンバープレートは、リヤホイール・スピンドルを通る水平線より上に設けられ、ナンバープレートの前端はライダーのフットレスト後方200㎜のところを通る垂直線より後方に位置していなくてはならない。ナンバー・プレートは、はっきりと見えるように装着されなくてはならず、モーターサイクルの一部分や、シートに座ったライダー自身により隠れないようにしなくてはならない。

別個のナンバープレートを装着する代わりに、ボディーに同寸法のスペースをつや消し色でペイントするか、あるいは固定してもよい。

55.07 数字ははっきり読めるように、また太陽光線の反射を避ける為に、地の色同様につや消しで書かれなければならない。数字の最低寸法は下記の通りとする。

数字の高さ	140㎜	ストローク幅	25㎜
数字の幅	80㎜	数字間のスペース	15㎜

55.08 数字は英国式を使用する。「1」は垂直の1本線「7」は水平のラインなしの単純な傾斜線。

55.09 正規のナンバーと混同する恐れのあるその他のナンバープレート、またはマーキングは競技会の開始前にすべて取り外されなくてはならない。

55.10 すべてのナンバープレートの周囲には、最低50㎜の余白が残され、ここにはいかなる広告も表示されてはならない。この規則に適合していないナンバー・プレートを装着しているモーターサイクルは、車検長によりレース参加の許可を得ることができない。

55.12 ナンバープレートの色

ナンバープレートの地色及び数字の色は下記のとおりとする。

ジュニア……白地に赤文字　　国内B級……白地に黒文字
国内A級……黄地に黒文字　　国際B級……紺地に白文字
国際A級（125cc）……黒地に白文字　　国際A級（250cc）……緑地に白文字

その他、ナンバープレートの地色および数字の色について、モーターサイクルのクラスや競技の形式などによって変わる場合があり、大会特別規則によって示される。

01.63 燃料、燃料／オイルの混合液

すべての車両にはMFJの定める無鉛ガソリンを使用しなくてはならない。（AVガス・航空機用燃料の使用は禁止される）

仕様の詳細はMFJ技術規則第7章、ガソリン・オイル・クーラントの項（145頁）参照。

※大会特別規則（全日本モトクロス特別規則等）により、ガソリンの銘柄および供給方法が指定される場合、それに従わなくてはならない。

01.79 音量規制

79.01 計測のためのマイクロフォンの位置は排気管後端から500㎜で、かつ中心線から後方45°で排気管と同じ高さとするが、少なくとも地面から20㎝上方でなくてはならない。もしこれが不可能な場合、計測は45°上方で行ってもよい。

79.02 ノイズテストの際、ギヤ・ボックスにニュートラルがないマシンは、スタンドに載せた状態で測定を受けなくてはならない。

79.03 規制に適合しているサイレンサーには車検にてマークが付けられ、車検後にサイレンサーを変更する事が禁止される。ただし同様に車検合格し、マークを受けたスペア・サイレンサーに関しては例外とする。

79.04 ギヤはニュートラルとしてエンジンを回転させ、所定のrpm域に達するまでエンジンの回転を増していかなくてはならない。測定は、所定のrpmに達した時に行うものとする。

79.06 現在のモトクロス車両は排気量ごとに、エンジンストロークはほぼ同等と見なされるので、測定は下記の固定回転数で実施する。

80ccまで	8,000rpm	250ccを越え500ccまで	4,500rpm
80ccを越え125ccまで	7,000rpm	500ccを越える	4,000rpm
125ccを越え250ccまで	5,000rpm		

※4ストローク車両の回転数は別に定める（154頁図C参照）。

79.07 2気筒以上のエンジンの音量計測には、各エキゾースト・パイプの先端で測定される。

79.08 規制値をオーバーしているマシンは、レース前車検において再度測定を受けることができる。

79.11 現行の音量規制値

最大98dB/A、13m/秒で測定する。（原則として事項79.06が適用される）

※4ストローク車両の規定値は別に定める（180頁09参照）。

79.12 周辺の音量は、モーターサイクルから半径5m以内において90dB/Aまでとする。

79.15 音量測定は気温20°を基準とする。気温10°以下の場合許容誤差＋1dB/Aが認められる。気温0°以下の場合許容誤差＋2dB/Aが認められる。

79.16 レース後の最終検査においては、2dB/Aの許容誤差が認められる。

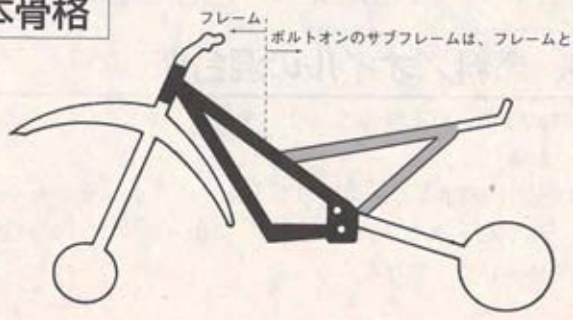
80.08 メーターの読み方は常に切捨てとする。（100.9dB/A＝100dB/A）

国内の仕様

下記の項目は国内の事情を考慮し、国内の仕様にて開催する。よって基本仕様と異なる場合、下記の仕様の解釈が優先される。

2）エンジンのすべてのオイルドレンボルト、及び外部のオイル圧力ライン部品へのワイヤーロック。

フレームの基本骨格



第10章
トライアル基本仕様

＊トライアル基本仕様は'97年版FIMトライアル技術規則をもとに、'98年からのFIMのおもな変更点をもり込んでMFJトライアル基本仕様として編集しています。原文との比較がしやすいように、文頭にはもととなったFIM規則の項目番号が表示してあります。

01.25 基本仕様

下記の仕様は、指定されるグループのすべての車両、およびすべての競技会に適用されるが、FIMスポーツコードに特別の規定がある場合は例外とする。ある種の競技へはさらに細かい仕様が必要になるが、これらはその競技会の特別規則（SR）に明記される。

25.01 チタニウム合金

すべての車両についてフレーム、フロントフォーク、ハンドルバー、スイングアームの構造にチタニウム合金を使用することは禁止される。チタニウム合金ナットとボルトは使用されてもよい。もし代替えとして非鉄製のファスナーまたはスピンドルを使用する場合、状況に応じて寸法も増さなくてはならない。

01.26 フレームの定義

フレームとは図（165頁）で示す通り、エンジンが取りつけられる部分を中心にステアリング取りつけ部分とリヤサスペンションの取りつけ部を含む構造全体をいう。シートを取りつける為のサブフレームはフレーム本体に溶接されている場合はフレームと見なし、ボルトオンタイプ（脱着可能）のものはフレームとみなさない。

01.27 スタート装置

スタート装置は義務づけられる。

01.31 エキゾースト・パイプ

エキゾースト・パイプとサイレンサーは、音量規制に関する必要条件をすべて満たしていなくてはならない。

31.01 エキゾースト・パイプの先端は、最低30㎜にわたってモーターサイクルの中心軸と水平かつ平行でなくてはならない。（許容誤差±10°）

31.03 エキゾースト・パイプの後端は、リヤ・タイヤの垂直接線より後ろにあってはならない。

01.33 ハンドルバー

33.01 ハンドルバーの幅は、600㎜未満でも850㎜を越えてもならない。

33.05 ハンドルバーの先端が露出される場合は、固形物質を詰めるか、ゴムでカバーされていなければならない。

33.08 ハンドルを左右いっぱいに切った時ライダーの指が挟まないように、ハンドルとタンクの間に30㎜以上のすきまを確保するように、ストッパー（ステアリングダンパー以外のもの）を取りつけなくてはならない。

33.09 ハンドルバー・クランプは、ハンドルバーが折れやすい部分を作らないために、慎重に丸みをつけて製作しなくてはならない。

33.10 ハンドル・プロテクターが使用される場合には、非粉砕材質でなくてはならなく、手を入れるための開口部分が常に開いていなくてはならない。

33.11 軽合金ハンドルバーの溶接による補修は禁止される。

01.35 コントロールレバー

35.01 すべてのハンドルバー・レバー類（クラッチ、ブレーキ等）は、原則として端部がボール状（このボールの直径は最低19㎜）でなくてはならない。このボールを平たくすることも認められるが、どのような場合も端部は丸くなっていなくてはならない（この平たくした部分の厚みは最低14㎜とする）。レバー端部は、レバーと一体構造に固定されていなくてはならない。

35.03 各コントロール・レバー（ハンドおよびフット・レバー）はそれぞれ独立したピボットを持っており、そのレバー自体のピボットにマウントされていなくてはならない。

35.04 もしブレーキ・レバーが、フットレストの軸にピボットされている場合、フットレストが曲がり、又は変形した場合など、どのような場合でも作動できなくてはならない。

01.37 スロットルコントロール

37.01 スロットルコントロールは、手を離した時に自動的に閉じるものでなくてはならない。

37.03 モーターサイクルには、有効なキルスイッチまたはボタンが、ハンドルバーの容易に手の届く場所に設けられなくてはならない。

01.39 フットレスト

39.01 フットレストの先端には最低半径８㎜の、一体構造のプロテクションが設けられていなくてはならない。（163頁図F参照）
フットレストは折りたたみ式でもよいが、この場合は自動的に元の位置に戻る仕組みになっていなくてはならない。

39.02 フットレストが折りたたみ式でない場合、及びゴムのカバーを装着していない場合は、その先端を最低半径８㎜以上の球状に丸められていなくてはならない。

01.41 ブレーキ

41.01 すべてのモーターサイクルは、最低２つの効果的なブレーキ（各ホイールにひとつ）がなくてはならず、これは独立してホイールと同心的に作動しなくてはならない。

01.43 マッドガードおよびホイールプロテクション

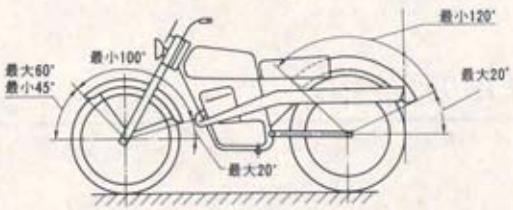
43.01 マッドガードはタイヤの両側方に張り出していなくてはならない。

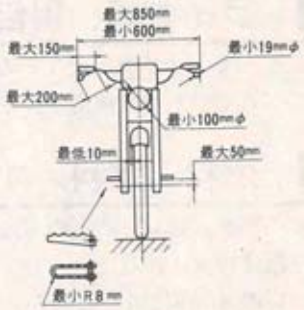
43.02 フロント・マッドガードは、ホイールの周囲を最低100°にわたってカバーしていなくてはならない。マッドガードの前端とホイールの中心を結ぶ線と、ホイールの中心を通る水平線の作り出す角度は45°と60°の間でなくてはならない。

43.03 リヤ・マッドガードは（インドアトライアルを除く）、ホイールの周囲を最低120°にわたってカバーしていなくてはならない。リヤ・マッドガード後端とホイールの中心を結ぶ線と、ホイールの中心を通る水平線が作り出す角度は20°を越えてはならない。リヤマッドガードのこの角度（最大20°）は、ライダーがモーターサイクルに座った状態で計測される。

43.04 インドアトライアルまたはアリーナトライアルのような公道を使用しない競技会では、リヤ・マッドガードはリヤ・ホイールスピンドルを通る垂直線と、その垂直線に25°の角度で後方に引かれる線よりも後方まで及んでいなくてはならない。

[図F]





01.45 ストリームライニング

ストリームライニングの装着は禁止されている。

01.47 ホイールリム、タイヤ

47.02 メーカー出荷時の一体構造ホイール（キャストホイール、モウルドホイール、リベットホイール）、又はリムに対しては、スポーク、バルブ又は安全ベルト以外へはいかなる改造も禁止される。ただしタイヤがリムから外れることを防ぐために使用されるビードストッパーは例外とする。

01.49 トライアルタイヤ

49.01 ホイールに正常に装着された状態でタイヤの全幅は、115㎜を越えてはならない。

49.02 トレッドの深さ（A）はトレッド面から直角に測った場合、13㎜を越えてはならない。同一円周のブロックはすべて同じ深さでなくてはならない。……164頁の図G参照

49.03 ブロック間のトレッドの幅は、タイヤ幅方向（B）で9.5㎜、円周方向（C）で13㎜を越えてはならない。

49.04 ショルダーブロック（D）間のトレッド幅は、22㎜を越えてはならない。

49.05 トレッド横幅（E）は、タイヤウォールに直角に測った場合、ブロックで中断されていない限り、タイヤ全幅に及んでいなければならない。

49.06 すべてのトレッドブロック（ショルダーブロックを除く）は、両側辺が平行で、タイヤの軸に対し直角そして平行な長方形でなければならない。（タイヤは、図Gに適合し、逆回

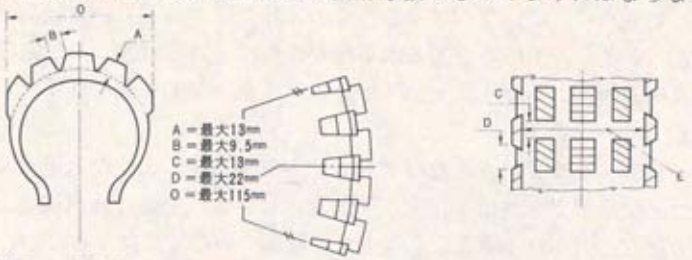
転させても同じ外観でなければならない。）

49.10 通常の販売ルート、または小売店を通じて入手できる一般公道用に認可されたタイヤのみが使用を許可される。

49.10.1 タイヤは一般の購入者が入手できるマニュファクチャラーの商品カタログ、またはタイヤ仕様リストに掲載されているものでなくてはならない。

49.10.2 これらのタイヤは、荷重、スピードコードに関してヨーロッパ・タイヤ・リム技術機構(ETRTO)の定める条件に適合し、最低45Mの使用等級のものでなければならない。

[図G]



01.56 ライト類、警告装置およびスピードメーター

1） モーターサイクル及びその装置類は、特別規則（SR）に記載されない限り、その車両が登録されている国の法的条件に適合していなくてはならない。

01.63 燃料、燃料／オイルの混合液

すべての車両にはMFJの定める無鉛ガソリンを使用しなくてはならない。（AVガス・航空機用燃料の使用は禁止される）

仕様の詳細はMFJ技術規則第７章ガソリン・オイル・クーラントの項（145頁）参照。

※大会特別規則（全日本トライアル特別規則等）により、ガソリンの銘柄および供給方法が指定される場合、それに従わなくてはならない。

01.65 装備とウェアー

練習中、競技中は布製か皮革製の保護ウェアーと膝までの高さのブーツを着用しなくてはならない。グローブの着用は義務ではない。

01.79 音量規制

79.01 計測のためのマイクロフォンの位置は排気管後端から500㎜で、かつ中心線から後方45°で排気管と同じ高さとするが、少なくとも地面から20㎝上方でなくてはならない。もしこれが不可能な場合、計測は45°上方で行ってもよい。

79.02 ノイズテストの際、ギヤ・ボックスにニュートラルのないマシンについては、スタンドに載せた状態で測定を受けなくてはならない。

79.03 規制に適合しているサイレンサーには車検にてマークが付けられ、車検後にサイレンサーを変更する事は禁止される。ただし同様に車検合格し、マークを受けたスペア・サイレンサーに関しては例外とする。

79.04 ギヤはニュートラルとしてエンジンを回転させ、所定のrpm域に達するまでエンジンの回転を増していかなくてはならない。測定は、所定のrpmに達したときに行うものとする。

79.06 現在のトライアル車両のエンジンストロークはほぼ同等と見なされるので、測定は5000rpmの固定回転数で実施する。

79.08 規制値をオーバーしているマシンは、再度測定を受けることができる。

79.11　現行の音量規制値
最大94dB/A、11m/秒で測定する。（原則として事項79.06が適用される）
79.12　周辺への音量は、モーターサイクルから半径５m以内において80dB/Aまでとする。
79.15　温度による測定への影響のため、音量測定は気温20°を基準とする。気温10°以下の場合許容誤差＋１dB/Aが認められる。気温０°以下の場合許容誤差＋２dB/Aが認められる。
79.16　競技後の音量測定
競技後に音量測定が行なわれる場合、誤差＋１dB/Aが認められる。

下記の項目は国内の事情を考慮し、国内の仕様にて開催する。よって基本仕様と異なる場合、下記の仕様の解釈が優先される。（日本で開催される国際格式競技会を除く）

1 マッドガードおよびホイールプロテクション

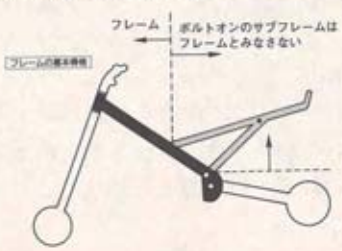
1）リヤ・マッドガードは、ホイールの周囲を最低120°にわたってカバーしていなくてはならない。リヤ・マッドガードは、リヤホイール・スピンドルを通る垂直線から25°の角度で後方に引かれる線よりも後方まで及んでいなくてはならない。

2 ナンバープレート

1）ナンバープレートは長方形で頑丈な材質でできていなくてはならない。最低寸法は175㎜×150㎜とする。
2）ナンバープレートは１枚を車両の前面に見やすいよう前向きに取りつけなくてはならない。
3）数字は英国式を使用する。「１」は垂直の１本線。「７」は水平のラインなしの単純な傾斜線。
4）数字および地色に蛍光色は一切認められない。
5）判読しずらい文字等は車検長に依りレース参加の許可を得ることができない。
6）国際Ａ級及び国際Ｂ級部門についてはプレート下部にライダーの名前を記入するものとする。
7）全日本選手権の国際Ａ級・国際Ｂ級に関する特別規則
数字は英国式とし、観客とオフィシャルが明確に識別できるようにしなくてはならない。（デザインされた書体の使用を認める）
8）ナンバープレートの地色及び数字の色は下記のとおりとする。
ジュニア……黒地に白赤字　　国内Ｂ級……白地に黒文字
国内Ａ級……黄地に黒文字　　国際Ｂ級……緑地に白文字
国際Ａ級……赤地に白文字　　国際Ａ級スーパークラス……赤地に黄文字

3 ライト類、警告装置およびスピードメーター

1）灯火器のレンズの処理または取りはずし、保安部品（バックミラー、補助ステップ、ウィンカー類）の取りはずしが義務づけられる。



第13章

SP クラスの仕様

（スーパープロダクション）

01 クラス区分

クラス	排気量範囲	2ストローク	4ストローク	最大限気筒数	最大限変速段数
400	250を越え400以下	×	○	4	6
250	125を越え250以下	○	×	2	6
250F	125を越え250以下	×	○	4	6
125	80を越え125以下	○	○	1	6
80	50を越え80以下	○	○	1	6
50	50以下	○	○	1	6

02 出場車両

1） 車両は（市販レーサーを除く）一般生産型車両でMFJが公認したもの、又はSP用コンプリートマシンとしてMFJが公認したもの。

2） 車両は国内競技規則およびロードレース基本仕様（第８章）に示されているすべての条項に適合していること。

3） 車両のホイールリムの最大幅は下記のとおりとする。

クラス	最大幅フロント	最大幅リヤ
400以下	3.5インチ	4.5インチ

03 公認車両に対して下記事項は仕様の変更が出来ない

（仕様の変更とはその部品の改造、変更、寸法の変更又は取りはずしを言う）

1） エンジンの型式

2） シリンダーの数

3） ピストンストローク

4） シリンダー（スリーブ及びライナー含む）、シリンダーヘッド、クランクケース、ギヤボックスの材質・鋳造及び形状

5） クラッチの構造 ＊ただし04.22）参照

6） エンジン内部の部品の材質

7） ４ストローク車のバルブの径、リフト、タイミング及び圧縮比

8） ２ストローク車のシリンダー、ピストンによるポートタイミング、排気デバイス、ポートサイズ、一次、二次の圧縮比

9） シリンダー、シリンダーヘッドのクランクケースに対する向き

10） 吸入、排気系統のシステム、バルブ数、ポート数、キャブレター数

11） クランクケースカバー類の材質・鋳造および形状

12) シリンダー（2サイクル）、シリンダーヘッド（4サイクル）のポートの形状、寸法
13) クランクシャフトアッセンブリー、ピストン
14) カムシャフト、バルブ、バルブスプリング、リードバルブアッセンブリー（リード単体含む）
16) (1) キャブレター ＊ただし04.16）.(4)及び08.3）.(1)参照
(2) マニホールドタイプのフュエルインジェクションは公認車両に装備されているものに限り認められる。
17) フュエルタンク ＊ただし04.17）参照
22) プライマリーギヤ ＊ただし04.22）参照
23) ミッション ＊ただし04.23）参照
27) 4ストローク車のエアクリーナーボックス ＊ただし04.27）参照
42) リヤホイール
43) リヤブレーキ関係 ＊ただし04.43）参照
44) フロントホイール
45) フロントブレーキ関係 ＊ただし04.45）参照
50) フレームボディ ＊ただし04.50）参照
51) フロントフォーク ＊ただし04.51）参照
52) (1) リヤフォーク
(2) リヤサスペンション、サスペンションのシステム ＊ただし04.52）参照
53) ステアリングステムを含むボトムブリッジ、トップブリッジ
54) ストリームライニング（**カウリング・ウインドスクリーンを含む全てボディワーク。以下略す。**）およびマッドガード（フェンダー）の外観形状（原則として取り外すことも認められない）。ストリームライニングには、いかなるものも追加されてはならない。＊ただし04.54）参照

04 公認車両に対し下記事項の変更が出来るが、ロードレース基本仕様（第8章）には適合していることを条件とする
（03条で規制された項目の、部分的な規則緩和も含みます）

12) 2ストロークエンジンにおいて、デトネーション現象からシリンダーを保護する目的の上面加工及び異金属のリング圧入（リングの断面は5㎜×5㎜程度）**およびシリンダーヘッドへの異金属の挿入。**ただし、この加工によりシリンダー・**シリンダーヘッド**の寸法、形状が変更されてはならない。**（※シリンダーヘッドは寸法、形状の確認をする目的で登録制となっている。MFJ登録部品のみ使用できる）**
16) (1) キャブレターのセッティング（取り外し可能なジェット、ニードル、スロットルバルブの範囲）
(2) エアファンネルの取り付け又は寸法の変更（キャブ本体は除く）
(3) リストリクターの取り付け
リストリクターは5㎜の区間に渡って最小断面積を確保するように処置されていなければならない。リストリクターの取り付け位置はキャブレターの混合気の通路内であれば自由とする。
(4) 公認キャブレターの使用（マグネシウム等高価素材のものは公認されない）
17) (1) フュエルタンクの給油口は改造変更出来るが位置は変えられない。
(2) フュエルパイプ、フュエルコックの変更
18) エキゾーストパイプ、マフラーの変更（但し音量規定に適合していること）

22) クラッチディスクの材質とスプリングの諸元
23) ミッションギヤのレシオ（但し公認部品に限られる）
27) (1) 2ストローク車両のエアクリーナーボックスの改造または取りはずしは許可される。
(2) 4ストローク車両のエアクリーナーボックスの改造は、下記条件の基に認められる。いずれの場合もクローズドシステム(ブローバイガスを直接大気へ放出しない)を維持していること。
① 公認キャブ取り付けのための改造（キャブ取り付け部分のみ）
② 口径φ100㎜相当（8,000㎜2誤差10%）を最大とするエア吸入口の拡大
③ ボックス内部の切削、取りはずし
④ 公認エアクリーナーボックスへの交換（改造は認められない）
(3) ブローバイガスをエアクリーナーボックス内に導入する配管のための加工
(4) エア吸入口の位置
① エアファンネルの一番低い箇所(154頁の図A参照)の水平線よりも上に位置すること。
② 吸入口がエアファンネルの一番低い箇所の水平線よりも下にある場合は、吸入口に至る吸入通路の底部の少なくとも一部分が、上記水平線の上に位置することを条件とする。
(5) ブリーザーシステム
ブリーザーシステム(エアクリーナーボックスおよびその他のオイルキャッチタンク)は、ドレーンパイプが詰まった場合に、合計で最低1,000ccの排出液を確保できる容量を持つこと。
43) リヤブレーキパッドの材質と油圧ホースの変更
45) フロントブレーキパッドの材質と油圧ホースの変更
48) タイヤは変更出来るがMFJ公認SP用タイヤに限られる。ウエット時はMFJ公認SP用レーシングレインタイヤの使用が認められる。
50) (1) フレームボディーの不要なステー類のカット（但しフレームボディーの強度、剛性に全く影響を与えないこと）
(2) 車両公認時に装着されたステップは、突起物を取り外し車検長の許可を受ければ、その使用が認められる。
51) (1) フロントサスペンションのスプリングの変更
(2) フロントフォークの剛性アップの為のスタビライザーの取り付け
52) リヤサスペンションのスプリングの変更
53) ハンドルバーの変更
54) (1) カウリングの材質（但しカーボン、ケブラー強化繊維等の高価素材を除く）
(2) ラジエター、オイルクーラー等にエアーを取り入れるためのドリルによる穴開けは許可される。(直径10㎜以下に限る)
(3) 雨天時、寒冷時の追加カバー類は、以下の条件で許可される。
① ライダーのナックル部分をカバーするもので、必要最小限のものである。
② ストリームライニング（カウリング）と別構造で、取り外すことができる。
③ ハンドルバーの位置がどこにあっても、カバーとの間に最低20㎜の間隔がある。
(4) ストリームライニング下部は、エンジン破損時にエンジンに使用されるエンジンオイルおよびエンジンクーラント総量の最低半分を保持できる構造とすることが望ましい。
55) (1) シートカウルの形状･材質(但しカーボン、ケブラー強化繊維等の高価素材を除く)の変更。

(2) マッドガード（フェンダー）は、タイヤのサイズ変更に合わせて位置を変えることが許可される。

58) 公認ロードレースではMFJの定める無鉛ガソリンが使用されなくてはならない。

1997年1月1日以降はMFJの定める無鉛に制限され、AVガス、航空機用燃料等は使用できなくなっている。

仕様の詳細はMFJ技術規則第7章ガソリン・オイル・クーラントの項（145頁）参照。

※大会特別規則により、ガソリンの銘柄および供給方法が指定された場合、これに従わなくてはならない。

59) すべての部品に関して調整・仕上げは認められる。

調整とは各部品の単品またはアッセンブリーコンプリートの状態で個々のまたは合計の公差内で意図的に選定すること（メタル合わせ、タペットクリアランス、点火時期等）をいう。

仕上げとは各部品の基準寸法内で表面粗度を向上させる作業をいう（コンロッドみがき、ピストンみがき、シリンダーヘッドの燃焼室みがき等）2サイクル、4サイクルともにポートについては、バリ取り、カーボン除去に限り認められる。

シリンダーポート、シリンダーヘッドポートにおけるバリとは以下のものを指す。

① 型合わせバリ　② シリンダー加工バリ（図参照）

「ポート内のザラつき」は鋳ハダと解釈し、切削、研磨は認められない。

60) (1) 不要なステー類（シートレールの一部含む）のカット。

(2) ゼッケンプレート、メーター、シート等の取り付けのためのステーの追加。

05 重　量

SPクラスの最低重量は下記のとおりとする（半乾燥重量）。

クラス	最低重量	クラス	最低重量
400	145kg	250F	130kg
250	115kg	125	95kg

注）半乾燥重量とは走行可能な状態から燃料を抜いた値とする。分離給油の場合のオイルは燃料とみなす。

06 公認車両が下記事項に適合していない場合、改造・変更が義務づけられる

16) (1) キャブレターのサイズ（気筒あたりの最大径）

クラス	最大限サイズ	クラス	最大限サイズ
400	直径32㎜相当以下	250F	直径31㎜相当以下
250	直径32㎜相当以下	125	直径32㎜相当以下

注）キャブサイズとはキャブレターの吸入混合気通路の最小断面積部分の面積が上記サイズ相当以下であること。この場合、ジェットニードル、バタフライシャフト、バルブ、スロットバルブ等の形状、断面積は考慮されないものとする。マニホールドタイプのフュエルインジェクションへのキャブサイズ制限値も同様とする。

(2) 規制値を越えるキャブレター装着車両については公認キャブレターに交換するか、リストリクターによって口径を調整しなければならない。

17) (1) フュエルタンクの給油口を改造した場合、ノンリターンバルブ付きのオーバーフロー

パイプとキャッチタンク（250cc以上）の取り付け。

(2) 電動式フュエルポンプを装備している場合は、転倒の際にただちにフューエルポンプが自動的に停止する装置を備えていなければならない。

19) ラジエターのオーバーフローパイプとキャッチタンクの取り付け（250cc）。

27) (1) エンジンブリーザーのキャッチタンク取り付け（容量は4サイクル車は500cc以上、2サイクルは250cc以上）。

(2) 4ストローク車両のキャッチタンクからのブローバイガスはエンジンに再吸入させること（154頁図A参照）。

32) エンジンキルスイッチの取り付け（ハンドルを握って操作可能な位置に取りつけなければならない）。

36) 灯火器のレンズの処置また取り外し。

38) 保安部品（スタンド、バックミラー、補助ステップ、ウインカー類）の取り外し。

56) エンジンのすべてのオイルドレンボルト、及び外部部品のオイル圧力ライン部品へのワイヤーロック。

07 いかなる場合も禁止される事項

29) 改造・変更に当たって特殊な材料の使用（チタニウム合金、カーボン、ケブラー強化繊維等の高価な材料）（カーボンサイレンサーは完全禁止）。

42) リヤホイールスピンドル構造に軽合金の使用。

44) フロントホイールスピンドル構造に軽合金の使用。

48) タイヤへの追加工。

53) ステアリングダンパーのハンドルストッパーとしての使用。

58) ガソリンの仕様及び供給方法は制限される。（ガソリン・オイル・クーラントの項145頁、ロードレース規則52頁細則12 - 11参照）

08 MFJへの公認手続き・条件

1) 車両は一般公道用として定められた台数以上を出荷し発売日が明確になっていること。
＊最低台数は第6章第2条完成車公認（144頁）参照

2) 技術委員会は毎月第4火曜日に開催され、そこで公認された車両はすでに発売されている車両の場合は会議日から2ヶ月後の同日付けで公認発効。発売日が会議日以降の場合は発売日から2ヶ月後の同日付けで公認発効する。

3) 車両は以下の条件に適合している事

(1) キャブレターのサイズ（気筒あたりの最大径）

クラス	最大限サイズ	クラス	最大限サイズ
400	直径32㎜相当以下	250F	直径31㎜相当以下
250	直径32㎜相当以下	125	直径32㎜相当以下

注）キャブサイズとはキャブレターの吸入混合気通路の最小断面積部分の面積が上記サイズ相当以下であること。この場合、ジェットニードル、バタフライシャフト、バルブ、スロットバルブ等の形状、断面積は考慮されないものとする。マニホールドタイプのフュエルインジェクションへのキャブサイズ制限値も同様とする。

(2) 規制値を越えるキャブレター装着車両については公認キャブレターに交換するか、リストリクターによって口径を調整しなければならない。

(3) ホイールリム最大幅

クラス	最大幅フロント	最大幅リヤ
400以下	3.5インチ	4.5インチ

(4) 01条のクラス区分に適合していること（排気量内にあること）。

4） 専用コンプリートマシンはそのベース車両が公認車両であることを条件とする。

09 音量規定

FIM方式で測定し99dB/A以下であること。レース終了後は3 dB/Aの誤差値が認められる。

10 互換性

フレーム打刻型式とエンジン打刻型式のいずれも同一のモデル内にあっては、一切の追加工なしで単品またはアッセンブリーで組みつけ可能な部品は相互に交換が認められる。

注）コンプリートマシンはベースマシンと型式が異なるが互換性が認められる。
（コンプリートマシンのベース機種の打刻型式に基づき判断される。）
'92年度までに公認を受けた車両は互換性の対象から外される。
（'92年度末を区切りとして、この前後にまたがった組合わせは禁止される）

第14章

耐久レースの追加仕様

（国内の各クラス）

01 クラス区分

一般生産車両をベースとしたSPクラスで行われる。スーパーバイクはFIM規則とする。

02 出場車両

1） 一般生産型車両でMFJが公認し、参加しようとする各クラスの仕様に適合していること。

2） ロードレースの基本仕様に合致していること。

3） 耐久用の仕様を満たしていること。

05 重　量

それぞれの定められたスプリントレース用の最低重量に3㎏を加えることとする。

灯火類の装備を義務づけられる耐久レースでは、定められたスプリント用の最低重量に5㎏を加えられる。

11 耐久仕様

1）車両には確実に作動するスタート装置が装備されていなくてはならない。

17）(1) フュエルタンクは給油口を改造することは認められるが、位置は変えられない。

(2) 給油口は最大直径62.5㎜とし、2ヶ所取り付けが許可される。

(3) 最大容量を増やすための燃料タンクの改造は許されるが、サイドからの外観形状は変えられない。また、タンクの材質は車両公認時のものから変更できない。

(4) フュエルフィラーキャップをクイックフィルタイプに変更することが許可される。

SP400　18ℓ以下

SP250　18ℓ以下

SP250F　15ℓ以下

(5) 燃料は、マシンにしっかりと固定されたひとつのタンク内に入れられるものとする。シートタンク、および補助タンクは禁止される。すべての競技において給油のために簡単に脱着できる取り換えタンクを使用することは厳禁される。

31）(1) レースが夜間にかかる場合は公認された発電・充電装置を備えてあること。これらはレース期間中及びレース後の車検において正常に作動するものであること。

(2) 灯火器はヘッドライト、ストップランプは正常に作動すること。またエキストラのライトを追加することは認められる。

42） ホイールの交換を容易にするための改造は、各々クラスの改造範囲でなければならない。

43) ブレーキ廻りのメンテナンス性向上のための改造は、各々のクラスの改造範囲内でなければならない。

49) ジャッキアップのための装置は一部をマシンに取りつけてもよいが、ストリームランニングから外側にあってはならず、レース期間中確実に固定されていること。これらはマシンの重量に含まれるものとする。

第15章

国内ロードレース GP クラスの仕様

（地方選手権）

車両規則は選手権ごとに下表のように適用される。特に国内ライセンスでは地方選手権とエリア選手権の両方に出場できるので、仕様の違いに注意すること。

選手権ごとの車両規則の適用

選手権	ライセンス区分	適用される車両規則	参照頁
地方選手権	国内ライセンス(NAT)	国内ロードレースGPクラスの仕様(第14章)	174頁～177頁
エリア選手権	国内ライセンス(NAT) 国際ライセンス(INT)	FIM規則01章GPフォーミュラの技術仕様	184頁～198頁
全日本選手権	国際ライセンス(INT)	スーパーバイク規則（全日本選手権・エリア選手権へ適用）	

01 クラス区分

クラス	排気量範囲	最大限気筒数	最大限変速段数
50	～50以下	1	6
80	50を越え 80以下	1	6
125	100を越え125以下	1	6
250	175を越え250以下	2	6

02 出場車両

1） 車両は市販レーサーまたは一般生産型車両でMFJが公認したもの。

2） 車両は国内競技規則およびロードレース基本仕様（第８章）に示されているすべての条項に適合していること。

3） 車両のリム幅（最大限リム幅）は下記のとおりとする。

クラス	最大幅
50	3.5インチ
80	3.5インチ
125	3.5インチ
250	5.5インチ

クラス	最大限サイズ
250	直径39㎜相当以下
125	直径39㎜相当以下

注）キャブサイズとはキャブレターの吸入混合気通路の最小断面積部分の面積が上記サイズ相当以下であること。この場合、ジェットニードル、バタフライシャフト、バルブ、スロットバルブ等の形状、断面積は考慮されないものとする。
マニホールドタイプのフュエルインジェクションへのキャブサイズ制限値も同様とする。

(2) 規制値を越えるキャブレター装着車両については公認キャブレターに交換するか、リストリクターによって口径を調整しなければならない。

03 公認車両に対して下記事項は仕様の変更が出来ない

（仕様の変更とはその部分の改造、変更、寸法の変更または取りはずしを言う）

1） エンジンの型式

2） シリンダーの数

3） ピストンストローク

4）(1) クランケース ＊ただし04.4）参照

(2) 市販レーサーのシリンダー、シリンダーヘッド ＊ただし10条参照

10) バルブ数、ポート数、キャブ数

16) キャブレター ＊ただし04.16）及び10条参照

29) 特殊な高価な材質の使用（チタニウム合金）

50)(1) 市販レーサーのフレームボディ

(2) 一般市販車のフレームボディ ＊ただし04.50）参照

51) 市販レーサーのフロントフォーク ＊ただし04.51）及び10条参照

52) 市販レーサーのリヤフォーク及びサスペンションとリンク ＊ただし04.52）及び10条参照

04 公認車両に対して下記事項の変更が出来るが、ロードレース基本仕様（第8章）に適合していることを条件とする

（03条で規制された項目の、部分的な規制緩和も含みます）

4）クランクケースの切削に依る加工

12)(1) シリンダーの切削によるポートタイミングとポートエリアの変更。

(2) シリンダーヘッドの切削による圧縮化、燃焼室の形状変更。

(3) 2ストロークエンジンにおいて、デトネーション現象からシリンダーを保護する目的の上面加工及び異金属のリング圧入（断面は5㎜×5㎜程度）。ただし、この加工によりシリンダーの寸法、形状が変更されてはならない。

16) キャブレターのセッティング（取り外し可能なジェット、ニードル、スロットルバルブの範囲）。

50)(1) フレームボディの補強（ただし一般生産車両に限り認められ、市販レーサーにはできない）

(2) 不要なステー類の取りはずし。ただしフレームボディーの強度、剛性に全く影響を与えないこと（ただし一般生産型車両に限り認められ、市販レーサーにはできない）

51) フロントサスペンションのスプリングの変更。

52) リヤフォークの補強とリヤサスペンションのスプリングの変更。

58) 公認ロードレースにはMFJの定める無鉛ガソリンを使用しなければならない。

1997年1月1日以降はMFJの定める無鉛に制限され、AVガス、航空機用燃料等は使用できなくなっている。

仕様の詳細はMFJ技術規則第7章ガソリン・オイル・クーラントの項（145頁）参照。

※大会特別規則により、ガソリンの供給方法が指定される場合がある。

59) すべての部品に関して調整・仕上げは認められる。

調整とは各部品の単品またはアッセンブリーコンプリートの状態で個々のまたは合計の公差内で意図的に選定すること（メタル合わせ、タペットクリアランス、点火時期等）

仕上げとは各部品の基準粗度を向上させる作業をいう（ポートみがき、コンロッドみが

き、燃焼室みがき等）

60）　フレームボディとリヤフォークを除き、軽量化の為の改造はできるが、最低重量以上であること。

05 重　量

1）GPクラスの最低重量は下記のとおりとする（半乾燥重量）。

クラス	最低重量
50	70kg
80	70kg
125	70kg
250	100kg

注）半乾燥重量とは走行可能な状態から燃料を抜いた値とする。
分離給油の場合のオイルは燃料とみなす。
ダミーウェイトによる調整は認められない。

06 公認車両が下記事項に適合していない場合、改造変更が義務付けられる

16）(1)　キャブレターのサイズ（気筒あたりの最大径）

クラス	最大限サイズ
250	直径39㎜相当以下
125	直径39㎜相当以下

17）(1)　フュエルタンクの給油口を改造した場合、ノンリターンバルブ付きのオーバーフローパイプとキャッチタンク（250cc以上）の取り付け。

(2)　電動式フュルポンプを装備している場合は転倒の際にただちにフュエルポンプが自動的に停止する装置を備えていなければならない。

19）　ラジエーターのオーバーフローパイプとキャッチタンクの取り付け（250cc以上）。

27）(1)　エンジンブリーザーのキャッチタンクの取り付け（4サイクル車は500cc以上、2サイクルのギヤボックスからのブリーザーは250cc以上）。

(2)　4サイクル車両のキャッチタンクからのブローバイガスはエンジンに再吸入させること。

32）　エンジンキルスイッチの取り付け（ハンドルを握って操作可能な位置に）。

36）　灯火器のレンズの処理または取り外し。

38）　保安部品の取りはずし。

56）　すべてのオイルドレンボルト及び外部のオイル圧力ライン部品へのワイヤーロック。

07 いかなる場合も禁止される事項

29）　改造変更にあたって特殊な材料の使用（チタニウム合金）

42）　リヤホイールスピンドル構造に軽合金の使用

44）　フロントホイールスピンドル構造に軽合金の使用

53）　ステアリングダンパーのハンドルストッパーとしての使用

58）　ガソリンの仕様及び供給方法は制限される。（ガソリン・オイル・クーラントの項145頁、ロードレース規則52頁細則12-11参照）

08 MFJへの公認手続き、条件

1）　車両は一般公道用として定められた台数以上を出荷し発売日が明確になっていること、または競技専用車両（市販レーサー）として定められた台数以上を出荷し発売日が明確になっていること。

＊詳細はMFJ技術規則第6章公認制度（144頁）参照

3） 車両は以下の条件に適合していること。

(1) キャブレターのサイズ（気筒あたりの最大径）

クラス	最大限サイズ
250	直径39㎜相当以下
125	直径39㎜相当以下

(2) 最大限リム幅

クラス	最大限
50	3.5インチ
80	3.5インチ
125	3.5インチ
250	5.5インチ

(3) 01条のクラス区分内にあること

09 音量規定

1） FIM方式で測定し105dB/A以下のこと。
2サイクルは13m/s、4サイクルは11m/sのピストンスピードとする。
レース終了後は3 dB/Aの誤差値が認められる。

10 互換性

1） フレームの打刻型式とエンジン打刻型式のいずれも同一のモデル内にあっては一切の追加工なしで単品またはアッセンブリーで組みつけ可能な部品は相互の交換が認められる。
注）コンプリートマシンはベースマシンと型式が異なるが互換性が認められる。
（コンプリートマシンのベース機種の打刻型式に基づき判断される）

2） 下記の部品は同一メーカー同士でかつ公認車両であれば流用することが出来る。
(1) ミッションアッセンブリーまたは単品
(2) フロントフォークアッセンブリーまたは単品
(3) リヤサスペンションユニットおよびリンク関係
(4) リヤフォーク
(5) キャブレター
(6) シリンダー
(7) シリンダーヘッド

3） 公認部品として下記の部品またはアッセンブリーが認められる。
(1) フロントフォークアッセンブリーまたは部品
(2) リヤサスペンションユニット、アッセンブリーまたは部品
(3) リヤフォーク
(4) キャブレター
(5) シリンダー
(6) シリンダーヘッド
注）部品公認申請条件を満たしていること。

第16章

国内モトクロスの仕様

（国際B級、国内A級、国内B級）

01 クラス区分

クラス	排気量	4ストローク	最大限気筒数	最大限変速段数
80	～80以下	—	1	6
125	100を越え125以下	250cc以下	1	6
250	175を越え250以下	550cc以下	1	6

＊ジュニアクラスは80cc以下に限定される。

02 出場車両

1） 車両は市販レーサー、または一般生産型車両でMFJが公認したもの。

2） 車両は国内競技規則及びモトクロス基本仕様（第９章）に示されているすべての条件に適合していること。

03 公認車両に対して下記事項は仕様の変更が出来ない

（仕様の変更とはその部分の改造、変更、寸法の変更または取りはずしを言う）

1） エンジンの型式

2） シリンダーの数

3） ピストンストローク

4） クランクケース、シリンダー、シリンダーヘッドの材質、鋳造及び形状 ＊ただし10条参照

10） 吸排気系のバブル数、ポート数、キャブ数。＊ただし10条参照

12） シリンダー、シリンダーヘッド。

14） カムシャフト、バルブ ＊ただし10条参照

16） キャブレター ＊ただし10条参照

19） 冷却方式の変更

23） ミッションギヤ ＊ただし10条参照

50） フレームボディ

51） フロントフォーク ＊ただし04.51）及び10条参照

52） リヤフォーク、リヤサスペンションユニット及びサスリンケージ ＊ただし04.52）及び10条参照

04 公認車両に対し下記事項の変更が出来るが、モトクロス基本仕様（第９章）には適合していることを条件とする

（03条で規制された項目の、部分的な規則緩和も含みます）

5） クラッチの構造

11) クランクケースカバーの材質、形状

12) 4ストローク車両のシリンダー、シリンダーヘッドは公認部品に限り使用することができる。

13) クランクシャフト（但しストローク変更は不可）、ピストン、リング。

14) 4ストローク車両のバルブスプリングは仕様変更ができる。カムシャフト、バルブは公認部品に限り使用できる。

16) キャブレターのセッティング（取り外し可能なジェット、ニードル、スロットルバルブの範囲）

17) フュエルタンク、フュエルコック、フュエルライン。

18) エキゾースト系（但し音量規定に適合していること）

19) 冷却系（但し方式の変更は不可）

26) 分離給油関係の取りはずし、または変更（但し方式の変更は不可）。

41) ファイナルレシオ

42) リヤホイールの変更

43) リヤブレーキ関係の変更

44) フロントホイールの変更

45) フロントブレーキの変更

48) タイヤの変更

51) フロントサスペンションのスプリングの変更

52) リヤサスペンションのスプリングの変更

58) すべての車両はMFJの定める無鉛ガソリンを使用しなければならない。（AVガス、航空機用燃料等は使用できない）

仕様の詳細はMFJ技術規則第7章ガソリン・オイル・クーラントの項（145頁）参照。

59) すべての部品に関して、調整・仕上げが認められる。

調整とは各部品の単品またはアッセンブリーコンプリートの状態で、個々のまたは合計の公差内で意図的に選定すること。（メタル合わせ、タペットクリアランス、点火時期等）

仕上げとは各部品の基準寸法内で表面粗度を向上させる作業をいう。（ピストンみがき、シリンダーヘッドの燃焼室みがき等）シリンダーポートについては、バリ取り、カーボン除去に限り認められる。

05 重　量

1) 各クラスの最低車両重量は下記のとおりとする。（半乾燥重量）

クラス	最低重量
80	61kg
125　4ストロークの250cc以下	88kg
250　4ストロークの550cc以下	98kg

注）半乾燥重量とは走行可能な状態から燃料を抜いた値とする。
分離給油の場合のオイルは燃料とみなす。
ダミーウェイトによる調整は認められない。

06 公認車両が下記事項に適合していない場合、改造、変更が義務づけられる

32) エンジンキルスイッチの取り付け（ハンドルを握って操作可能な位置に取りつけなければならない）

36) 灯火器のレンズ処置または取りはずし

38) 保安部品（スタンド、バックミラー、補助ステップ、ウィンカー類）の取りはずし

40) もしプライマリーチェーンが露出している場合、安全措置としてチェーンガードを装着していなければならない。チェーンガードは、いかなる場合においてもライダーがトランスミッションパーツに誤って触れることがないようにガードを取りつけられていなければならない。

56) エンジンのすべてのオイルドレンボルト、及び外部のオイル圧力ライン部品へのワイヤーロック

07 いかなる場合も禁止される事項

29) 改造変更にあたって特殊な材料の使用（チタニウム合金）
42) リヤホイールスピンドル構造に軽合金の使用
44) フロントホイールスピンドル構造に軽合金の使用

08 MFJへの公認手続き、条件

1) 車両は市販レーサー又は、一般公道用として定められた台数以上を出荷し、発売日が明確となっていること。

	国産車	輸入車
一般生産型車両	500台	25台
市販レーサー	100台	10台

※詳細は、MFJ技術規則第6章公認制度（144頁）参照。

09 音量規定

1) FIM方式で測定し98dB/A以下のこと。
レース終了後は、2dB/Aの誤差値が認められる。
2) 音量測定の際のエンジン回転数（rpm）は、排気量により異なる。

80ccまで	8,000rpm
80ccを越え125ccまで	7,000rpm
125ccを越え250ccまで	5,000rpm
250ccを越える	3,000rpm

3) 4ストローク車両の音量規制値
・FIM方式で測定し94dB/A以下のこと（測定方法は160頁参照）
・ピストンスピード11m/sec
・（エンジン回転数は154頁図C参照）

10 互換性

1) フレームの打刻型式とエンジン打刻型式のいずれも同一モデル内にあっては、一切の追加工なしで単品、またはアッセンブリーで組みつけ可能な部品については相互に互換が認められる。
2) 下記の部品は同一メーカー同士でかつ公認車両であれば流用することが認められる。
(1) ミッションアッセンブリーまたは単品
(2) フロントフォークアッセンブリーまたは単品
(3) リヤサスペンションユニットまたはリンク関係
(4) リヤフォークアッセンブリーまたは単品
(5) キャブレター
(6) シリンダーコンプリート
(7) シリンダーヘッドコンプリート
3) 公認部品として下記の部品またはアッセンブリーが認められる。
(1) ミッションギヤセットまたは単品
(2) フロントフォークアッセンブリーまたは単品

(3) リヤサスペンションユニットアッセンブリーまたは単品
(4) リヤフォークコンプリート
(5) キャブレター
(6) シリンダーコンプリート
(7) シリンダーヘッドコンプリート
(8) **カムシャフト**
(9) **バルブ**
注）部品公認申請条件を満たしていること。

第15章　補則　ジュニア部門の仕様

02 出場車両

1）　車両は市販レーサー、または一般生産型車両でMFJが公認したもの。
2）　車両は国内競技規則書及びモトクロス基本仕様（第9章）に示されているすべての条件に適合していること。

03 公認車両に対し、下記04以外の改造、変更は認められない

04 公認車両に対し、下記事項の変更ができるが、モトクロス基本仕様（第9章）に適合していることを条件とする

16)　キャブレターのセッティングパーツ（ジェット類）
18)　エキゾーストパイプ、チャンバー、マフラー（音量規制値内のこと）
24)　チェンジペダル。
26)　分離給油関係の取りはずし、または変更。(但し方式の変更は不可)
34)　ポジション変更目的のコントロールワイヤーの変更
40)　ドライブチェーン
41)　ファイナルレシオ
46)　ブレーキペダル
48)　タイヤの変更
50)　ステップ類
51)　フロントフォークスプリング
52)　リヤサスペンションスプリング
53)　ハンドル及びその付属品
59)　すべての部品に関して、調整・仕上げが認められる。
調整とは各部品の単品またはアッセンブリーコンプリートの状態で、個々のまたは合計の公差内で意図的に選定すること。(メタル合わせ、タペットクリアランス、点火時期等)
仕上げとは各部品の基準寸法内で表面粗度を向上させる作業をいう。(ポートみがき、コンロッドみがき、ピストンみがき、燃焼室みがき等)
その他、フロントフォークオイル、ミッションオイル等オイル類は変更できる。

※PC部門は、大会特別規則による。

第17章

国内トライアルの仕様

（国内A級、国内B級、ジュニア）

01 クラス区分

排気量によるクラス区分は特に設定しない。

02 出場車両

1） 車両は市販レーサー、または一般生産型車両でMFJが公認したもの。

2） 車両は国内競技規則及びトライアル基本仕様（第10章）に示されているすべての条件に適合していること。

03 公認車両に対して下記事項は仕様の変更が出来ない

（仕様の変更とはその部品の改造、変更、寸法の変更または取りはずしを言う）

1） エンジンの型式

2） シリンダーの数

3） ピストンストローク

4） クランクケース、シリンダー、シリンダーヘッドの材質、鋳造及び形状

10） 吸排気系のバルブ数、ポート数、キャブ数

42） リヤホイールスピンドルの材質の変更

44） フロントホイールスピンドルの材質の変更

04 公認車両に対して下記事項の変更が出来るが、トライアル基本仕様（第10章）に適合していることを条件とする

18） エキゾースト系（ただし音量規定に適合していること。）

48） タイヤは変更できるが、MFJ公認トライアルタイヤに限られる。タイヤにはチェーン、スパイクを装備する等、改造を加えてはならない。

50） フレームボディの改造

58） すべての車両はMFJの定める無鉛ガソリンを使用しなければならない。（AVガス、航空機用燃料等は使用できない）

仕様の詳細はMFJ技術規則第７章ガソリン・オイル・クーラントの項（145頁）参照。

59） すべての部品に関して、調整・仕上げが認められる。

調整とは各部品の単品またはアッセンブリーコンプリートの状態で、個々のまたは合計の公差内で意図的に選定すること。（メタル合わせ、タペットクリアランス、点火時期等）

仕上げとは、各部品の基準付法内で表面粗度を向上させる作業をいう。（ポートみがき、

コンロッドみがき、ピストンみがき、シリンダーヘッドの燃焼室みがき等）

06 公認車両が下記事項に適合していない場合、改造、変更が義務づけられる

23） カウンターシャフトスプロケットには、指を挟まないようなカバーをつけること。

32） エンジンキルスイッチの取り付け。

38） 保安部品（スタンド、バックミラー、補助ステップ、ウィンカー類）の取りはずし。

56） エンジンのすべてのオイルドレンボルト、及び外部のオイル圧力ライン部品へは、ゆるみ、脱落等によるオイル漏れをおこさないような処置を施すこと。

07 いかなる場合も禁止される事項

29） 改造変更にあたって特殊な材料の使用。（チタニウム合金）

08 MFJへの公認手続き、条件

1） 車両は市販レーサー、又は一般公道用として定められた台数以上を出荷し発売日が明確となっていること。

	国産者	輸入車
一般生産型車両	500台	25台
市販レーサー	100台	5台

※詳細はMFJ技術規則第6章公認制度（144頁）参照。

09 音量規定

1） FIM方式で測定し、94dB/A以下のこと。エンジンスピードは5000rpmとする。競技終了後は1 dB/Aの誤差値が認められる。

10 互換性

1） フレームの打刻型式とエンジン打刻型式のいずれも同一モデル内にあっては、一切の追加工なしで単品、またはアッセンブリーで組みつけ可能な部品については相互に互換が認められる。

第11章

全日本・エリア選手権 ロードレース 技術仕様

キルスイッチ

以下のクラスは全日本・エリア選手権ロードレース技術仕様により開催される。

全日本・エリア選手権：GPフォーミュラクラス

全日本・エリア選手権：スーパーバイククラス

地方選手権は別に定める国内の仕様にて開催される。

GPフォーミュラの技術仕様は以下の種目別仕様、スーパーバイクは種目別仕様とMFJ技術規則第8章ロードレース基本仕様に合致していることとする。種目別仕様とロードレース基本仕様の間で解釈の違いが生じた場合は種目別仕様を優先する。

規則の追加、改訂はMFJライディングにて告示される。

＊全日本・エリア選手権ロードレース技術仕様は、'97年版FIMグランプリ技術規則、'97年版FIMロードレース技術規則をもとに、'98年からの車両規則のおもな規則変更点をもり込んでMFJ技術仕様として編集しています。原文との比較がしやすいように、文頭にはもととなった規則の項目番号が表示してあります。

GPフォーミュラの技術仕様（全日本選手権、エリア選手権へ適用）

2.1 序　論

2.1.1　モーターサイクルとは、一本の軌跡を残す二輪車両で、内燃エンジンによって推進され、ひとりのライダーによってコントロールされるものである。

2.1.2　下記のMFJロードレースGPフォーミュラ規則に適合することを条件に、コンストラクターはデザイン、材質、およびモーターサイクルの全体的構造において自由に革新性を追求することができる。

2.1.3　テレメトリー

走行中のモーターサイクルから、またはモーターサイクルへの情報交換はおこなってはならない。オフィシャルのタイム計測装置は義務付けられる。

2.2 クラス

2.2.1　エンジン容積に基づいて下記のクラスに分類される

125cc：80ccを越え125ccまで　最大単気筒

250cc：175ccを越え250ccまで　最大2気筒

500cc：350ccを越え500ccまで　最大4気筒

2.3 エンジン2.3.1

2.3.1 エンジンは2ストロークまたは4ストロークの原理で作動するもののみとする。

2.3.2 エンジンは自然吸気でなくてはならない。

2.3.3 エンジンの排気量はシリンダーの行程容積によって定義される。すなわち、シリンダー・ボア面積×ストロークである。

2.3.4 排気量に許容誤差は認められない。

2.3.5 エンジン排気量は外気温のもとで測定されなくてはならない。

2.4 ギ ヤ

2.4.1 ギヤの最大段数は6速とする。

2.5 車 重

2.5.1 下記が許可される最低車重である：

GP 3 125cc ……70kg

GP 2 250cc 単気筒……100kg ＊1

2気筒……100kg ＊2

GP 1 500cc 単気筒……101kg

2気筒……101kg

3気筒……116kg

4気筒……131kg

＊世界選手権においては＊1＝85kg、＊2＝95kgが適用される。

2.5.2 最低車重を達成するためにバラストの追加が許可される。

2.5.3 車重は最初の車検でチェックされる。しかし、最終的な車重検査は、プラクティス・セッション終了後、あるいはレース終了後に実施される。

モーターサイクルの車重は、モーターサイクルが出場する状態、すなわちオイル、水、及び他の液体を含み（燃料は除く）、他のすべての追加の装備（例えばオフィシャルのタイム計測装置、カメラ装備等）を装着した状態で計測される。

2.5.4 燃料の残量といった可変的な要素を除くために、モーターサイクルは燃料タンクなしの状態で車両重量を計測され、その際全クラスについて2kgの許容誤差が認められる。

2.6 燃料タンク

2.6.1 燃料キャップはリーク・プルーフ（漏れ防止が施されているもの）で、ポジティブ・クロージングデバイス（確実にしまる装置）を装備していなくてはならない。

2.6.2 燃料タンク・ブリーザー・パイプにはノン・リターン・バルブが装着されていなくてはならない。

ブリーザーパイプは、最低容量250ccの適切な容器に排出しなくてはならない。

2.6.3 燃料タンクには火炎防止材質（防爆材）又はフュエルブラダー（燃料セル袋）が充填されていなくてはならない。

2.7 安全および構造基準

注意：図1，2，3（188頁）も参照のこと

2.7.1 **スロットルツイスト・グリップ**

2.7.1.1　スロットルツイスト・グリップは、開放時に自動的に閉じるものでなくてはならない。

2.7.2　**ステアリング**

2.7.2.1　ハンドルバーの幅は最低450㎜とし、先端はソリッド（中空でない）またはゴムで覆われたものとする。
ハンドルバーの幅とは、ハンドルバー・グリップまたはスロットル・ツイストグリップの外側と外側の間隔で測定されたものとする。

2.7.2.2　中心線から両側に、最低15°のステアリング回転角度がなくてはならない。

2.7.2.3　ハンドル・ロックした状態でハンドルバーとタンクの間に最低30㎜の間隔があるように、ストッパーを設置しなくてはならない。

2.7.3　**ブレーキ**

2.7.3.1　モーターサイクルには各ホイールに最低1個の、独立して操作されるブレーキが装備されなくてはならない。

2.7.4　**エキゾースト**

2.7.4.1　エキゾーストの排出口は、リヤ・タイヤの後端から垂直に引かれた線の後方に突出してはならない。

2.7.4.2　パイプ最後端の30㎜は水平で、モーターサイクルの中心線と平行でなくてはならない。許容誤差は、＋／－10°とする。

2.7.5　**フットレスト**

2.7.5.1　フットレストの先端は丸型で、中空でなく球状で、その半径は最低8㎜でなくてはならない。

2.7.6　**ハンドルバー・レバー**

2.7.6.1　レバーの長さは、ピボットポイントから測定して200㎜以上あってはならない。

2.7.6.2　レバーは原則として、端部がボール状でなくてはならない。

2.7.7　**ストリームライニング（カウリング・ウインドスクリーンを含む全てのボディワーク）**

2.7.7.1　ウインドスクリーンエッジ、またはその他のすべてのストリームライニングの露出した部分のエッジは丸められていなければならない。

2.7.7.2　ストリームライニングの最大幅は600㎜を超えてはならない。
シートまたはその後方にあるすべての物の幅は、450㎜を越えてはならない。（エキゾースト・パイプは例外とする。）

2.7.7.3　ストリームライニングは、フロント・ホイール・スピンドルから前へ100㎜のところ（マッドガードが装着される場合は例外とする）に垂直に引かれた線とリヤ・タイヤのエッジから垂直に引かれた線を超えてはならない。

2.7.7.4　横から見た場合、下記を判別することができなくてはならない：
a）最低180°にわたるリヤ・ホイール・リム
b）マッドガードまたはフォークに覆われた部分を除くフロント・ホイール・リム全体
c）ノーマル・ポジションに座ったライダー。上腕を除く。
注意：上記の規則の裏をかくために、透明の材質を使用することは禁止される。

2.7.7.5　モーターサイクルのいかなる部分も、リヤ・タイヤの後端から垂直に引かれた線より後方に突出してはならない。

2.7.7.6　シートのベースとシートの一番高い地点と差は最大150㎜とする。

2.7.7.7　マッドガードは義務づけられない。装着された場合、フロント・マッドガードは下記まで伸びてはならない：
a）フロント・ホイール・スピンドルを通る水平の線から上と前に45°に引かれた線

の前
b）フロントホイール・スピンドルからリヤまで水平に引かれた線の下

2.7.7.8 ウイングは、それがフェアリングあるいはシートの一部分で、フェアリングとシートの幅、ハンドルバーの高さを超えない場合には装置を許可される。
尖ったエッジは丸くされなくてはならない。動くエアロダイナミック・デバイスは禁止される。

2.7.8 **クリアランス**

2.7.8.1 荷重のかからない状態のモーターサイクルは、タイヤ以外が路面に接地しない状態で、垂直線から50°の角度で傾斜が可能でなくてはならない。

2.7.8.2 モーターサイクル・サスペンションがどのようなポジションにあり、リヤ・ホイール・アジャストメントがどのようなポジションにあっても、タイヤの円周に沿って最低15㎜のクリアランスがなくてはならない。

2.7.9 **ブリーザー・パイプ**

2.7.9.1 エンジンまたはギヤボックスからのブリーザー・パイプは、最低容量250ccの適切な容器に排出しなくてはならない。個々のブリーザー・パイプごとに別個の容器が装備されなくてはならない。

2.7.10 **チタニウム及び軽合金**
フレーム、フロント・フォーク、ハンドル・バー、スイングアーム・スピンドルホイール・スピンドルの構造にチタニウムを使用することは禁止される。
ホイール・スピンドルに関しては、軽合金の使用も禁止される。

2.8 タイヤとリム

2.8.1 レーシング・タイヤが使用されなくてはならない。

2.8.2 最大リム幅は下記の通りとする

	フロント	リヤ
125cc	2.5インチ	3.5インチ
250cc	4.0インチ	5.5インチ
500cc	4.0インチ	6.25インチ

2.9 ナンバーとバックグラウンド(下地)

① 全日本選手権に適用されている規則

2.9.1 モーターサイクルのフロントと両サイドにレーシング・ナンバーが装着され、観客とオフィシャルが明白に識別できるようにしなければならない。

2.9.2 ナンバーは、図4（188頁）に明記されている寸法に適合しなくてはならない。

2.9.3 ナンバーは黒か白とし、バックグラウンドの色の上に書かれた際に判別しやすいようにする。

2.9.4 バックグラウンドは最低限，下記の面積が単色でなくてはならない。バックグラウンドに蛍光色は禁止される。
幅 275mm　　高さ 200mm

2.9.5 ナンバープレートのバックグラウンドは垂直から30°以上傾斜してはならない。

2.9.6 ナンバープレートのバックグラウンドの湾曲による突出は、最低幅と最低高において60㎜以上超えてはならない。

2.9.7 ナンバーの周囲には最低25㎜のクリアー・エリア（余白）が設けられなくてはならな

い。

2.9.8　ナンバーの明瞭度に関して論議が持ち上がった場合、車検長の決定が最終的なものとする。

② エリア選手権に適用される規則（**国際ライセンス所持者は、上項①が適用される**）
エリア選手権においてはロードレース基本仕様—01.55ナンバープレート（151頁）の規則が適用される。（ナンバープレートの地色、及び数字の色等が規制されている）

2.10 燃料、オイル及びクーラント

国内におけるロードレース競技会（世界選手権を除く）において、燃料は下記の仕様に制限されている。

① 公認ロードレースには、MFJの定める無鉛ガソリンを使用しなければならない。
ガソリンの仕様の詳細はMFJ技術規則第７章ガソリン・オイル・クーラントの項（145頁）参照

② 大会特別規則（全日本ロードレース選手権特別規則等）によってガソリンの供給方法等を指定した場合、これに従わなくてはならない。

注意：'97年１月１日より、ロードレース２ストロークエンジンに対しても、MFJの定める無鉛ガソリンに制限されている。

図1

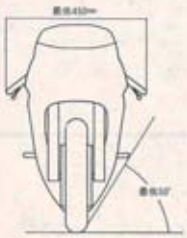


図2

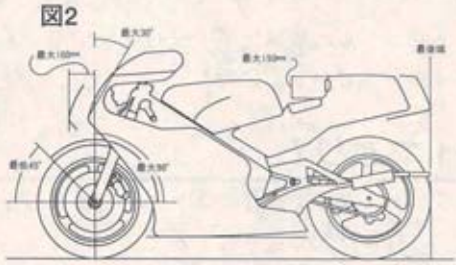
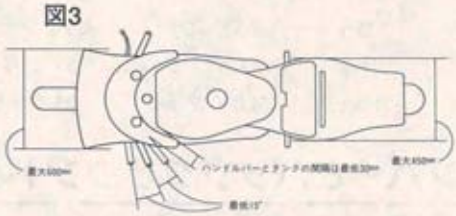


図4

図3



全日本選手権、エリア選手権の仕様

下記の項目は、国内の事情を考慮し、国内の仕様にて開催する。よってFIM仕様と異なる場合、下記の解釈が優先される（日本で開催される世界選手権を除く）。

2.11 音量規制

FIM方式で測定し105dB/Aとする。詳細はロードレース基本仕様（152頁・音量規制）参照。

2.12 キャブレター　キャブレターのサイズ（気筒あたりの最大径）

キャブレターのサイズ（気筒あたりの最大径）

クラス	最大限サイズ
250	直径39㎜相当以下
125	直径39㎜相当以下

スーパーバイク規則（全日本選手権・エリア選手権へ適用）

この規則は、'98年11月25日現在のFIMスーパーバイク規則原案を翻訳したものです。正式規則が発行され、全日本選手権にも適用する追加の変更があった場合は、随時ライディング誌上にて告知されます。

01.59 分野別仕様―スーパーバイク

スーパーバイク・モーターサイクルにはFIMの公認が必要とされる。モーターサイクルは、すべての要素に関してロードレース技術規則に明記されている「ロードレースの必要条件」を満たしていなくてはならない。

スーパーバイク・モーターサイクルの前後および側面からの外観形状（別記された場合を除いて）は、原則として車両公認時（メーカー出荷時）のものと合致していなくてはならない。

59.01 スーパーバイク・クラス

1997年度以降公認された車両は、排気量は公認されたものから変更できない。クラスの最大排気量に到達するためにボア・サイズを拡大することは許可されない。1996年以前に公認されたマシンに関しては、クラスの最大排気量に到達するためボア・サイズを拡大することが許可される。

スーパーバイク：601cc～750cc　4ストローク　最大4気筒
601cc～900cc　4ストローク　最大3気筒
751cc～1000cc　4ストローク　最大2気筒

59.01.1 最低重量

スーパーバイク：最低重量は気筒数に関わらず162kg

フロントフォーク、ハンドルバー、スイングアーム・スピンドルおよびホイール・スピンドルの構造にチタニウムを使用することは禁止される。ホイール・スピンドルに関して、軽合金の使用も禁止される。

燃料タンクなしの状態で、車両重量を検査する場合、最低重量より4kgの差し引きが認められる。

レース終了後の最終車検では、水冷車両の場合、車重検査の前にラジエターに水を加えることができる。

レース終了後の車重検査では、車両の車重に1％の許容範囲が許可される。

ラジエターに水を加えることを除いて、レース後のモーターサイクルはレースを終えたままの状態で規定車重に適合していなくてはならない。すべての車両車重は、燃料なしの状態とする。

59.01.2 ナンバープレートの色

スーパーバイクのナンバープレートの色は、下地が白で数字が黒とする。

PAL色番号：黒＝9005、白＝9010（159頁事項01.55を参照）。

ナンバーの明瞭度に関して議論が持ち上がった場合、車検長（またはテクニカルスチュワード）の決定を最終的なものとする。

59.01.3 キャブレーションインストルメント（キャブレター、インジェクター等）

キャブレター、またはインジェクションシステムのインテークサイズに制限はしない。

オートバイ製造メーカーは公認された車両のキャブレーションまたはエアーインテークコントロールとは別に、レース専用として一機種に一個、下記基準に従い特別公認を受けることが出来る。

1．年間50,000台以上のモーターサイクルを製造するメーカーの場合、世界中に存在するディストリビュータを通じ最低100セットのキャブレターまたはインジェクター・インストルメントを供給しなければならない。
2．年間50,000台以下のモーターサイクルの製造メーカーの場合、最低50セットを供給しなければならない。
3．各メーカーは最低数量の製造証明を提出しなければならない。
4．キャブレターまたはインジェクターボディーの材質は公認車両のものと同じでなければならない。
5．キャブレター、またはインジェクションの部品はスペアーパーツとして入手できるものとし、製造メーカーのレーシング・パーツリストに記載されていなくてはならない。
6．販売価格は、各メーカーの生産国での希望小売り価格の２倍以上になってはならない。（価格は公認申請用紙に明記される）
7．これらのキャブレターに関しては、ジェット交換以外の変更は禁止される。
8．これらの部品は公認発効後最低３年間は入手できなければならない。
キャブレターの公認は、モーターサイクルの公認と同じ期間に関して有効とする。
9．全てのモーターサイクル製造メーカーは、これらの部品のサンプルセットを１セット比較のためFIMに提出する。

59.02 燃料

すべてのスーパーバイクエンジンは、最大鉛含有量0.013g/ℓ（無鉛）と最大MON値89の通常の無鉛ガソリンで作動するものとする（完全な仕様に関しては145頁第７章を参照のこと）。

59.03 マシンの仕様

以下に明記されないすべてのアイテムは、公認車両として製造メーカーが製作した状態のままでなくてはならない。

59.03.1 メインフレームボディ

メインフレームは公認車両として製造メーカーが製作した状態のままでなくてはならない（147頁事項01.26を参照）。
メインフレームには、ガゼット（補強板）またはチューブを追加するという変更のみ許可される。ガゼット（補強板）やチューブを取り除くことはできない。
すべてのモーターサイクルには、メインフレームボディに車両識別番号が記されなくてはならない（シャシー・ナンバー）。
リヤのサブフレームは、交換または改修してもよいが、材質は公認を受けたものと同じでなくてはならない。ペイントデザインに制限はない。

59.03.2 フロントフォーク

フロントフォークは全体的に、または部分的に交換することができるが、公認車両に装着されたものと同じタイプとする（リーディング、テレスコピック、倒立等）。
上と下のフォーククランプ（三又、フォーク・ブリッジ）は交換してもよいし、モディファイしてもよい。
ステアリングダンパーを追加する、あるいはアフターマーケット：ダンパーと交換してもよい。
テアリングダンパーは、ステアリングロック制御デバイス（ステアリングストッパー）

としての役割を果たしてはならない。

59.03.3 リヤフォーク（スイングアーム）

リヤフォークは車両公認時に装着されているものから変更されてもよいし、交換されてもよい。カーボンファイバー、またはカーボンコンポジット材質は、車両公認時に装着されている場合を除いて許可されない。

59.03.4 リヤサスペンションユニット

リヤサスペンションユニットは変更されてもよいし、位置を移動してもよいが、同じシステムが採用されなくてはならない（すなわちデュアル、またはモノ）。

59.03.5 ホイール

ホイールとその関連部品は、車両公認時に装着されているものから改造されてもよいし、別の物に交換されてもよい。カーボンファイバー、またはカーボンコンポジットホイールは、製造メーカーが公認車両にこのタイプのホイールを装着している場合を除いて許可されない。

ベアリング、シール、およびアクスルは車両公認時に装着されているものから改造、変更されてもよいし、別のものに交換されてもよい。

直径16インチ未満のホイールリムは許可されない。

フロントホイールリムの最大幅：4.00インチ

リヤホイールリムの最大幅　：6.25インチ

59.03.6 ブレーキ

フロントマスターシリンダーは、公認車両に装着されているものから改造、変更されてもよいし、別のものに交換されてもよい。

リヤマスターシリンダーは、公認車両に装着されているものから改造、変更されてもよいし、別のものに交換されてもよい。

フロントキャリパーは、公認車両に装着されているものから改造、変更されてもよいし、別のものに交換されてもよい。

リヤキャリパーは、公認車両に装着されているものから改造、変更されてもよいし、別のものに交換されてもよい。

ブレーキパッド、またはブレーキシューは、公認車両に装着されているものから改造、変更されてもよいし、別のものに交換されてもよい。

フロントまたはリヤ油圧ブレーキラインは変更されてもよい。ただしフロントブレーキラインの、左右のキャリパーへの分岐点は、ロアフォークブリッジよりも上に位置しなくてはならない。

ブレーキディスクは、モーターサイクルの車両公認時に装備されているものから変更または交換することができる。鉄、スチール、ステンレスのみがブレーキディスクに採用できる。ブレーキキャリパーへの特殊合金素材（例：アルミニウムベリリウム等）の使用は認められない。

59.03.7 タイヤ

タイヤは、公認車両に装備されているものから別のものに交換されてもよい。

タイヤウォーマーの使用が許可される。

59.03.8 フットレスト／フットコントロール

フットレスト／フットコントロールの位置は移動してもよい。

フットレスト／フットコントロールはリヤ・アクスルの前に設けなくてはならない。

フットレストはリジットにマウントされたものか、あるいは通常の位置に戻すデバイス（装置）を持ったホールディングタイプ（折りたたみ式）のものでなくてはならな

い。
フットレストの先端は、最低半径8㎜の固いボール状（中空でない玉）でなくてはならない。
ホールディングタイプ（折りたたみ式）ではないスチール製フットレストの先端には、プラスチック、テフロン、あるいはそれと同等の材質でできた先端（プラグ）が固定されなくてはならない（最低半径8㎜）。

59.03.9 ハンドルバーとハンドコントロール
ハンドルバー、ハンドコントロール、およびケーブルは公認車両に装着されているものから改造、変更されてもよいし、別のものに交換されてもよい。
ハンドルバーには、エンジン・ストップ・スイッチ（キルスイッチ）を設けなくてはならない。

59.03.10 フェアリング（カウリング、ウインドスクリーン含む全てのボディワーク）

a) フェアリング、マッドガードおよびストリームライニングは、原則としてメーカー出荷時の形状で車両公認時の形状に合致しなくてはならない。
b) ウインドスクリーンは別のものに交換されてもよく形状も変更されてよい。
c) **フェアリングとエアボックスの間を結ぶエアダクトは車両公認時に装着されているものから改造されても交換されてもよい。**
d) フェアリング下部は、エンジン破損または故障時に、そのエンジンに使用されるエンジン・オイルおよびエンジン・クーラント総量の最低半分（最低5ℓ）を保持できる構造でなくてはならない。**フェアリング下部（オイル受け）の端部は、フェアリングの最下端から最低50㎜以上、上になければならない。（「最低50㎜」に関しては'99年から全日本／エリアも義務付けとなった。）**
e) フェアリング下部には、直径25㎜の孔を最高二つまで設けてもよい。この孔はドライ・コンディションの時には閉じられなくてはならず、競技監督がウェット・レース・コンディションだと宣言した時にのみ開かれなくてはならない。
f) ホイール交換用のエレベーター（スタンド）を採用するため、およびフレームやエンジンにプラスチック製プロテクティブ・コーンを装着するために、フェアリングへの最低限の変更が許可される。
g) オイルクーラーに導入するエアーの量を増大するために、フェアリングにドリルで孔を開けることが許可される。直径10㎜以上の大きな孔はメタルガーゼ、または目の細かいメッシュで覆わなくてはならない。メッシュは周囲の材質にマッチするようにペイントされなくてはならない。
h) フロントマッドガードは、原則としてメーカー出荷時の形状で、車両公認時の形状に合致していなくてはならない。
i) 冷却効率を上げるために、フロントマッドガードにドリルで孔を開けることが許可される。直径10㎜以上の大きな孔はメタルガーゼ、または目の細かいメッシュで覆わなくてはならない。メッシュは周囲の材質にマッチするようにペイントされなくてはならない。
j) リヤマッドガードは追加してもよいし、取り外してもよい。
k) フロントマッドガード、リヤマッドガード、およびフェアリングの材質は、公認車両に装着されているものから改造、変更されてもよいし、別のものに交換されてもよい。露出しているエッジ部分はすべて丸められなくてはならない
163頁事項01.45—ストリームライニング（カウリング）を参照。

59.03.11 燃料タンク

側面からオリジナルの外観形状が車両公認時のものに合致していれば、公認時のタンクを改造して最大容量を達成することが許可される。
タンクの各側の間にクロスオーバーラインを設けることが許可される（最大内径10㎜）。
燃料タンクには防爆材（すなわちexplosafeなど）が完全に充填されなくてはならない。
タンクブリーザーパイプのついた燃料タンクには、適切な材質でできており、最低容量250ccのキャッチタンクに放出するノンリターン（戻らない）バルブが装備されなくてはならない。
燃料タンクフィラーキャップは、公認車両に装着されているものから改造、変更されてもよいし、別のものに交換されてもよい。
燃料キャップは、閉じられている状態では漏れない構造になっていなくてはならない。さらに、どのような場合にも事故で開かないように保たれていなくてはならない。
プラクティスで使用されたものと同じサイズの燃料タンクがイベントの期間中ずっと使用されなくてはならない。
燃料タンクの構造の材質は、公認車両に使用されているものから改造、変更されてもよいし、別のものに交換されてもよい。

59.03.12 シート及びシートカウル
シートは、認証モーターサイクルに装備されているものから改造、変更されてもよいし、別のものに交換されてもよい。
シート周辺のリヤボディワークの上部分をシングルシートに改造することができる。この場合シートカウルは、リヤゼッケンプレートと一体の構成になっていなくてはならない。前後および両側面からの外観形状は、原則として車両公認時のものと合致しなくてはならない。
シートカウル、またはリヤカウルは、正常な数字が表示できなくてはならない。
冷却効率を上げるためにシートカウル、またはリヤカウルにドリルで孔を開けることが許可される。10㎜以上の大きな孔はメタルガーゼ、または目の細かいメッシュで覆わなくてはならない。メッシュは周囲の材質にマッチするようにペイントされなくてはならない。
露出しているエッジ部分はすべて丸められなくてはならない。
シートの構造の材質は、公認車両に使用されているものから改造、変更されてもよいし、別のものに交換されてもよい。
163頁事項01.45—ストリームライニング（カウリング）を参照。

59.03.13 ラジエター／オイルクーラー
オリジナルのラジエター、またはオイルクーラーは、公認車両に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい。
ラジエター、またはオイルクーラーを追加してもよい。
オイルクーラーはリヤマッドガードの上、またはそれ以上高い位置に設けられてはならない。
マシンの前、後ろ、および側面からの外観形状はラジエターまたはオイルクーラーを追加したあとでも、原則として車両公認時のものと合致していなくてはならない。

59.03.14 エアーボックス
エアーボックスは、車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい（レース用スペシャルデザインが許可される）。
エアーフィルターエレメントは取り外してもよい。

エアーボックスはインダクションベルマウス（エアファンネル）とすべてのエンジンブリーザー・チューブの周囲を完全に密閉すること。エアーはベルマウス・リップ（エアファンネルの縁）の一番低い位置より上からのみ吸気できるようにされなくてはならない（154頁図A参照）。キャブレーションインストルメントは、完全にエアーボックスの中に収めることもできる。

エアーボックスドレーンは密閉されなくてはならない。

すべてのスーパーバイクモーターサイクルはクローズド・ブリーザー・システムが義務づけられる。オイルブリーザー・ラインはエアーボックスに連結され、ここに放出されなくてはならない。

ブリーザー・システム（エアーボックス＋ブリーザーオイルコレクターボックス）は、ドレーンパイプが詰まった時に、排出液を最低1000cc保持できるものとする。

59.03.15 キャブレター

キャブレーションインストルメントは公認車両に装備されたものとは異なる特別公認レーシングタイプに交換することができる。189頁事項59.01.3を参照

キャブレーションインストルメントの数は公認時のままとする。

キャブレーションインストルメントの研磨および軽量化は許可されない。

バタフライの交換、またはモディファイは禁止される。

キャブレタージェット、ニードル、およびスロットルバルブは別のものに交換されてもよい。

ベルマウス（エアファンネル）は、車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい。

59.03.16 フュエルインジェクションシステム

スロットルボディは、車両公認時に装備されたものとは異なる特別公認レーシング・タイプに交換することができる。189頁事項59.01.3を参照

キャブレーションインストルメントの数は公認時のままでなくてはならない。

キャブレーションインストルメントの研磨および軽量化は許可されない。

フュエルインジェクターは車両公認時に装着されたものとは異なる特別公認レーシングタイプに交換することができる。

バタフライの交換、またはモディファイは禁止される。

フュエルインジェクション・マネージメント・コンピューター・チップ（EPROM）を交換することはできる。

フュエルポンプとプレッシャー・レギュレーターはモディファイされてもよいし、改造、変更されてもよい。

59.03.17 燃料供給

フュエルラインは別なものに交換することができる。

フュエルベント・ラインは別なものに交換することができる。

フュエルフィルターを追加することができる。

フュエルコックは、車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい。

59.03.18 エンジン

公認時のエンジンデザインコンセプトを変更することはできない。

クランクケース、シリンダー、シリンダーヘッド、およびギヤボックスハウジングの材質とキャスティングは公認時のものを用いる。クランクケース、シリンダー、シリンダーヘッドおよびギヤボックスハウジングの材質は溶接によってのみ追加され、機

械加工でのみ削減できる。
カムドライブの方法は公認車両と同じでなくてはならないが、通常の販売ルートを通じてコンプリートキットが入手できる場合は例外とする。相当数のコンプリートキットが販売され、レーシングスペアパーツブックに記載されていなくてはならない。
バルブリテンションの方法は公認車両と同じでなくてはならない。(公認車両に装着されている場合を除いて、エアーバルブ・リテンション装置は許可されない)。
エンジン内部の動くパーツ、ギヤボックスパーツ、およびクラッチパーツは、車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい。材質の変更も許可される(改造、変更が許可されていない特定の部分に含まれる部品を除く)。
キャブレーションインストルメントを除くエンジンパーツの研磨と軽量化は許可される(改造、変更が許可されていない特定の部分に含まれる部品を除く)。

59.03.19 シリンダーヘッド
シリンダーヘッドは公認時のままでなくてはならない。改造は許可される。
シリンダーヘッドは公認時の材質とキャスティングが使用されなくてはならない。シリンダーヘッドの素材は溶接による追加および、機械加工による切削のみ許可される。
バルブ、ポート(インテークおよびエキゾースト)の数を含む吸排気システムは、公認時のままでなくてはならない。
通常、個人的な調整と考えられるガスフロー、シリンダーヘッド(燃焼室を含む)の修理のような、シリンダーヘッドのポーティング、研磨は許可される。
圧縮比は自由とする
燃焼室はモディファイしてもよい
バルブは、車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい。
バルブシートは、車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい。
バルブガイドは、車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい。
バルブスプリングは、車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい。
バルブリテーナーは、車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい。

59.03.20 カムシャフト
カムシャフトは、車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい。

59.03.21 カムスプロケット、またはカムギア
カムスプロケット、またはカムギアは、車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい。

59.03.22 クランクシャフト
クランクシャフトは、車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい。
クランクシャフトのストロークは公認時のままでなくてはならない。
研磨または軽量化が許可される。
クランクシャフト、ロッド、およびピストンのバランス取りが許可される。

59.03.23 オイルポンプおよびオイルライン

オイルポンプ及びオイルラインは、車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい。

正圧のかかるオイル・ラインは、もし交換されるならば金属強化構造のもの又は、ネジ式のコネクターを持つものを使用しなくてはならない。

59.03.24 コンロッド

コンロッド（コネクティングロッド）は、車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい。カーボンコンポジット、またはカーボンファイバー材質は許可されない。

研磨または軽量化が許可される。

コンロッドのバランス取りが許可される。

59.03.25 ピストン

ピストンは、車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい。

ピストンのバランス取りが許可される。

研磨または軽量化が許可される。

59.03.26 ピストンリング

ピストンリングは、車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい。

59.03.27 ピストンピンとクリップ

ピストンピンとクリップは、車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい。

59.03.28 シリンダー

シリンダーは公認時の材質とキャスティングが使用されなくてはならない。シリンダーの素材は溶接による追加、機械加工による切削のみ許可される。シリンダーはスリービングまたはライニングによって修理できるが、材質タイプ、表面加工、およびボアは公認時のままでなくてはならない。

1997年度の公認から、排気量は公認時のサイズのままでなくてはならない。クラスの最大排気量に到達するためにボアサイズを拡大することは許可されない。1997年以前に認証されたマシンに関しては、クラスの最大排気量に到達するためボア・サイズを拡大することが許可される。

59.03.29 クランクケース／ギヤボックスハウジング

クランクケースとギヤボックスハウジングには公認時の材質とキャスティングが使用されなくてはならない。クランクケースとギヤボックス・ハウジングの素材は溶接による追加、機械加工による切削のみ許可される。

59.03.30 トランスミッション／ギヤボックス

すべてのトランスミッション／ギヤボックスレシオは自由とする。

プライマリーギヤレシオは自由とする。

ギヤの最大数は6速に制限される。

クイックシフトシステムのようなものをギヤボックス、またはセレクター機構に追加することが許可される。

カウンターシャフトスプロケット、リヤホイールスプロケット、チェーンピッチとチェーンサイズは変更できる。

59.03.31 クラッチ

クラッチスプリングは変更できる。
フリクションディスクとドライブディスクは変更できる。
クラッチタイプと作動方法は、車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別のものに交換されてもよい。

59.03.32 イグニッション／エンジンコントロールシステム
イグニッション／エンジンコントロールシステムは、モディファイされてもよいし、交換されてもよい。
スパークプラグとプラグワイヤーは別なものに交換することができる。

59.03.33 ジェネレーター
ジェネレーター、電気式、手動式の始動装置（キックレバー、キックペダル、スタータークランクギヤ、スターターシャフト等）は、車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい。

59.03.34 エキゾーストシステム
エキゾーストパイプとサイレンサーは、車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい。
※1997年1月1日から、スーパーバイクのノイズ・リミットは102dB/A。

59.03.35 下記のアイテムは車両公認時に装備されているものから改造、変更されてもよいし、別なものに交換されてもよい。
どの種類の潤滑油、ブレーキフルード、サスペンションフルードを用いてもよい。
どの種類のスパークプラグ、およびプラグキャップを用いてもよい。
どのインナーチューブ（装着される場合）またはインフレーションバルブを用いてもよい。
ホイールのバランスウェイトは外されてもよいし、交換されても、追加されてもよい。
どの種類、あるいはどのブランドのベアリング（ボール、ローラー、テーパー、プレイン等）を用いてもよい。
ファスナー（ナット、ボルト、スクリュー類）
エレクトロニックデバイス、電気ケーブル、コネクター、バッテリー、およびスイッチ
外部の表面加工、およびデカール

59.03.36 下記のアイテムは取り外すことができる
ライトとリフレクター
計器類と計器用ブラケットおよび関連ケーブル
ホーン
ナンバープレートブラケット
ツールボックス
タコメーター
スピードメーター（**およびホイールスペーサー**）
ラジエターファンとワイヤー
パッセンジャー用フットレスト
パッセンジャー用グラブレール
チェーンガード

59.04 下記のアイテムは変更されなくてはならない

モーターサイクルには、始動しているエンジンおよび、その他のすべての電気部品を停止することのできる効果的なイグニッションキルスイッチ、またはボタンが、ハンドルバーの右あるいは左に設けられていなくてはならない（グリップを握った状態で手の届く距離になくてはならない）。

スロットルコントロールは手で握っていない時には自動的に閉じるものでなくてはならない。

電動フュエルポンプは、レースでの事故の際に自動的に作動する回路遮断システムを介していなくてはならない。

電動フュエルポンプの設計には、車検の時にテストできるように回路遮断のテスト機能が設けられていなくてはならない

セーフティバー、センタースタンド、およびサイドスタンドは取り外されなくてはならない（固定されたブラケットは、そのままでなければならない）。

すべてのドレーンプラグはワイヤーロックされなくてはならない。外部オイルフィルタースクリューおよびオイルフィルターボルトでオイルキャビティ（オイルパン）に進入するものは、すべて安全にワイヤーロックされなくてはならない。

ブリーザーパイプ、またはオーバーフローパイプが装備される場合、排出はそのパイプの排気口からなされなくてはならない。公認時のクローズドシステムは維持されなくてはならず、大気へ排出することは禁止される。

オイルブリーザーパイプが装備される場合、排出は簡単に手の届く位置に設けられたキャッチタンクにされなくてはならない。

キャッチタンクは、レース前に空にされなくてはならない。

オイルクーラーは、リヤ・マッドガードの上、またはそれ以上高い位置に設けられてはならない。

キャッチタンクの最低サイズは、ギヤボックスブリーザーパイプの場合250cc、エンジンブリーザーパイプの場合500ccとする。

すべての4ストロークモーターサイクルには、クローズドブリーザーシステムが採用されなくてはならない。オイルブリーザーラインはエアーボックスに連結され、これに排出されなくてはならない。

ヘッドライト、リヤライト、およびウインカーは取り外さなくてはならない。これらを外したあとの穴は、適切な材質で覆わなくてはならない

59.05 追加の装備

車両公認時にはない、追加の装備を設けることができる（すなわちデータ収集器具、コンピューター、記録機器等）。しかしながら、事項01.18（テレメトリー）は守られなくてはならない。

第12章

FIM技術仕様
（モトクロス・トライアル）

モトクロス

国際A級部門は下記に示すFIM技術仕様にて開催される。よって下記に示す規則とMFJ基本仕様第9章モトクロス基本仕様に合致していなくてはならない。FIM技術仕様とMFJ基本仕様の間で解釈の違いが生じた場合は、FIM技術仕様を優先する。

FIM規則01章
モトクロス技術仕様

01 クラス区分

クラス	排気量範囲	最大限気筒数
125	100を越え125以下	1
250	175を越え250以下	—

02 出場車両

1） 出場の車両に制限はない

2） 車両はMFJ技術規則第9章モトクロス基本仕様に示される、すべての条件に適合していなければならない。

05 重　量

車両の最低重量は下記のとおりとする。（半乾燥重量）

クラス	最低重量
80	65kg
125	88kg
250	98kg

注）半乾燥重量とは走行可能な状態から燃料を抜いた値とする。分離給油の場合のオイルは燃料とみなす。

06 公認車両が下記事項に適合していない場合、改造・変更が義務づけられる

1） もしプライマリーチェーンが露出している場合、安全措置としてチェーンガードを装着しなければならない。チェーンガードはいかなる場合においてもライダーがトランスミッションパーツに誤って触れることがないようにガードを取りつけていなければならない。カウンターシャフトスプロケットにもガードが取りつけられていなければならない。

トライアル

国際Ａ級・国際Ｂ級部門は下記に示すFIM技術仕様にて開催されるが、下記に示す規則とMFJ技術規則第10章トライアル基本仕様に適合していることとする。FIM規則とMFJ規則が相違する場合は、FIM技術規則を優先する。

FIM規則01章
トライアル技術仕様

01 クラス区分

国際Ａ級
国際Ｂ級
＊車両の排気量によるクラス区分は設定されない。

06 公認車両が下記事項に適合していない場合、改造・変更が義務づけられる

カウンターシャフト・スプロケットには安全ガードが取りつけられていなければならない。

第19章
ドラッグレースの仕様

ドラッグレースの基本仕様

01 チタニウム合金

すべての車両についてフレーム、フロントフォーク、ハンドルバー、スイングアーム、スイングアーム・スピンドル、およびホイール・スピンドルの構造にチタニウム合金を使用することは禁止される。ホイール・スピンドルに関しては、軽合金の使用も禁止される。チタニウム合金のナットとボルトの使用は許可される。

03 エギゾースト・パイプ

エギゾースト・パイプはリヤホイールの後ろに伸びてはならない。またライダー、燃料タンク、およびタイヤから離れて放出されるようにする。フレキシブル・パイプは許可されない。

04 ハンドルバー

1）ハンドルバーの最低幅は、80ccまでのマシンは最低400㎜。80ccを越えるマシンは最低450㎜とする。500ccを越えるマシンは最低560㎜とする。

2）ハンドルバーの最低幅はグリップ外側の先端から、反対側のグリップの外側先端までの距離で測定される。

3）ハンドルバーの先端が露出される場合は固形物質を詰めるか、ゴムでカバーされていなければならない。

4）ハンドルバーは、標準仕様の位置でなければならない。溶接された鋼鉄またはクロモリ鋼鉄延長ハンドルバーは認める。但し、標準ハンドルバーの位置より100㎜以上越えてはならない。

5）ハンドルバーの中心線、または中央位置から両側に対する回転角度は最低各15°以上なくてはならない。

6）ストリームライニングがある場合、ハンドルバーの位置がどこにあっても、フロント・ホイールがストリームライニングに接触してはならない。

7）ライダーの指が挟まれないようにするために、ハンドルを左右いっぱいに切ってもハンドルバー（レバーを含む）と燃料タンクの間に、最低30㎜の間隔があるように、ストッパー（ステアリングダンパー以外のもの）を取りつけなくてはならない。

8）ハンドルバー・クランプは、ハンドルバーが折れやすい部分ができないように丸みをつけて製作しなくてはならない。

9）軽合金ハンドルバーの溶接による補修は禁止される。

05 コントロールレバー

1）すべてのハンドルバー・レバー（クラッチ、ブレーキ等）は、原則として端部が丸くなっていなければならない。
2）ピボット点からレバーの端（ボール状の先端）まで測った場合のコントロール・レバーの長さは200㎜を越えてはならない。
3）各コントロールレバー（ハンドルおよびフット・レバー）はそれぞれ独立したピボットを持っており、そのレバー自体のピボットにマウントされていなくてはならない。
4）もしブレーキ・レバーがフットレストの軸にピボットされている場合、フットレストが曲がったり、又は変形した場合など、どのような場合でも作動できなくてはならない。

06 スロットルコントロール

1）スロットルコントロールは、手を離した時に自動的に閉じるものでなくてはならない。
2）オートマチック・クラッチを用いるモーターサイクルには、バーンナウトの後でアシスタントがマシンをスターティングラインに押して戻る際に、スロットルが開くのを防ぐための安全装置が装着されていなければならない（ツイストグリップ・スリーブとハンドルバーにピンを介入し、目立った飾りふさを装着すれば十分）。

07 フットレスト

1）フットレストは折りたたみ式でもよいが、この場合は自動的に元の位置に戻る仕組みになっていなくてはならず、さらにフットレストの先端には半径最低８㎜の、一体構造のプロテクションが設けられている事が望ましい。
2）もしフットレストが折りたたみ式でない場合、及びゴムのカバーを装着していない場合は、その先端を半径最低８㎜以上の球形に丸められていることが望ましい。
3）フットレストは、前後のホイールの中心を結ぶ線よりも100㎜以上、上に設けられていてはならない。またリヤ・ホイールの中心を通る垂直線よりも380㎜以上前になくてはならない。フットレストはコントロール・ペダルの操作が行いやすい位置にしなくてはならない。

08 ホイール

モーターサイクルにはフロントにモーターサイクル用に製造されたホイールを装備していなければならない。リヤ・ホイールリムの幅はリヤ・タイヤの接地面よりも50㎜以上狭くなければならない。

09 タイヤおよびチューブ

タイヤはスリック・タイプまたはトレッドの深さが最低２㎜のものとする。トップスピードが200㎞/hを越えるモーターサイクルの場合、フロント・タイヤは最低“V”レートあるいはロードレース・タイプとする。リヤ・タイヤのチューブは天然ゴム製のレーシングタイプとする。

10 ブレーキ

1）モーターサイクルには、各ホイールにひとつずつ、ホイールと同心的に独立して作動する有効なブレーキが装備されていなくてはならない。

2）ディスクブレーキの最低直径は175㎜、ドラムブレーキの最低直径は、150㎜とする。500cc以上のモーターサイクルはフロント及びリアにディスクブレーキを装備していなければならない。フロントシングルディスクは、最低254㎜（10インチ）×5㎜、フロントダブルディスクは最低203㎜（8インチ）×5㎜。フロントシングルディスクの場合、リアディスクは、最低254㎜（10インチ）×5㎜。フロントダブルディスクの場合、リアディスクは、最低216㎜（8 1/2インチ）×5㎜。ラインロックの使用を認める。

11 フロントフォーク

フロントフォークは油圧タイプとする。フォーク・チューブはトップ・フォーク・クラウンより30㎜以上突出していてはならない。最低ストロークは、50㎜とする。フォークがボトムした状態で、ホイール以外のいかなる部分も路面に接地してはならない。

トップ・フォーク・チューブの最低直径は：

350ccを越え750cc以下　28㎜

750ccを越え　32㎜

12 最低地上高

ライダーがポジションにつき、正当な空気圧（リヤタイヤ4 PSI（0.3気圧））で、フォークが完全に圧縮された状態での最低地上高は50㎜とする。垂直位置からモーターサイクルを左右に12°づつ傾けることが可能でなければならない。これはホイール以外のいかなる部分も路面に接地しない状態で達成されなければならない。

13 マッドガードおよびホイールプロテクション

1）マッドガードはタイヤの両側方に張り出していなくてはならない。

2）フロント・マッドガードは、ホイールの周囲を最低100°に渡ってカバーしていなくてはならない。この部分において、下記の角度を守っていればホイール自体がカバーされてもよい。マッドガードの前端とホイールの中心を結ぶ線と、ホイールの中心を通る水平線の作り出す角度は45°と60°の間でなくてはならない。マッドガードの後端とホイールの中心を結ぶ線と、ホイールの中心を通る水平線の作り出す角度は20°を越えてはならない。

3）リヤ・マッドガードは、ホイールの周囲を最低120°に渡ってカバーしていなくてはならない。リヤ・マッドガード後端とホイールの中心を結ぶ線と、ホイールの中心を通る水平線の作り出す角度は120°を越えてはならない。

4）ストリームライニングがある場合には、マットガードは必要とされない。ストリームライニングが無い場合にはマッドガードが必要とされる。シートのフェアリングがリヤ・タイヤの外側の垂直接線にまで達している場合には（許容誤差－50㎜）、リヤ・マットガードを装着する必要は無い。

14 ストリームライニング

1）ストリームライニングは、ライダーがストリームライニングのパーツを取り外さないでマシンに乗り降り出来るようにできていなければならない。また、ライダーがモーターサイクルを操作するのを妨げてはならない。

15 シート

シートはライダーに安全なライディング・ポジションを提供するように作られ、危険なほど不快適であってはならない。最低シート高は500㎜（ライダーが乗車してリヤタイヤ0.3気圧において）。

16 ナンバープレート

1）ナンバープレートは長方形で頑丈な材質でできていなければならない。最低寸法は285㎜×235㎜とする。

2）水平面から50㎜以上カーブしていないプレートは、カバーされたり曲げたりされてはならない。

3）ナンバープレートははっきりと見えるように装着され、モーターサイクルのいかなる部分、またはライダーが自分のシートに座った時に身体で隠れてしまわないようにしなくてはならない。ウイリーバーが付いている車両はウイリーバーに付けることが望ましい。

4）別個のナンバープレートを装着する代わりに、ボディーまたはストリームライニングに同寸法のスペースをつや消し色でペイントするか、あるいは固定してもよい。

5）数字ははっきり読めるように、また太陽光線の反射を避ける為に地の色同様につや消しで書かなければならない。

数字の最低寸法は下記のとおりとする。

数字の高さ	140㎜
数字の幅	80㎜
ストローク幅	25㎜
数字間のスペース	15㎜

6）数字は英国式を使用する。「1」は垂直の1本線「7」は水平のラインなしの単純な傾斜線

7）正規のナンバーと混同する恐れのあるその他のナンバープレート、またはマーキングは競技会の開始前にすべて取り外されなくてはならない。

8）すべてのナンバープレートの周囲には最低50㎜の余白が残され、ここにはいかなる広告も表示されてはならない。この規則に適合していないナンバー・プレートを装着しているモーターサイクルは、車検長によりレース参加の許可を得ることができない。

9）ナンバープレートの地色及び数字の色は下記のとおりとする。

PB	（プロトックバイク）	黄地に黒文字
SB-EX	（ストックバイクエキスパート）	白地に黒文字
SB	（ストックバイク）	白地に黒文字

※その他の種目は主催者の定める大会特別規則による。

17 ウイリーバー

ウイリーバーの装着が強く勧められる。ウイリーバーの長さは、フロントアクスルセンターからウイリーバーアクスルセンターまで最大3,300㎜以内である事。金属製のウイリーバー車輪は禁止する。

18 プロテクティブ・カバー

すべてのオープン・トランスミッションにはカバーが設けられ、回転するパーツとの接触が保護される。機械式駆動のコンプレッサーには“ポップ・オフ・バルブ”インテーク・マニフォールドへのゴム製コネクション、または爆発を防ぐための他のデバイスが設けられていなければならない。

19 フュエルタンク及びオイルタンク

1）燃料タンクはフレームに安全に固定されていなければならない。

2）すべてのオイルドレーンボルトは確実に固定され、ドリルで穴を開け、ワイヤーで所定の箇所に固定されなければならない。オイル供給パイプは所定の位置に適切にワイヤー止めされなくてはならない。オイル通路に進入する外部オイル・フィルター及びオイル圧力ラインのスクリューやボルトには、安全にワイヤーロックされなければならない。

3）燃料およびオイル・フィラー・キャップ

燃料およびオイル・フィラー・キャップは、閉じた状態で漏れないようになっていなくてはならない。さらにこれらはいかなる場合においても誤って開くことのないように完全にロックされていなくてはならない。

20 燃料システム

すべてのモーターサイクルには、機械的な燃料シャット・オフ・バルブが装着されていなければならない。ポンプによって駆動されるフュエル・インジェクション・システムにはエアロクイップまたは同様のハイプレッシャー・チューブがもうけられていなければならない。イグニッションによって停止できないエンジンの場合、すぐに作動する燃料シャット・オフ・バルブがもうけられていなければならない。これはライダーが両手でハンドルを握った状態で操作できなければならない。また、これは、ライダーがモーターサイクルを離れた際にエンジンへの燃料の供給を止めるような構造（どの方向においても作動するように）になっていなければならない。シャット・オフ・バルブはエンジンスタート時に延長された状態で１m以内の長さのコードによって、常にライダーに連結されなくてはならない。

21 キャブレターとフュエル・インジェクション

キャブレターとフュエル・インジェクター・インレットは、バックファイヤーが生じた際に、ライダーが怪我をしないような位置に置かれるか、覆われていなければならない。フュエル・インジェクションには、デュアル・ケーブルのポジティブ・リターン・スロットル（または２本のリターン・スプリング）が必要とされる。

22 キル・スイッチ

モーターサイクルには、ライダーがモーターサイクルのコントロールを失った時に、エンジンへのすべての電源をカットする電気式接触が装備されていなければならない。これはエンジン始動時には常にライダーにコネクトされていなければならない。

23 オイル・キャッチ・タンク

1）オイル・ブリーザー・パイプが装着されている場合、排出口はキャッチ・タンクに放出するようになっていなければならない。（下記の物も安全なようにワイヤー・ロックされてい

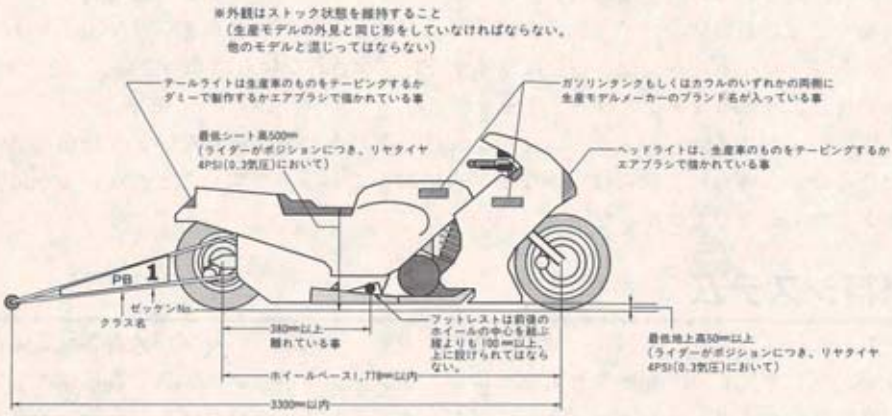
なければならない。リヤ・スプロケット、フロント・アクスル、リヤ・アクスル、ブレーキ・キャリパーのピン、ブレーキ・ディスク、フットブレーキのマスターシリンダー。）

2）オイルキャッチタンクはアクシデント発生時でも容易に破損したり脱落せず、かつ高温に耐えられる材質であること。

3）キャッチタンクに溜まったオイルはエンジンにもどるリターンパイプを取り付けることが望ましい。……ロードレース基本仕様の図A（154頁参照）。

24 チェーン

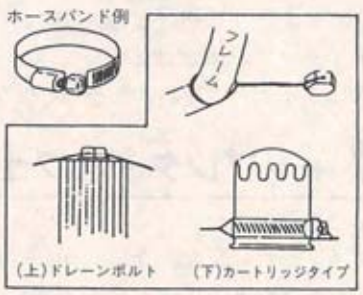
チェーンはマスターリンクのないクローズド・タイプとする。またはマスターリンクがある場合には安全にワイヤーロックされなくてはならない。



ワイヤーロック

1）必ず行う部分
- ① オイルドレーンボルト
- ② 外部オイルフィルター
- ③ 圧力ライン系
- ④ ホイールスピンドルエンド

2）推奨される部分
上記以外の回転部分を固定するボルト類



PB（プロストックバイク）クラスの車両規制（A級）

01 クラス区分

定義：このクラスはストック（生産モデル）の外観で自然吸気によりガソリンを燃焼するモーターサイクル用のクラスである。

クラス	ベースエンジン	最大限排気量	最大限気筒数	最大限変速数
プロストックバイク(PB)	ハーレーVツイン	2,294.18cc (140立方インチ)	2	6
	2バルブエンジン	1,507.60cc (92立方インチ)	6	6
	4バルブエンジン	1,294.57cc (79立方インチ)	6	6

03 車両に対して下記事項は仕様の変更が出来ない

1）エンジンの型式
2）シリンダーの数

04 下記部品は各項の制限内で改造出来る（ドラッグレースの基本仕様に合致すること）

42)（2） リヤホイールは交換出来るが下記制限内とする。
最低直径　15インチ　　最大直径　18インチ

44)（1） フロントホイールは交換出来るが下記制限内とする。
最低直径　16インチ　　最大直径　19インチ

50)（1） フレームボディ
修正・変更は認められる。但しキャスター角は最大で40°、シート高は最低50cm（ライダーがポジションにつきリヤタイア4PSI（0.3気圧）において。）ホイールベースは70インチ（1778mm）以内

51)（1） フロントサスペンション
フロントサスペンションユニットは交換出来る。ただしサスペンションストロークは最低35mm（O.E.M.タイプ）。アフターマーケット製の場合、最低直径34mm。サスペンションストロークは38mm。フロントフォークの延長は4インチ（約10cm）以内。

52)（1） リヤサスペンション
リヤサスペンションの改造・変更（リジット化含む）は認められる。

54) カウリング
（1） オートバイ用として生産されていなければならない。生産モデルの外見と同じ形をしていなければならず、他のモデルと混じってはならない。
（2） パーツの変更は認められるが生産時の形状を維持しなければならない。カウルの両側にブランド名が入っていること。
（3） カウルの下部はエキゾーストパイプのクリアランスのために修正及び取り除いてもよい。
（4） カウルの外側にエアーインテークホースの取り付けは認められない。
（5） ヘッドライト、テールライトはエアブラシ等で描かれていること。

55) シート・シートカウル
改造変更出来るがライダーが後ろに滑るのを防ぐステップがついていることが望ましい。

05 重　量

重量

PBクラスの最低重量は下記とする。

ライダーが全装備で乗車した状態で、249.47kg（550ポンド）。

06 車両が下記事項に適合していない場合、改造・変更が義務づけられる

17）　電動式フュエルポンプを装備している場合は、転倒の際にただちにフュエルポンプが自動的に停止する装置を備えていなければならない。

27）(1)　エンジンブリーザーのキャッチタンク取り付け（4サイクル車は500cc以上、2サイクル車は250cc以上）

36）　灯火器のレンズの処置または取り外し

40）　チェーンガード

リヤアクスルを越えてチェーンの上部をカバーすること。チェーンガードは鋼鉄製または厚さ3.2㎜以上のアルミ製のものに限る。固定は3カ所以上とする。

53）　ステアリング・ダンパーの取り付け

56）　すべてのオイルドレンボルト、及び外部のオイル圧力ライン部品へのワイヤーロック。

61）　ウイリーバーの取り付け

フロントアクセルセンターからウイリーバーアクセルセンターまでは最大3,300㎜以内である事。金属製のウイリーバー車輪は禁止する。

07 いかなる場合も禁止される事項

23）　シフトは手動またはエアシフターとし、コンピュータによるシフトチェンジは禁止する。

42）　リヤホイールスピンドル構造に軽合金を使用してはならない。

44）　フロントホイールスピンドル構造に軽合金を使用してはならない。

53）　ステアリングダンパーを取りつけた場合ハンドル切れ角のストッパーとしてはならない。

58）　燃料はガソリンとし、アルコール等の燃料は禁止する。燃料及び添加剤等のいかなる手段でも亜酸化窒素、一酸化二窒素の使用は一切認めない。輸入レーシングガソリンの使用は事前に申告し許可を得た場合以外は使用を認めない。

59）　情報収集以外の目的でのコンピューターの使用。

60）　キック、電気スターター以外のエンジン始動（押しがけ等）。

第18章

ロードレース ジュニアクラスの仕様

（国内A級、国内B級、ジュニア）

01 クラス区分

カテゴリー	クラス	排気量範囲	最大限気筒数	最大限変速段数
SP（スーパープロダクション）	50	～50以下	1	6
	80	50を越え80以下	1	6
GP	50	～50以下	1	6
	80	50を越え80以下	1	6

02 出場車両

1） 車両は市販レーサーまたは一般生産型車両でMFJが公認したもの。または一般生産型車両をベースとしたSP用コンプリートマシンとしてMFJが公認したもの。

2） 車両は国内競技規則及びロードレース基本仕様（第８章）に示されているすべての条項に適合していること。

3） ホイールリム直径が16インチ以上で、80cc以下の二輪車。

03 公認車両に対して下記事項は仕様の変更が出来ない

（仕様の変更とはその部品の改造、変更、取りはずしをいう）

1） エンジンの型式

2） シリンダーの数

3） ピストンストローク

4） シリンダー（スリーブ及びライナーを含む）、シリンダーヘッド、クランクケース、ギヤボックスの材質、鋳造および形状

5） クラッチの構造

6） エンジン内部の部品の材質及び寸法形状

7） ４ストロークエンジンのバルブの径、バルブのリフト量、バルブタイミング及び圧縮比

8） ２ストロークエンジンのシリンダー、ピストンによるポートタイミング、ポートサイズ、一次、二次圧縮比

9） シリンダー、シリンダーヘッドのクランクケースに対する向き

10） 吸入、排気系統のシステム、バルブの数、ポートの数、キャブレターの数

11） クランクケースカバー類の材質、鋳造、及び形状

12） ２ストロークのシリンダー、４ストロークのシリンダーヘッドのポートの寸法、形状

13） クランクシャフトアッセンブリー、ピストンの材質、寸法、形状

14） カムシャフト、バルブ、バルブスプリング、リードバルブアッセンブリーの材質、形状、寸法

16) キャブレター ＊ただし04.16）及び08, 3）(1)参照
17) フュエルタンク
22) プライマリーギヤのレシオ、及び寸法形状 ＊ただし04.22）参照
23) ミッションギヤのレシオ、及び寸法形状
42) リヤホイール
43) リヤブレーキ関係 ＊ただし04.43）参照
44) フロントホイール
45) フロントブレーキ関係 ＊ただし04.45）参照
48) タイヤ ＊ただし08. 3）(4)参照
50) フレームボディ ＊ただし04.50）参照
51) フロントフォーク ＊ただし04.51）参照
52) リヤフォーク、リヤクッション、リヤクッションリンケージ
53) ステアリングステム、トップ、ボトムブリッジ ＊ただし04.53）参照
54) ストリームライニングの形状 ＊ただし04.54）参照

04 公認車両に対し下記事項の変更が出来るが、ロードレース基本仕様（第8章）には適合していることを条件とする
（03条で規制された項目の、部分的な規則緩和も含みます）

16) キャブレターのセッティング、（取り外し可能なジェット、ニードル、スロットルバルブの範囲）エアーファンネルの取り付け、または寸法の変更。（キャブ本体を除く）
22) クラッチディスクの材質とスプリングの諸元
25) スタート装置の取り外し
27) エアクリーナーボックスの改造
43) リヤブレーキパッドの材質と油圧ホースの変更
45) フロントブレーキパッドの材質と油圧ホースの変更
51) フロントサスペンションセッティングのためのオイル交換、セット荷重調整
53) ステアリングダンパーの取り付け
54) カウリングの材質（但しカーボン、ケブラー等高価素材は除く）
55) シートカウルの形状、材質（但しカーボン、ケブラー等高価素材は除く）
59) すべての部品についての調整・仕上げは自由である。
60) 不要なステー類のカットは可（但し軽量化目的の材料は除く）

05 重　量

クラス		最低限重量
SP	50	77kg
	80	79kg
GP	50	77kg
	80	79kg

最低限重量は半乾燥重量とする。
半乾燥重量とは走行可能状態からガソリンを抜いた値とする。
分離給油の場合のオイルは燃料とみなす。

06 公認車両が下記事項に適合していない場合改造変更が義務づけられる

16)（1） キャブレターのサイズ（気筒あたりの最大径）

クラス	最大限サイズ
50（SP、GP）	直径18㎜相当以下
80（SP、GP）	直径28㎜相当以下

(2) 規制を越えるキャブレター装着車は公認キャブで、かつ規制以下のキャブレターに交換すること。

17) 電動式フュエルポンプを装着している車両は、転倒時に自動的に停止する装置を備えていること。

19) ラジエターのオーバーフローパイプとキャッチタンクの取り付け（250cc以上）

27) (1) エンジンブリーザーのキャッチタンクの取り付け（4ストローク車は500cc以上、2サイクルのギヤボックスからのブリーザー250cc以上）

(2) 4ストローク車のキャッチタンクからのブローバイガスはエンジンに再吸入させること。

32) エンジンキルスイッチの取り付け（ハンドルを握って操作可能な位置にとりつけなくてはならない。）

36) 灯火器のレンズの処置または取り外し。

38) 保安部品の取りはずし（スタンド、バックミラー、補助ステップ、ウインカー類。）

56) エンジンのすべてのオイルドレンボルト、及び外部のオイル圧力ライン部品へのワイヤーロック。

07 いかなる場合も禁止される事項

29) 改造・変更に当たって特殊な材料の使用（チタン合金、カーボン、ケブラー強化繊維等の高価な材料）
（カーボンサイレンサーも完全禁止）

42) リヤホイールスピンドル構造に軽合金の使用

48) タイヤへの追加工

53) ステアリングダンパーを取りつけた場合、ハンドル切れ角のストッパーとしての使用。

58) ガソリンの仕様及び供給方法は制限される。（ガソリン・オイル・クーラントの項145頁参照）

08 MFJへの公認手続、条件

1) 車両は一般公道用として定められた台数以上を出荷し発売日が明確になっていること、または市販レーサーとして定められた台数以上を出荷し発売日が明確になっていること。

	国産車	輸入車
一般生産型車両	500台	25台
市販レーサー	25台	10台

＊SPコンプリート車は、ベースとなる車両が公認を取得していること。台数の制限はない。

2) 技術委員会は毎月第4火曜日に開催され、そこで公認された車両はすでに発売されている車両の場合は会議日から2ヵ月後の同日付きで公認発行する。発売日が会議日以降の場合は発売日の2ヵ月後の同日付け出公認発行とする。但し市販レーサー、SPコンプリート車は各々1ヵ月後とする。

3) 申請する車両は以下の仕様に適合していることを条件とする。

(1) キャブレターのサイズ（気筒あたりの最大径）

クラス	最大限サイズ
50（SP、GP）	直径18㎜相当以下
80（SP、GP）	直径28㎜相当以下

注）キャブレターのサイズとはキャブレターの吸入混合気通路の最小断面部分の面積が上記サイズ相当以下であること。この場合、ジェットニードル、バタフライシャフト、バルブ、スロットルバルブ等の形状、断面積は考慮されないものとする。

(2) ホイールリムのサイズ

直径は16インチ以上であること。

クラス	最大幅フロント	最大幅フロント
50（SP、GP）	2.15インチ	2.75インチ
80（SP、GP）	2.15インチ	2.75インチ

(3) タイヤはメーカーのラインで装着されている50／80ccクラスの一般公道用タイヤで、上記リムサイズに適合しているもの。

(4) 01条のクラス区分内にあること。

09 音量規定

FIM方式で測定し99dB/A以下であること。

レース終了後は3 dB/Aの誤差値が認められる。

10 互換性

フレーム打刻型式とエンジン打刻型式が同一のモデル内にあっては一切の追加工なしで単品またはアッセンブリーで組みつけ可能な部品は相互に交換が認められるが、'93年1月1日以降の公認車両同士に限られる。

注）コンプリートマシンはベースマシンと型式が異なるが互換性が認められる。
（コンプリートマシンのベース機構の打刻型式に基づき判断される。）

第20章
ミニバイクの仕様

01 クラス区分

クラス	排気量範囲	2ストローク	4ストローク	最大限気筒数	最大限変速段数
N5（スクーター50cc一部改造）	50cc以下	○	○	1	6
S5（スポーツバイク50cc一部改造）	50cc以下	○	○	1	6
S8（スポーツバイク80cc一部改造）	50ccを越え80cc以下	○	○	1	6

02 出場車両

1） 車両は（市販レーサーを除く）一般生産型車両で、MFJが公認したもの。

03 公認車両に対して下記事項は仕様の変更が出来ない

（仕様の変更とはその部品の改造、変更または取り外しをいう）

1） エンジンの型式。
2） シリンダーの数
3） ピストンストローク。
4） シリンダー（スリーブ及びライナー含む）、シリンダーヘッド、クランクケース、ギヤボックスの材質・鋳造及び形状。
5） クラッチの構造（但しディスクの材質とスプリングは除く）—04.22参照。
6） エンジン内部の部品の材質。
7） 4ストローク車のバルブの径、リフト、タイミング及び圧縮比。
8） 2ストローク車のシリンダーピストンに依るポートタイミング、ポートサイズ、一次、二次の圧縮比。
9） シリンダー、シリンダーヘッドのクランクケースに対する向き。
10） 吸入、排気系統のシステム、バルブ数、ポート数、キャブレター数。
11） クランクケースカバー類の材質・鋳造および、形状。
12） シリンダー、シリンダーヘッド。
13） クランクシャフトアッセンブリー、ピストン。
14） カムシャフト、バルブ、バルブスプリング、リードバルブアッセンブリー。
16） キャブレター（メインジェットのみ変更可）。
17） フュエルタンク。
22） プライマリーギヤ。
23） ミッション。

27) ブリーザーシステム。
42) リヤホイール。
43) リヤブレーキ関係。
44) フロントホイール。
45) フロントブレーキ関係。
50) フレームボディ。
51) フロントフォーク。
52) (1) リヤフォーク。
(2) リヤサスペンション。
53) ステアリングステムを含むボトムブリッジ、トップブリッジ。
54) ストリームライニング。

04 公認車両に対して下記事項の変更が出来るが、ロードレース基本仕様（第8章）に適合していることを条件とする

16) (1) キャブレターのメインジェットの変更は可。
(2) ゼッケンプレート、メーター、シート等の取り付けのためのステーの追加ができる。
30) イグニッションコイル、点火ユニット、リミッターの改造・変更は可。
31) プラグの変更は可。
36) スピードメーターの取りはずしは可。
40) チェーンの変更は可。
41) スプロケットの変更は可。
48) タイヤ
一般市販され通常ルートで購入出来るもののみ交換は可。ただし、スリックタイヤ（インターミディエイト含む）および摩耗限度を越えたタイヤの使用は禁止。

06 公認車両が下記事項に適合していない場合改造変更が義務づけられる

32) エンジンキルスイッチの取り付け（ハンドルを握って操作可能な位置に）
36) 灯火器のレンズの処置または取り外し
38) 保安部品（スタンド、バックミラー、補助ステップ、ウインカー類）の取り外し
56) すべてのオイルドレンボルト、及び外部のオイル圧力ライン部品へのワイヤーロック

07 いかなる場合も禁止される事項

29) 改造・変更に当たって特殊な材料の使用（チタニウム合金、カーボン強化繊維等の高価な材料）
42) リヤホイールスピンドル構造に軽合金を使用してはならない。
44) フロントホイールスピンドル構造に軽合金を使用してはならない。
48) タイヤへの追加工
53) ステアリングダンパーを取りつけた場合、ハンドル切れ角のストッパーとしてはならない。
58) ガソリンは通常のスタンドで購入できるか各サーキットのスタンドで購入できるMFJの定める無鉛ガスに限る。

08 MFJへの公認手続・条件

1）　車両は一般公道用として定められた台数以上を出荷し発売日が明確になっていること。

		国産車	輸入車
一般生産型車両	250cc以下	500台	25台

2）　技術委員会は毎月第4火曜日に開催され、そこで公認された車両はすでに発売されている車両の場合は会議日から2ヵ月後の同日付けで公認発行。発売日が会議日以降の場合は発売日の2ヵ月後の同日付けで公認発行する。

09 音量規定

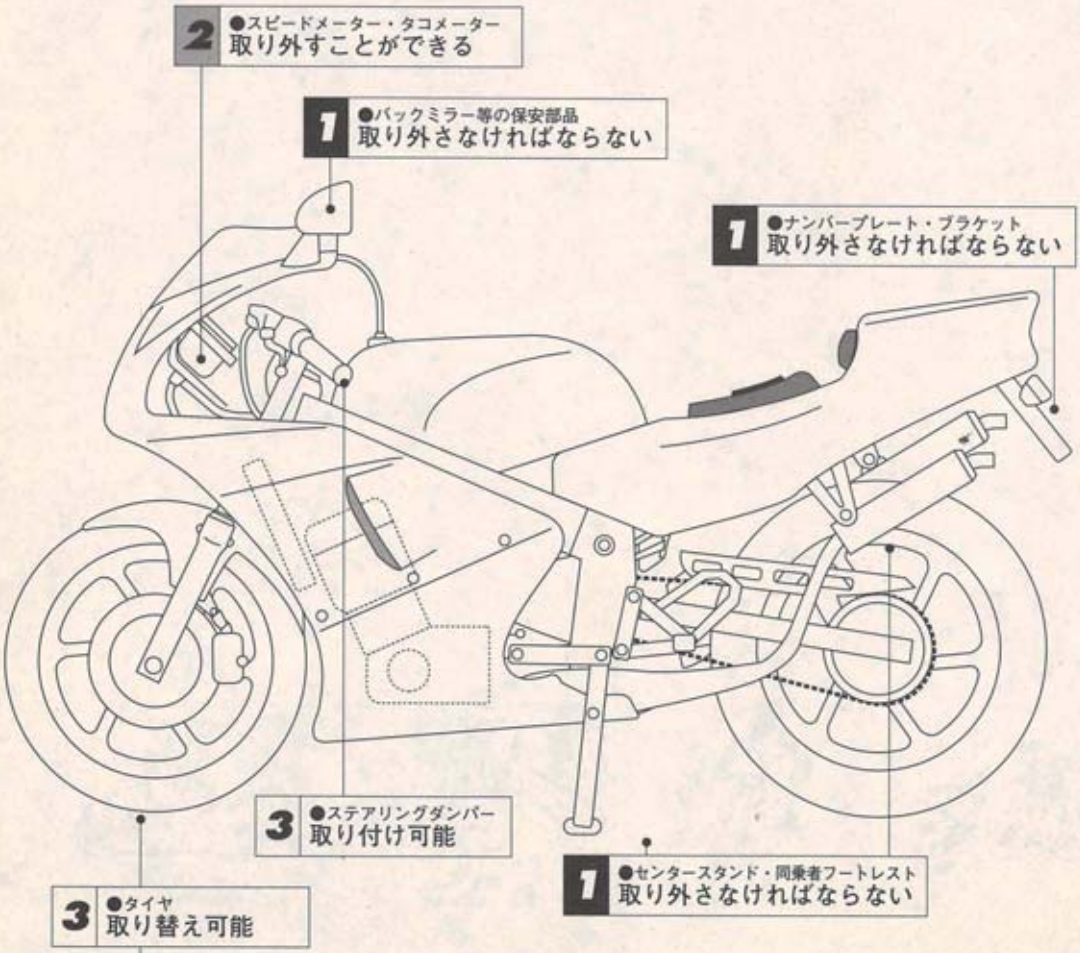
FIM方式で測定し99dB/A以下であること。
レース終了後は3dB/Aの誤差値が認められる。

10 互換性

フレーム打刻型式とエンジン打刻型式が同一のモデル内にあっては一切の追加工なしで単品またはアッセンブリーで組みつけ可能な部品は相互に交換が認められる。
'92年度までに公認を受けた車両は互換性の対象から外される。
('93年1月1日以降の公認車両同士に限られる)

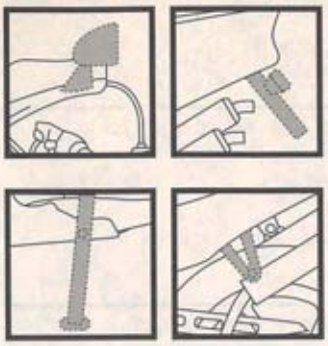
第21章
ストックバイククラスの仕様
（略称ST）

マシンにはほとんど手を加えず、気軽に低コストで参加できるクラスとして、1998シーズンから新設されたのがストックバイククラス。新設当初から全国各サーキットで開催され、好評を得ているこのクラスだが、改造範囲が狭いだけにマシン作りもそれまでと勝手が違うようだ。ここでは、ストックバイクの仕様についてわかりやすい説明を行なうと同時に詳細規定、判例も収録した。ストックバイクの仕様についてのポイントは、ここに「書いてないことはしないこと」だ。ストックバイクで手軽にレースを楽しんではいかが？



オイルドレンボルトは必ずワイヤーロックすること!!

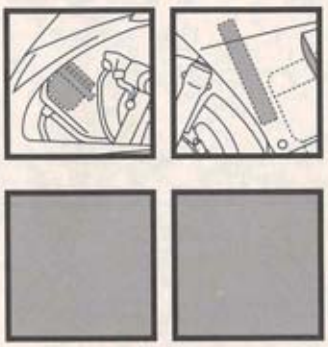
1 取り外さなければならない部品



・ライト／ウィンカー／リフレクター
・バックミラー
・ナンバープレートとブラケット
※但し、ナンバープレートとブラケットが一体型のものは、ブラケットを取り外すことができない。
・セーフティバー／センタースタンド／サイドスタンド
・同乗者用フートレスト／グラブレール
・その他車検時に安全上取り外しを指示された部品

★詳しくはP218～P224の仕様規定を良く読むこと。

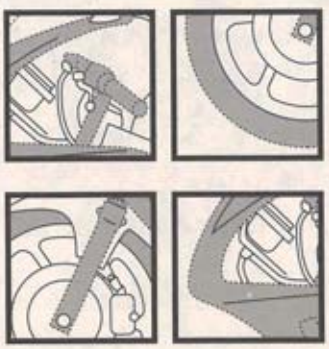
2 取り外すことができる部品



・計器類と計器用ブラケットおよび関連ケーブル
・ホーン
・タコメーター
・スピードメーター
・ラジエターファンと配線
・2サイクル分離給油用のオイルポンプとオイルタンクの取り外しと、取り外し後のカバー類の取り付け

★詳しくはP218～P224の仕様規定を良く読むこと。

3 取付・取替等で特に気を付ける項目



・ステアリングダンパーの取り付けは、取り付けるための加工を含めて可能。
・タイヤは一般公道用の銘柄指定タイヤのみ使用可能で、レーシングスリック、レーシングレインタイヤは天候に関わらず使用不可。違反した場合は失格となる。
・タイヤは1998～1999年までと2000年～2001年までで銘柄指定タイヤが変更されるので要注意。
・スクリーン、カウリング、シートカウルは安価なアフターマケットのものに交換できるが、外観が同じものに限られる。
・フロントサスペンションおよびリアサスペンションのスプリング変更、車高調整を目的としたフロントフォークの上下取り付け位置の調整、サスペンションフールドの変更は可能。サスペンションについて、これら以外は一切改造も変更もできない。

★詳しくはP218～P224の仕様規定を良く読むこと。

ストックバイククラスの仕様

ストックバイク規則は公道用一般車両をベースに最小限の改造とコストで性能を参加しやすいレベルに抑えることを基本理念とする。

用語の定義：改造＝もとの部品を使って切削・追加・研磨を行う行為
変更＝もとの部品から他の部品に置き換える行為

1 出場車両

1） ストックバイククラスに出場する車両は一般生産型モーターサイクルでMFJの公認車両でなければならない。

2） 公認車両のリストは巻末に記載する。

2 排気量区分

50ccクラス ～50cc　125ccクラス 81cc～125cc　400ccクラス 251cc～400cc
80ccクラス 51cc～80cc　250ccクラス 126cc～250cc

3 燃料／オイル

1） 使用する燃料はMFJが規定する無鉛ガソリンで、当該サーキットから購入できるものを使用しなければならない。

2） オイルは一般に市販されているものから選択しなければならない。

3） 上記以外の起爆剤・添加剤は使用してはならない。

4 仕　様

1） レースのために行わなければならない変更

(1) 取り外さなければならない部品

① ライト／ウインカー／リフレクター
② バックミラー
③ ナンバープレートとブラケット
④ セーフティーバー／センタースタンド／サイドスタンド
⑤ 同乗者用フットレスト／グラブレール
⑥ その他車検時に安全上取り外しを指示された部品

(2) 車両公認時の状態で下記の各項目に適合していない時は、改造・変更が義務付けられる。特にガソリン／オイル等をコースに撒き散らすことは事故原因になるのでその為の対策を主眼とする。

① アクセルは手で握っていないときは、自動的に閉じるようになっていること。
② キルスイッチをハンドルを握ったまま操作できる位置に取り付けること。
③ 電動式フューエルポンプがついている車両は、転倒した時にポンプが自動的に停止するための回路遮断システムを備えていなければならない。
④ 4ストローク車両はクローズドブリーザーシステムになっていなければならない。すなわち、オイルブリーザーラインはエアクリーナーボックスに連結され、これに排出する構造となっていること。エアクリーナーボックスの下部に排出穴があいている場合は、オイルを受けられるように塞がなければならない。(224頁図を参照)
⑤ オイルブリーザーパイプが装着されている車両には、オイルキャッチタンクを取り付けなければならない。

最低の容量：2ストローク：250cc　4ストローク：500cc

⑥ オイルドレーンプラグ及び供給パイプ

エンジンのオイルドレーンボルトは確実に固定され、ドリルで穴を開け、ワイヤーで所定の位置に固定しなければならない。

オイルパンに進入する外部オイルフィルターのスクリューやボルトは安全にワイヤーロックされていなければならない。(224頁図参照)

⑦ 燃料タンクブリーザーパイプがついている車両は、ノンリターンバルブを燃料タンクブリーザーパイプに取り付けなくてはならない。これは、適切な材質でできた最低容量250ccのキャッチタンクに放出されるようになっていなくてはならない。

⑧ 燃料タンクフィラーキャップ及びオイルフィラーキャップは閉じた状態で漏れないようになっていなくてはならない。さらに、これらはいかなる場合においても誤って開くことのないように完全にロックされていなくてはならない。

⑨ ラジエターオーバーフローパイプがついている車両は、最低重量250cc以上のキャッチタンクを取り付けなければならない。

(3) ナンバープレートの取り付け

① ナンバープレートは、フロントと両サイドの3枚を取り付けなければならない。

② ナンバープレートの地色は白で、文字は黒色。

③ プレート・文字サイズは図を参照のこと。

2) レースの為にチューニングが許可される部分

記載されている事以外は一切改造・変更はできない。

(1) フレーム

① 追加が認められるパーツの取り付けを目的としたステーの追加。

② リヤサブフレームにボルトオンされたアクセサリーの取り外し。

③ ステアリングダンパーの取り付けおよび取り付け目的のためのフレーム加工

(2) サスペンション

① フロントサスペンションのスプリングの変更。

② 車高調整を目的としたフロントフォークの上下の取り付け位置の調整。

③ リヤサスペンションのスプリングの変更。

④ サスペンションフルードの変更。

(3) ブレーキ

① 前後ブレーキパッドとホースの変更。

② ブレーキフルードの変更。

(4) タイヤ・ホイール

① スピードメーター駆動部の取り外しとスペーサーへの交換。

② タイヤ

a. タイヤは変更できるが、一般公道用のタイヤに限られる。レース用のスリックタイヤ/レーシングレインは天候に関わらず使用できない。

b. タイヤは入門者クラスとして公平を期すため、排気量クラスごとに銘柄と種類を限定する。当該銘柄で使用できるタイヤは下記に限定される。

年度	クラス	メーカー	パターン	年度	クラス	メーカー	パターン
1998~1999年	ST250	ブリヂストン	BT92またはBT54	2000~2001年	ST250	井上ゴム	未定
	ST400	ダンロップ	GPR80またはD205		ST400	ミシュラン	未定

c. タイヤの追加工(再グルービング等)は禁止される。

d. 磨耗限度を超えたタイヤは使用できない(残溝はインジケーターによる)。

e. ~~1レースのタイヤの使用本数は、前後とも1本づつとする。~~

f．タイヤウォーマーの使用は禁止する。

g．上位入賞車両は再車検にて詳細検査を行い、登録タイヤと異っていた場合は失格とする。

h．原則的には出荷時のタイヤサイズが望ましい。

(5) フートレスト・チェンジレバー・ブレーキペダル

フートレストは改造・変更されてもよいが、下記条件を満たさなければならない。ただし車両公認時から改造・変更しない場合は突起物を取り外し、車検長の許可を得た場合は下記仕様を満たさなくても使用できる。

① フートレスト／フートコントロールの位置は移動してもよいが、ブラケットは元の取り付け位置に固定しなければならない。

② フートレストの先端は、最低半径８㎜の中空でない一体構造の球状になっていなければならない。

③ 折りたたみ式の場合は、自動的に戻るようになっていなければならない。

④ スチール製フートレストで折りたたみ式でない場合、その先端にはプラスチック、テフロンあるいはそれと同等の材質でできた先端（プラグ）が固定されていなくてはならない。（最低半径８㎜）

(6) ハンドルバー・レバー類

① ハンドルバー、ブレーキ／クラッチレバー及びブレーキ／クラッチケーブル／スロットルケーブルの変更。**ステアリングパイプ（ハンドルバー）取り付け方式、タイプは車両公認時のものから変更できないが、取り付け位置調整、角度調整は認められる。**

② ハンドルバーの末端が露出している場合は、固形物質を詰めるかゴムでカバーされていなければならない。

③ ハンドルバーの最低幅は80ccまでは400㎜、81cc以上は450㎜。

④ ブレーキ／クラッチレバーの先端はボール状でなくてはならない（最低直径19㎜）。このボールを平たくすることができるが、端部は丸くなっていなければならない（最低の厚み14㎜）。

(7) カウリング

① カウリングとウインドスクリーンはアフターマーケットのものに変更することができる。ただし、外観はノーマルと同じでなければならない。

a．スクリーンエッジは丸く加工する。

b．カーボン、ケブラー強化繊維等の高価素材のものは使用できない。

② 取り付けブラケットの改造・変更。

③ 露出しているエッジは、全て丸められていなければならない。

④ 大会期間中に破損した場合の補修と取り外し。

(8) シート

オプションのシングルシートまたはアフターマーケットのものに変更できる。ただし、外観はノーマルと同じでなければならず、カーボン／ケブラー強化繊維等の高価素材のものは使用できない。

(9) シリンダー

① ４ストロークのシリンダーヘッドポートのバリ取りとカーボン除去。バリとは以下のものを指す。

a．型合わせバリ

b．シリンダー加工バリ（221頁図参照）

※ポート内のザラ付きは鋳ハダと解釈し、切削、研磨は認められない。

② 2ストロークのシリンダーヘッドとポートのカーボン除去。**シリンダーポートのバリ**

⑩ クラッチ

・クラッチスプリングの変更。

⑪ キャブレター

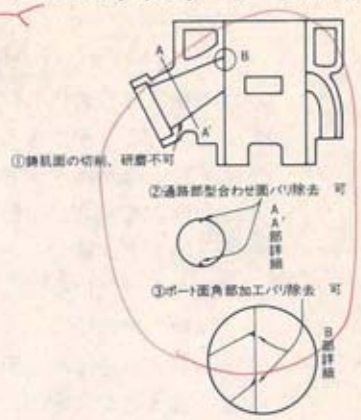
・ジェットとニードルの変更。

⑫ 燃料供給

① フューエルラインの変更。

② フューエルベントラインの変更。

③ フューエルフィルターの追加・変更。



⑬ ワイヤーハーネス

・不要なワイヤーハーネスのカット。

⑭ スプロケット／チェーン

・カウンターシャフトスプロケット、リヤホイールスプロケット、チェーンの変更。ただし、チェーンは公認時のサイズとする。

⑮ エンジンレブリミッター／スピードリミッター

・エンジンレブリミッター／スピードリミッターの変更。

⑯ 点火時期／スパークプラグ

・スパークプラグ、プラグキャップの変更。ハイテンションコードの変更。

・点火時期の調整。

⑰ ボルト・ナット類

① ボルト・ナット類の変更。ただし、同じ材質でなければならない。

② ボルト・ナット類はセーフティーワイヤーをつける為に孔を開けてもよい。しかし、軽量化する改造は認められない。

③ カウルのボルト・ナット類はクイックタイプに変更できる。

⑱ 取り外すことができる部品

① 計器類と計器用ブラケット及び関連ケーブル。

② ホーン

③ ツールボックス

④ タコメーター

⑤ スピードメーター

⑥ ラジエターファンと配線

⑦ 2サイクル分離給油用のオイルポンプとオイルタンクの取り外しと、取り外し後のカバー類の取り付け。

⑧ リヤフェンダーと結合していない場合のチェーンガード。

⑨ リヤサブフレームにボルトオンされたアクセサリー。

⑩ エアクリーナーエレメント

⑪ 別体（ボルトオン）のライセンスプレート

⑫ スターターキックアーム

⑲ ノーマルマフラーに対する曲げによる接地対策は許可される（切り取り、追加は許可されない）。また、取り付けのためのブラケットの変更も許可される。

3） その他の制限

(1) チタン合金部品の使用は禁止される。

(2) 買い取り制度

ストックバイククラスの仕様

1大会にて6位以内に入賞した車両は、購入希望者がいた場合下記価格にて販売しなければならない。売買によって発生する税金は、この金額に含まれない。

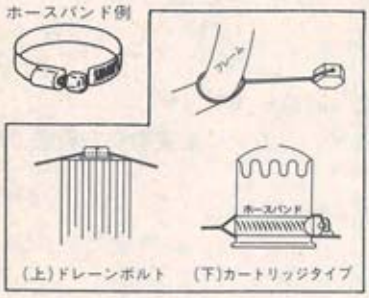
80ccクラス以下　50万円　　250ccクラス　100万円
125ccクラス　　70万円　　400ccクラス　100万円

① 購入希望者は6位以内に入賞した車両が車両保管されている時間内に限り、購入申請することができる。
② 購入申請は主催者指定の用紙に必要事項を記入し主催者に提出すること。
③ 購入希望者が複数の場合、主催者により抽選が行われ、決定される。
④ 購入者が決定した時点で、購入者は購入申請日に以下のものをそろえて主催者へ提出しなければならない。
・購入申請用紙　　・購入者の運転免許証のコピー
・購入申請保証金50,000円（購入申請保証金は購入代金の一部とされる）。
⑤ 購入者が決定した時点より、主催者は車両を売買契約日まで保管しなければならない。
⑥ 売買契約日は、購入申請日から起算して10日以内の間に設定されなければならず、売主・購入者、そして主催者3者合意のもと、売買契約日を決定する。
⑦ ⑥にて決定された売買契約日に購入代金（現金）と、車両の受け渡しが行われる。
⑧ 売買契約日に売主・購入者双方とも、身分証明のコピーを主催者に提出しなければならない。
⑨ 売買契約は売主・購入者双方と主催者の立ち会いのもと行われる。
⑩ ⑥にて決定された売買契約日に購入者が購入代金を支払うことができない場合は、この売買契約は無効となり購入申請保証金50,000円は返却されない。また、この場合に発生する経費（運搬費等）は購入希望者が負担する。
⑪ 主催者が購入申請を行うことができる。
⑫ 売買された車両が、売主のエントラントから出場登録された場合、主催者はこれを拒否する事ができる。

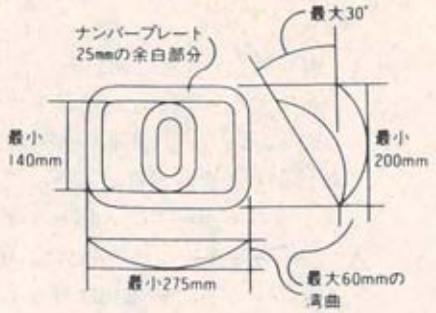
よくある質問と答え：

① ステアリングダンパーの取り付けは認められますか。
A：認められます。ステアリングダンパー取り付け目的の加工も認められます。
② インテークマニホールドに取り付けられたインテークチャンバーの取り外しは可能ですか。
A：取り外しできません。
③ ステアリングパイプ（ハンドルバー）の角度変更は認められますか。
A：取り付け方式、タイプは公認時から変更できません（左記に変更のない範囲で取り付け位置、角度調整は可能）。
④ エアクリーナーエレメントの取り外しは認められますか。
A：認~~められません~~。認められます。
⑥ ACGローターの軽量化は行ってよいですか。
A：認められません。
⑦ ACGステータコイルの取り外しは認められますか。
A：認められません。
⑧ リミッターカットに伴うメーンハーネスの交換は認められますか。
A：リミッターカットを目的としたメーンハーネス、イグナイターハーネス、CDIユニット、カードの交換は認められます。
⑩ リヤマッドガードの取り外し、カットは認められますか。
A：別体（ボルトオン）のライセンスプレートのみ取り外しできます。
⑪ 水温計取り付けのためにラジエターに加工してもよいですか。
A：ラジエターへの加工は認められません。
⑫ ラジエターホースを変更してもよいですか。
A：スタンダード品に限り認められます。
⑬ 指定タイヤのなかで、サイズ変更は認められますか。
A：原則的には、出荷時のサイズが望ましいです。
⑭ オートシフターの取り付けは認められますか。
A：認められません。
⑮ キックアームの取り外し、およびスターターギヤの取り外しは認められますか。
A：キックアームの取り外しは認められますが、ギヤの取り外しは認められません。
⑯ マフラーステーの取り外し、変更は認められますか。
A：ステーの取り外し、変更ともに認められます。
⑰ ウィンドスクリーンの変更は認められますか。
A：同一形状であれば認められます。

ワイヤーロック

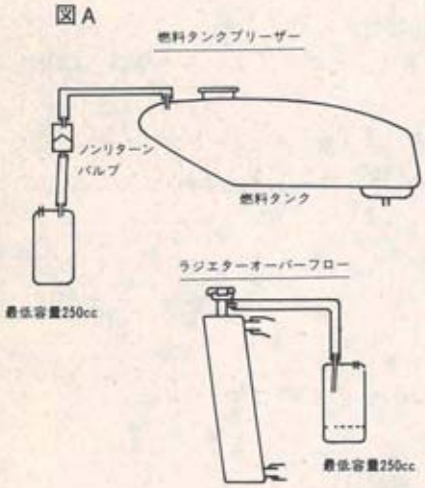


ナンバープレート

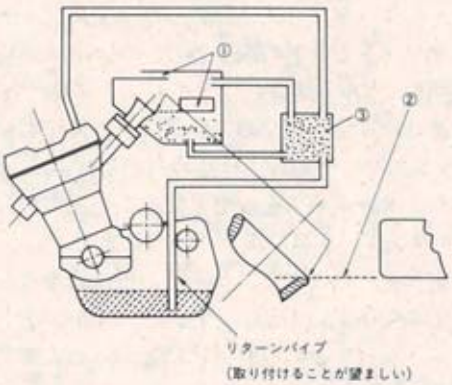


キャッチタンク

図A



4サイクルエンジンのブリーザーシステム



クローズドシステム
エアクリーナーボックスが装着されていない場合、ブローバイガスがキャブレターに吸入されるような措置を施すこと。
オイルキャッチタンク
最低容量500cc

開催日程(二輪・四輪)	スケジュール
2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月	サーキット事務所にお問い合わせ下さい。

開催日によりタイムスケジュールが異なりますので、ご予約の際ご確認ください。
＊日程の追加及び中止の場合があります。

定員	
二輪	100名
四輪	60名 ＊両、定員になり次第〆切らせていただきます。

持参するもの		申込用紙、運転免許証、印鑑、筆記用具、写真2枚(2.5cm×3cm)、承諾書・印鑑証明(未成年のみ)、入会金・年会費・受講料・保険証
走行に必要なもの	二輪	実技車両(125cc以上のスポーツバイク・レーサー可) 皮ツナギ、ヘルメット、グローブ、ブーツ
	四輪	実技車両(JAF国内競技車両にもとづく車両、又ノーマル車両、シートベルトは3点式以上のもの) ヘルメット、グローブ、レーシングシューズ、レーシングウェア(運転に適した服装)
申込方法		●必ず電話予約してください。 ●開催日の1ヶ月前より受付開始いたします。 ●予約先…エビススポーツクラブ事務所☎0243-24-2972

ESCライセンス料金とスポーツ走行料金

(ロード二輪・四輪は、西東コース共通会員とする。)

		ロード二輪	ロード四輪	ロードミニバイク西	スーパーカート東	モトクロス	カート	ミニバイク	ジムカーナ
入会金		8,000円	8,000円	5,000円	5,000円	3,000円	3,000円		3,000円
年会費		12,000円	20,000円	10,000円	15,000円	8,000円	8,000円		8,500円
講習料		5,000円	5,000円						
合計		25,000円	33,000円	15,000円	20,000円	11,000円	11,000円		11,500円
＊更新料		12,000円	20,000円	10,000円	15,000円	8,000円	8,000円		8,500円
走行料	会員	30分 2,000円	30分 平日2,500円 土日祝3,000円	30分 1,500円	2,500円	1日 1,000円	半日 2,500円	半日 2,500円	半日 3,000円
	非会員					1日 3,000円	半日 4,500円	半日 4,500円	半日 5,500円
保険料(1口)		500円	500円	500円	500円	500円	500円	500円	500円

＊更新料は更新時期によって料金が異なります。

エビスサーキット

福島県二本松市沢松倉1　TEL0243-24-2972

細則10

MFJライセンス昇格・降格に関する規則

1 目　的

本規則は、(財)日本モーターサイクルスポーツ協会（以下MFJという）が発給、管理する競技ライセンスの昇格・降格に関して規定し、モーターサイクル競技の公正を図ることを目的とする。

2 '99年度の昇格対象期間

'99年度の昇格対象期間は1999年１月１日から、1999年10月31日までとし、昇格した後、有効となるのは2000年１月１日からとする。11月１日より12月31日までに開催された競技の結果は、特別昇格の審査対象となる。

3 昇格、降格の種類と手続き

1）自動昇格とは

昇格対象期間内に規定の自動昇格の得点または順位を得た場合、ライセンスは上位区分に昇格する。自動昇格対象者にはその年の11月末日までにMFJより昇格が通知される。

自動昇格の権利を得て、翌年ライセンスを更新しなかった場合は、自動昇格の権利はなくなる。

2）申請昇格とは

昇格対象期間内に規定の申請昇格の得点または順位を得た場合、ライセンスは申請すれば上位区分に昇格する。申請昇格対象者にはその年の11月末日までにMFJより通知される。

申請昇格の権利を得て、翌年ライセンスを更新しなかった場合は、申請昇格の権利はなくなる。

3）自動降格、特別降格とは

ライセンスの欠格期間による自動降格、本人の申請により審査される特別降格がある（230頁参照）。

4）再昇格規定

ライセンスを降格した者が上位入賞した場合、ライセンスは再度昇格する（231頁参照）。

4 自動昇格に必要な得点（ポイント）

1）自動昇格に必要な得点（以下ポイントという）は公認競技会の格式別に完走者に対しその成績に応じて下記のように与えられる。（ドラッグレースは別途定める）

2）ジュニア部門の公認競技会におけるポイントは競技会の格式にかかわらず下記②その他の公認競技会のポイントとする。（トライアルは別途定める）

①全日本選手権・エリア選手権および地方選手権競技会(台数…予選出走台数)

順位＼台数	25以上	22-24	20-21	18-19	16-17	14-15	12-13	10-11	8-9	6-7	5	0-4
1位	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	不成立
2位	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	
3位	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15		
4位	13	13	13	13	13	13	13	13	13			
5位	11	11	11	11	11	11	11	11				
6位	10	10	10	10	10	10	10					
7位	9	9	9	9	9	9						
8位	8	8	8	8	8							
9位	7	7	7	7								
10位	6	6	6									
11位	5	5										
12位	4	4										
13位	3											
14位	2											
15位	1											

②その他の公認競技会

	予選出走台数					
順位	12以上	10-11	8-9	6-7	5	0-4
1位	10	10	10	10	10	不成立
2位	9	9	9	9	9	
3位	8	8	8	8		
4位	7	7	7	7		
5位	6	6	6			
6位	5	5	5			
7位	4	4				
8位	3	3				
9位	2					
10位	1					

注：出走台数は、そのクラスの決勝レースのスタートラインに並んだ台数とする。ただし、公式予選がある場合は、予選のスタートラインに並んだ総台数とする。

5 ロードレースライセンスの昇格

1）ジュニア→フレッシュマン・国内

自動昇格

(1) 当該年度に16歳になる者は、自動的にフレッシュマンとなる。

(2) 昇格した後も16歳に達するまでは参加できるクラスは下記を上限とする。

GP125、SP250F（この解除を希望する場合は、親権者の承諾書を添えてMFJ中央スポーツ委員会に申請し許可を得ること）

申請昇格

(1) ジュニアライセンスにてGP50・GP80クラスにて優秀な成績をおさめ昇格を希望する者は、参加している競技会の主催者の推薦を得て申請し、MFJ中央スポーツ委員会で認められた場合にフレッシュマンまたは国内ライセンスに昇格できる。年度の途中でも申請できるが、申請料5,000円（ライセンス料金含む）を必要とする。

2）フレッシュマン→国内

申請昇格

下記条件のいずれかを満たし申請することにより、国内ライセンスが随時取得できる。年度の途中でも申請できるが、ライセンス追加料金3,000円を必要とする。

(1) 公認サーキットでの3時間走行証明を得る（複数のサーキットで走行時間の合計は不可）。

※走行証明の有効期間は発行より1年間。

(2) 承認ロードレース競技会にて6位以内の成績を修めること。(過去2年以内)

(3) 承認ロードレース競技会にて過去2回以上参加した実績を有する。(過去2年以内)

(4) 国内ライセンス講習会を受けること。

※講習会終了証の有効期限は6ヶ月。

3）国内→国際

1 地方選手権

自動昇格

毎年1月～10月に開催された各地方選手権のGP125/250で、以下のポイントで自動昇格する（昇格の拒否はできない）。

北海道(HSP選手権、十勝選手権の合計)	60点以上
SUGO選手権	60点以上
仙台選手権	60点以上
エビス選手権	50点以上
関東選手権(筑波・富士・那須・もてぎ)	50点以上
筑波選手権	50点以上
間瀬選手権	50点以上
那須選手権	60点以上
もてぎ選手権	50点以上
鈴鹿選手権	50点以上
近畿選手権(猪名川・セントラル)	60点以上
西日本選手権(CP MINÉ)	50点以上
TI選手権	50点以上
四国選手権(阿讃)	60点以上
九州選手権(HSR九州・SPA直入)	60点以上

申請昇格

SP250/400にて上記の自動昇格ポイントを得た場合は、申請すれば国際ライセンスに昇格する。ただし昇格を希望する場合、昇格手続きが完了するまで競技へ出場できない。
※申請期限：2000年2月末日消印有効

2 エリア選手権

(1) エリア選手権のGP125/250/スーパーバイクでポイントを30点以上獲得した者は自動昇格する（SPクラスで30点以上の者は申請により昇格できる）。

(2) エリア選手権に国内ライセンスにて出場し優勝した場合は、申請すれば国際ライセンスに昇格する。この権利はその年度内（12月31日まで）を申請期限とする。その年度内であれば、優勝直後に昇格しなくてもよい。

6 モトクロスライセンスの昇格

1）ジュニア→国内B級

(1) 自動昇格

当該年度に16歳になる者は自動的に国内B級となる。

(2) 申請昇格（申請期日：12月31日消印有効）

公認競技会（10月31日まで）において各地方で下記に示す得点以上を獲得し、昇格申請を提出した者。（複数の地方ブロックにまたがる得点の合計はしない。）
注：得点は［④自動昇格に必要な得点］（226頁）による。

地方	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
得点	20	20	20	20	20	20	20	20

(3) 特別審査

その他、上記の基準と同等の技量を持つ者とモトクロス委員会にて承認推薦され、かつMFJ中央スポーツ委員会が承認した者。（年度途中でも申請でき、申請料は5000円ライセンス料含む）

2）国内B級→国内A級

(1) 自動昇格

公認競技会（10月31日まで）において各地方で下記のポイントを得た者（複数の地方ブ

ロックにまたがるポイントの合計はしない。）

地方	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
得点	40	40	40	50	30	50	50	40

3）国内A級→国際B級

(1) 自動昇格

公認競技会（10月31日まで）において各地方で下記のﾎﾟｲﾝﾄを得た者（複数の地方ブロックにまたがるポイントの合計はしない。80ccクラスは昇格の対象としない）

地方	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
得点	85	85	50	80	50	70	80	60

4）国際B級→国際A級

(1) 自動昇格

全日本選手権ランキングで各クラス1位～6位にランクされた者。

(2) 申請昇格

地方ブロックの地方選手権にてシリーズチャンピオン（250cc、125cc）となり本人が希望し、かつ当該ブロックの許可を得た者。（申請期日：12月31日消印有効）

5）オフロード全国大会（8/22HARP）選抜クラスの昇格

(1) 申請昇格（申請期日：12月31日消印有効）

a. 選抜クラス総合優勝者の2階級昇格者

ジュニア→国内A級／国内B級→国際B級／国内A→国際A級

b. 選抜クラス得たポイントは各地方ブロックの昇格ポイントに加算できる。

6）地方選手権におけるボーナスポイントについて

各地方選手権シリーズにおいて、年1戦のみボーナスポイント3点が加えられる。

※ ボーナスポイント対象大会については、各地方選手権カレンダーを参照すること。

7 トライアルライセンスの昇格

1）ジュニア→国内A級

自動昇格

ジュニア部門は国内B級部門との混走が認められ、昇格の基準は国内B級と同格に扱われる。（当該年度に16歳になる者は自動的に国内B級となる）

特別審査

その他特に優秀な成績をおさめ、トライアル委員会にて承認推薦された者で、MFJ中央スポーツ委員会で認められた場合は国内A級に昇格することができる。年度途中でも申請できるが、申請料5,000円（ライセンス料金含む）を必要とする。

2）国内B級→国内A級

自動昇格

公認競技会（10月31日まで）において各地方で下記のポイントを得た者（複数の地方ブロックにまたがるポイントの合計はしない）。

地方	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
得点	45	50	45	50	50	45	60	50

注) 得点は細則10［④自動昇格に必要な得点］（226頁）による（地方選手権、その他の公認競技会による年間のポイントを昇格の基準とする）。

特別審査

その他、上記の基準と同等以上の成績をおさめ、トライアル委員会にて承認推薦された者で、MFJ中央スポーツ委員会で認められた場合は、国内A級に昇格することができる。

年度途中でも申請できるが、申請料5,000円（ライセンス料金含む）を必要とする。

3）国内A級→国際B級

自動昇格

各地方ブロックごとの地方選手権（10月31日まで）において、下記の人数でポイント上位の成績を得た者。ただし、同点者のある場合は、この人数を超えることができる。

地方	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
人数	2	5	13	5	8	6	3	7

特別審査

上記の基準と同等以上の成績をおさめ、**トライアル委員会にて**承認推薦された者で、MFJ中央スポーツ委員会で認められた場合は、国際B級に昇格することができる。**年度途中でも申請できるが、申請料5,000円（ライセンス料金含む）を必要とする。**

4）国際B級→国際A級

自動昇格

(1) 全日本選手権ランキングで、1位から8位にランクされた者。ただし、同点者のある場合はこの人数を超えることができる。

申請昇格

(1) 各地方ブロックの地方選手権にてシリーズチャンピオンとなり、本人が希望し、かつ当該ブロックの許可を得た者。**（申請期限：12月31日消印有効）**

(2) その他

トライアルグランドチャンピオン大会（11/14坂内バイクランド）グランドチャンピオンクラス（J／NB／NA混走）の上位15位（参加25台以上の場合）までの入賞者は、IBクラスへの昇格申請ができる。

全日本選手権　国際A級⇔国際A級スーパークラス

1　申請昇格

全日本選手権国際A級ランキングで、1位から3位にランクされた者は、申請すればスーパークラスへ昇格できる。（申請期限：12月31日消印有効）

2　自動降格

全日本選手権国際A級スーパークラスランキングで11位以下の者およびポイントを獲得できなかった者は、翌年国際A級に自動降格となる。この場合、再昇格規定は適用されない。 ただし特別な理由により

8 ドラッグレースライセンスの昇格

1）B級部門→A級部門

(1) 対象クラス：ストックバイク

(2) 昇格基準：地方選手権において100ポイント以上のポイントを得たもの。

(3) ドラッグレース委員会が認めた者。

9 自動降格の基準

1）ライセンスの更新がなされなかった場合は、その欠格期間（ライセンスを取得しなかった期間）によって次表によりライセンス等級が自動降格される。

●自動降格基準表　※'99年度ライセンスを取得した場合

種目 / 最終ライセンス取得年 / 部門	モトクロス・トライアル				ロードレース	スノーモビル
	国内B級	国内A級	国際B級	国際A級	国際	A級
'97年（欠格1年）	国内B級	国内A級	国際B級	国際A級	国際	A級
'96年（欠格2年）	〃	〃	〃	〃	〃	〃
'95年（欠格3年）	〃	国内B級	国内A級	〃	〃	〃
'94年（欠格4年）	〃	〃	国内B級	国際B級	国内	B級
'93年（欠格5年）	〃	〃	〃	〃	〃	〃
'92年以前	〃	〃	〃	国内A級	〃	〃

※ロードレースライセンスの継続手続において、6年以上の欠格期間がある場合は
MFJ公認サーキットの走行証明を提示することが必要
（申請時有効なサーキットライセンス等）

10 特別昇格およびその手続き

1）昇格基準と同等とみなされる成績を得た（当該年の11月1日以降の公認競技会の成績も考慮される）者で、昇格を希望する者は、特別昇格の申請ができる。

2）申請は、前年の11月1日から12月31日までMFJ事務局に到着することを要し、それ以外の申請は受理されない。

3）申請は所定の申請書に必要事項を記入し、所属する県支部、地方ブロック支部の承認を得て、MFJ事務局に申請するものとする。
なお、所定の申請書は、MFJ事務局に用意されており、請求に応じて送付される。

4）申請にあたっては、申請書に申請料3,000円を添えて、県支部に提出すること。

5）特別昇格についての最終決定はMFJ中央スポーツ委員会の審査結果による。

11 特別降格およびその手続き

1）MFJ競技ライセンス資格の降格を希望する者は次の手続きによって申請し、MFJスポーツ委員会の審査によって認められた場合は、降格することができる。

2）前項の申請は、特別降格をしようとする前年の11月1日から12月31日までMFJ事務局に到着することを要する。申請者の用紙は、MFJ事務局に準備され、それに必要事項を記入し申請料3,000円を添えて県支部、地方ブロック支部の承認を得、MFJ事務局に申請する。

3）降格承認後は降格が決められた日より、その年度の終了する日まで、再昇格基準が適用される。

4）申請にあたっては、申請書に申請料3,000円を添えて、県協会へ提出すること。

5）特別降格についての最終的な決定は、MFJ中央スポーツ委員会の審査結果による。

※特別降格申請は、原則的にそのライセンス区分にて、得点を得られないまま1年以上経過した者のみを対象とする。

12 再昇格基準

ライセンスの降格があった者が、次の基準に適合することとなった場合は、原則として次の競技会からライセンス等級がひとつずつ再昇格する。基準に適合した者は、昇格されたライセンスと引き換えに旧ライセンスを、MFJ事務局に返納しなければならない。（但し、この規則は特別降格申請が認められた年度および自動降格が適用された年度のみ適用する。）

1）**ロードレース**

(1) 地方選手権以上のシリーズ大会において、原則として優勝した者。

(2) 公式記録によるラップタイム等により、MFJ中央スポーツ委員会が特に必要と認め、承認した者。

2）モトクロス

(1) 国際B級部門から国内A級部門に降格した場合は、MFJ中央スポーツ委員会にて審議し、承認された者。

(2) 国内B級部門に降格した場合は、MFJ公認競技会において優勝した者。

(3) MFJ中央スポーツ委員会が特に必要と認め、承認した者。

3）トライアル

(1) 国際B級部門に降格した場合、全日本選手権シリーズにおいて優勝した者。

(2) 国内A級部門に降格した場合は、地方選手権シリーズにおいて優勝した者。

(3) 国内B級部門に降格した場合は、MFJ公認競技会において6位以内に入賞した者。
※6位入賞が成立する台数は、公認競技会のポイント（227頁）による。

(4) その他MFJ中央スポーツ委員会が特に必要と認め、承認した者。

附則

本規則は、1999年1月1日から施行する。

全日本選手権ランキング決定基準

1）全日本選手権ランキング順位決定方法

全日本選手権ランキングの順位づけは次の方法により決定される。

(1) 全日本選手権シリーズ大会で得たすべての得点を合計し、総合得点の多い者から順位を決定する。ただし、獲得点数が40点未満の場合はチャンピオンとせず、ランキング2位とする。

(2) 上記1）で同点となった場合、上位入賞回数の多い者が上位となる。

(3) 上記2）で決定できない場合、前年度のランキング上位のものを上位とする。

(4) 上記3）で決定できない場合、MFJ中央スポーツ委員会において最終決定する。

全日本選手権認定表彰式典〔平成11年12月11日(土)暫定〕

全日本選手権ランキング決定基準に基づき決定された、下記の全日本選手権各クラス上位1位～3位の者は、その栄誉をたたえ、1999年12月11日(土)(暫定) に開催される'99MFJ全日本選手権ランキング認定表彰式にて表彰される。受賞者は必ず出席しなければならない。

ロードレース	モトクロス	トライアル	ドラッグレース	スノーモビル
国際GP125	国際A級125	国際A級スーパークラス	A級プロストックバイククラス	A級スーパークラス
国際GP250	国際A級250	国際A級		A級　S1
国際スーパーバイク	国際B級125	国際B級		A級　S2
国際S-NK	国際B級250			A級　S3
				A級　S4

細則11

MFJ公認クラブ等の名称に関する規定

この規程は、財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会（以下「MFJ」という）に登録するクラブ及び団体（以下「クラブ等」という）の名称の取り扱いに関して規定する。

第1条　クラブ等の登録

クラブ等が、MFJに登録する場合は、5名以上のライセンス（Lライセンスを含む）を取得していなければならない。クラブ等が、公認競技会の主催者となる場合の条件は、別に定める。

第2条　クラブ等の名称の使用

クラブ等の名称は、MFJの承認を受けたものでなければ使用してはならない。
承認の申請は、MFJに対して行なわなければならない。

第3条　使用してはならない名称

次の各項に掲げる名称については承認されない。

1．国際モーターサイクリスト連盟（FIM）及びFIM加盟の各国モーターサイクリスト連盟（各国モーターサイクル協会）の名称及びその略称。
2．MFJに既に登録されているクラブ等の名称及びその略称、ただし、当該クラブ等の同系列であり、地名等を付し、かつ、名称に関する権利保有者の名称使用についての同意書を得た場合はこの限りでない。
3．著名な商品名、会社名及びこれに類似する名称。ただし、当該関係会社（二輪車メーカーを除く）と同系列等直接又は間接に関係があり、かつ名称使用の同意書がある場合はこの限りでない。
4．連盟（Federation）、協会（Association）、組合（Union）など、および同義語など。
5．日本、国際、アジア、極東、ナショナル、ロイヤル、インペリアル、太平洋などの誇大にわたる名称及びこれとの同意義語。

第4条　その他承認されない名称

新規登録の場合、第2条の各項に該当する以外の名称であっても、公序良俗に反するか、または社会通念上奇異に感じられる名称並びに実質と内容が伴わない名称については、MFJ中央スポーツ委員会において審査し、却下しまたは変更を求めることがある。
更新登録の場合において、その名実が相反することとなった場合は、改称を求めることがある。

第5条　使用の文字

クラブ等の名称は、漢字、片仮名、平仮名および数字のいずれかを用いた組合せによって表示されなければならない。略称は、ローマ字で示すこととする。ただし地名を付記するものはこの限りではない。

第6条　名称の由来

クラブ等が新規に登録する際、必要により当該クラブ等に対しその名称の由来について、説明書の添付を求めることがある。

第7条　名称の変更

MFJに既に登録されたクラブ等の名称変更の申請がなされたときは、これを審査し、この規程の趣旨に反しないと認めた場合は、これを承認することとする。

第8条　附　則

本規程は、1986年2月20日から施行する。本規定施行の際、既に承認されているクラブ等の名称は、この規程の趣旨に反しない限りはなお従前の例による。

■共済会制度

(平成11年1月1日～12月31日までの競技会)

種目	共済会掛金(保険料)(1名1大会)	共済会見舞金支払額		請求のために必要な書類
		最高限度額(死亡、後遺症100%)	共済会見舞金支払額	
ロードレース(81cc以上)	3,000円	共済会見舞金 1,200万円 (共済会が契約した傷害保険含む)	共済会見舞金 A 通院実日数(ギブス等の固定期間および通勤、通学、就業が不可能として診断された日数含む)×1,000円 B 入院実日数×2,000円 C 診断書作成補助金 5,000円	○共済会見舞金請求書(様式9) ○完治したときの医師の診断書(様式10) 死亡、後遺症の場合は、上記、様式9のほかに傷害保険請求用紙(三井海上)等の各種書類が必要となります。
ロードレース(80cc以下)	1,500円			
ドラッグレース	1,500円			
ダートトラックレース	500円			
モトクロス(市販車、レーサー125cc以上)	1,500円			
ミニモトクロス(80cc以下)	500円			
トライアル	300円			
ミニバイクレース	500円			
エンデューロ	1,000円			
ジムカーナ	500円			
スノーモビル	500円			
ツーリング・ラリー	500円			
バイクトレッキング	500円			
ロードレースライセンス講習会(ライセンス保持者のレーシングスクール含む)	1,000円			
モトクロスライセンス講習会(ライセンス保持者のレーシングスクール含む)	500円			
トライアルライセンス講習会(ライセンス保持者のテクニカルスクール含む)	300円			
スノーモビルライセンス講習会	500円			
ミニバイク講習会	500円			
ロードレース競技役員講習会	200円			
モトクロス競技役員講習会	200円			
トライアル競技役員講習会	200円			
ビットクルー	年間500円			

☆見舞金の支払われる期間は、受傷日から最高180日間以内の入院および通院の実日数分となります。
★見舞金の請求期限は、受傷日より一年以内です。一年以上経過しますとその請求権は無効となります。
☆見舞金の支払われる適用範囲は、公認または承認された当該競技会の公式日程期間(主催者が申請した大会期間)で、かつ競技監督の統轄下において行われた競技中、または公式練習中に発生した事故とする(※サーキットが行う特別スポーツ走行時の事故は、見舞金の請求は出来ません)。
☆同一大会で二種目以上出場する場合は、掛金の高い種目が適用されます。
☆共済会は治療費の支払いはありません。
☆死亡、後遺症見舞金を受ける場合は、入通院見舞金および診断書作成補助金は受けられません。
☆死亡見舞金の請求者は、法定相続人に限られます。
☆競技役員、講師の共済会見舞金は別に定めるMFJ競技役員傷害保険によります。

■共済会見舞金請求の手続きは…

1．まず主催者に連絡

負傷したその日に主催者に連絡してください。万一その日に連絡できない場合は、負傷日より2日後までにご連絡ください。なお、連絡がない場合は、見舞金が支払われませんのでご注意ください。

2．大会主催者から共済会見舞金請求書(様式9)と診断書書式(様式10)をもらう

ケガをした大会の主催者またはMFJに、共済会見舞金請求書(様式9)と共済会指定の診断書(様式10)を請求してください。

3．請求先は共済会事務局

請求書中に必要な事項を記入し、治療先の医師に診断書の記入を依頼してください。書類は一括して負傷者本人(代理人でもよい)が共済会事務局長宛(MFJ内)に請求してください。見舞金は書類に不備のない場合に限り、2ケ月以内に指定口座に振り込まれます。

本人
↓
共済会事務局
↓
本人宛銀行振込

MFJ公認車両

★は公認が継続された車輌、商品を表す

('98年12月7日現在)

■本田技研工業㈱　〒107-8556　東京都港区南青山2-1-1　☎03-3423-1111

●一般市販車（オンロードタイプ）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボアXストローク	公認年月日	SP	SB	GP	MX	TR
★	NSR250R（初回公認'91年）	MC21	MC16E	249	54.0X54.5	96. 1.23	○				
★	CBR400RR（初回公認'87年）	NC23	NC23E	399	55.0X42.0	96. 6.25	○				
★	VFR750R（初回公認'87年12月9日）	RC30	RC07E	748	70.0X48.6	98. 1.27		○			
★	VFR400R（初回公認'89年1月20日）	NC30	NC13E	399	55.0X42.0	98. 1.27	○				
★	NSR250RSP（初回公認'88年5月13日）	MC18	MC16E	249	54.0X54.5	98. 1.27	○				

●一般市販車（オフロードタイプ）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボアXストローク	公認年月日	SP	SB	GP	MX	TR
★	XLR200R（初回公認'93年10月24日）	MD29	MD29E	196	63.5X62.2	98. 1.27					
★	XLR125R（初回公認'93年10月24日）	JD16	JD09E	124	56.5X49.5	98. 1.27					

●スポーツ専用市販車（モトクロッサー）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボアXストローク	公認年月日	SP	SB	GP	MX	TR
★	XR250R（初回公認'89年）	ME06	ME06E	249	73.0X59.5	95. 7.25				○	
	XR250R	ME08	ME08E	249	73.0X59.5	95. 8.25				○	
	CR250R	ME03	ME03E	249.3	66.4X72.0	95. 9.22				○	
	CR125R	JE01	JE01E	124.8	54.0X54.5	95. 9.22				○	
	CR80R	HE04	HE04	79.4	46.0X47.8	95.11.24				○	
	CR80R2	HE04	HE04	79.4	46.0X47.8	95.11.24				○	
	CR125R	JE01	JE01E	124.8	54.0X54.5	96. 8.23				○	
	CR250R	ME03	ME03E	249.3	66.4X72.0	96.10.24				○	
	CR250R	ME03	ME03E	249.3	66.4X72.0	97. 7.23				○	
	CR125R	JE01	JE01E	124.8	54.0X54.5	97. 9.24				○	
★	CR250R（初回公認'93年9月24日）	ME03	ME03E	249.3	66.4X72.0	98. 1.27				○	
★	CR125R（初回公認'93年9月24日）	JE01	JE01E	124.8	54.0X54.5	98. 1.27				○	
★	CR80R（初回公認'93年9月24日）	HE04	HE04E	79.4	46.0X47.8	98. 1.27				○	
	CR250R	ME03	ME03E	249.3	66.4X72.0	98. 7.29				○	
	CR125R	JE01	JE01E	124.8	54.0X54.5	98. 8.18				○	
	CR80R2	HE04	HE04E	79.4	46.0X47.8	98. 7.29				○	
	CR80R	HE04	HE04E	79.4	46.0X47.8	98. 7.29				○	

●スポーツ専用市販車（トライアラー）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボアXストローク	公認年月日	SP	SB	GP	MX	TR
★	TLM220R（初回公認'88年5月13日）	MD23	MD23E	216	69.0X58.0	98. 1.27					○
★	TLM200R（初回公認'87年5月6日）	MD15	MD15E	193	67.0X55.0	98. 1.27					○

■㈱ホンダレーシング　〒351-0024　埼玉県朝霞市泉水3-15-1　☎048-461-9511

●スポーツ専用市販車（ロードレーサー）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボアXストローク	公認年月日	SP	SB	GP	MX	TR
★	91-RS250R（初回公認'90年）	RS250RF	RS250RE	249	54.0X54.5	95. 1.24			○		
★	90-NSR250RK（初回公認'90年）	NH3F	NH3E	249	54.0X54.5	95. 1.24			○		
	96RS125R	JR01	JR01E	124	54.0X54.5	95.11. 1			○		
	96RS250R	MR01	MR01E	249	54.0X54.5	95.12. 1			○		
★	91RS125R（初回公認'90年）	RS125RF	RS125RE	124	54.0X54.5	96. 1.23			○		
★	92RS250R（初回公認'91年）	RS250RF	RS250RE	249	54.0X54.5	96. 1.23			○		
	97RS125R	JR01	JR01E	124	54.0X54.5	96.11. 1			○		
	97RS250R	MR01	MR01E	249	54.0X54.5	96.12. 1			○		
★	92RS125R（初回公認'91年）	RS125RF	RS125RE	124	54.0X54.5	97. 1.28			○		
★	93RS250R（初回公認'92年）	RS250RF	RS250RE	249	54.0X54.5	97. 1.28			○		
	98RS125R	JR01	JR01E	124	54.0X54.5	97.10.29			○		
	98RS250R	MR01	MR01E	249	54.0X54.5	97.11. 1			○		
★	94RS125R（初回公認'93年12月1日）	RS125RF	RS125RE	124	54.0X54.5	98. 1.27			○		
★	93RS125R（初回公認'93年1月1日）	RS125RF	RS125RE	124	54.0X54.5	98. 1.27			○		

●スポーツ専用市販車（トライアラー）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボアXストローク	公認年月日	SP	SB	GP	MX	TR
	95TLR260	TLR260F	TLRE	261	71.0X66.0	95. 1. 1					○
★	91TLM260R（初回公認'90年）	TLM260RF	NN1	256.2	75.0X58.0	95. 1.24					○
★	90TLM260R（初回公認'90年）	TLM260RF	NN1	256.2	75.0X58.0	95. 1.24					○
★	92TLM260R（初回公認'91年）	TLM260RF		256.2	75.0X58.0	96. 1.23					○
	97RTL250R	RTL250RF	NN3E	249	72.2X61.0	97. 3. 1					○
	98RTL250R	RTL250RF	NN3E	249	72.2X61.0	97.12. 1					○
★	87TLM240R（初回公認'86年10月13日）	TLM240F		236	72.0X58.0	98. 1.27					○
★	86TLM240R（初回公認'85年11月28日）	TLM240F		236	72.0X58.0	98. 1.27					○
★	87RTL250S（初回公認'86年10月30日）	RTL250SF	RTL250E	249	70.0X64.9	98. 1.27					○
★	86RTL250S（初回公認'86年1月30日）	RTL250SF		249	70.0X64.9	98. 1.27					○
★	85RTL250S（初回公認'84年12月11日）	RTL250SF		249	70.0X64.9	98. 1.27					○

■ヤマハ発動機㈱　〒438-8501　静岡県磐田市新貝2500　☎0538-37-4111

●一般市販車（オンロードタイプ）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	SP	SB	GP	MX	TR
★	FZR750R（初回公認'89年）	3FV	3FV	749	72.0×46.0	95. 1.24	○	○			
	TZR250SPR	3XV	3XV	249	56.0×50.7	95. 2.15	○		○		
	YZF750SP	4JD	4JD	749	72.0×46.0	95. 3. 9	○	○			
	TZR50R	4EU	4EU	49	40.0×39.7	95. 4. 1	○				
	TRX850	4NX	4NX	849	89.5×67.5	95. 5. 1		○			
	XJR1200	4KG	4CC	1188	77.0×63.8	95. 5. 1					
	XJR400	4HM	4HM	399	55.0×42.0	95. 5.10	○				
	XJR400R	4HM	4HM	399	55.0×42.0	95. 4.28	○				
★	TZR250SP（初回公認'91年）	3XV	3XV	249	56.0×50.7	96. 1. 1	○				
	XJR400 R II	4HM	4HM	399	55.0×42.0	96. 3.23	○				
★	TZR250R（初回公認'89年）	3MA	3MA	249	56.0×50.7	96. 4.23	○				
★	TZR250SP（初回公認'90年）	3MA	3MA	249	56.0×50.7	96. 4.23	○				
★	TZR250（初回公認'90年）	3MA	3MA	249	56.0×50.7	96. 4.23	○				
	XJR400R	4HM	4HM	399	55.0×42.0	96. 5. 1	○				
	XJR1200	4KG	4CC	1188	77.0×63.8	96. 5.10	○				
	XJR1200R	4KG	4CC	1188	77.0×63.8	96. 5.10	○				
	XJR400	4HM	4HM	399	55.0×42.0	96. 5.26	○				
	SRV250	4DN	4DN	248	49.0×66.0	96. 6. 1	○				
	DT50LC	17W	5R2	49	40.0×39.7	96. 6.20					
	SR400	1JR	2H6	399	87.0×67.2	96.12. 1	○				
	SR500	1JN	2J2	499	87.0×84.0	96.12. 1	○				
	FZ400	4YR	4YR	399	56.0×40.5	97. 5.20					
★	TZR250RS（初回公認'92年）	3XV	3XV	249	56.0×50.7	97. 2.25	○				
★	TZR250RS（初回公認'93年）	3XV	3XV	249	56.0×50.7	98. 1. 1	○				
★	TZR250RSP（初回公認'93年）	3XV	3XV	249	56.0×50.7	98. 1. 1	○				
★	FZR400RRSP（初回公認'93年）	3TJ	1WG	399	56.0×40.5	98. 1. 1	○				
★	YZF750SP（初回公認'93年5月5日）	4JD	4JD	749	72.0×46.0	98. 1. 1		○			
★	XJR400（初回公認'93年5月27日）	4HM	4HM	399	55.0×42.0	98. 1. 1	○				
★	SR500（初回公認'93年4月25日）	1JN	2JZ	499	87.0×84.0	98. 1. 1	○				
★	SR400（初回公認'93年4月25日）	1JR	2H6	399	87.0×67.2	98. 1. 1	○				
★	SRV250S（初回公認'93年7月22日）	4DN	4DN	248	49.0×66.0	98. 1. 1	○				
★	SRV250（初回公認'93年6月27日）	4DN	4DN	248	49.0×66.0	98. 1. 1	○				
★	SRV250（初回公認'93年7月22日）	4DN	4DN	248	49.0×66.0	98. 1. 1	○				
★	TZR50R（初回公認'93年5月10日）	4EU	4EU	49	40.0×39.7	98. 1. 1	○				
★	TZR250R（初回公認'93年4月25日）	3XV	3XV	249	56.0×50.7	98. 1. 1	○				
	XJR1300	PR01J	P501E	1250	79.0×63.8	98. 5. 5					
	TDM850	RN03J	N401E	849	89.5×67.5	98. 9.10		○			

●一般市販車（オフロード）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	SP	SB	GP	MX	TR
	TY250ZS	4ML	4ML	249	74.0×58.0	95. 2. 1					○
	XT225W	4JG	1KH	223	70.0×58.0	95. 4. 1					
	TT250R	4GY	4GY	249	72.0×59.6	95. 5. 1					
	TT250RRaid	4GY	4GY	249	72.0×59.6	95. 6. 1					
	TT250RRaid	4WA	4GY	249	73.0×59.6	96. 5. 1					
	XT225WE	4JG	1KH	223	70.0×58.0	97. 6.10					
	ST225	5BT	5BT	223	70.0×58.0	97. 7.10					
★	TT250R（初回公認'93年5月24日）	4GY	4GY	249	73.0×59.6	98. 1. 1					
	XT225W（初回公認'93年8月11日）	4JG	1KH	223	70.0×58.0	98. 1. 1					
	XT225（初回公認'92年7月16日）	1KH	1KH	223	70.0×58.0	97.12.24					

●スポーツ専用市販車（ロードレーサー）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	SP	SB	GP	MX	TR
	TZ250	4DP	4DP	249	56.0×50.7	95. 1. 1			○		
★	TZ250（初回公認'89年）	3TC	3TC	249	56.0×50.7	95. 1.24			○		
	TZ125	4JT	4JT	124	56.0×50.7	95.10.26			○		
	TZ250	4TW	4TW	249	56.0×50.7	95.11.24			○		
★	TZ250（初回公認'91年）	4DP	4DP	249	56.0×50.7	96. 1. 1			○		
★	TZ250（初回公認'90年）	3YL	3YL	249	56.0×50.7	96. 1.23			○		
★	TZ250（初回公認'90年）	3YL	3YL	249	56.0×50.7	96. 6.25			○		
★	TZ250（初回公認'88年）	3LC	3LC	249	56.0×50.7	96. 6.25			○		
★	TZ250（初回公認'87年）	3AK	3AK	249	56.0×50.7	96. 6.25			○		
	TZ125	4JT	4JT	124.8	56.0×50.7	96.11. 1			○		
	TZ250	4TW	4TW	249.6	56.0×50.7	96.12. 1			○		
★	TZ250（初回公認'92年）	4DP	4DP	249	56.0×50.7	97. 2.25			○		
	TZ125	CE02C	E102E	124.8	54.0×54.5	97.10. 1			○		
	TZ250	CG03C	4TW	249.6	56.0×50.7	97.11. 1			○		
★	TZ250（初回公認'93年12月15日）	4DP	4DP	249	56.0×50.7	98. 1. 1			○		
★	TZ125（初回公認'93年11月9日）	4JT	4JT	124	56.0×50.7	98. 1. 1			○		
	TZ125	CE04C	E106E	124.8	54.0×54.5	98.10. 2			○		
	TZ250	CG06C	4TW	249.6	56.0×50.7	98.11. 6			○		

●スポーツ専用市販車（モトクロッサー）

	車　名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボアXストローク	公認年月日	SP	SB	GP	MX	TR
★	YZ250（初回公認'88年）	3JE	3JE	246	68.0X68.0	95. 2.28				○	
	YZ80	4GT	4GT	79.4	46.0X47.8	95. 8.20				○	
	YZ125	4SS	4SS	124	54.0X54.5	95. 9. 1				○	
	YZ250	4SR	4SR	249	68.0X68.8	95. 9.25				○	
★	YZ250（初回公認'90年）	3XK	3XK	249	68.0X68.8	95.12.26				○	
★	WR250Z（初回公認'91年）	4DC	4DC	249	68.0X68.8	96. 1. 1				○	
★	YZ250（初回公認'91年）	4DA	4DA	249	68.0X68.8	96. 1. 1				○	
★	YZ125（初回公認'91年）	4DB	4DB	124	56.0X50.7	96. 1. 1				○	
	YZ125	4XM	4XM	124	54.0X54.5	96. 8.20				○	
	YZ80	4GT	4GT	79.4	46.0X47.8	96. 8.20				○	
	YZ80LW	4LB	4LB	79.4	46.0X47.8	96. 8.20				○	
	YZ250	4XL	4XL	249	68.0X68.8	96. 9. 1				○	
	WR250Z	4XK	4XK	249	68.0X68.8	96.10. 1				○	
★	YZ250（初回公認'92年）	4EW	4EW	249	68.0X68.8	97. 2.25				○	
★	YZ125（初回公認'92年）	4EX	4EX	124	56.0X50.7	97. 2.25				○	
★	YZ80（初回公認'92年）	4GT	4GT	79	46.0X47.8	97. 2.25				○	
	YZ80	CB01C	4GT	79.4	46.0X47.8	97. 8.10				○	
	YZ80LW	CB02C	4LB	79.4	46.0X47.8	97. 8.10				○	
	YZ125	CE01C	E101E	124	54.0X54.5	97. 8.10				○	
	YZ250	CG01C	G101E	249	68.0X68.8	97. 8.10				○	
	WR250Z	CG02C	G102E	249	68.0X68.8	97. 9.20				○	
★	YZ250（初回公認'93年9月7日）	4JX	4JX	249	68.0X68.8	98. 1. 1				○	
★	YZ125（初回公認'93年11月4日）	4JY	4JY	124	54.0X54.5	98. 1. 1				○	
★	YZ80LW（初回公認'93年10月10日）	4LB	4LB	79.4	46.0X47.8	98. 1. 1				○	
★	WR250Z（初回公認'93年11月13日）	4JW	4JW	249	68.0X68.8	98. 1. 1				○	
	YZ250	CG05C	G103E	249	66.4X72.0	98. 8. 1				○	
	YZ125	CE03E	E105E	124	54.0X54.5	98. 8. 1				○	
	WR400F・5BF	CH02W	H304E	399	92.0X60.1	98.11.25				○	
	WR400F・5GS	CH04W	H309E	399	92.0X60.1	98. 1.17				○	
	YZ400F・5BE	CH01C	H303E	399	92.0X60.1	98.11.25				○	
	YZ400F・5GR	CH03C	H308E	399	92.0X60.1	98.12.11				○	

●スポーツ専用市販車（トライアラー）

	車　名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボアXストローク	公認年月日	SP	SB	GP	MX	TR
	TY250Z	4GG	4GG	249	74.0X58.0	95. 1.15					○
	TY250Z	4GG	4GG	249	74.0X58.0	96. 1.26					○
	TY250Z	4GG	4GG	249	74.0X58.0	97. 1. 1					○
★	TY250Z（初回公認'93年）	4GG	4GG	249	74.0X58.0	98. 1. 1					○

■スズキ㈱　〒432-8611　静岡県浜松市高塚町300　☎053-440-2376

●一般市販車（オンロードタイプ）

	車　名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボアXストローク	公認年月日	SP	SB	GP	MX	TR
★	RGV250Γ SP（初回公認'90年）	VJ22A	J206	249.2	56.0X50.6	95. 5.23	○				
★	GSX-R400RSP（初回公認'90年）	GK76A	K709	398	56.0X40.4	95. 5.23	○				
	GSX-R750	GR7DA	R726	749	72.0X46.0	96. 2.28		○			
	RGV-Γ 250SP	VJ23A	J209	249.6	54.0X54.5	96. 4.29	○				
★	RG125Γ（初回公認'92年）	NF13A	F116	124	56.0X50.6	97. 2.25	○				
	DJEBEL250	SJ45A	J425	249	73.0X59.6	98. 8.23					

●スポーツ専用市販車（モトクロッサー）

	車　名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボアXストローク	公認年月日	SP	SB	GP	MX	TR
	RMX250	PJ12A	J112	249.6	67.0X70.3	95. 3.28				○	
	RM80ラージホイール仕様	RC12B	C114	79.5	46.5X46.8	95. 6.23				○	
	RM125	RF15A	F114	124.8	54.0X54.5	95. 8.27				○	
	RM250	RJ17A	J115	249.3	66.4X72.0	95.10.28				○	
★	RMX250（初回公認'89年）	PJ11A	J111	249.6	67.0X70.8	96. 3.26				○	
★	RM250N（初回公認'91年）	RJ15A	J110	249.6	67.0X70.8	96. 3.26				○	
★	RM125N（初回公認'91年）	RF14A	F114	124.8	54.0X54.5	96. 3.26				○	
	RM125V	RF15A	F114	124.8	54.0X54.5	96. 9.27				○	
	RM250V	RJ17A	J115	249.3	66.4X72.0	96.10. 2				○	
	RM80LW	RC12B	C114	79.5	46.5X46.8	97. 7.23				○	
	RM125W	RF15A	F114	124.8	54.0X54.5	97. 8.29				○	
	RM250W	RJ17A	J115	249.3	66.4X72.0	97. 9.30				○	
	RM250X	RJ17A	J115	249.3	66.4X72.0	98. 9. 1				○	
	RM125X	RF15A	J114	124.8	54.0X54.5	98. 8. 1				○	
	RM80LX	RC12B	C114	79.5	46.5X46.8	98. 7.11				○	

■川崎重工業㈱　〒673-8666　兵庫県明石市川崎町1-1　☎078-921-1317

●一般市販車（オンロードタイプ）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	SP	SB	GP	MX	TR
	ZRX-II	ZR400E	ZX400KE	399	57.5×38.5	95. 3.24	○	○			
	GPZ1100	ZXT10E	ZXT10CE	1052	76.0×58.0	95. 5.28					
★	ZXR400R（初回公認'91年）	ZX400L	ZX400GE	398	57.0×39.0	95.12.26	○				
★	ZEPHYR（初回公認'91年）	ZR400C	ZX400AE	399	55.0×42.0	95.12.26	○				
★	ZXR750R（初回公認'91年）	ZX750J	ZX750JE	749	71.0×47.3	95.12.26	○	○			
★	ZXR400R（初回公認'91年）	ZX400L	ZX400GE	398	57.0×39.0	95.12.26	○				
★	ZXR750（初回公認'91年）	ZX750J	ZX750JE	749	71.0×47.3	95.12.26	○				
	VULCAN Classic	VN400A	VN400AE	399	62.0×66.2	96. 2.26	○				
	ZEPHYRχ	ZR400C	ZX400AE	399	55.0×42.0	96. 5.26	○				
	ZEPHYRχ	ZR400C	ZX400AE	399	55.0×42.0	97. 6.22	○				
	ZXR-II	ZR400E	ZX400KE	399	57.5×38.5	98. 7.26	○				
	ZRX	ZR400E	ZX400KE	399	57.5×38.5	98. 7.26	○				
	D-TRACKER	LX250E	LX250DE	249	72.0×61.2	98. 7.26	○				
★	ZXR250（初回公認'93年 4月1日）	ZX250C	ZX250CE	249	49.0×33.1	98. 6.23	○				

●一般市販車（オフロードタイプ）

車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	SP	SB	GP	MX	TR
Super SHERPA	KL250G	KL250GE	249	72.0×61.2	97. 4.25					
KLX250	LX250E	LX250DE	249	72.0×61.2	98. 7.26					

●スポーツ専用市販車（モトクロッサー）

車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	SP	SB	GP	MX	TR
KX250	KX250K	KX250KE	249.3	66.4×72.0	95. 8.20				○	
KX125	KX125K	KX125KE	124.8	54.0×54.5	95. 8.20				○	
KX80	KX080S	KX080SE	79	47.0×45.8	95. 9.10				○	
KX80-II	KX080V	KX080SE	79	47.0×45.8	95. 9.10				○	
KX60	KX060B	KX060BE	60	43.0×41.6	95. 9.10				○	
KLX300R	LX300A	LX300AE	292.4	78.0×61.2	96. 5.23				○	
KX250	KX250K	KX250KE	249	66.4×72.0	96. 8.25				○	
KX125	KX125K	KX125KE	124	54.0×54.5	96. 8.25				○	
KX80	KX080S	KX080SE	79	47.0×45.8	96. 8.25				○	
KX80-II	KX080V	KX080SE	79	47.0×45.8	96. 8.25				○	
KX60	KX060B	KX060BE	60	43.0×41.6	96. 8.25				○	
KX60	KX060B	KX060BE	60	43.0×41.6	97. 7.23				○	
KX80	KX080X	KX080XE	79	47.0×45.8	97. 7.23				○	
KX80-II	KX080Z	KX080XE	79	47.0×45.8	97. 7.23				○	
KX125	KX125K	KX125KE	124	54.0×54.5	97. 7.23				○	
KX250	KX250K	KX250KE	249	66.4×72.0	97. 7.23				○	
KX250	KX250L	KX250LE	249	66.4×72.0	98. 7.29				○	
KX125	KX125L	KX125LE	124	54.0×54.5	98. 7.29				○	
KX80-II	KX080Z	KX080XE	79	47.0×45.8	98. 7.29				○	
KX80	KX080X	KX080XE	79	47.0×45.8	98. 7.29				○	
KX60	KX060B	KX060BE	60	43.0×41.6	98. 7.29				○	

■㈱カスノモーターサイクル　〒612-8474　京都府京都市伏見区下鳥羽円面田町95　☎075-622-0225

●スポーツ専用市販車（トライアラー）

車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	SP	SB	GP	MX	TR
ファンティックセクション249R	FM364	FM364	249.4	74.0×58.0	95. 3.28					○
FANTICセクション250 97	FM403	FM403	249.9	74.0×58.0	97. 2.25					○

■㈲モリワキエンジニアリング　〒513-0816　三重県鈴鹿市南玉垣町6477-1　☎0593-82-4501

●スポーツ専用市販車（ロードレーサー）

	車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	SP	SB	GP	MX	TR
	96MORIWAKI MH80R	MH80RF	HE04	79.4	46.0×47.8	96. 1.26			○		
★	MORIWAKI MH80Ru（初回公認'91年）	MH80RF	HE04	79.4	46.0×47.8	97. 3.26			○		

■㈱レイズ　〒577-0016　大阪府東大阪市長田西5-80　☎06-6746-1010

●スポーツ専用市販車（トライアラー）

車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	SP	SB	GP	MX	TR
BETA TECHNO125	BETA B5	BETA6300	123.6	54.0×54.0	95. 5.25					
BETA TECHNO250	BETA B6	BETA6605	247.5	72.5×60.0	96. 3.27					○
BETA TECHNO250	BETA B6	BETA6605	247.5	72.5×60.0	97. 2.28					○
BETA TECHNO250	BETA B6	BETA6605	247.5	72.5×60.0	97.12.24					○

■㈱亜路欧　〒154-0004　東京都世田谷区太子堂2-7-1　☎03-3419-6053

●スポーツ専用市販車（トライアラー）

車名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	SP	SB	GP	MX	TR
GAS-GAS CONTACT JT25Cinco	VTRGG		237.9	71.0×60.0	95. 3.28					○
GAS-GAS CONTACT JT16	VTRGG		143.1	60.0×50.6	95. 3.28					○
GAS-GAS CONTACT JTR25	VTRGG		237.9	71.0×60.0	96. 2.23					○
GAS-GAS CONTACT JTX200	VTRGG	GG20F	162.8	64.0×50.6	97. 3.26					○
GAS-GAS CONTACT JTX250	VTRGG	GG25F	237.9	71.0×60.0	97. 3.26					○
GAS-GAS CONTACT TX250	VTRGG	GG25	237.9	71.0×60.0	98. 2.25					○
GAS-GAS CONTACT TX200	VTRGG	GG16	162.8	64.0×50.6	98. 2.25					○

■㈲アルプスヴァン　〒407-0263　山梨県韮崎市穴山町7804　☎0551-23-2658

●スポーツ専用市販車（トライアラー）

車　名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	SP	SB	GP	MX	TR
スコルパワークス295	SC29	376	249.7	68.9×67.0	95. 7.27					○
SCORPAEASY	SC296	420	248.9	68.8×67.0	96. 3.27					○
スコルパイージートップ	SC29	425	248.9	68.8×67.0	97. 2.26					○
スコルパイージー	SCR249	425	248.9	68.8×67.0	98. 5.27					○

■㈱サイクルワールド　〒651-2132　兵庫県神戸市西区森友4-13　☎078-928-6644

●スポーツ専用市販車（トライアラー）

車　名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	SP	SB	GP	MX	TR
MONTESA COTA 315RV	VTDMT03AOVE	NN3E	249	72.2×61.0	97. 5.28					○

■㈱ボスコ・モト　〒562-0012　大阪府箕面市白島2丁目22番25号　☎0727-25-3311

●一般市販車（オンロードタイプ）

車　名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認年月日	SP	SB	GP	MX	TR
アプリリア RS125	GS	ROTAX123	124.8	54.0×54.5	98. 1.25	○				

■㈲月木レーシング　〒597-0102　大阪府貝塚市木積2406-1　☎0724-47-1150

●スポーツ専用市販車（ロードレーサー）

車　名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認発効日	SP	SB	GP	MX	TR
KR150NK	KR150J-A	KR150JEA	148.7	59.0×54.4	98. 1.28	○				

■㈱プレストコーポレーション　〒105-0014　東京都港区芝1-4-7ニチダビル　☎03-5419-8231

●一般市販車（オンロードタイプ）

車　名	フレーム打刻	エンジン打刻	排気量	ボア×ストローク	公認発効日	SP	SB	GP	MX	TR
ヤマハTZR125R	4HW	4HW	124.8	56.0×50.7	98. 8.23	○				

MFJ公認部品

('98年12月7日現在)

●㈱菅生RC・SUGO　〒989-1301　宮城県柴田郡村田町菅生　☎0224-83-3111

	部品名	型式	適用車種	公認発効日	SP	GP	MX	TR
	XRJ400クロスミッションASSY	4AM-7400-70	XRJ400	'95. 2.10	○			

●㈱エムシー・インターナショナル　〒550-0013　大阪市西区新町4-15-18　☎06-6536-0901

	部品名	型式	適用車種	公認発効日	SP	GP	MX	TR
	リザーバータンク一体型リアショック	WP3614　BA/VAP	TZ/125/250 RS125/250	'95. 2.24		○		
★	USD　FORK（初回公認 '90年）	WP-3548RC/MA	125ccレーサー	'95. 1.24		○		

●㈱オートリメッサ　〒431-0201　静岡県浜松市篠原町21339　☎053-448-9851

	部品名	型式	適用車種	公認発効日	SP	GP	MX	TR
	トランスミッション	B9240	RGB-Γ250SP	'96. 4.28	○			

●㈱カロッツェリアジャパン　〒103-0007　東京都中央区日本橋浜町1-6-8　☎03-3863-4333

	部品名	型式	適用車種	公認発効日	SP	GP	MX	TR
★	リアサスペンション（初回公認 '91年）	R05160ピギーバックタイプ	RS125R	'95. 6.23		○		
	リアサスペンション	R05070ピギーバックタイプ	RS250R	'95. 6.23		○		

●カワサキモータースジャパン㈱　〒673-8666　兵庫県明石市川崎町1-1　☎078-922-5039

	部品名	型式	適用車種	公認発効日	SP	GP	MX	TR
★	ZX400トランスミッション（初回公認 '91年）	J9	ZX400H、ZX400J、ZX400L、ZX400M、ZX400D	'95.12.26	○			
	ダクト	J914073-1694	ZXR400、ZXR400、サンザス	'96.12. 1	○			

●㈲バムレーシング　〒110-0016　東京都台東区台東4-13-23　☎03-3833-5232

	部品名	型式	適用車種	公認発効日	SP	GP	MX	TR
★	2·4サイクルEG用キャブレターASSY（初回公認'90年）	PWK39SS	RS250R/RS125R	'96. 2.27		○		
★	2·4サイクルEG用キャブレターASSY（初回公認'90年）	PWK38SS	RS250R/RS125R	'96. 2.27		○		
	PWM38キャブレター	1000-S56-A000	RS125R、TZ125	'96. 4.26		○		
	38キャブレター	1000-55-000	RS125R、TZ125	'96. 4.26		○		
★	CBR400RR用キャブレター（初回公認 '92年）	FLAT CR 4連 小型32φ	NC29（CBR400RR）	'97. 6.24	○			

●㈱ホンダレーシング　〒351-0024　埼玉県朝霞市泉水3-15-1　☎048-461-9511

	部品名	型式	適用車種	公認発効日	SP	GP	MX	TR
★	NSR250Rトランスミッション（初回公認 '90年）	NH3	NSR250R	'95. 1.24	○	○		
★	NSR250Rフロントクッション（初回公認 '90年）	NH3	NSR250R	'95. 1.24		○		
★	NSR250Rリアクッション（初回公認 '90年）	NH3	NSR250R	'95. 1.24		○		
★	NSR250Rトランスミッション（初回公認 '90年）	NH3	NSR250R（NC18）	'95. 4.25	○	○		
★	VFR400Rトランスミッション（初回公認 '90年）	NL1	VFR400R（NC30）	'95. 4.25	○			
★	400トランスミッション（初回公認 '90年）	NL1	VFR400R（NC30）、VFR400RRVS（NC35）	'96. 1.23	○			
★	400トランスミッション（初回公認 '92年）	NKB	CBR400RR	'97. 1. 1	○			
★	250トランスミッション（初回公認 '91年）	NKD	NSR250R	'97. 1. 1	○			

●㈱ショーワ　〒437-1117　静岡県磐田郡浅羽町松原2601　☎0538-23-2200

	部品名	型式	適用車種	公認発効日	SP	GP	MX	TR
	リヤダンパーキット	46B	CR125/250	'95. 4.28			○	
	フロントフォーキット	45B	CR125/250	'95. 4.28			○	

●㈱カスノモーターサイクル　〒612-8474　京都府京都市伏見区下鳥羽円面田町95　☎075-622-0255

	部品名	型式	適用車種	公認発効日	SP	GP	MX	TR
	マルゾッキマグナム45フロントフォーク		YZ125/250、CR125/250、KX125/250	'96. 3.29			○	

●㈱亜路欧　〒154-0004　東京都世田谷区太子堂2-7-1　☎03-3419-6053

	部品名	型式	適用車種	公認発効日	SP	GP	MX	TR
	270KIT	VTR	GASGAS　CONTACT　JTR25	96. 4.26				○

●㈲ライダーズサロン横浜　〒236-0055　神奈川県横浜市金沢区片吹66-19　☎045-783-3638

	部品名	型式	適用車種	公認発効日	SP	GP	MX	TR
	フロントフォーク405		GP125	'96. 5.23		○		
	リアーダンパーCOMP		GP125	'96. 5.23		○		

●㈱ケーヒン　〒221-0016　神奈川県川崎市中原区市ノ坪386　☎044-411-6381

	部品名	型式	適用車種	公認発効日	SP	GP	MX	TR
	キャブレター	PWK35/32	RZ250/350、GRΓ125/250	'97. 3.28	○			
			アプリリアRS125を追加					

●プロジェクトサイエンス　〒437-0065　静岡県袋井市堀越2-18-3　☎0538-43-0315

	部品名	型式	適用車種	公認発効日	SP	GP	MX	TR
	フロントフォークキット	47B	CR250	'97. 2. 1			○	

SPクラス用登録部品

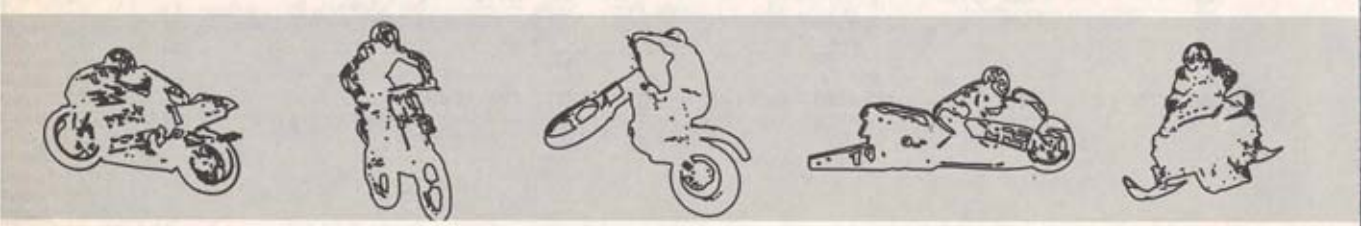
('98年12月7日現在)

●ドッグファイトレーシング　〒270-2221　千葉県松戸市紙敷1370-1　☎047-392-7234

部品名	打刻	適用車種	登録月日
シリンダーヘッド・プロテクションリング	DFR-Y000～ DFR-H000～ DFR-S000～	'93・'94TZR250R・SP　'95～TZR250SPR 90～NSR250R・SE・SP ～'98RG125Γ（NF13A）	'98.10.1

●ケーアンドティー　〒513-0823　三重県鈴鹿市道伯1923　☎0593-70-4735

部品名	打刻	適用車種	
シリンダーヘッド（リング加工）	KNH001～ KNL001～ KZ001～ KR001～	NSR250（KV3H） NSR250（KV3L） TZR250 96～RGV250Γ	



MFJ公認ヘルメット

取得規格／T用＝ツーリング用，M用＝モトクロス用，TR用＝トライアル用，
R用＝ロードレース用，R特選＝ロードレース特選
形状／J＝ジェットタイプ，F＝フルフェイスタイプ

●(株)ショウエイ

〒110-0005東京都台東区上野5-8-5 cp10ビル　☎03-5688-5185

名　称	取得規格	形状	公認年月
JET・X	SNELL JIS・C・R特選	F	'89.1.11
RSV	SNELL JIS・C・R特選	F	'89.1.11
VZ	JIS・C・M用	F	'89.6.13
VZ・Ⅱ	JIS・C・M用	F	'89.6.13
VX・4R	JIS・C・M用	F	'89.11.7
FX・1	JIS・C・R用	J	'90.5.8
RHV	JIS・C・R用	F	'90.9.4
FX・TOURING	JIS・C・M用	J	'90.4.10
X・8	JIS・C・R特選用	F	'93.1.27
TSV	JIS・C・R特選用	F	'93.1.27
VF・X	JIS・C・M用	F	'93.1.27
X・8 SP	JIS・C・R特選用	F	'93.2.24
FX・AFREET	JIS・C・M用	F	'93.2.24
NEW SR・X7	JIS・C・TR,T用	J	'93.2.24
TR・2P	JIS・B・TR用	J	'93.2.24
FX・J	JIS・C・M用	F	'93.2.24
BL・J	JIS・B・TR,T用	J	'93.2.24
ES・J	JIS・B・T用	F	'93.2.24
X・FOUR Light	JIS・C・R用	F	'93.4.28
NRV	SNELL M90 JIS・C種	F	'93.11.23
X・8V	SNELL JIS・C・R特選	F	'94.12.1
VF・X2	SNELL JIS・C・M用	F	'94.12.1
KH・S（NRV）	SNELL、JIS・C RR特選	F	'95.1.25
KM・SA（FX・1）	JIS・C・MX用	F	'95.1.25
FX・HORNET	JIS・C・MX用	F	'95.3.1
RFD	JIS・C・R用	F	'95.6.10
ZRV	SNELL、JIS・C種・R特選	F	'96.1.24
X・8J	JIS・C・R用	F	'96.1.24
FX・R	JIS・C・M用	F	'96.1.24
VYRCE	JIS・C・R用	F	'96.4.24
X・8SP	SNELL、JIS・C種・R特選	F	'96.7.24
SR・FREEDOM	JIS・C・TR、T用	J	'96.7.24
RDV	JIS・C・R用	F	'96.10.23
Z・CRUZ	JIS・C・R用	F	'97.1.29
WYVERN	JIS・C・R用	F	'97.2.26
Buell2	JIS・C・R用	F	'97.3.26
RHEOS XS・1	JIS・C種・M用	F	'97.1.29
RHEOS RS・1	SNELL・JIS・C種・R特選	F	'97.1.29
X-8R	SNELL M85・JIS・C種 R特選	F	'98.1.28
HORNET-V	JIS-C種　M用	F	'98.1.28

●(株)アライヘルメット

〒330-0841埼玉県大宮市東町2-12　☎048-641-3825

名　称	取得規格	形状	公認年月
F・V	SNELL JIS・C・R特選	F	'89.6.13
GIGA	SNELL JIS・C・R特選	F	'89.6.13
ASTRO・R	SNELL JIS・C・R特選	F	'89.6.13
MX・2	JIS・C・M用	J	'89.6.13
RAPIDE・VIIIR	JIS・C・R用、SNELL M85	F	'90.5.8
RAPIDE・μ	JIS・C・R用、SNELL M85	F	'90.5.8
MX・Enduro	JIS・C・M用、SNELL M85	J	'90.5.8
AT・S	JIS・B・TR用	F	'90.5.8
Super cLc RX・7RR	JIS・C・R特用	F	'93.1.27
OW	JIS・C・R、M用	F	'93.2.24
VX	JIS・C種　M用	F	'94.11.30
NT・XNT・GALAXY.Windy・12	JIS・C種　R用	F	'96.4.24
OMNI・R	SNELL、JIS・C種・R特選	F	'96.4.24

●テイ・エステック(株)

〒351-0012埼玉県朝霞市栄町3-7-27　☎048-462-1121

名　称	取得規格	形状	公認年月
AMI（L・06）	JIS・B・TR、T用	F	'87.10.7
AMI（L・07）	JIS・B・TR、T用	F	'87.10.7
AMI（L・08）	JIS・B・TR、T用	F	'87.10.7
RHEOS（R・21）	JIS・C・R用	F	'87.10.7
RHEOS（R・92）	JIS・C・R用	F	'87.10.7
RHEOS（R・93）	JIS・C・R用	F	'87.10.7
RHEOS（R・94）	JIS・C・R用	F	'87.10.7
RHEOS（R・95）	JIS・C・R用	F	'87.10.7
RHEOS（R・96）	JIS・C・R用	F	'87.10.7
RHEOS（R・97）	JIS・C・R用	F	'87.10.7
SEED（J・23）	JIS・B・TR、T用	J	'87.10.7
Ami	JIS・B・TR、T用	J	'88.1.18
SEED・R22	JIS・C・R用	F	'88.1.18
SEED・R23	JIS・C・R用	F	'88.1.18
RHEOS R98	JIS・C・R用	F	'88.1.18
RHEOS R99	JIS・C・R用	F	'88.1.18
RHEOS R92LED	JIS・C・R用	F	'88.7.5
RHEOS RR101	SNELL JIS・C・R特選	F	'88.12.12
RHEOS RR102	SNELL JIS・C・R特選	F	'88.12.12
RHEOS RR103	SNELL JIS・C・R特選	F	'88.12.12
RHEOS RR104	SNELL JIS・C・R特選	F	'88.12.12
RHEOS RR301	SNELL JIS・C・R特選	F	'88.12.12
RHEOS RR302	SNELL JIS・C・R特選	F	'88.12.12
RHEOS PA101	JIS・C・R用	F	'89.2.14
RHEOS PA102	JIS・C・R用	F	'89.2.14
RHEOS PA103	JIS・C・R用	F	'89.2.14
RHEOS（RC）	JIS・C・R用	F	'91.2.20
Rheos（RD）	JIS・C・R用	F	'92.3.11
Rheos（JB）	JIS・C・M・T用	J	'92.4.17
HONDA Rheos（RC）	SNELL R特選	F	'92.5.13
Rheos RC	JIS・C・R用	F	'93.6.20
ami L10	JIS・C・TR、T用	J	'93.7.28
ami J10	JIS・C・TR、T用	J	'93.7.28
RHEOS		J	'93.1.7
RHEOS（RE2）	JIS・C種	F	'94.4.27
RHEOS HRC RE・2	JIS・C・R用	F	'95.3.1
RHEOS FANG Junior	JIS・C種・M用	J	'96.1.24
RHEOS RE・3	JIS・C種・R用	F	'96.7.24
RHEOS JE 6	JIS・C種・M用	J	'96.8.28
RHEOS RE 3	SNELL、JIS・C種・R用	F	'96.10.23
RHEOS HRC YASHA（RJ2）	JIS・C種・R用	F	'97.7.23
RHEOS HRC YASHA（RJ1）	SNELL、JIS・C種・R特選	F	'97.6.25
RHEOS　YASHA（RJ21）	JIS-C種　R用	F	'98.6.24
RHEOS　YASHA（RJ11R）	JIS-C種　R用	F	'98.7.29

●(株)コミネオートセンター

〒111-0056東京都台東区小島2-20-11　☎03-3862-9811

名　称	取得規格	形状	公認年月
KF・RV	JIS・C・R用	F	'86.3.26
KF・RC	JIS・C・R用	F	'86.9.9
ANSWER	SNELL JIS・C・M用	F	'86.9.9
NARVA NC・2	JIS・C・R特選	F	'88.10.5
NARVA CROSS	JIS・C・M用	J	'90.1.9
Spazzio	JIS・C・R用	F	'90.4.3
JT	JIS・C・M用	J	'90.4.3
Answer	SNELL・MX用	F	'95.8.23

●(株)エフイーティー

〒157-0063東京都世田谷区粕谷1-9-24　☎03-3329-3951

名　称	取得規格	形状	公認年月
NOLAN　N35　AIR	JIS・C・R用	F	'88.5.6
NOLAN　N35　AIR	JIS・C・R用	F	'88.5.13
AXO　SPORT　X・49	JIS・C・M用	F	'89.6.13
AXO　SPORT　RX・1	JIS・C・M用	J	'91.8.20
AXO　SPORT　RX・2	JIS・C・M用	F	'92.9.25

●大日本インキ化学工業(株)

名 称	取得規格	形 状	公認年月
DIC (TY-1)	JIS-C・R用	F	'86.4.30
DIC (DF-1)	JIS-C・R用	F	'86.1.9
DIC (DF-2)	JIS-C・R用	F	'87.3.31
DIC (GP'87)	JIS-C・R用	F	'87.7.7
DIC (K)	JIS-C・R用	F	'87.9.4
DIC (AR)	JIS-C・R用	F	'87.9.4
DIC (ZIO)	JIS-C・R用	F	'87.11.4
SUZUKI (ONE) S50C		F	'81.1.18

●興和精機(株)

〒105-0014東京都港区芝1-13-17 ☎03-3453-6011

名 称	取得規格	形 状	公認年月
GRIFFIN (G100TD)	JIS-B・TR、T用	J	'86.10.23
GRIFFIN (GS-520)	JIS-B・T用	F	'86.10.23
GRIFFIN (GX-707)	JIS-B・T用	F	'86.10.23
GRIFFIN (GS530)	JIS-B・T用	F	'86.11.23
GRIFFIN (GX707)	JIS-C・M用	F	'87.3.4
GRIFFIN (GS530)	JIS-C・R用	F	'87.3.4

●(株)光輪モータース

〒110-0015東京都台東区東上野4-26-4 ☎03-3841-3411

名 称	取得規格	形 状	公認年月
AGV (KR2000)	JIS-C・R用	F	'86.1.30
AGV QUASAR	JIS-C・R用	F	'95.3.1

●ワールド通商(株)

〒113-0033東京都文京区本郷1-24-1 本郷MFビル3F ☎03-3818-5451

名 称	取得規格	形 状	公認年月
ポルシェ・デザイン (CP-4)	JIS-C・R用	F	'86.2.25
KIWI (K-16)	JIS-C・R用	F	'86.7.2
KIWI (K-20)	JIS-C・R用	F	'88.1.6

●(株)モトワールド

〒110-0016東京都台東区台東3-31-4

名 称	取得規格	形 状	公認年月
ANSWER A-TECH-5		F	'88.8.4

●(株)谷尾商会

〒530-0037大阪府大阪市北区松ケ枝町5-4 ☎06-6358-0651

名 称	取得規格	形 状	公認年月
NAVA 3A/C	JIS-C・R用	F	'86.4.28
NAVA-8	JIS-C・R用	F	'87.7.7

●(株)ヤナセ

名 称	取得規格	形 状	公認年月
FJ (FJ-01)	JIS-C・R用	F	'86.5.28
FJ (FJ-02)	JIS-C・R用	F	'86.4.28
F-J (FJ-Ⅱ・インテグラ)	JIS-C・R用	F	'87.7.7

●クノー工業(株)

〒141-0031東京都品川区西五反田7-22-17 TOC内 ☎03-3494-3371

名 称	取得規格	形 状	公認年月
EF-2	JIS-C・M用	J	'86.8.5
DELTA	JIS-C・M用	J	'86.8.5
AIGLE	JIS-C・M用	J	'86.8.5
LYNX	JIS-C・M用	J	'86.8.5
SETA (045)	JIS-C・R用	F	'87.3.4

●ユニコ(株)

〒106-0032東京都港区六本木7-3-17 ☎03-3478-2707

名 称	取得規格	形 状	公認年月
VS-2	JIS-C・R用	F	'86.3.26
NEF (VS-2)	JIS-C・R用	F	'86.12.15
NEF-RO2	JIS-C・R用	F	'88.6.10

●(株)立花

〒133-0044東京都江戸川区本一色3-16-20 ☎03-3653-6277

名 称	取得規格	形 状	公認年月
カスタムES-2 (A型)	JIS-A・T用	J	'92.4.8
カスタム (A型)	JIS-A・T用	J	'92.3.11
ライジン (A型)	JIS-A・TR用	J	'93.2.24
ライジン (レザートップ)	JIS-A・TR用	J	'93.2.24

●ヤマハ大船渡製造(株)

〒022-0002岩手県大船渡市大船渡町字欠の下向1-1 ☎0192-27-4101

名 称	取得規格	形 状	公認年月
GEORAMA-TS	JIS-C・R用	F	'86.1.30
GEORAMA-RS	JIS-C・R用	F	'86.2.24
FE-X	JIS-C・R用	F	'86.2.24
OE	JIS-C・M用	F	'86.2.24
GEORAMA-GFV		F	'86.3.15
GEORAMA-GFV-R	JIS-C・R用	F	'89.9.5
GFS	JIS-C・R用	F	'89.10.11
YFR	JIS-C・R用	F	'90.5.8
YFV	JIS-C・R用	F	'90.5.8
INPURE (YOA)	JIS-C・R用	F	'90.5.8
YFV (HJ1)	SNELL・R特選	F	'91.7.3
GFV (YON)	JIS-C・R用	F	'92.6.3
YJ-X (YON)	JIS-C・M用	J	'92.7.8
STAIR	JIS-C・R特選	F	'93.6.23
GIBSON	JIS-C・M用	F	'92.2.5
YSF (YOH)	JIS-C種 R用	F	'94.7.27
YSF (RODEM) (YOH)	SNELL・R特選	F	'95.1.25

●(株)ジャパンプロダクト

〒133-0041東京都江戸川区上一色416-1 ☎03-3655-9055

名 称	取得規格	形 状	公認年月
R120N R2-1	JIS-C・R用	F	'86.7.2

●(株)RSタイチ

〒574-0013大阪府大東市中垣内3-1-25 ☎0720-74-3268

名 称	取得規格	形 状	公認年月
JT (ALS-1)	JIS-C・M用	J	'87.9.4
JT (ALS-2)	JIS-C・M用	F	'87.9.4

●旺文社パシフィック(株)

名 称	取得規格	形 状	公認年月
NAVA	JIS-C・T用	セミJ	'86.7.26

●(株)大都

〒110-0014東京都台東区北上野1-7-1 ☎03-3843-6426

名 称	取得規格	形 状	公認年月
BELL (MAG-4)	SNELL JIS-C-M用	J	'86.9.30

●(株)丸万茂又

〒530-0047大阪府大阪市北区西天満6-1-5 ☎06-6364-4678

名 称	取得規格	形 状	公認年月
MAC	JIS-C・R用	F	'87.8.5

●(株)ドルフィン・インターナショナル

〒193-0832東京都八王子市散田町5-24-11 ☎0426-65-7843

名 称	取得規格	形 状	公認年月
BELL MOTO5	SNELL JIS-C・R特選	F	'89.5.9

●日栄プラスチック(株)

〒362-0806埼玉県北足立郡伊奈町大字小室字志久4429 ☎048-723-0611

名 称	取得規格	形 状	公認年月
DIC (DFX)	SNELL・R特選	F	'91.2.15
Gibson (YX)	JIS-C-M用	F	'91.2.5
DIC (RT35・06))	JIS-C・R用	F	'92.7.8
DIC-VR	JIS-C・R用	F	'89.12.12
SYDEEN	SNELL C・R用	F	'89.3.7
DIC-Inc State	JIS C・M用	J	'89.5.9
DIC-zio-SX	JIS C・R用	F	'89.7.20
DIC ZR	JIS C・R用	F	'89.11.7

●オージーケー販売(株)

〒577-0037大阪府東大阪市御厨西ノ町60 ☎06-6783-5906

名 称	取得規格	形 状	公認年月
RS-1	JIS-C・R用	F	'91.6.6
RS-1R	JIS-C・R用	F	'92.9.25
EX-R/S-93G	JIS-C・R用	F	'93.6.23
S-94G	JIS-C・R用	F	'95.4.20
RX-R	JIS-C・R用	F	'95.4.20
RX-V	SNELL、JIS-C種・R特選	F	'97.2.26
RG-V	SNELL、JIS-C種・R特選	F	'97.2.26
S-95G	SNELL、JIS-C種・R特選	F	'97.2.26
Regles S-98G	JIS-C種 R用	F	'98.1.28

●ヤマハ発動機(株)
〒438-8501静岡県磐田市新貝2500　☎0538-37-4111

名　称	取得規格	形状	公認年月
YZ07	JIS C・R用	F	'93.6.23

●(株)イエローコーン
〒154-0014東京都世田谷区新町2-7-1　☎03-3439-3752

名　称	取得規格	形状	公認年月
SIMPSON（BANDIT5）	JIS C種	F	'94.1.26

●エッチジェイシージャパン

名　称	取得規格	形状	公認年月
FG・X3	JIS・C・MX用	F	'95.4.26
FG・10K	JIS・C・RR特選	F	'95.4.26

●フランコ商事(株)
〒540-0005大阪府大阪市中央区上町1-14-13 TAPSビル4F　☎06-6761-6505

名　称	取得規格	形状	公認年月
SHARK（XRC・CARBON）	JIS・C・R用	F	'95.8.23
SHARK　RS2	JIS・C　R用	F	'98.4.28

●山本光学(株)
〒577-0056大阪府東大阪市長堂3-25-8　☎06-6783-1109

名　称	取得規格	形状	公認年月
YAMAHA	JIS・B・TR用	F	'95.1.25

●岡田商事(株)
〒105-0012東京都港区芝大門1-3-7　☎03-5473-0371

名　称	取得規格	形状	公認年月
BELL（MOTO6）	JIS C種	F	'94.5.10
BELL（RACE STAR）	JIS C種	F	'94.6.29
FG・TECH	SNELL、JIS・C種・R特選	F	'96.6.26
CL・X	SNELL、JIS・C種・M用	F	'96.6.26
FG・X3	SNELL、JIS・C種・M用	F	'96.6.26
CL・10	SNELL、JIS・C種・R特選	F	'96.6.26
FG・Light	JIS・C種・R用	F	'96.7.24

●(株)洪進クラウン
大韓民国京畿道龍仁郡二東面西里54-2

名　称	取得規格	形状	公認年月
FG・TECH	SNELL、JIS・C種・M用	F	'96.6.26
CL・X	SNELL、JIS・C種・M用	F	'96.6.26
FG・X3	SNELL、JIS・C種・M用	F	'96.6.26
CL・10	SNELL、JIS・C種・M用	F	'96.6.26
FG・Light super	JIS・C種・R用	F	'96.7.24

●(株)ダックスコーポレーション
〒566-0073大阪府摂津市鳥飼和道2-8-5　☎0726-53-0299

名　称	取得規格	形状	公認年月
BieFFe BR16	SNELL、JIS・C種・R特選	F	'97.11.26
BieFFe（BR19）	SNELL　M95　R特選	F	'98.6.24
BieFFe　Cross　Tech	SNELL　M95　MX特選	F	'98.7.29

公認レーシングスーツ

●(株)カドヤ
〒111-0035東京都台東区西浅草3-29-21　☎03-3843-2000

名　称	型　式	公認月日
ON THE RACE G2	RP,PX,MM,RD,PT	'90.10.23
NEW CONCEPTER	MDシリーズ(MD1,2は柔)	'90.10.23
KADOYA	OR・SR	'90.10.23
ON THE RACE G2	RP・FS 0020	'91.4.10
ON THE RACE G2	G2・RP（G2/RP・125）	'92.3.11
ON THE RACE G2	G2・RP（G2/RP・07,08）	'92.3.11
KADOYA	OR	'95.6.28
K'S LEATHER	CLASH　KING	'95.6.28

●(株)クシタニ
〒430-0853静岡県浜松市三島町231　☎053-441-2251

名　称	型　式	公認月日
KUSHITANI	KR　KRN	'90.10.23
KUSHITANI	KI	'90.10.23
KUSHITANI	K	'91.1.18
KUSHITANI	KV	'91.1.18
KUSHITANI	オーダーメイド	'91.2.8
KUSHITANI	KI・101,102,103	'91.4.10
KUSHITANI	KX・1	'91.11.5
KUSHITANI	KX・1	'91.11.5
KUSHITANI	KI・X（KI・107X）	'92.11.1
KUSHITANI	KI・XM（KI・106）	'92.11.1
KUSHITANI	KI・X	'93.3.24
KUSHITANI	KI・X（KI・109,KI・111）	'94.1.10
KUSHITANI	KI・X（KI・112,KI・113）	'94.11.23
KUSHITANI	K-DR(K-161,K-162,K-163)	'95.12.26
KUSHITANI	KI・XW（KI・114XX）	'95.12.26
KUSHITANI	KI・XW（KI・115XX）	'95.12.26
KUSHITANI	KI・XW（KI・160XX）	'95.12.26
KUSHITANI	KI・XG（KI・118XX）	'95.12.26
KUSHITANI	KI・XV（KI・150XX）	'96.9.25
KUSHITANI	KI・XV（KI・116XX）	'96.9.25
KUSHITANI	KI・XV（KI・117XX）	'96.11.27
KUSHITANI	KI・XR（KI・119XX）	'98.1.28
KUSHITANI	KI・XG（KI・121XX）	'98.1.28
KUSHITANI	KI・XD（KI・122）	'98.1.28

●(株)ルック
〒125-0061東京都葛飾区亀有4-3-7　☎03-3604-7800

名　称	型　式	公認月日
SR	SR01～03	'90.10.23
RS	RSⅠ～Ⅴ	'90.10.23
SS	SSⅠ～Ⅲ	'90.10.23
Look	（オーダー）	'90.10.23
ラファール3	オーダーメイド	'91.4.20
GPシリーズ		'92.11.28
SPシリーズ	SP	'93.11.24

●(株)アールエスタイチ
〒574-0013大阪府大東市中垣内3-1-25　☎0720-74-3268

名　称	型　式	公認月日
Nixeレーシングレザースーツ	NXL	'90.9.29
NIXEレーシングレザースーツ	NXL005,006,007,008,009	'91.9.8
NIXEレーシングレザースーツ	NXL,NXL（オーダー）	'91.1.18
NIXEレーシングレザースーツ	NXL（NXL001）	'92.10.7
NIXEレーシングレザースーツ	NXL（NXL012,015）	'92.10.7
NIXEレーシングレザースーツ	NXL（NXL011）	'92.10.14
NIXE NXL	NXL016	'94.1.26
NIXE NXL	NXL017・018	'94.1.26
NIXEレーシングレザースーツ	NXL	'94.12.28
NIXE NXL	NXL030	'95.12.26
NIXE NXL	NXL031	'95.12.26
NIXE NXL	NXL032	'95.12.26
NIXE NXL	NXL035	'96.11.27
NIXEレーシングレザースーツ	NXL038	'97.1.29
NIXEレーシングレザースーツ	NXL037（条件付公認）	'97.1.29
NIXEレーシングスーツ	NXL040，NXL041	'97.12.24
NIXEレーシングスーツ	NXL042、NXL043、NXL044、NXL045、NXL046、NXL047	'98.9.30

●(株)アズ・スポーツ

名　称	型　式	公認月日
Justys	J・001R～J・023R	'90.10.23
Justys・J・PRO・R	JPR・001R～JPR・004R	'90.10.23
A's Racing	AS001SO～AS007SO	'90.10.23

●(株)大都
〒110-0014東京都台東区北上野1-7-1　☎03-3843-6426

名　称	型　式	公認月日
THE BIKE	RCシリーズ	'90.10.23
D'S	DRS・3007,3008	'91.5.8
THE BIKE	オーダーメイド	'91.5.8

THE BIKE	FR - 10,11,12,13	'91.6.5
THE BIKE	FR - 3,5,6,7,8,9	'91.2.6
THE BIKE	GP - 3,GP - 5	'91.2.6
THE BIKE	RC - 355,RS - NB	'93.8.25

●(株)光輪モータース
〒110-0015東京都台東区東上野4-26-4 ☎03-3841-3411

名称	型式	公認月日
PLICANA	グループC (PT - MS)	'90.10.23
PLICANA	グループA (PT - RXIGP)	'91.2.6
PLICANA	グループB (PT - NIGP)	'91.2.6
PLICANA	グループH (PT - ATILS)	'91.2.6
PLICANA	PT - ZEAI	'91.11.5
PLICANA	グループA PT - DELTA MAX	'95.12.26
PLICANA	グループC PT IS1	'95.12.26
PLICANA	グループC PTラッキーストライク	'95.12.26
PLICANA	グループA PT - DELTA MAX	'95.12.26
PLICANA	グループC PT IS1	'95.12.26
PLICANA	グループC PTラッキーストライク	'95.12.26

●(有)セクレテール
〒152-0002東京都目黒区目黒本町6-21-15 ☎03-3714-0533

名称	型式	公認月日
セクレテール	RF,RC,RS,TR,MFR	'90.10.23
セクレテール	(オーダー)	'90.10.23
セクレテール	MFR - 912	'92.3.11
セクレテール	RS - 26,27	'92.3.11
セクレテール	RS - 28,29,30,REP.	'92.11.28
セクレテール	RF,RS,REP	'93.5.26
セクレテール	RF33,RS43,RFP944,RFP945	'94.10.25

●(株)デグナー
〒607-8463京都府京都市山科区上花山講田町57-1 ☎075-501-7137

名称	型式	公認月日
デグナー	R - 1	'90.10.23
デグナー	R - 2	'90.10.23
デグナー	R - 6	'90.10.23
デグナー	フルオーダー	'98.7.29

●(株)ナカタケ
〒721-0964広島県福山市港町2-16-22 ☎0849-23-2423

名称	型式	公認月日
ナカタケ	NS - ゴーズアップシリーズ	'90.10.23
ナカタケ	NS - R	'91.11.5

●(株)邑輝総研

名称	型式	公認月日
Boldor	レーシングワンピース	'90.10.23

●(有)ライブラ
〒491-0934愛知県一宮市大和町苅安賀字角出62 ☎0586-44-6451

名称	型式	公認月日
ライブラレーシングスーツ	LRS - 01	'90.10.23
COSMIC (Libra)	オーダーメイド	'92.1.9

●東京ベルト(株)
〒181-0013東京都三鷹市下連雀1-13-7 ☎0422-45-2970

名称	型式	公認月日
TO BEL	TBシリーズ	'90.10.23

●(有)エムシーコレクション
〒270-2231千葉県松戸市稔台37 ☎0473-64-6555

名称	型式	公認月日
フォーヘッド(FOR HEAD)	(オーダーメイド)	'90.11.17
フォーヘッド(FOR HEAD)	FH - 001,002,009	'90.11.17

●(株)レインボー
〒110-0014東京都台東区北上野1-5-5 ☎03-3843-5606

名称	型式	公認月日
レインボー	(オーダーメイドレーシング)	'90.11.17

●(有)アールシーエム
〒661-0041兵庫県尼崎市武庫の里1-11-1-104 ☎06-6431-8066

名称	型式	公認月日
Toril	オーダーメイド	'91.5.8
ファルコン	オーダーメイド	'91.5.8
HAL	オーダーメイド	'91.5.8
FALCON	FS	'91.3.12
Toril	TX,TXR	'91.3.12
HAL	01A,02A,03A,05A,06A	'91.5.8
ブラスト	オーダーメイド	'91.11.5

●(株)アイアンドエイ
〒660-0823兵庫県尼崎市大物町1-1-15 ☎06-6401-1011

名称	型式	公認月日
B - LINE	オーダーメイド	'91.5.8

●(株)アダチ
〒462-0063愛知県名古屋市北区丸新町453 ☎052-902-7519

名称	型式	公認月日
JRP	オーダーメイド	'91.2.6
MOTO FLASH	オーダーメイド	'91.2.6
RSA	オーダーメイド	'91.2.6
MOTOR KING MICHIKO KOSHINO	オーダーメイド	'92.3.11

●(株)アチーブ
〒340-0025埼玉県草加市谷062F仲町288-1 ☎0489-24-7519

名称	型式	公認月日
レーシングスーツYONEZO	オーダーメイド	'91.1.8

●(有)エフワン
〒114-0003東京都北区豊島4-14-2 ☎03-3912-5149

名称	型式	公認月日
エフワン	FR - 2A,4A,G3A,Z1,Z2,ホステムG6	'91.5.8
F - ONE	FR - G2B	'91.2.6

●ジュベットレザーハウス
〒435-0017静岡県浜松市葉師町148 ☎053-421-7722

名称	型式	公認月日
JUBET	オーダーメイド	'91.4.10

●(株)キジマ
〒123-0841東京都足立区西新井4-16-3 ☎03-3897-2167

名称	型式	公認月日
KISS	オーダーメイド	'91.4.10
KISS RACING	プロトワン・プロトツー	'91.2.6

●(株)ギャロップ
〒171-0031東京都豊島区目白2-2-2平口ビル2F ☎03-3982-7531

名称	型式	公認月日
FORZA	FO - 404,405,406	'91.2.6
FORZA	オーダーメイド	'91.2.6
R - SPORTS	R - SPORTS02,401,402,403	'91.5.8
FORZA	FO - 407	'91.10.16
STREET SLIDER	SSシリーズSS - 03	'92.9.5
TRX	X - Sシリーズ	'93.1.27
FORZA	FOシリーズ	'93.2.24
ワンズワン	GOシリーズ	'93.5.26
STREET SLIDER	SSシリーズ	'93.5.26
モトプラザGT	GTシリーズ	'93.11.23
FORZA FOシリーズ	FO - 411	'94.4.27
FORZA FOシリーズ	FO - 412	'94.9.15
FORZA FOシリーズ	FO - 413	'94.10.31
FORZA FOシリーズ	FO - 414	'96.11.27
FORZA FOシリーズ	FO - 415	'97.1.29
FORZA FOシリーズ	FO - 416	'97.1.29

●(株)ホンダショップアルトモトスポーツグラッド
〒537-0012大阪市東成区大今里3-15-25 ☎06-6971-6381

名称	型式	公認月日
KIKUTANI	AK	'93.2.24

●(有)後藤商店
〒208-0011東京都武蔵村山市学園3-18-1 ☎0425-65-6663

名称	型式	公認月日
GOTO MD - Performance	MD - Ⅰ～Ⅲ	'91.1.8
GOTO	オーダーメイド	'91.1.8
GOTO MD - Performance	MD - Y9,10,11	'91.4.28

●(株)コミネオートセンター
〒111-0056東京都台東区小島2-20-11　☎03-3862-9811

名　称	型　式	公認月日
Spazzioレーシング	A,S－11	'91.2.6
KOMINE Spazzio	オーダーメイド	'91.2.6
Spazzio	S－14R	'91.5.8
Spazzio	S－B,S－8,S－10,S－14	'91.6.5
Spazzio	S－15	'92.1.9
Spazzio	S－16	'92.11.28
Spazzio	ツナギ	'98.9.30
Spazzio	セパレート	'98.9.30

●ジニアス
〒579-8043大阪府東大阪市客坊町4-14　☎0729-87-0165

名　称	型　式	公認月日
ジニアス	SIR－G	'91.2.6

●ステージレザー
〒341-0037埼玉県三郷市高州2-387-3　☎048-955-5146

名　称	型　式	公認月日
PRO STAGE	レーシングワンピース	'91.1.18

●ダイネーゼジャパンインク
〒560-0036大阪府豊中市蛍池西町2-13-7第2岡ビル1F　☎06-6854-9921

名　称	型　式	公認月日
ダイネーゼ	T.MONZA,T.MISANO,T.SILVERSTONE'	'91.8.7
ダイネーゼ	T.GRAPHICA,T.FRECCIA,T.CHILLI,TEAM	'91.8.7
ダイネーゼ	T.STROM,T.FOX,T.EDDIE99,T.SUMATA	'92.5.13
ダイネーゼ	T.K.S	'93.4.28
ダイネーゼT－SAFETY PRO	T－SAFETY PRO	'94.6.29
ダイネーゼ	T－SCOTT RUSSEL REPLICA	'95.12.26
ダイネーゼ	T－BELZEBU	'95.12.26
ダイネーゼ	T－CAPIROSSI REPLICA	'95.12.26
ダイネーゼ	T－FOGARTY REPLICA	'96.3.27
ダイネーゼ	T－BIAGGI REPLICA	'96.3.27
ダイネーゼ	DAINESE T－RD1	'96.4.24

●(株)谷尾商会
〒530-0037大阪府大阪市北区松ケ枝町5-4　☎06-6358-0651

名　称	型　式	公認月日
ラビーン	RVX－1～5	'91.1.18

●南海部品(株)
〒530-0002大阪府大阪市北区曾根崎新地2-6-28　☎06-6344-1581

名　称	型　式	公認月日
ナンカイ	SDシリーズ	'91.2.6
SRシリーズ	SRシリーズ	'91.2.8
ナンカイ	オーダーメイド	'91.6.5
ナンカイ	NR－011R半レプリカスーツ	'91.6.5
ナンカイ	NR－50プロレーシングスーツ	'91.6.5
ナンカイ	NRシリーズ	'91.1.8
ナンカイ	SR－16	'92.5.13
ナンカイ	SR－17	'92.5.13
ナンカイ	NR－51	'92.5.13
ナンカイ	SD－8	'92.11.1
ナンカイ	NR－52	'92.11.1
ナンカイ	NR－51,SR－16,17	'93.3.24
SRシリーズ	SR－18	'93.11.24
94年ドゥーハンレプリカニューモデル	NR－06R8,NR－013R1	'93.4.27
SDシリーズ	SD－SPECIAL	'94.4.27
94D－ビーティーマルボロレーシングレプリカ	NR－015R1	'94.4.27
94原田哲也レーシングレプリカ	NR－018R1	'94.7.27
94A－バロスラッキーストライクレーシングレプリカ	NR－014R1	'94.7.27
94辻村猛レーシングレプリカ	NR－016R1	'94.7.27
94井形とも子レーシングレプリカ	NR－017R1	'94.7.27
ナンカイ	NR－53プロレーシングスーツ	'95.3.1
ナンカイ	NR－54プロレーシングスーツ	'95.3.1
ナンカイ	SD－12レーシングスーツ	'95.3.1
ナンカイ	SD－13レーシングスーツ	'95.3.1
ナンカイ	プロレーシングレプリカスーツ	'95.10.25
ナンカイ	NR－55B耐セミレプリカスーツ	'96.9.25
ナンカイ価版レーシングスーツ	SR－20	'96.11.27
ナンカイ価版レーシングスーツ	SR－21	'97.1.29
ナンカイプロレーシング	NR－56	'97.1.29
NANKAIプロレーシングスーツ	NR－57、NR－58	'98.2.25
NANKAIレーシングスーツ	SD－100	'98.8.26
NANKAIレーシングスーツ	SD－101	'98.8.26

●(有)ハイブ
〒116-0003東京都荒川区南千住6-59-16　☎03-3803-6292

名　称	型　式	公認月日
ハイブ	オーダーメイド	'91.3.12

●バギー(株)
〒636-0203奈良県磯城郡川西町梅戸226　☎07454-3-0177

名　称	型　式	公認月日
バギー,ベルベットBR	オーダーメイド	'91.4.10
バギー,ベルベットBR	A,AP,AR	'91.1.18
PERUHEAD	AP	'98.1.28

●(有)ビッグスター
〒110-0014東京都台東区北上野1-5-5　☎03-3487-1480

名　称	型　式	公認月日
ビッグスター	オーダーメイド	'91.4.10

●ファクトリースズキ
〒193-0833東京都八王子市めじろ台4-3-13　☎0426-65-8180

名　称	型　式	公認月日
PRIDE ONE	オーダーメイド	'91.9.4

●(有)フジタレザー
〒502-0814岐阜県岐阜市福光西2-10-15　☎0582-33-5620

名　称	型　式	公認月日
フジタレザー	オーダーメイド	'91.6.5
フジタレザー	レザーモーターサイクルワンピーススーツ	'95.12.26

●ユニバース
〒183-0056東京都府中市寿町1-1-10　☎0423-60-6311

名　称	型　式	公認月日
STUFF U	SU1003,5,6,7 STAGE	'91.3.12
STUFF U	オーダーメイド	'91.3.12
PROSPEC	RC－－001,RC－－002	'91.6.5

●ブレーンレザー
〒430-0846静岡県浜松市白羽町2410　☎053-441-6471

名　称	型　式	公認月日
ブレーンレザー	オーダーメイド	'91.3.12

●モータースポーツミスターヒロ
〒580-0012大阪府松原市立部2-499-1　☎0723-36-1550

名　称	型　式	公認月日
Mr.hiro	オーダーメイド	'91.9.4

●アレス
〒340-0007埼玉県草加市青柳町7-11-22　☎0489-31-4319

名　称	型　式	公認月日
アレス	オーダーメイド	'91.2.6

●ヤマハ発動機(株)
〒438-8501静岡県磐田市新貝2500　☎0538-37-4420

名　称	型　式	公認月日
YAMAHA YL－Aシリーズ	YL－340,336,337,338	'91.2.6
Takai R	TR　TRL	'90.10.23
PRO SHOP TAKAI	オーダーメイド	
Takai R	TR　TRL	'91.5.8

●ライディングコスチュームT&T
〒651-2111兵庫県神戸市西区池上4-13-8　☎078-974-8682

名　称	型　式	公認月日
T&T	TS	'91.1.18

●レーシングプロショップO.S.F.C
〒959-0400新潟県西蒲原郡西川町新栄町296　☎0256-88-7441

名　称	型　式	公認月日
レーシングプロショップO.S.F.C	O.S.F.C	'91.2.6

●(有)ワンステップライダー
〒452-0813愛知県名古屋市西区赤城町1　☎052-502-7517

名　称	型　式	公認月日
OSR	YR－07	'90.11.17

●パパス
〒116-0003東京都荒川区南千住2-16-15高畑ビル1F　☎03-3801-0438

名　称	型　式	公認月日
Papa's	オーダーメイド	'92.1.9

●(有)福富洋商会
〒300-1151茨城県稲敷郡阿見町大字荒川沖1924-1　☎0298-42-8161

名　称	型　式	公認月日
SURE（シュアー）	オーダーメイド	'92.1.9

●BCピロータ
〒193-0922東京都八王子市千人町3-4-21　☎0426-46-9661

名　称	型　式	公認月日
BCピロータ	オーダーメイド	'92.1.9

●(株)プランツ
〒111-0043東京都台東区駒形1-10-7　☎03-3847-2891

名　称	型　式	公認月日
ハロスギア　レーシングスーツ	OP-1オーダーメイド	'92.1.9

●レザーハウスA&M
〒277-0812千葉県柏市花野井1925-6　☎0471-33-1664

名　称	型　式	公認月日
レザースーツA&M	オーダー	

●美津濃(株)

名　称	型　式	公認月日
MIZUNO	オーダーメイド	'92.3.11

●WORK BOX KASAI
〒985-0831宮城県多賀城市笠神2-2-1　☎022-366-6879

名　称	型　式	公認月日
[bulit]	オーダーメイド	'92.3.11

●ツカサプランニング
〒120-0012東京都足立区青井3-34-3　☎03-3801-0438

名　称	型　式	公認月日
HELIO TROPE	HELIO RACING	'92.3.11

●(有)レーシングショップアイティーエ
〒982-0822宮城県仙台市太白区若葉町25-25　☎022-229-0490

名　称	型　式	公認月日
ITAレーシングスーツ	ITAオーダー	'92.3.11

●アトリエ-ワン
〒485-0024愛知県小牧市南外山長田64-1　☎0568-71-3040

名　称	型　式	公認月日
A-ONE RACING	オーダーメイド	'92.7.8

●レースサービスAxtas
〒182-0036東京都調布市飛田給1-34-16　☎0424-84-9115

名　称	型　式	公認月日
Axtas	AYシリーズ	'94.2.23

●(株)ホンダアクセス
〒352-0011埼玉県新座市野火止8-18-4　☎048-477-9143

名　称	型　式	公認月日
Super Bold'os	デイトナ、イモラ、ホッケンハイム、キャラミ、ラグナセカ、アッセン、イースタンクリーク、スズカ、ヘレス、シルバーストーン、'94オカダ	'94.9.28

●(株)アール・エス・エー・レザース
〒481-0001愛知県西春日井郡師勝町六ツ師女夫越110　☎0568-25-7830

名　称	型　式	公認月日
RSA Leathers	フルオーダー	'95.8.23
ドーバークラブ	フルオーダー	'96.9.25

MFJ公認タイヤ

●井上ゴム工業(株)
〒454-0844愛知県名古屋市中川区葭池町1-80　☎052-353-6176

タイヤ名	サイズ	公認月日
TRIAL WINNER	4.00R18,TR-7	'86.3.26
TRIAL WINNER TR-9	4.00R18	'86.7.8
PRO-TECH NS-50F	2.75-174PR,2.75-184PR,80/100R16,80/90R16	
NS-50R	2.75-174PR,3.00-174PR,90/90R18,90/90R17	
PRO-TECH NS-10F	90/90R18,100/80R17,100/90R16,110/70R17,110/80R17,110/80R18,120/70R17,120/80R16	
NS-10R	110/80R18,120/80R17,120/80R18,130/70R17,130/90R16,140/60R18,140/70R18,160/60R18	
SPATOLA SPO 1F RADIAL	110/70R17 54H 120/60R17 55H 150/60R17 66H 160/60R17 69H	'92.7.1
TRIAL WINNER TRO11F TUBE TYPE	2.75/21	'92.10.1
TRIAL WINNER TRO11F TUBELESS	4.00R18	'92.10.1

●日本ミシュランタイヤ（株）
〒102-0071東京都千代田区富士見1-6-1富士見ビル　☎03-5210-2731

タイヤ名	サイズ	公認月日
MICHELIN TRIAL COMPETITIONX11TL	4.00R18 TL	'87.7.8
ラジアルA59X	130/60R16,120/80R16,130/60R17（59H,59Z）,110/70R17,120/70R17（58,58Z）	
ラジアルM59X	160/60R16,160/80R16,180/55R17,160/60R17（69H,69Z）,160/60R18,150/70R70	
ハイスポートラジアルTX11	120/80R16,130/60R17,120/70R17,100/80R17,110/80R17,120/60R17（55H,55Z）,110/70R17,110/80R18	
ハイスポートラジアルTX23	160/80R16,180/55R17,150/60R17,160/60R17（69H,69Z）,130/70R17,150/70R17	
P2301	12/60R17	
P3104	15/61R17,18/67R17	
P1201	12/60R17	
P3103	15/61R17,18/6R17	
MICHELIN TRIAL COMPETITION	2.75/21TT	'91.11.1
MICHELIN TRIAL COMPETITION	2.75/21TL	'91.11.1
MICHELIN TRIAL COMPETITIONX11TL	4.00R18TL	'91.11.1
A59X	120/60R17 55Z	'92.4.3
MICHELIN TRIAL COMPETITIONX11TL	4.00R18TL	'92.5.1
ハイスポートラジアルTX11B-TX23	110/70ZR17,120/70ZR17,120/60ZR17,190/50ZR17,180/55ZR18	'94.7.28
ハイスポートラジアルTX15	130/70ZR16,110/70ZR17,120/60ZR17	'95.5.25
ハイスポートラジアルTX25	150/60ZR17,160/60ZR17	'95.5.25
ハイスポートラジアルTX15RACE	110/70ZR17,120/70ZR17,120/60ZR17	'95.9.22
ハイスポートラジアルTX25RACE	150/60ZR17,160/60ZR17,180/55ZR17	'95.9.22
P3106使用可能リム3.00～3.50	12/60-17	'96.6.25
P3107使用可能リム3.00～3.50	12/60-17	'96.6.25
P4105使用可能リム4.50～5.50	16/62-17	'96.6.25
P4107使用可能リム4.50～5.50	16/62-17	'96.7.25
ハイスポートラジアルTX25RACE2	使用可能リム4.00～4.50 150/60ZR17 使用可能リム4.25～5.00 160/60ZR17 使用可能リム4.25～5.50 170/60ZR17 使用可能リム5.50～6.00 180/55ZR17	'97.2.28
P1107　使用可能リム2.50	9/58-17	'97.1.24
ハイスポーツラジアルTX15RACE3	使用可能リム3.00～3.50 110/70ZR17 使用可能リム3.50～3.75 120/60ZR17 使用可能リム3.50～3.75 120/70ZR17	'97.7.24
ハイスポーツラジアルTX25RACE3	使用可能リム4.00～4.50 150/60ZR17 使用可能リム4.25～5.00 160/60ZR17 使用可能リム4.25～5.00 170/60ZR17	'97.8.1
TX15RACE3　SOFT	使用可能リム3.00～3.50 110/70ZR17 使用可能リム3.50～3.75 120/60ZR17 使用可能リム3.50～3.75 120/70ZR17	'98.7.23
TX25RACE3　SOFT	使用可能リム4.00～4.50 150/60ZR17 使用可能リム4.25～5.00 160/60ZR17 使用可能リム4.25～5.50 170/60ZR17	'98.7.23
P1107	使用可能リム4.50～5.50 16/63-17	'98.11.27

●P&A（株）

〒106-0047東京都港区東麻布1-10-11芝阿部ビル5F　☎03-5575-2320

タイヤ名	サイズ	公認月日
ビレリートライアルタイヤ・MT75ガラトライアル	2.75・21 MT73	'90.9.7
MP7スポーツレーシング	110/70ZR17,120/60ZR17, 120/70ZR17,150/60ZR17, 160/60ZR17,180/55ZR17, 140/60ZR18,170/60ZR18	'91.7.4
MT75レーシング	100/80T16,100/80T17, 130/70T17,140/70T17, 130/70T18	'91.7.4

●（株）日本ダンロップ

〒651-0072兵庫県神戸市中央区脇浜町3-6-9　☎078-265-3000

タイヤ名	サイズ	公認月日
K320	2.75・21　4PR	'86.11.23
K320	4.00R18　4PR	'86.11.23
TT500F GP	80/90R16,90/90R16, 100/90R16,90/80R17, 100/18R17（52H,57H,54H）	
TT50GP	90/90R17,120/80R17, 140/80R17,130/70R17, 140/70R17,100/90R18, 130/70R18	
RIDEEN GPR・30E	110/70R17,120/70R17, 120/60R17,100/60R17, 150/60R17,160/60R17, 170/60R17,140/60R18, 150/60R18,	
MR677	3.25/4.75R17,4.00/6.00R18, 2.50/3.00R18,2.75/3.75R18, 3.25/5.75R17,3.25/5.75R18, 2.65/3.25R17,2.85/4.00R17, 3.80/6.00R17,3.60/6.70R18	
RIDEEN GPR・60F	110/70R17 54H,120/60R17 55H	'91.5.9
RIDEEN GPR・60	150/60R17 66H,160/60R17 69H 140/60R18 64H,150/60R18 67H	'91.5.9
TT700F GP	100/80・17 52H,110/70・17 54H 100/90・16 54H	'91.5.9
TT700 GP	130/70・17 62H,140/70・17 66H 120/80・17 61H,130/70・18 63H 130/90・16 67H	'91.5.9
TT700F GP	90/90・18,110/80・17	'92.3.4
TT700 GP	110/80・18,110/90・18, 120/80・18,140/70・18, 150/70・17	'92.3.4
K375F	100/80・17	'92.2.4
K375FG	100/80・17	'92.2.4
K375	120/80・17	'92.2.4
K420GPチューブレス	4.00R18　4PR	'92.4.1
K420GPチューブレス	4.00R18　4PR	'92.4.1
TT500F GP	100/80・17　52S	'92.6.20
TT500GP	120/80・17　61S	'92.6.20
K420チューブタイプ	2.75・21（45K）	'92.11.6
K420チューブレスタイプ	2.75・21（45K）	'92.11.6
K420GPチューブタイプ	2.75・21（45K）	'92.12.3
K420GPチューブレス	2.75・21（45K）	'92.12.3
K420GPチューブタイプ	4.00R18（64M）	'92.12.15
K420GPチューブレス	4.00R18（64M）	'92.12.15
GPR50F	110/70R17　54H 120/60R17　54H 120/70R17　58H	'93.2.20
GPR50	140/60R17　63H 140/60R18　64H 150/60R17　66H 150/60R18　67H 160/60R17　69H	'93.2.20
MR777	150/60R17	'93.3.23
MR977	90/75R17,115/65R17, 120/70R17,160/60R17,	'94.3.22
D801Fチューブタイプ	2.75・21,4P.R（45M）	'94.5.1
D801Fチューブレスタイプ	2.75・21,4P.R（45M）	'94.5.1
D801チューブタイプ	4.00R18,4P.R（64M）	'94.5.1
D801チューブレスタイプ	4.00R18,4P.R（64M）	'94.5.1
MR977	110/70R17	'94.7.28
Rideen　GPR・50F　SP	110/70R17 54H,120/60R17 55H 120/70R17 58H	'95.2.15
Rideen　GPR・50　SP	140/60R17 63H,140/60R18 64H 150/60R17 66H,150/60R18 67H 160/60R17 69H	'95.2.15
TT900F　GP	80/90?16 43P,90/80?17 46S,100/80/17 52S,100/90/16　54H,100/80/17 52H,110/80/17 57H,110/70/17 54H	'95.2.15
TT900GP	90/90/17　49P,100/80/17 52S,120/80/17　61S,120/80/17 61H,120/80/18　62H,130/70/17 62H,140/70/17　66H,150/70/17 69H,150/70/18 70H	'95.2.15
KR244	使用可能リム 4.50～5.50	3.25/5.90R17	'95.11.28
TT100GP		110/90/17　60H 120/80/17　61H 3.00/18　47S 3.50/18　56H 4.00/13　64H 90/90/18　51H 110/90/18　61H 100/90/19　57H	'96.12.26
Rideen　GPR70F	使用可能リム2.75～3.50 使用可能リム3.00～3.50 使用可能リム3.00～3.50	110/70R17 54H 120/60R17 55H 120/70R17 58H	'97.2.10
Rideen　GPR70	使用可能リム3.50～4.50 使用可能リム3.50～4.50 使用可能リム3.50～4.50 使用可能リム4.00～4.50 使用可能リム4.00～4.50 使用可能リム4.50～5.00	140/60R17　63H 140/70R17　66H 140/60R18　64H 150/60R17　66H 150/60R18　67H 160/60R17　69H	'97.2.10
SPORTMAX D207F　GP	使用可能リム3.50～4.00 使用可能リム3.00～3.50	130/70ZR16 120/70ZR17	'97.8.10 '97.5.25
SPORTMAX D207　GP	使用可能リム4.50～5.50 使用可能リム5.50～6.00 使用可能リム5.50～6.00	170/60ZR17 180/55ZR17 190/50ZR17	'97.5.25
MR977	使用可能リム2.50 使用可能リム3.00～3.50 使用可能リム3.00 使用可能リム3.50～3.75	90/75R17 115/65R17 110/70R17 120/70R17	'97.7.24
KR244	使用可能リム4.50～5.50	3.25/5.90R17	'97.7.24
Rideen　GPR70	使用可能リム4.00～4.50 使用可能リム4.50～5.00	150/60R17　66H 160/60R17　69H	'97.7.24
KR122	使用可能リム2.50 使用可能リム2.75～3.50	90/65R17 120/60R17	'98.6.26 '98.6.26
KR122	使用可能リム2.50 使用可能リム2.75～3.50	90/65R17 120/60R17	'98.7.23 '98.7.23
KR244	使用可能リム4.50～5.50 使用可能リム4.50～5.50 使用可能リム4.50～5.50	165/50R17 3.25/5.90R17 165/50R17	'98.7.23 '98.9.25 '98.9.25

●（株）ブリヂストン

〒104-0031東京都中央区京橋1-10-1　☎03-3563-6819

タイヤ名	サイズ	公認月日
BATTLAX BT・72FS	110/80R17,110/70R17, 120/60R17,120/70R17	
BATTLAX BT・72RS	140/70R17,140/60R17, 150/60R17,160/60R17, 120/80R18,140/60R18, 150/60R18,170/60R17	
BATTLAX BT・09SS	90/90・16,90/80・17	
BATTLAX BT・70FS	110/70・17,120/60・17, 120/70・17,130/60・17, 140/60・17,140/60・18, 150/60・17,150/60・18, 160/60・17,170/60・17	
ME72	85/595R18,85/575R17, 110/590R17,95/600R18, 140/630R18,120/595R17, 150/600R17	

ME76	105/575R17,150/635R18,155/620R17	
BATTLAX BT - 50F	120/70ZR17,130/60ZR17	'91.6.7
BATTLAX BT - 50R	170/60ZR17,180/55ZR17,160/60ZR18	'91.6.7
ME77	90/575R17	'91.6.1
ME78	105/585R17	'91.6.1
BATTLAX BT - 09SS SOFT	90/90 - 16,90/80 - 17,100/80 - 17	'92.4.20
BATTLAX BT - 10SS SOFT	120/80 - 17,100/90 - 18	'92.4.20
BATTLAX BT - 80S F RADIAL	110/70R17,120/70R17,120/60R17	'92.3.20
BATTLAX BT - 80S R RADIAL	150/60R17,160/60R17,150/60R18	'92.3.20
BATTLAX BT - 50	120/70ZR17	'92.4.20
ME77	90/570R17	'92.6.10
ME77	105/585R17	'92.6.10
ME77	160/625R17	'92.6.20
ME77	150/635R18	'92.6.20
ME77	155/620R17	'93.7.1
BATTLAX BT - 39F SS	90/80-17,100/80-17,80/90-16	
BATTLAX BT - 39R SS	100/90-18,120/80-17,100/80-17	
BATTLAX BT - 80S F RADIAL	110/70R17,120/60R17,120/70R17	
BATTLAX BT - 80S R RADIAL	150/60R17,160/60R17,150/60R18	
ME01Z	120/600R17	'94.2.10
BATTLAX BT - 80F - RADIAL	110/70R17 54H,120/60R17 55H,120/70R17 58H	'94.7.20
BATTLAX BT - 80R - RADIAL	150/60R17 66H,160/60R17 69H	'94.5.20
BATTLAX BT - 90F - RADIAL	110/70 R17 54H 120/60 R17 55H 120/70 R17 58H	'95.1.20
BATTLAX BT - 90R - RADIAL	150/60 R17 66H 160/60 R17 69H 140/60 R18 64H 150/60 R18 67H	'95.1.20
BATTLAX BT - 90F RADIAL	110/70R17 54H,120/60R17 55H 120/70R17 58H	'95.1.20
BATTLAX BT - 90R RADIAL	150/60R17 66H,160/60R17 69H 140/60R18 64H,150/60R18 67H	'95.1.20
ME01F	90/580R17	'95.3.15
RACING BATTLAX RADIAL WET ME01Z	110/590R17	'95.5.1
BATTLAX BT - 90F RADIAL	110/70R17 54H,120/70R17 58H	'95.7.19
ME77Z 使用可能リム2.75～3.50	110/585R17	'95.11.28
ME76 使用可能リム3.00～3.75	120/595R17	'95.11.28
ME04Z 使用可能リム4.50～5.50	160/620R17	'95.11.28
RACING BATTLAX WET E04Z 使用可能リム2.75～3.50	115/590R17	'96.4.20
RACING BATTLAX WET E01使用可能リム2.15～2.50 E04Z使用可能リム2.75～3.50 ME01Z使用可能リム3.50～3.75 ME04Z使用可能リム4.50～5.50	90/560R17 115/590R17 120/600R17 160/620R17	'97.4.25
BATTLAX BT-96F RADIAL 使用可能リム2.75～3.50 使用可能リム3.00～3.50	110/70R17 54H 120/60R17 59H, 120/70R17 58H	'98.4.1
BATTLAX BT-96R RADIAL 使用可能リム3.50～4.50 使用可能リム4.00～4.50 使用可能リム4.50～5.00 使用可能リム3.50～4.50	140/70R17 66H 150/60R17 66H, 150/60R18 67H 160/60R17 69H 140/60R18 64H	'98.7.1 '98.4.1 '98.4.1 '98.4.1
BATTLAX BT-96 RADIAL HARD 使用可能リム2.75～3.50 使用可能リム3.00～3.50 使用可能リム4.00～4.50 使用可能リム4.50～5.00	110/70R17 54H 120/70R17 58H 150/60R17 66H 160/60R17 69H	'98.6.26

●横浜ゴム(株)

タイヤ名	サイズ	公認月日
F - 003A2	80/90R16,90/90R16, 90/80R17,90/90R17, 100/90R18,	
F - 610	80/595R18,85/570R17, 90/600R18,100/580R17, 110/600R17,120/605R17, 135/640R18,150/600R17, 150/630R18,180/630R17, 180/655R18	
F - 003	110/70R17,120/60R17, 140/60R17,150/60R17, 160/60R17,140/60R18, 150/60R18,120/70R17, 170/60R17,170/60R18	
F - 006	110/70R17,120/60R17, 140/60R17,150/60R17, 160/60R17,140/60R18, 150/60R18,120/70R17, 170/60R17,170/60R18	
GETTAR F007RR	110/70F17 54H,120/60F17 55H,	'91.6.10
GETTAR F007RR	140/60R17 63H,150/60R18 67H,	'91.7.1
GETTAR F007RR	150/60F17 66H,160/60F17 69H,	'91.6.10
GETTAR F007RR	110/70R17 54H	'92.4.3
GETTAR F007RR	120/60R17 55H	'92.4.3
GETTAR F007RR	140/60R17 63H 150/60R17 66H 150/60R18 67H 160/60R17 69H	'92.4.3
GETTAR F007RR	110/70R17 54H 120/60R17 55H	'92.7.15
GETTAR F007RR	140/60R17 63H 150/60R17 66H 150/60R18 67H 160/60R17 69H	'92.7.15
GETTAR F610 GETTAR R610	110/600R17,120/605R17, 150/600R17,105/580R17,	'93.6.15
GETTAR F007RR GETTAR R007RR	100/80 - 17 52S 120/80 - 17 61S	'93.6.10
GETTAR R610	150/600R17,150/630R18,	'94.2.25
GETTAR R007A SPRINT	110/70R17 54H,120/60R17 55H 150/60R17 66H,160/60R17 69H 140/60R17 63H,150/60R18 67H	'94.7.20

MFJ公認車両〔スノーモビル〕

部門＼クラス		SJクラス	S4クラス	S3クラス	S2クラス	S1クラス	A級スーパークラス
排気量	水冷エンジン	——	～125ccまで	126cc～350ccまで	351cc～500ccまで	オープン	オープン
	空冷エンジン	～125ccまで	126cc～350ccまで	351cc～500ccまで	501cc～750ccまで	オープン	オープン
モディファイスポーツ		SV80（E） SV125E	CS340（E） S340 S250 ET250 ET300 ET340 GPX338 EC340 TXL340 S300T S350DX INDY SPORTS INDY LITE INDY340	PZ480 PZ480ED PZ480E PZ480LT（Special） S440 SS440 GPX433 INDY-TRAIL CUTLASS-SS TXL-INDY VT480E FORMURA-SL INDY Super Sports MXZ500F-SP PZ480SE PZ500 Z440	S540 EC540 XL540 INDY500（SP） INDY400 PROWER440 EX570SX EX570LT VX500（E·LT） INDY XCR440 FORMURA-Z INDY 500EFI Formula SLS INDY 440XC VX500XTC INDY440XCR MXZ500 INDY 500XC SP VX500SX MXZ ZR500LE	EX570（E） EX570SP INDY650（RXL） FORMULA-MACH1 EL-TIGER WILD-CAT WILD-CAT700 FORMULA-PLUS VX750 INDY XLT ARCTIC CAT INDY STORM INDY XLT SPECIAL SKI-DOO MACH Z VX600（E·LT·XT） VX800（E·LT） INDY XCR600（SP） MXZ583 Formula Ⅲ INDY Ultra SPX SE INDY Ultra SP INDY 600XC MXZ 670 MXZ600 MXZ670H.O. ZRT 600 VX700SX VX700LT VX600XTC VX600SX VX600LT VX600DX SRX700LT SRX700S SRX600S INDY700XC ZR600 MACH Z INDY700XC（SP） ⇦他クラス車両	S1 S2 S3 S4 SJ の公認車両

その他の部門車両区分▶フレッシュマンレース、レディース・ジュニア、OBレースのクラス区分は主催者により定める。

※最新の公認リストはMFJライディング誌にてご確認下さい。

モータースポーツフィールド
TOKACHI

1999十勝ロードレース選手権 暫定スケジュール

		GP125	SP250/400	NK	Minibike
第1戦	5月9日	○	○	○	○
第2戦	6月13日	○	○	○	○
第3戦	8月8日	○	○	○	耐久
第4戦	10月11日	○	○	○	○

※日程及びレース内容が変更になる場合があります。

INFORMATION

十勝インターナショナルスピードウェイ・サーキットライセンス		走行料金:25min/1単位
RAIDING Club（2輪用）発給料 16.000円・共済金6.000円	計22.000円	3.000円
RACING Club（4輪用）発給料 26.000円・共済金6.000円	計32.000円	4.000円

楽しさのみなもと、北海道・十勝。

ママチャリ12時間耐久レース

ニッサンレーシングスクールin十勝

TOKACHI INTERNATIONAL SPEEDWAY

十勝インターナショナルスピードウェイ
〒089-1573 北海道河西郡更別村字弘和477
Tel.0155-52-3910（GOTO サーキット） Fax.0155-53-3366

MFJ 全国公認サーキット

北海道：HSP（北海道スピードパーク）
：十勝インターナショナルスピードウェイ
宮城県：スポーツランドSUGO
：仙台ハイランドレースウェイ
福島県：エビスサーキット
：エビスサーキット西コース
新潟県：日本海間瀬サーキット
栃木県：那須モータースポーツランド
：ツインリンクもてぎ
：ツインリンクもてぎ北ショートコース
茨木県：筑波サーキット
静岡県：富士スピードウェイ（FISCO）
三重県：鈴鹿サーキット
：鈴鹿サーキット南コース
兵庫県：猪名川サーキット
：セントラルサーキット
岡山県：TIサーキット英田
山口県：セントラルパークMINÉサーキット
徳島県：阿讃サーキット
大分県：スポーツ&セーフティライディングフィールド・SPA直入
：オートポリスインターナショナルレーシングコース
熊本県：HSR九州（ホンダセーフティ&ライディングプラザ九州）

▶HSP（北海道スピードパーク）

〒044-0085 北海道虻田郡倶知安町字峠下155
☎0136（23）3880

全長距離／1,389.44m
最大直線長／365m
ピット数／15個
走行路幅／9～12m
交通／札幌市内より95km

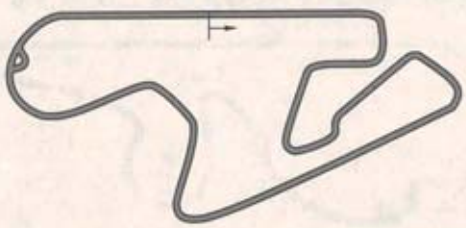
▶十勝インターナショナルスピードウェイ

〒089-1573 北海道河西郡更別村字弘和477番地
☎0155（52）3910
全長距離／グランプリコース・5,091.45m
クラブマンコース・3,405.87m
最大直線長／1,010m
ピット数／36個
走行路幅／13.5～15m
交通／帯広空港から15km
帯広駅から40km

▶スポーツランドSUGO

〒989-1301 宮城県柴田郡村田町管生6-1
☎0224（83）3127

全長距離／3,737.5m
最大直線長／704.5m
ピット数／45個
走行路幅／10～12.5m
交通／東北自動車道・村田I.Cより約10km



▶仙台ハイランドレースウェイ

〒989-3434 宮城県仙台市青葉区新川早坂12
☎022（395）2120

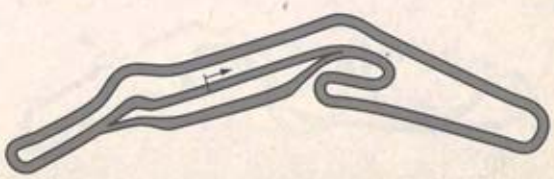
全長距離／4,063.00m
最大直線長／584.34m
ピット数／35個
走行路幅／12～15m
交通／東北自動車道
仙台宮城I.Cより約20km

▶エビスサーキット

〒964-0088 福島県二本松市沢松倉1
☎0243（24）2972
全長距離／2,061m
最大直線長／420m
ピット数／20個
走行路幅／10～12m
交通／東北自動車道・二本松I.Cより約10km

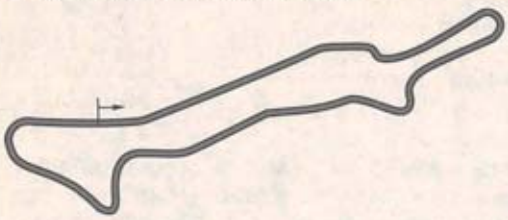
▶エビスサーキット西コース

〒964-0088 福島県二本松市沢松倉1
☎0243（24）2972
全長距離／2,103m
最大直線長／275.72m
ピット数／60個
走行路幅／10～15m
交通／東北自動車道・二本松I.Cより約10km



▶日本海間瀬サーキット

〒953-0105 新潟県西蒲原郡岩室村間瀬610
☎0256（85）2201
全長距離／2,000m
最大直線長／500m
ピット数／25個
走行路幅／8～12m
交通／関越自動車道・巻潟東I.Cより約20km



▶那須モータースポーツランド

〒325-0011 栃木県黒磯市寺子字坂の上677
☎0287（63）7300

全長距離／1,146m
最大直線長／281m
ピット数／12個
走行路幅／7.5～12m
交通／東北自動車道・那須I.Cより約10km

▶ツインリンクもてぎ

〒321-3597 栃木県芳賀郡茂木町桧山120-1
☎0285（64）0001

全長距離／4,801.379m（フルコース）
最大直線長／762m
ピット数／45個
走行路幅／12～15m

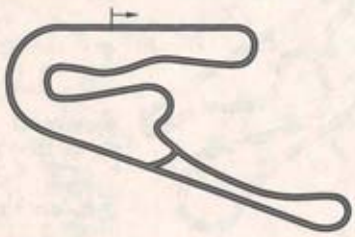
交通／常磐自動車道・
水戸I.Cより40分
那珂I.Cより40分
東北自動車道・
鹿沼I.Cより90分
宇都宮I.Cより80分

▶ツインリンクもてぎ北ショートコース

〒321-3597 栃木県芳賀郡茂木町桧山120-1
☎0285（64）0001
全長距離／1,020.084m
最大直線長／153.748m
ピット数／16個
走行路幅／8～10m
交通／常磐自動車道・
水戸I.Cより40分
那珂I.Cより40分
東北自動車道・
鹿沼I.Cより90分
宇都宮I.Cより80分

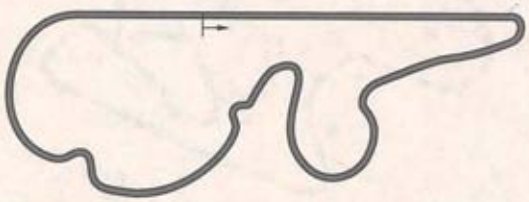
▶筑波サーキット

〒304-0824 茨城県結城郡千代川村村岡字西原
☎0296（44）3146
全長距離／2,070m
最大直線長／437.75m
ピット数／30個
走行路幅／10～15m
交通／常磐自動車道・谷和原I.Cより約25km



▶富士スピードウェイ（FISCO）

〒410-1308 静岡県駿東郡小山町大御神
☎0550（78）1234
全長距離／4,416m
最大直線長／1,500m
ピット数／45個
走行路幅／12～15m
交通／東名自動車道・御殿場I.Cより約10km
中央自動車道・東富士五湖道路　須走I.Cより約10km



▶鈴鹿サーキット

〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992
☎0593（78）1111

全長距離／5,864.03m
最大直線長／900m
ピット数／48個
走行路幅／10～14m
交通／東名阪自動車道・鈴鹿I.Cより約13km

▶鈴鹿サーキット南コース

〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992
☎0593（78）1111

全長距離／1,264m
最大直線長／190m
ピット数／20個
走行路幅／10m
交通／東名阪自動車道・
鈴鹿I.Cより約13km

▶猪名川サーキット

〒666-0214 兵庫県川辺郡猪名川町清水字前谷72-1
☎0727 (69) 0193
全長距離／1,021m
最大直線長／131.7m
ピット数／30個
走行路幅／8～12m
交通／県道川西篠山線から約1.5km

▶セントラルサーキット

〒679-1132 兵庫県多可郡中町坂本字草山521-1
☎0795 (32) 3766
全長距離／2,858.774m
最大直線長／664.642m
ピット数／30個
走行路幅／12～15m
交通／中国自動車道・竜野社I.Cより約16km
加西I.Cより約14km

▶TIサーキット英田

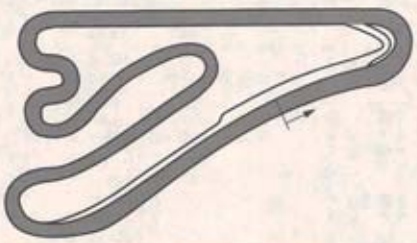
〒701-2612 岡山県英田町竜宮1210
☎08687 (4) 3311
全長距離／3,703m
最大直線長／680m
ピット数／54個
走行路幅／12～15m
交通／中国自動車道・美作I.Cより約25km
山陽自動車道・備前I.Cより約25km
和気I.Cより約25km

▶セントラルパークMINÉサーキット

〒759-2152 山口県美祢市西厚保町長尾
☎0837 (58) 0321
全長距離／3,238.98m
最大直線長／900m
ピット数／46個
走行路幅／10～15m
交通／中国自動車道・
美祢西I.Cより約5km

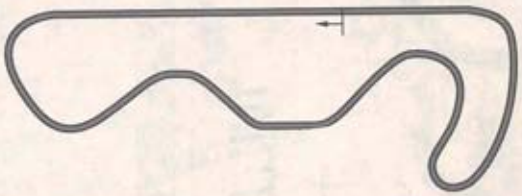
▶阿讃サーキット

〒771-2503 徳島県三好郡三好町大字東山字滝久保319
☎0883 (79) 3705
全長距離／1,004.31m
最大直線長／229.549m
ピット数／10個
走行路幅／9～12m
交通／徳島市内より約70km



▶スポーツ＆セーフティ ライディングフィールド・SPA直入

〒878-0403 大分県直入郡直入町大字上田北字浦原510-15
☎0974 (75) 3191
全長距離／1,430m
最大直線長／420m
ピット数／24個
走行路幅／10～11m
交通／大分市内より約40km

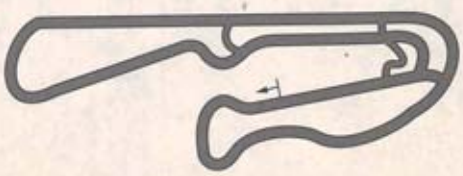


▶オートポリスインターナショナルレーシングコース

〒877-0312 大分県日田郡上津江村大字上野田1110-12
☎0973 (55) 1111
全長距離／4,674m
最大直線長／902m
ピット数／46個
走行路幅／12～15m
交通／九州自動車道・菊水I.Cより約45km
大分自動車道・日田I.Cより約45km

▶HSR九州 (ホンダセーフティ&ライディングプラザ九州)

〒869-1231 熊本県菊池郡大津町大字平川1500
☎096 (293) 1370
全長距離／2,991m
最大直線長／700m
ピット数／30個
走行路幅／9～15m
交通／九州縦貫道路・熊本I.Cより約15km



歴代チャンピオンリスト

ROAD RACE
TRIAL
MOTOCROSS
DRAG RACE
STADIUM TRIAL
SNOWMOBILE

ROAD RACE
●ロードレース部門（'67~'98年）

年	部門	クラス	氏名
'67	ジュニア	50cc	柴田 正之
		90cc	中 隆造
		125cc	大沢 安男
		250cc	太田 耕治
		251cc以上	宮沢 善次
	セニア	50cc	伊藤 光夫
		90cc	滋野 靖穂
		125cc	増田 恒弘
		250cc	矢野 啓司
		251cc以上	松永 喬
'68	アマチュア	90cc	角谷 新二
		125cc	鈴木 聖弘
		250cc	大脇 俊夫
		251cc以上	中山 仁
	ジュニア	90cc	酒井 重吾
		125cc	森井口 一夫
		250cc	谷口 茂夫
		251cc以上	妻木 哲哉
	セニア	90cc	神谷 明雄
		125cc	馬場 良忠
		250cc	和田 忠宏
		251cc以上	松永 喬
'69	アマチュア	90cc	野田 正彦
		125cc	斉藤 茂憲
		250cc	中尾 康夫
		251cc以上	数井 隆
	ジュニア	90cc	角谷 新二
		125cc	高井幾次郎
		250cc	尾崎 俊彦
		251cc以上	里村 祥二
	セニア	90cc	小田 豊
		125cc	隅谷 守男
		250cc	金谷 秀夫
		251cc以上	隅 守
'70	ノービス	90cc	岩道 博
		125cc	柴谷 昭
		250cc	小塚 正法
		251cc以上	鍋田 正明
	ジュニア	90cc	江崎 正二
		125cc	青山 英治
		250cc	槽野 雅男
		251cc以上	只野 光
	セニア	90cc	近藤 英二
		125cc	小田 豊
		250cc	大脇 俊夫
		251cc以上	河崎 裕之
'71	ノービス	90cc	平井 裕
		125cc	上田 公次
		250cc	大橋 富夫
		251cc以上	松谷 光明
	ジュニア	90cc	渡辺 富士夫
		125cc	青木 辰己
		250cc	内田 隆平
		251cc以上	加藤 昇
	エキスパート ジュニア	90cc	江崎 正
		125cc	遠藤 恒雄
		250cc	中尾 康夫
		251cc以上	浅見 貞男
	セニア	90cc	金谷 秀夫
		125cc	杉本 泉
		250cc	大脇 俊夫
		251cc以上	金谷 秀夫
'72	ノービス	90cc	菅原 伸夫
		125cc	坂 公平
		250cc	上野 真一
		251cc以上	富江 昭孝
	ジュニア	90cc	毛利 良一
		125cc	大本 十生
		250cc	大本 十生
		251cc以上	片山 敬済
	エキスパート ジュニア	125cc	渡辺 富士夫
		250cc	阿部 孝夫
		251cc以上	内田 隆
	セニア	125cc	小田 豊
		251cc以上	小田 豊

●ROAD RACE

年	部門	クラス	氏名
'73	ノービス	90cc	杉野 順三
		125cc	松山 守
		250cc	橋本久仁啓
	ジュニア	90cc	新田 茂
		125cc	坂 公平
		250cc	山崎 達衛
		350cc	佐藤 順造
	エキスパート ジュニア	125cc	毛利 良一
		750cc	片山 敬済
	セニア	125cc	角谷 新二
		750cc	根本 健
'74	ノービス	90cc	岡崎 隆史
		125cc	佐藤 健正
		250cc	酒井 克
	ジュニア	90cc	合津 悟志
		125cc	石井 康夫
		250cc	橋本久仁啓
		350cc	鈴木 修
	エキスパート ジュニア	125cc	岩道 博
		750cc	阪本 裕介
	セニア	125cc	青木 辰己
		750cc	高井幾次郎
'75	アマチュア	90cc	片橋 英治
		125cc	東金 育男
		250cc	桶谷 俊彦
	ジュニア	125cc	山梨 保
		750cc	酒井 克治
			大島 孝
	エキスパート ジュニア	125cc	相沢 清
		750cc	石井 康男
	セニア	125cc	江崎 正
		750cc	浅見 貞男
'76	ノービス	90cc	牧野 栄治
		125cc	川上 浩
		250cc	木下 恵司
	ジュニア	125cc	東金 育男
		250cc	水谷 勝
		350cc	太田 一博
	エキスパート・ジュニア	125cc	飯田 浩之
	エキスパート	250cc	毛利 良一
		350cc	佐藤 順造
		750cc	高井幾次郎
'77	ノービス	90cc	鈴木 利彦
		125cc	伊藤 裕之
		250cc	藤本 泰東
	ジュニア	125cc	川上 浩
		250cc	山名 久
		350cc	徳舛 仁久
	エキスパート	125cc	飯田 裕之
		350cc	鈴木 修
		750cc	毛利 良一
'78	ノービス	90cc	平野 芳男
		125cc	上田 幸也
		250cc	長谷川嘉久
	ジュニア	125cc	伊藤 裕之
		250cc	伊藤 巧
		350cc	藤本 泰東
	エキスパート	125cc	上田 公次
		250cc	上田 公次
		350cc	石川 岩夫
		750cc	上野 真一
'79	ノービス	125cc	富田 英志
		250cc	斉藤 光雄
	ジュニア	125cc	吉村 俊宏
		250cc	阿部 三吉
		350cc	平 忠彦
	国際A級	125cc	斉藤 三夫
		350cc	木下 恵司
		750cc	水谷 勝

●ROAD RACE

年	部門	クラス	氏名
'80	ノービス	125cc	五百部徳雄
		250cc	窪田 正二
	ジュニア	125cc	山本 陽一
		250cc	垣内 清孝
		350cc	田中 光男
	国際A級	125cc	一ノ瀬憲明
		350cc	平 忠彦
		750cc	鈴木 修
'81	ノービス	125cc	荒木 利春
		250cc	中山 博文
	国際B級	125cc	竹村 浩生
		250cc	七尾 道夫
		350cc	新井 亮一
	国際A級	125cc	一ノ瀬憲明
		350cc	藤本 泰東
		500cc	木下 恵司
'82	ノービス	125cc	篠田 雅樹
		250cc	三浦 昇
	国際B級	125cc	荒木 利春
		250cc	小林 大
	国際A級	125cc	一ノ瀬憲明
		250cc	福田 照男
		500cc	水谷 勝
'83	ノービス	フォーミュラ3 125cc	宮城 光
		250cc	吉田 健一
			宮城 光
	国際B級	125cc	篠田 雅樹
		250cc	坂口 彰
	国際A級	125cc	栗谷 二郎
		250cc	斉藤 光雄
		500cc	平 忠彦
'84	ノービス	フォーミュラ3 125cc	斉藤 兼一
		250cc	山田 浩史
			塩森 俊修
	国際B級	フォーミュラ1	宮城 光
		フォーミュラ3 125cc	宮城 光広
		250cc	清水 雅人
			田村 圭二
	国際A級	フォーミュラ1	八代 俊二
		フォーミュラ3 125cc	江崎 正
			栗谷 二郎
		250cc	小林 大
		500cc	平 忠彦
'85	国際B級	フォーミュラ1	袴田 利明
		フォーミュラ3 125cc	太田 浩一
		250cc	井上 賀博
			塩森 俊修
	国際A級	フォーミュラ1	辻本 聡
		フォーミュラ3 125cc	山本 陽一
		250cc	鈴木 久
		500cc	小林 大彦
			平 忠彦
'86	ジュニア	フォーミュラ3 125cc	町井 邦生
		250cc	藤沢 哲也
			町井 邦生
	国際A級	フォーミュラ1	山本 陽一
		フォーミュラ3 125cc	辻本 聡
		250cc	吉田 健一
		500cc	片山 信二
			木下 恵司
'87	ジュニア	フォーミュラ3 125cc	新垣 敏之
		250cc	佐藤聡一郎
			鵜村 健太
	国際A級	フォーミュラ3	田口 益充
		フォーミュラ1 125cc	大島 行弥
		250cc	鈴本 久
		500cc	清水 雅広
			藤原 儀彦
'88	ジュニア	フォーミュラ3 125cc	白井 直樹也
		250cc	原田 哲友
			永井 康
	国際A級	フォーミュラ3	塩森 俊修
		フォーミュラ1 125cc	宮崎 祥司
		250cc	廣瀬 政幸
		500cc	本間 利彦
			藤原 儀彦

●ROAD RACE

年	部門	クラス	氏名
'89	ジュニア	フォーミュラ3 125cc	福島 聡
		250cc	坂田 和人
			新井 秀也
	国際A級	フォーミュラ3	ダグ・ポーレン
		フォーミュラ1 125cc	ダグ・ポーレン
		250cc	山崎 冬樹
		500cc	岡田 忠之
			藤原 儀彦
'90	国内A級	SP750	吉川和多留
		フォーミュラ3	高橋 勝義
		80フォーミュラ3(2サイクル)	渡辺 学人
		80フォーミュラ3(4サイクル)	仲内 正明
		125cc	森兼 正繁
		250cc	茨木
	国際A級	フォーミュラ3(4サイクル)	鶴田 竜二
		80フォーミュラ3(2サイクル)	森北 貴也
		80フォーミュラ3(4サイクル)	小林 敏一
		フォーミュラ1	岩橋健一郎
		125cc	坂田 和人
		250cc	岡田 忠之
		500cc	伊藤 真一
'91	国内A級	フォーミュラ3	松戸 直樹
		SP750	阿部 徹郎
		125cc	稲垣 幸則
		250cc	宇川 徹
	スーパーカップ	フォーミュラ3(2サイクル)	椎名 明
	国際A級	フォーミュラ3	高橋 勝義
		フォーミュラ1 125cc	宮崎 祥司
		250cc	小野 真央
		500cc	岡田 忠之
			ピーター・ゴダート
'92	国際A級	125cc	斉藤 明
		250cc	原田 哲也
		500cc	ダリル・ビーティー
		フォーミュラ1	塚本 昭一
'93	国際A級	125cc	加藤 義昌
		250cc	宇川 徹史
		500cc	阿部 典史
		フォーミュラ1	北川 圭一
'94	国際A級	125cc	宮坂 賢
		250cc	宇川 徹
		スーパーバイク	吉川和多留
'95	国際	125cc	宇井 陽一
		250cc	沼田 憲保
		スーパーバイク	青木 拓磨
'96	国際	125cc	東 雅雄
		250cc	沼田 憲保
		スーパーバイク	青木 拓磨
'97	国際	125cc	秋田 貴志
		250cc	加藤大治郎
		スーパーバイク	芳賀 紀行
'98	国際	125cc	仲城 英幸
		250cc	中野 真矢
		スーパーバイク	伊藤 真一

MOTOCROSS

●モトクロス部門（'67～'98年）

年	部門	クラス	氏名
'67	アマチュア	50cc	黒川 隆
		90cc	河野 和憲
		125cc	高橋 道雄
		250cc	高橋 道雄
		251cc以上	森下 博
	ジュニア	90cc	山本 隆
		125cc	吉村 太一
		250cc	山本 隆
'68	アマチュア	50cc	堀 勇
		90cc	堀 勇
		125cc	堀 勇
		250cc	山下 和男
		251cc以上	山下 和男
	ジュニア	50cc	蜷名 博昭
		90cc	蜷名 博昭
		125cc	西 信之
		250cc	西 信之
		251cc以上	ロバート・E・エーモ
	セニア	90cc	星野 一義
		125cc	星野 一義
		250cc	山本 隆
'69	アマチュア	50cc	田中 敏男
		90cc	多田 茂次
		125cc	中里 道夫
		250cc	岩尾 一敏
	ジュニア	50cc	堀 勇
		90cc	従野 孝司
		125cc	鈴木 秀明
		250cc	鈴木 秀明
	セニア	90cc	山本 隆
		125cc	矢島金次郎
		250cc	鈴木 忠男
'70	ノービス	50cc	一色 薫
		90cc	小田切信雄
		125cc	平野 芳男
		250cc	青木 雅和
	ジュニア	90cc	鈴木都良夫
		125cc	岩尾 一敏
		250cc	岩尾 一敏
	セニア	125cc	吉村 太一
		250cc	吉村 太一
'71	ノービス	90cc	栗原 和年
		125cc	栗原 和年
		250cc	斉藤 英夫
	ジュニア	90cc	中村 忠
		125cc	杉浦 種保
		250cc	竹沢 正治
	エキスパート ジュニア	125cc	瀬尾 勝彦
		250cc	瀬尾 勝彦
	セニア	125cc	矢島金次郎
		250cc	上野 広一
'72	ノービス	90cc	藤 秀信
		125cc	藤 秀信
		250cc	藤 秀信
	エキスパート ジュニア	125cc	小田切信雄
		250cc	池田 勝
	ジュニア	90cc	唐沢栄三郎
		125cc	唐沢栄三郎
		250cc	唐沢栄三郎
	セニア	125cc	鈴木 秀明
		250cc	鈴木都良夫
'73	ノービス	90cc	管家 恵
		125cc	村上 光則
		250cc	管家 恵
	ジュニア	90cc	古田 哲郎
		125cc	古田 哲郎
		250cc	古田 哲郎
	エキスパート ジュニア	125cc	岸川 清秀
		250cc	藤 秀信
	セニア	125cc	鈴木都良夫
		250cc	鈴木 秀明

●MOTOCROSS

年	部門	クラス	氏名
'74	ジュニア	90cc 125cc 250cc	谷川　徹二 光安　鉄美 大賀　広美
	エキスパート ジュニア	125cc 250cc	渡辺　明 渡辺　明
	セニア	125cc 250cc	鈴木　秀明 鈴木　秀明
'75	ジュニア	90cc 125cc 250cc	北村　隆資 青山　金助 青山　金助
	エキスパート ジュニア	125cc 250cc	東福寺保雄 東福寺保雄
	セニア	125cc 250cc	杉尾　良文 増田　耕二
'76	ジュニア	90cc 125cc 250cc	月岡　尚人 月岡　尚人 横山　隆夫
	エキスパート ジュニア	125cc 250cc	光安　鉄美 青山　金助
	セニア	125cc 250cc	鈴木都良夫 竹沢　正治
'77	ジュニア	90cc 125cc 250cc	渡辺　義己 小沢　孝 福田　正敏
	エキスパート ジュニア	125cc 250cc	佐藤　健二 大泉　浩一
	セニア	125cc 250cc	瀬尾　勝彦 瀬尾　勝彦
'78	ジュニア	90cc 125cc 250cc	原本　松市 庄司　覚 ジェイソン・ドレイコット
	エキスパート ジュニア	125cc 250cc	佐々木　隆 佐々木　隆
	セニア	125cc 250cc	瀬尾　勝彦 光安　鉄美
'79	ジュニア	90cc 125cc 250cc	斉藤　武男 大久保和親 堀口　雅史
	エキスパート ジュニア	125cc 250cc	秋元　春夫 原口　衛
	セニア	125cc 250cc	光安　鉄美 光安　鉄美
'80	ジュニア	125cc 250cc	小野沢良一 小野沢良一
	国際B級	125cc 250cc	谷川龍太郎 庄司　覚
	国際A級	125cc 250cc	東福寺保雄 杉尾　良文
'81	ジュニア	125cc 250cc	平山　勝一 茶谷　学
	国際B級	125cc 250cc	岡部　篤史 岡部　篤史
	国際A級	125cc 250cc	東福寺保雄 福本　敏夫
'82	ジュニア	125cc 250cc	ロン・キンダー 馬場　善人
	国際B級	125cc 250cc	小橋　勝年 小橋　勝年
	国際A級	125cc 250cc	大関　昌典 東福寺保雄
'83	ジュニア	125cc 250cc	天田　淳 天田　淳
	国際B級	125cc 250cc	茶谷　学 茶谷　学
	国際A級	125cc 250cc	庄司　覚 杉尾　良文
'84	ジュニア	125cc 250cc	調所　伸一 小栗　伸幸
	国際B級	125cc 250cc	菅原　義広 鶴田　忍
	国際A級	125cc 250cc	東福寺保雄 スティーブ・マーチン

●MOTOCROSS

年	部門	クラス	氏名
'85	ジュニア	125cc 250cc	長沼　朝之 花田　茂樹
	国際B級	125cc 250cc	田淵　武 川崎　智之
	国際A級	125cc 250cc	岡部　篤史 スティーブ・マーチン
'86	ジュニア	125cc 250cc	藤本　正勝 吉田　和泉
	国際B級	125cc 250cc	花田　茂樹 花田　茂樹
	国際A級	125cc 250cc	伊田井佐夫 東福寺保雄
'87	ジュニア	125cc 250cc	岸田　隆夫 橋本　慎二
	国際B級	125cc 250cc	吉田　和泉 石橋　博也
	国際A級	125cc 250cc	岡部　篤史 東福寺保雄
'88	ジュニア	125cc 250cc	大塚　元和 大塚　元和
	国際B級	125cc 250cc	大塚　忠和 大塚　忠和
	国際A級	125cc 250cc	岡部　篤史 東福寺保雄
'89	ジュニア	125cc 250cc	黒古　尚利 黒古　尚利
	国際B級	125cc 250cc	芹沢太麻樹 樫本　正則
	国際A級	125cc 250cc	光安　鉄美 岡部　篤史
'90	国際A級	125cc 250cc	荻島　忠雄 荻島　忠雄
	国際B級	125cc 250cc	元木　龍幸 村橋健太郎
	国際A級	125cc 250cc	東福寺保雄 東福寺保雄
'91	国際B級	125cc 250cc	半場　謙吾 城田　賢一
	国際A級	125cc 250cc	荻島　忠雄 宮内　隆行
'92	国際B級	125cc 250cc	佐々木裕介 田沢　豊晃
	国際A級	125cc 250cc	請川　意次 エディ・ウォーレン
'93	国際B級	125cc 250cc	益留信太郎 益留信太郎
	国際A級	125cc 250cc	佐々木裕介 ロン・ティチナー
'94	国際B級	125cc 250cc	倉林啓一郎 成田　亮
	国際A級	125cc 250cc	小田切一剛 ロン・ティチナー
'95	国際B級	125cc 250cc	矢島　健一 溝口　哲也
	国際A級	125cc 250cc	川島雄一郎 ジェフ・マタセビッチ
'96	国際B級	125cc 250cc	井上　眞一 井上　眞一
	国際A級	125cc 250cc	川島雄一郎 ジェフ・マタセビッチ
'97	国際B級	125cc 250cc	増田　一将 増田　一将
	国際A級	125cc 250cc	高見　俊次 ジェフ・マタセビッチ
'98	国際B級	125cc 250cc	平塚　雅樹 平塚　雅樹
	国際A級	125cc 250cc	増田　一将 カイル・ルイス

TRIAL

●トライアル部門（'73～'98年）

年	部門	クラス
'73	選抜	木村　治男
'74	ノービス ジュニア	伊吹　健次 近藤　博志
'75	ジュニア エキスパート	蜂巣　秀男 加藤　文博
'76	ジュニア エキスパート	町田　晴男 黒山　一郎
'77	ジュニア エキスパート	山本　昌也 近藤　博志
'78	ジュニア エキスパート	山田　民雄 近藤　博志
'79	ジュニア 国際A級	佐藤　雄一 近藤　博志
'80	ジュニア 国際A級	広木　一美 丸山　嵐保
'81	ジュニア 国際A級	石原　正美 黒山　一郎
'82	国際B級 国際A級	高田　雅孝 山本　昌也
'83	国際B級 国際A級	和田　弘行 山本　昌也
'84	国際B級 国際A級	米沢　満夫 山本　昌也
'85	国際B級 国際A級	泉　裕朗 山本　昌也
'86	国際B級 国際A級	小林　直樹 山本　昌也
'87	国際B級 国際A級	小谷　徹 伊藤　敦志
'88	国際B級 国際A級	成田　匠 伊藤　敦志
'89	国際B級 国際A級	宮道　昌浩 成田　匠
'90	国際B級 国際A級	前野　繁 伊藤　敦志
'91	国際B級 国際A級	本多　元治 中川　義博
'92	国際B級 国際A級	小川　友幸 パスカル・クトゥリエ
'93	国際B級 国際A級	田中　善弘 パスカル・クトゥリエ
'94	国際B級 国際A級	寺澤　慎也 成田　匠
'95	国際B級 国際A級	成田　亮 藤波　貴久
'96	国際B級 国際A級	田中　太一 黒山　健一
'97	国際B級 国際A級 国際A級スーパークラス	渋谷　勲 東谷　洋 黒山　健一
'98	国際B級 国際A級 国際A級スーパークラス	北山　将司 野崎　史高 藤波　貴久

STADIUM TRIAL

●スタジアムトライアル部門（'91～'93年）

	部門	クラス
'91	国際A級	中川　義博
'92	国際A級	パスカル・クトゥリエ
'93	国際A級	パスカル・クトゥリエ

SNOW MOBILE
●スノーモビル部門（'71〜'98年）

年	部門	クラス	
'71	モディファイ300cc	大月	信和
	モディファイ400cc	青木	雅和
	モディファイ401cc	大月	信和
'72	モディファイ300cc	丹治	章
	モディファイ400cc	丹治	章
	モディファイ401cc	丹治	章
'73	モディファイ340cc	伊藤	盛男
	モディファイ440cc	小田切	信雄
'74	モディファイ340cc	伊藤	盛男
	モディファイ440cc	伊藤	盛男
'75	モディファイ340cc	伊藤	盛男
	モディファイ440cc	伊藤	盛男
'76	モディファイ340cc	春名	薫
	モディファイ440cc	春名	薫
'77	モディファイ340cc	藤本	整司
	モディファイ440cc	高橋	和雄
'78	モディファイ340cc	丹治	章
	モディファイ440cc	丹治	章
'79	モディファイ340cc	高橋	和雄
	モディファイ440cc	古川	四郎
'80	モディファイ340cc	高橋	和雄
	モディファイ440cc	高橋	和雄
'81	モディファイオープン	領毛	信治
	モディファイ540cc	本田	勝義
	モディファイ340cc	佐々木	善之
	モディファイ300cc	南雲	静夫
'82	モディファイオープン	高橋	和雄
	モディファイ540cc	高橋	和雄
	モディファイ340cc	佐野	博
	モディファイ300cc	古川	啓八
'83	モディファイオープン	藤本	正勝
	モディファイ540cc	中山	忠
	モディファイ340cc	中山	忠
	モディファイ300cc	佐野	博
'84	モディファイオープン	高橋	和雄
	モディファイ540cc	藤本	正勝
	モディファイ340cc	今野	孝
	モディファイ300cc	佐野	博
'85	モディファイオープン	高橋	和雄
	モディファイ540cc	江口	享二
	モディファイ340cc	今野	孝
'86	モディファイオープン	熊谷	留夫
	モディファイ540cc	熊谷	留夫
	モディファイ340cc	江口	享一
'87	モディファイオープン	松田勇五郎	
	モディファイ540cc	米田	幸一
	モディファイ340cc	松田勇五郎	
'88	モディファイオープン	遠藤	和也
	モディファイ540cc	江口	享一
	モディファイ340cc	遠藤	和也
'89	モディファイオープン	熊谷	留夫
	モディファイ540cc	江口	享二
	モディファイ340cc	遠藤	和也
'90	モディファイA級S1	江口	享二
	モディファイA級S3	熊谷	留夫
	モディファイA級S4	江口	享一
	モディファイB級S1	沼倉	照義
	モディファイB級S3	羽田野	達也
	モディファイB級S4	梅沢	文雄
'91	モディファイA級S1	成田	正弘
	モディファイA級S3	江口	享一
	モディファイA級S4	大野	勇
	モディファイB級S1	内野	令一
	モディファイB級S3	梅沢	康二
	モディファイB級S4	木村	明則
'92	モディファイA級S1	成田	正弘
	モディファイA級S3	上葛	泰隆
	モディファイA級S4	高橋	晴彦
	モディファイB級S1	山内	康裕
	モディファイB級S3	又村	哲哉
	モディファイB級S4	八木橋	光治

●SNOW MOBILE

'93	モディファイA級S1	上葛	泰隆
	モディファイA級S3	三好	一浩
	モディファイA級S4	高橋	晴彦
	モディファイB級S1	千葉	賢一
	モディファイB級S3	千葉	賢一
	モディファイB級S4	泉沢	克美
'94	モディファイA級S1	上葛	泰隆
	モディファイA級S2	上葛	泰隆
	モディファイA級S3	中村	光貴
	モディファイA級S4	高橋	晴彦
	モディファイB級S1	関井	誠
	モディファイB級S2	大和	長武
	モディファイB級S3	郷	和幸
	モディファイB級S4	戸田	幸廣
'95	モディファイA級S1	戸沢	真司
	モディファイA級S2	上葛	泰隆
	モディファイA級S3	三好	一浩
	モディファイA級S4	上野	忠夫
	モディファイB級S1	松田	智典
	モディファイB級S2	柏倉	秀伸
	モディファイB級S3	熊谷	聡寛
	モディファイB級S4	松田	智典
'96	モディファイA級S1	上葛	泰隆
	モディファイA級S2	戸沢	真司
	モディファイA級S3	山下	力
	モディファイA級S4	上野	忠夫
	モディファイB級S1	黒沢	直也
	モディファイB級S2	日野	義克
	モディファイB級S3	長内	義基
	モディファイB級S4	日野	義克
'97	モディファイA級S1	郷	敦司
	モディファイA級S2	戸沢	真司
	モディファイA級S3	山下	力
	モディファイA級S4	日野	義克
	モディファイB級S1	渋谷	博樹
	モディファイB級S2	渋谷	博樹
	モディファイB級S3	村角	修司
	モディファイB級S4	渋谷	博樹
'98	モディファイA級S1	戸沢	真司
	モディファイA級S2	中澤	裕伺
	モディファイA級S3	日野	義克
	モディファイA級S4	松田	智典
	モディファイB級S1	坂上	善彦
	モディファイB級S2	戸沢	貴典
	モディファイB級S3	佐藤	哲也
	モディファイB級S4	桜庭	直義

DRAG RACE
●ドラックレース部門（'93〜'98年）

年	クラス	氏名
'93	プロストックバイク	田中 文樹
'94	プロストックバイク	田中 文樹
'95	プロストックバイク	上中 靖司
'96	プロストックバイク	生田目俊之
'97	プロストックバイク	川上 英二
'98	プロストックバイク	中村 圭志

SUPERCROSS
●スーパークロス部門（'94〜'97年）

年	クラス	氏名
'94	125cc	高見 俊次
	250cc	榎本 正則
'95	125cc	辻本 幸二
	250cc	小橋 雅也
'96	125cc	濵口 哲也
	250cc	熱田 高輝
'97	125cc	加賀 真一
	250cc	熱田 孝高

タイトルホルダーの証 MFJチャンピオンカード

MFJ［(財)日本モーターサイクルスポーツ協会］では、全日本選手権での最上級クラスでチャンピオンを獲得したライダーの功績をたたえ、チャンピオンを獲得したライダーに対し、MFJ チャンピオンカードを発給しています。このチャンピオンカードを提示すると、全日本選手権等のイベント(特別イベント等除く)の入場がフリーパスとなり、過去の功績のあるライダーが気軽にサーキットに来れるものです。その中で建設的な意見を具申するなど、モーターサイクルスポーツ界に寄与してほしいと考えています。

ピットクルーに関する指導要項

ピットクルーはライダーを補佐し、レースを円滑に進めるレースに欠かせない重要な役割を担っている。ライダーに代わって必要な情報を得たり、事務手続きをするなどのマネージャー的な役割や、レースの作戦を立てる監督的な役割、直接マシンの調整・修理をするメカニックまで、様々な立場の人がピットクルーライセンスを取得してレースに参加している。実際にレースにおいてピットクルーとして登録し作業する際には、下記のことに注意しなければならない。

1）ピットクルーの登録

① 基本的に下記の人数のピットクルーが登録可能である。

・ロードレース

地方選手権以下：2名以内
エリア選手権　：4名以内
全日本選手権　：6名以内

・モトクロス

地方選手権以下：2名以内
全日本選手権　：2名以内

② ロードレースの場合、地方選手権においては最低1名のピットクルーを登録することが義務づけられる。これはライダーが負傷した場合、帰りの交通手段の確保や病院での手続き、家族への連絡が必ず必要となるためである。

2）ピットクルーの登録と変更・追加

ピットクルーはエントリー用紙のピットクルー登録欄に記入し、登録する。いったん登録したピットクルーは選手受付時に変更することは可能だが、申請人数より追加することはできない。変更の際は変更手数料1,000円が必要となる。

3）ピットクルーの服装

安全上長袖・長ズボンを着用すること。ロードレースのピットロードやスタート時にエンジン始動を手伝うときや足場の悪いモトクロスなどは半ズボンやサンダル履きは避け、品位ある服装にすること。

※全日本モトクロスに参加するピットクルーは細則5 6出場申込み(4)（96頁）参照。

4）ピットクルーの立ち入り範囲

① ロードレース

ピット作業エリアとピットサインを出すプラットフォーム、スタート進行時にはコース上に入ることができる。

② モトクロス

各大会ごとにコースレイアウトによってサインエリアが定められ公式通知、ライダースミーティング等で説明される。

5） ピットクルーの遵守事項

全てのピットクルーは、自らの参加する競技に関する規則を熟知していなければならない。また、安全に対する認識を持っていること。

① ロードレース

・ピットロードにおいては、ピットイン・ピットアウト車両に十分注意すること。
また、無資格のゲスト等がピットロードに出ないように注意する。

・火気に注意する。特に喫煙は指定の場所で行うこと。

・スタート進行時は、スタートが遅延しないよう作業すること。時間がきたら速やかにコース外に退去すること。

・メカニックは特にブレーキ系とオイル回りの安全対策を常にチェックすること。

② モトクロス

・指定されたサインエリアの区分から出てサインを出さないこと。

・指定のエリアを遵守すること。

6） ペナルティ

ピットクルーが犯した行為に対するペナルティは、そのピットクルーが登録されているライダーに対して与えられる。

7） レース運営への協力

ライダーが黒旗を掲示された場合は、ピット側に向けてもそれを掲示するので、ピットサインでもその状況を伝え早急に停止するように伝達する。

特にオイルを撒いて走行しているときや、部品が脱落しそうな場合は他のライダーに大きな危険を及ぼすので、各自緊急時のサインを取り決めておくこと。

8） 共済会

MFJピットクルーライセンス料には、年間の共済会掛金（保険料）が含まれている。この共済会見舞金制度は、当該ピットクルーが正式に登録され、参加する大会の公式期間中に発生した事故等に対し適用される。

'99 HSPロードレースシリーズ

開催日		受付期間	SP125&NK	SP250&400	GP125	N50
1戦	5/23	4/14 ～ 4/23	●	★	★	●
2戦	6/20	5/11 ～ 5/20	●	★	★	耐久
3戦	7/25	6/16 ～ 6/25	●	★	★	●
4戦	8/29	7/20 ～ 7/29	●	★	★	耐久
5戦	9/26	8/17 ～ 8/26	●	★	★	●
参加資格（必要ライセンス）		MFJ競技ライセンス 区分➡	フレッシュマン・国内・国際			原付運転免許証以上
			HSPライセンス、又は、暫定ライセンス			

★印 ☞ MFJ昇格 ポイント有り

HSPライセンス講習会

1.開催日程と場所 注意：開始時間の20分前迄に会場にお越し下さい。

		札幌市内	倶知安町内
開催場所		旭山公園記念会館（2F）札幌市中央区南9条西18丁目	HSP北海道スピードパーク 虻田郡倶知安町字峠下155
開始時間		PM6:30 ～ PM9:00	AM9:30 ～ PM12:00
日にち	4月	3日(土) 24日(土)	
	5月		2日(日) 16日(日) 30日(日)
	6月	26日(土)	5日(土) 13日(日)
	7月		3日(土) 18日(日)
	8月		1日(日) 15日(日)
	10月		3日(日) 24日(日)

〒044-0085 北海道虻田郡倶知安町峠下155番地
Tel.0136-23-3880 Fax.0136-23-3660

HSP北海道スピードパーク

2.取得資格

公安委員会発行の運転免許証を所持している事。（原付きでも可）

3.持ち物

❶運転免許証 ❷認印 ❸筆記用具（ボールペン） ❹ライセンス料金￥15,000（フレッシュマンライセンス希望者→￥20,500） ❺写真（3cm×3cm）2枚（フレッシュマンライセンス希望者→4枚） ❻20歳未満の方は、HSPより承諾書を取りよせ、その承諾書に親権者の署名及び実印を捺印の上、印鑑証明書（承諾書に捺印の印鑑）を添付し、講習会に持参下さい。

4.該当車両

※GP80cc又は125cc以上の市販バイクかレース用バイク

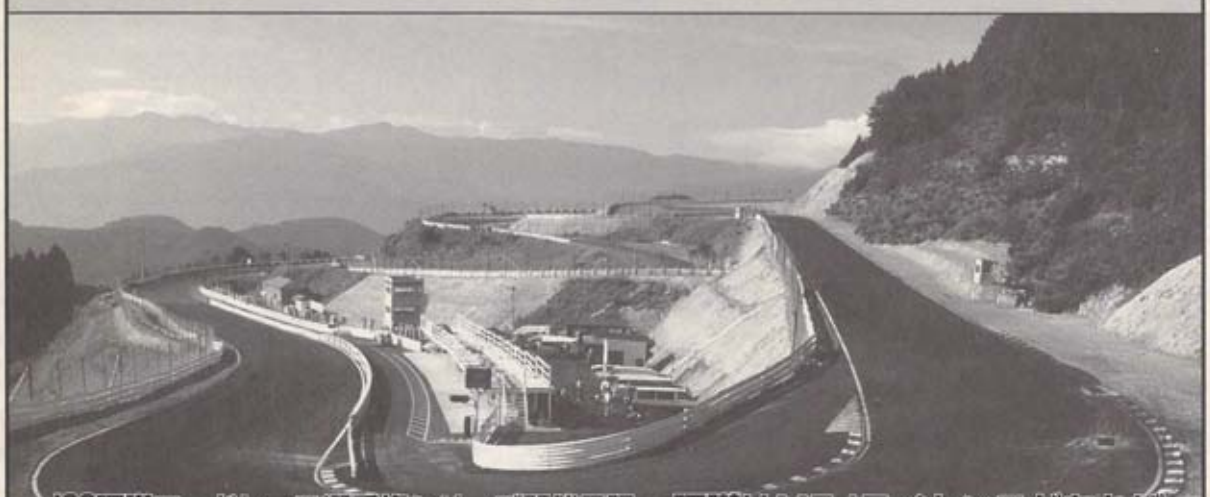
5.走行料金

※1単位30分 ¥2,500

6.事故・怪我等

事故等による車両の破損、怪我、死亡は、走行される本人の責任とし、HSP管理責任者、従業員、運営者等、HSPは一切の責任及び補償は負いません。

ASAN CIRCUIT



'99阿讃ロードレース選手権シリーズ開催日程

★ 第1戦 4月18日（日）
★ 第2戦 5月16日（日）
★ 第3戦 7月4日（日）
★ 第4戦 9月12日（日）
★ 第5戦 10月24日（日）

※'99HARTミニスポーツワールドと同日開催

阿讃はMFJライセンスがあれば、練習走行もエントリー可能。

有限会社モーターランド阿讃
阿讃サーキット

〒771-2503 徳島県三好郡三好町大字東山字滝久保319
TEL 0883-79-3705 FAX 0883-79-3733

サイズ60×80㎝（赤のみ）80×100㎝

PLAYER'S NUMBER

生地　ターポリン
色　白・赤・緑・青・黄色

生地　メッシュ
色　白・赤・紺・青・黄色

生地　布
色　希望の色

ブルゾン

生地　ポリエステル（防水加工）
サイズ　S・M・L・LL・3L
色　オレンジ・ピンク・緑・黄色

株式会社　中尾商事

〒164-0002 東京都中野区上高田1－1－43
TEL 03－3364－5621
FAX 03－3367－4437

人間性能 HUMAN SPEC SHOEI

勝敗はヘルメットの差だった。

スポーツヘルメットの新潮流<SHOEI>X-8R、誕生。

吸排気バランスを追求したベンチレーション<S.A.A.D.>。

空気を効果的に取り入れ、効率的に排出するSHOEI・アクティヴ・エア・デバイス<S.A.A.D.>。人間主体の設計思想に基づいたこの機構は被る人の快適性を追求すると同時に、ライディングの妨げにならないよう各パーツのレイアウトを配慮している。

2WAYアッパーベンチレーション

エアインテークとしての機能にサイトレーションシステムからの流風を走行風の負圧により強制排出するエアアウトレット機能をプラス。3ポジションの開閉システムを採用。

プレスチャンバーシステム

チンガードの内部の衝撃吸収ライナーに気室を設け、さらに口元の空間の容量をアップ。機体下端部に発生する負圧を効果的に利用しつつ、呼吸による湿気を強制的に排出する。

リアーエアアウトレット

機体下端部のリブに設けられたこの新システムは、内装部のハイパーD.L.V.システムのエアルートとダイレクトに接続され、機体内に蓄積される熱気を強制的に排出する。

ハイパーD.L.V.システム

機体前部から導入された風が2層のライナー間を通り抜けながら内部の熱気を効果的に排出。吸排気バランスを追求した<S.A.A.D.>の中枢ともいえるシステムである。

ソフトなフィット感ながらも、確実なホールド性を誇る新デザインQ.R.I.P.システム。

全面新設計となった3Dフルサポートインナーが頭部全周を包み込み、心地よいフィット感とシュアなホールド性を高い次元でバランス。またアイポート内側の衝撃吸収材にもブラック着色仕上げを施すなど、内装の細部にわたって質感の高さにもこだわった。また新形状のメガネスリットを採用して、実用面でも大幅な改良を加えている。

軽量化により被り心地向上や疲労感の軽減を図るライトウエイト・フィロソフィ。

X-8Rの機体は構造や素材レベルから形状デザインに至るまで軽量化を徹底的に追求。各部の構成パーツもグラム単位の重量削減を図り、従来比(X-8V)で約50gの軽量化を達成した。もちろんスネルM95規格やJIS規格C種をクリア。充実装備や高い保護性能による重量増加の問題をみごとに軽量化という答えで解決した。

X-8R SPORT GROOVE

38,000円

●機体:新素材(超高強力・高弾性率繊維)&ファイバーグラスH.L.構造 ●規格:スネルM95、JIS規格 C種、MFJ公認 ●サイズ:S(55〜56cm)、M(57〜58cm)、L(59〜60cm)、XL(61〜62cm) ●CX-1シールド(標準装備):ソフトスモーク(標準装備)、クリアー、スモーク、ダークスモーク 各3,800円 ●CX-1スモーク&ラーシールド:シルバー、オレンジ、ブルー 各7,800円 ●CF-1シールド(2次曲面、ティアオフフィルム対応):ソフトスモーク、ライトスモーク 各4,500円 ●ティアオフフィルム(CF-1対応):5枚セット1,000円 ●CRベースセット:800円 ●スクリューセット:200円 ●プリセットレバー:200円 ●センターパッド(X-8R用):2,800円 ●チークパッド(X-8R用):4,800円 ●チンストラップカバー(X-8R用):800円 ●プレスガード(X-8R用):1,500円 ●内装セット(X-8R用/3点):センターパッド、チークパッド、チンストラップカバー):8,000円 ※プレスガードは標準装備になっています。※内装はサイズをご確認の上ご購入ください。●価格はメーカー希望小売価格です(税抜)。

●ヘルメットのあご ひもはしっかり締めましょう。安全確保のため改造しないでください。●製品は改良のため予告なく仕様変更することがあります。●部品、修理、その他ご要望ご質問等は最寄りの支店サービス課までお問い合わせください。

SHOEI 本社・東京支店/〒110-0005 東京都台東区上野5-8-5 CP10ビル7F 電(03)5688-5185

NGK SPARK PLUGS
日本特殊陶業

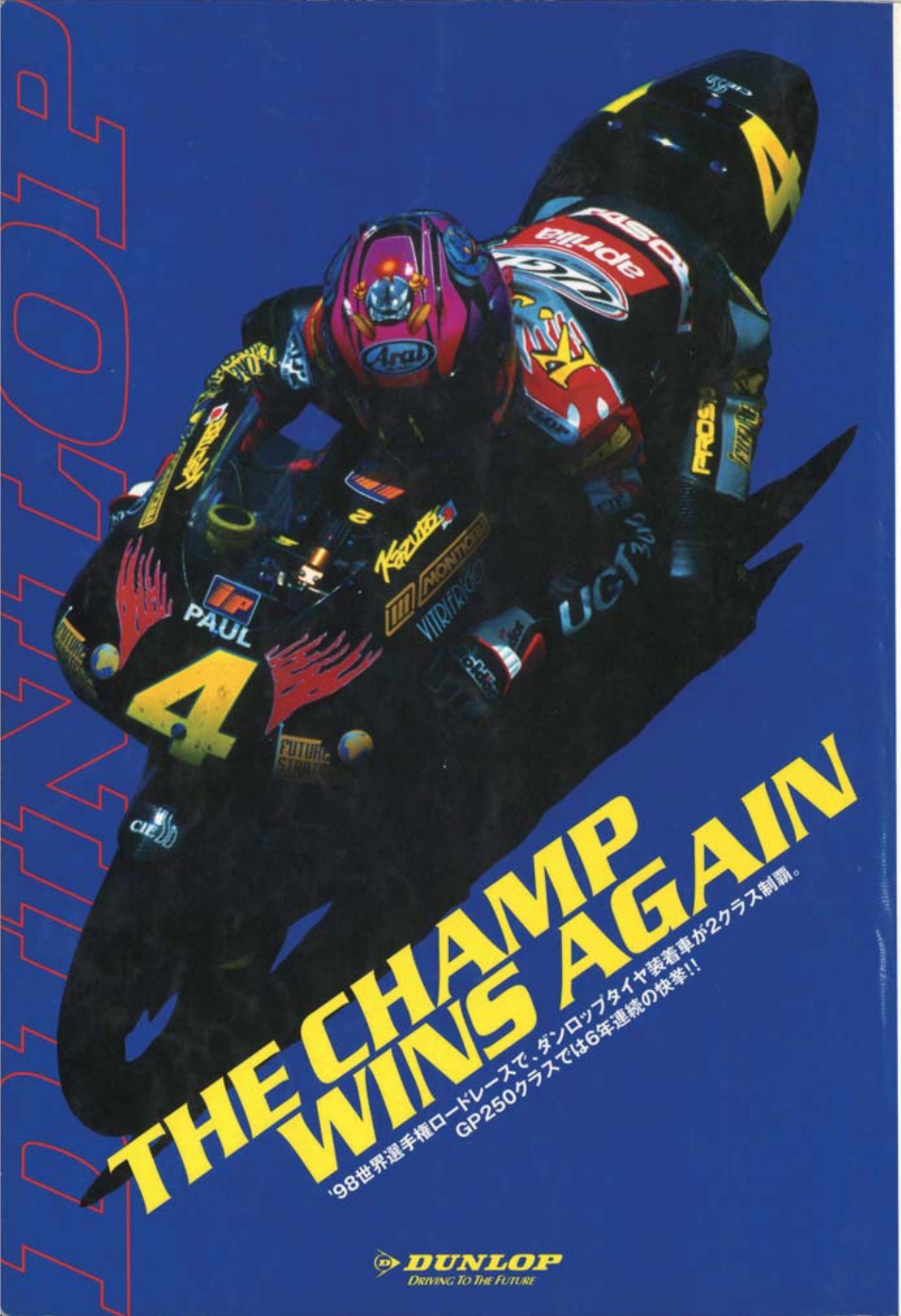
Plug is NGK.

いままでも、これからも。

世界140カ国で愛用され、世界が認めたトップブランドNGKスパークプラグ。VXプラグは、極めて細いプラチナの中心電極と、鋭く尖った外側電極により、着火性能を飛躍的に向上させました。加速性、省燃費はもちろん排気ガスのクリーン化にも貢献しています。

NGK VXプラグ

F1をはじめ各種四輪・二輪レースのサポートをしています。URL http://www.ngkntk.co.jp



ライディング臨時増刊　通巻三五三号　一九九九年三月三日（毎月一回三日発行）昭和五十四年三月二十日　第三種郵便物認可
発行所：㈱日本モーターサイクルスポーツ協会　〒一〇四-〇〇四五　東京都中央区築地一-十二-十四　第二十九興和ビル別館七階
☎〇三（五五六五）〇九〇〇　定価一〇〇〇円